

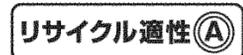
平成25年度  
独立行政法人国立女性教育会館  
自己点検・評価及び外部評価報告書

平成26年11月

独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会  
独立行政法人国立女性教育会館

平成25年度  
独立行政法人国立女性教育会館  
自己点検・評価及び外部評価報告書

平成26年11月



この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。

# 目 次

1. 外部評価について	1
(1) 外部評価の目的	1
(2) 外部評価の対象	1
(3) 外部評価の方法	1
(4) 審議過程	1
2. 評価	1
3. 平成25年度事業全体に対する評価・指摘事項等	9
4. 事業別評価	
1. 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー	11
2. 女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修	14
3. 大学職員のための男女共同参画推進研修	18
4. 男女共同参画推進フォーラム	21
5. 大学等における男女共同参画に関する調査研究	24
6. 女性関連施設に関する調査研究	26
7. 教育・学習プログラムの開発	28
8. 男女共同参画の視点に立った若者のキャリア形成支援に関する調査研究	30
9. 女性関連施設相談員研修	32
10. 行政や関係機関と連携した喫緊の課題に対応した研修（女子中高生夏の学校）	34
11. 男女共同参画統計に関する調査研究	37
12. 調査研究成果の普及	39
13. 男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する情報資料の収集・整理・提供	41
14. 女性情報ポータル及びデータベースの整備充実	43
15. 資料・情報の館外への貸し出し	45
16. 女性アーカイブ機能の充実	47
17. 女性情報アーキビスト養成研修（入門）＋（実技コース）	49
18. 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施	52
19. アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー	55
20. 国際協力機構との連携による研修	57

21. NWE C国際シンポジウム	59
22. 外国人女性の困難等への支援に関する調査研究	61
23. 国際的なネットワークの構築	63
24. 利用者への学習支援と利用の拡大	65
25. ガバナンス・内部統制の充実	67
26. 人件費・管理運営の適正化と保有資産の見直し	70
27. 業務運営の改善及び効率化と業務運営の点検・評価	72
28. 契約の点検・見直し	75
29. 外部資金の導入	77
30. 自己収入の拡大	79
31. 情報セキュリティ体制の充実	81
5. 外部評価の観点	83
6. 独立行政法人国立女性教育会館の業務運営に関する計画 (平成25年度)	84
7. 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会委員一覧	94
8. 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会規程	95
9. 自己点検評価調書の記載について	96

## 参考資料編

(括弧)内は、事業シートのNO

1. (1) 「第1回 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」実施要項	99
2. (1) // 参加者概況	105
3. (1) // アンケート集計結果	106
4. (1) 「第2回 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」実施要項	110
5. (1) // アンケート集計結果	112
6. (2) 「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」実施要項	114
7. (2) // 参加者概況	119
8. (2) // アンケート集計結果	120
9. (2) // フォローアップアンケート集計結果	129
10. (3) 「大学等における男女共同参画推進セミナー」実施要項	130
11. (3) // 参加者概況	134
12. (3) // アンケート集計結果	135
13. (4) 「男女共同参画推進フォーラム」実施要項	140
14. (4) // 参加者概況	144
15. (4) // アンケート集計結果 (参加者)	146
16. (4) // アンケート集計結果 (ワークショップ運営者)	151
17. (4) // アンケート集計結果 (ポスター展示運営者)	153
18. (4) // フォローアップアンケート集計結果	155
19. (7) 女性のためのハッピーキャリア大研究開催要項	156
20. (7) // アンケート集計結果	158
21. (7) 埼玉県私立短期大学協会との連携授業実施要項	162
22. (7) 埼玉大学との連携授業「男女共同参画社会を考える」概要	164
23. (7) 女子大生キャリア形成セミナー開催要項	165
24. (9) 「女性関連施設相談員研修」実施要項	168
25. (9) // 参加者概況	172
26. (9) // アンケート集計結果	173
27. (10) 「女子中高生夏の学校2013～科学・技術者のたまごたちへ～」実施要項	180
28. (10) // 参加者概況	186
29. (10) // アンケート集計結果 (女子中高生用)	187
30. (10) // アンケート集計結果 (教員用)	194
31. (10) // アンケート集計結果 (保護者用)	203
32. (13) 女性教育情報センターの運営	212
33. (14) 女性情報ポータルを整備充実	213
34. (15) 図書パッケージ貸出サービス	214
35. (16) 女性アーカイブ機能の充実	215

36.	(17)	「女性アーキビスト養成研修（入門）＋（実技コース）」実施要項	216
37.	(17)	「」アンケート集計結果	219
38.	(19)	「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」開催要項	222
39.	(19)	「」アンケート集計結果	224
40.	(20)	地域別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」実施要項	226
41.	(20)	地域別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」アンケート集計結果	229
42.	(21)	「NWE C国際シンポジウム」開催要項	230
43.	(21)	「」アンケート集計結果	232
44.	(24)	利用状況	236
45.	(24)	延べ宿泊者数・利用回数別利用状況	237
46.	(24)	目的別利用状況	238
47.	(24)	利用拡大戦略	239
48.	(24)	広報実施計画	241
49.	(25)	運営会議規程	243
50.	(25)	役員会の開催について	244
51.	(25)	運営委員会規定	245
52.	(25)	運営委員会名簿（第6期）	246
53.	(25)	契約監視委員会規則	247
54.	(28)	独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて	248
55.	(28)	平成25年度監事監査計画	250

## 1 外部評価について

### (1) 外部評価の目的

外部評価委員会では、NWE Cが実施した業務の実績に関し客観性を持った質の高い評価を行うとともに、評価を踏まえた今後の事業活動の充実及び活動内容の在り方に資する提言を行うことを役割としている。

### (2) 外部評価の対象

NWE Cでは、平成23年度から27年度までの第3期中期目標期間において、中期目標・中期計画に「適時適切に外部評価を受け、業務に関する客観的意見も取り入れ、業務の改善を不断に行う」としており、25年度計画においては、「自己点検と連動した外部評価を実施する。」としている。

これを受け、第3期中期目標期間の3年目である平成25事業年度の評価においては、年度計画に記載される31項目の評価を実施した。

### (3) 外部評価の方法

評価方法については、外部評価委員会においてNWE Cから各事業の内容、成果等のヒアリングを実施し、平成19年度に外部評価委員会で作成した外部評価の観点別に評価意見等を取りまとめた。

### (4) 審議過程

平成26年度は計2回の委員会を以下のとおり開催した。

第1回では、年度計画にある6本の柱毎に評価の対象となっている各事業の実施概要について確認を行い、第2回では、各委員から出た評価について意見交換を行うとともに総論及び全体的な意見交換を行い、外部評価報告書を取りまとめた。

#### 平成26年6月17日（火） 第1回外部評価委員会

- ・ 委員長・副委員長の選任
- ・ 平成25事業年度外部評価の進め方
- ・ 平成25事業年度実施事業の概要説明
- ・ 「外部評価委員の評価」について
- ・ 平成25事業年度外部評価報告書総論について

#### 平成26年9月11日（木） 第2回外部評価委員会

- ・ 各柱毎の評価について
- ・ 平成25事業年度外部評価報告書総論について

## 2 評価

### (1) 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力向上

基幹的指導者に対する研修等の実施は概ね目標を達成している。

6つの事業のうち3つが新規事業、1つが大幅な内容改定となり、全体として積極的な事業改善の意欲が最もよく見える柱となった。新規事業はいずれも企業における女性の活躍促進が主題であり、理事長が企業出身というNWE Cならではの企画性と時代の動きを敏感にキャッチしたテーマ設定に優れた問題意識がうかがえる。

基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム・研修資料の作成については、NWE Cこそが進める事業であり、今後もその成果を活用して欲しい。また、ワークショップなどの出席者が自ら考える手法が男女共同参画を進め、指導者の資質向上に役立つようなので、今後もこうした手法をとりいれた会が開かれるとよい。

また、他の民間団体や行政団体等との差異を意識したプログラム開発や外部への働きか

け、PRなどを心掛けるとより有益ではないか。例えば、企業・地域・大学すべてへの活動を並行して実施していることによるメリットを考えること。企業における女性リーダー育成は、企業で成果を挙げるリーダー像（経営職・管理職層へ昇進できる人材育成）を強く意識したプログラムになる。一般的に多くの女性は、男性よりも企業以外のフィールド（地域・学校）との接点や連携をより意識しやすい立場にある。フィールドを超えて、あるいは連携して活躍できるリーダー像は、女性がより活躍できるのではと期待している。

#### ＜企業を成長に導く女性活躍促進セミナー＞

ダイバーシティ推進リーダー会議、女性活躍推進セミナーはともにアクションラーニングを取り入れ、課題解決型の学習の場が提供されており、参加者の満足度、有用度ともに高い。特に「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」では1回目で女性リーダー育成の実践的プログラム、2回目で地元密着型の中小企業での女性の活躍促進プログラムに取り組み、企業社会の現状に合わせてプログラム内容を配分して効率的・効果的なセミナーを実施しているところに工夫が目立つ。また、企業におけるダイバーシティ推進者、地域における女性関連施設・団体・行政関係者、大学における男女共同参画推進担当教職員など、研修対象者と課題を厳選し、それに対応するプログラムが組み込まれている点も評価したい。

ただし、「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」という事業名の「成長」が、何を意味するかが不明確である。研修内容や参加者の意見・感想から推測するに、「企業文化の変革につなぐ女性活躍推進セミナー」の方がベターだと思う。低い応募倍率（59%）をあげるために企業のニーズを汲み取ることも重要だが、同時に、経済の成長戦略としての「成長」にとどまらない、「NWE Cならではの」視点をテーマに表現してほしい。

政府が進める女性の輝く社会づくりや女性の活躍促進に取り組む企業にとって、求められるのは女性の単なる能力活用ではなく、男女共同参画の視点を持った人材の育成であり、能力活用である。そのためにも、ダイバーシティ推進リーダー会議、企業を成長に導く女性活躍促進セミナーなどを通して、働き方のあり方を含めて男女共同参画の視点を持った人材の育成事業は不可欠。応募倍率を達成しない事業については、周知・広報の工夫及び企業等との連携により、改善が求められる。

企業向けプログラムにおいては、経営戦略的立場でのダイバーシティよりも、それを推進する女性リーダーの育成・支援に重点を置いた内容にすると、他団体との差異化ができるかと思う。また中間層にいるリーダー予備軍の女性達が自分の意思（会社派遣だけではなく）で自己啓発として参加できるプログラムは、こういう団体だからこそ提供できるのではという期待もある。

#### ＜女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修＞

女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修については、多くの参加者を集めるとともに、研修対象者や課題の厳選をしている。また、プログラムの工夫と参加型ワークショップなどの研修内容により、事業終了直後のアンケート結果では有用度が100%、フォローアップ調査では、仕事や活動に役立っているとの回答が97.6%と高くなっており評価できる。

#### ＜大学等における男女共同参画推進セミナー＞

大学等における男女共同参画推進セミナーは、研修の対象が拡大しており、日本全国各地から参加者を集め、年齢においてもバランスがとれている。参加者募集の広報をめぐる改善については評価する。

また、学生、特に女子学生の支援の方法について、参加者が現状と課題を共有し、新たなネットワーク化による相乗効果が期待される。

高等教育機関における男女共同参画推進への取組は、全体として進んでいる。しかし、依然として設置者別の進捗度における格差は大きい。高等専門学校からの参加者数は増える兆しにある。一方、大学数でもっとも多く、また、人材養成的にも教学の視点からも、

男女共同参画意識の浸透がもっとも遅れている私立や公立の大学からの参加者をどう増やすかが一つの課題となる。学生数の確保や地元に着した人材を地域に送り出すことを考える際に、男女共同参画は重要であるという私学の関心を高める戦略が必要である。

#### <男女共同参画推進フォーラム>

男女共同参画推進フォーラムは、1,000人を超える参加者からもわかるように多彩なプログラムが展開されており、企画に工夫がみられた。従来の交流中心のフォーラムからはっきり研修事業に内容をシフトさせ、一般的な地域の女性エンパワーメントから、行政、企業、大学等の女性リーダー研修といったより専門的で実践的な能力育成に向けたプログラムに変更されている点が注目される。

NWECの社会的責務がより高度な内容の女性エンパワーメントに求められてきている現状を反映した意欲的な取組と評価したい。可能であれば、今後一般的で初歩レベルからの女性エンパワーメントと交流をめざす取組も別途実現すれば、さらに多様な役割期待に応える事業展開となることが期待されよう。

#### <大学等における男女共同参画に関する調査研究>

大学等における男女共同参画調査は順調に研究成果があげられていた。

#### <女性関連施設に関する調査研究>

女性関連施設に関する調査は、NWECでなければ実施できないきめ細やかな調査がおこなわれている。

### (2) 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラムの開発・普及

#### <教育・学習プログラムの開発>

- ・男女共同参画センターとの共同実施
- ・埼玉大学との連携授業
- ・埼玉県私立短期大学協会との連携授業
- ・女子大生キャリア形成セミナー

女子学生のためのキャリア形成講座、埼玉大学との連携授業、女子大生キャリア形成セミナーは大学とNWECが協働する一つのあり方を示している。内容もとてもよかった。

ここではNWECに期待される最も中心的な役割の一つである女性教育、家庭教育の喫緊の課題に対する学習プログラム開発や普及がこの柱全体のテーマであるので、取組数も多く、内容もいずれも社会の動きを敏感に反映したものになっているところが特徴である。その中ではとりわけ大学との連携・協力に基づく事業や女子大学生に焦点を合わせた事業にユニークなものが多い。特に「女子大生キャリア形成セミナー」に関しては、参加人数は限られているものの参加者の満足度や評価は大変高く、ともすれば孤独に陥ったり狭い視野の中でしか行えない傾向が目立つ女子学生のキャリア形成活動の幅を広げ、社会的視点をもって自己の方向性を見定めるうえで非常に効果的な取組であると評価できる。

また、「女性のためのハッピーキャリア大研究」のように、NWECで実施した事業を地域であらためて実施しその成果の普及を図るという取組方法は、専門的なプログラム開発能力が必ずしも充実していない地域の男女共同参画拠点施設にとっては大変効果的で、今後こうした方式が他の事業にも拡大していけば、優れたプログラムを地域社会に広く浸透させていくためのモデル方式としてさらなる活用が期待できる。

NWECが開発したキャリア教育プログラムによる短大・大学との連携授業は、4回目を重ね、精査された研修内容と学生主体・参加型学習方法が相乗効果をあげており、総括の時期を迎えている。その成果を「女子大生キャリア形成セミナー」に広げていくのも一

つの方向だが、これまで積み上げてきた実績や今後の発展的課題を明示化しておくことも重要である。

全体として、「女性のための・・・」「女子大生の・・・」など、「女性」を参加対象とし、女性講師を中心とするセミナーが目立つ。キャリア概念のとらえ直しや、生涯を見通す複合キャリアに関わる研修は男性にとっても重要である。男性にとって魅力的なテーマを設定し講師陣における男性比率のアップをはかるなど、男性の参加を広げる方向を本格的に検討する時期ではないか。

さらに、女子大生キャリア形成セミナーはリーダーシップ111の理解・協力があってのことであり、ロールモデルとなりうる女性のデータベース化と紹介も有効ではないだろうか。Winetに「専門家情報を探す」とあるが、例えばここで過去の講師陣等を登録していくことも検討されてはどうか。年代が近いロールモデルの要望も出てくるのが想定される。均等法世代の女性が50代にかかろうとしているので、定年以降の人生をどう考えるかということも関心テーマとなってくる。人生80年を想定したキャリア及び生涯教育はユニークかつ今後ニーズが確実に高まるテーマだと思うので、検討テーマに加えていただきたい。年代やライフステージに応じた必要とされている情報を提供するようなきめ細かいプログラムの組み方を考えて欲しい。

一方、教育・学習プログラムの開発では、良い評価を得ているものの、参加者が少ないことは残念である。集客への努力を期待するとともに、プログラムの開発後、誰を対象にプログラムを普及していくのか、目的を明確にしてはどうか。

#### <若手男女のキャリア形成に関する意識及び支援に関する調査研究>

この調査研究は、若年層の短期離職率の高さ、雇用の不安定化、経済的不安層の再生産など、ライフキャリアに関わる現実的問題に加えて、全国的な基本調査が欠落しているという点で、喫緊の課題である。それに、「若者」とはだれかが複雑化し多様化する「動く概念」であるため、実施に多大の困難が伴う。今回、「得られた知見」としてあげられている内容は示唆的であり、是非、それを生かす形で若者に関する基礎調査を設計し実施してほしい。

若者を対象とした事業の実施状況が政令市を除くと高くない実態が明らかになったことから、作成した手引書の有効性について追跡調査をされたい。

#### <女性関連施設相談員研修>

現場の女性の悩みに対応する「女性関連施設相談員研修」のように、応募倍率（134%）が高く、地域全般から要望の高い研修については、NWE Cの学習プログラムとしてなくてはならないものとなっており、年2回の実施の可能性を検討してほしい。市町村レベルの男女共同参画に地道に取り組むことの重要性を指摘したいと思う。

また、地方自治体の実施する研修との差別化を図り、より高度な研修内容となることを期待する。

#### <女子中高生夏の学校>

行政や関係機関と連携した喫緊の課題に対応した研修では、女子中高生向けプログラムを実施し、工夫された研修内容が応募者の関心を集めている。女子中高生夏の学校は、参加希望者が多いこのプログラムの過去の評判がこうした結果を生み出していると考えられる。大学や学会の方々が協力してネットワークを構築し、非常に専門的なバックグラウンドがしっかりしたプログラムを提供しているだけでなく、学生企画もあり、中高生の視点に立っている。抽選ではなく、開催の複数化などの工夫を図り、全ての応募者を迎えることで、理系へのすそ野を広げる役割を期待したい。

他団体主催の次世代リケジョ支援プログラムの多くは中学生中心であるが、「女子中高生夏の学校」は対象層が高校生中心であることがユニークである。どのプログラムも宿泊施設を活用しているメリットとして日本各地から参加者を集められること（地方在住の知

人に試しに紹介したら大変喜ばれたことから、地方都市では子どもへ提供できる良質の刺激を求めているのではないかと考えられる)だが、逆に宿泊施設を前提として開発したプログラムは、特に東京近郊では、一般的には展開しづらい可能性があるかもしれないと感じた。

### **(3) 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等**

NWECの最大の特徴である、男女共同参画に関する国内最大規模の資料・情報収集機能と情報発信機能をフルに発揮した取組内容がこの柱のすべての事業に共通しており、ナショナル・センターとしての役割が特に期待される分野といえる。今年度もその期待に十分応えた事業展開が示されていると評価できよう。とりわけ「男女共同参画統計に関する調査研究」は、ジェンダー統計の活用に関する情報発信を通してその実践をサポートしていくために必要な重要事業であるし、「女性情報ポータル及びデータベースの整備充実」についてもNWECの持つ膨大な情報資源の有効活用のための基本的取組として今後とも恒常的、安定的な実施が一層強く望まれる事業であるといえる。さらに女性アーカイブに関連する各事業もNWECならではの資料やノウハウを活かしていく取組として注目されよう。

#### **<男女共同参画統計に関する調査研究>**

統計リーフレット、統計にみる男女共同参画と若者、男女共同参画統計ニュースレターの作成や配信については目標どおりであるが、統計にみる男女共同参画と若者の活用についての記載がみられない。ホームページからダウンロードできる成果物については、配信数のみならずアクセス数を把握し、どの程度活用されているかを把握すべきと考える。

#### **<調査研究の普及>**

基礎的な研究の成果として、7本の報告書、冊子等の作成をしていることは評価できる。上記の調査研究と同様に、ホームページからのダウンロードによる活用についての把握に努められたい。

#### **<女性情報ポータル及びデータベースの整備充実>**

ニュースレターの配信数やデータベースのアクセス数が目標として掲げられ、ほぼそれらは達成されている。

今後は、配信やアクセスがどのように役に立っているかに目を向けたらどうか。男女共同参画のための資料、統計は、教育機関との連携を進めることで、より普及すると思うので、そのような機会をより増やしたら良いのではないか。利用者の視点からアクセスしやすいポータルサイト、利用者のニーズに応える複層的な構成等、情報発信力の拡充に努められたい。

#### **<図書のパッケージ貸出>**

情報資料の収集・整理・提供は、パッケージ貸出サービスを展開し、提供に力をいれることによって、男女共同参画の考え方を普及させていて、適時性・独創性・発展性・効率性のいずれの観点からも評価できる。

しかし、公立図書館の利用件数があまりにも低い。この数年、自治体による図書費の大幅削減を考えれば、適切な広報次第でもっと増えるのではないか。新たに高校図書館を対象としており、若年層への男女共同参画の知識・情報の普及効果を期待したい。

また、利用者動向調査のためのシステムの実証実験は意欲的な取組である。学習支援との関連付けもとても良いアイデアである。

### **<女性アーカイブ機能の充実>**

国立女性教育会館のHP及びW i n e t 共に、情報量も多く、深く、大変良質の発信をしていると感じた。ナショナル・センターとして、意義ある事業である。今後も一層機能の充実を期待する。

さらに、もっとこの情報サイトの存在を知ってもらうことが必要ではないか。また、アクセス数等はどれくらいあるのか、アクセス数は他団体（官庁・行政等含む）等のHPと比べてどうなのかを意識すること、誰に対して発信しているのかを明確にしてその存在をより知ってもらうことを期待する。

アーカイブセンターの展示は、大変に興味深いテーマを設定している。

### **<女性情報アーキビスト養成研修>**

女性情報アーキビスト養成研修は、N W E C ならではの研修であり、毎年、募集定員を上回る参加者を得ていて、女性アーカイブの具体的な保存技術や整理方法を体系的に学ぶ場の提供による人材育成（実務者育成）の観点から評価できる事業である。

## **（４）男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進**

女性関連施設や女性団体などこれまでの協働実績のある関係機関に加え、企業や大学など多岐にわたっている。今期新たに企業セミナー実施という事業展開のもとで、経営協会や経済産業省関東経済産業局など企業関係機関や官庁関連機関（17機関）との連携を開拓したことは、N W E C の広報の上でも、新たな参加者（とくに男性）や講師を呼び込むうえでも、効果的な試みとして評価したい。連携先もまたこうした新しい連携先の開拓によって、これまで以上に新たな講師や参加者の拡大にもつながっていく展望が開けていることも重要な成果である。また、講師謝金や会場費を連携機関の負担でまかなうなど、連携機関の経費負担や人的支援がN W E C の経費軽減や労力軽減につながっていて、効率的な運営に向けての努力もうかがえる。

連携機関の性格や熱意にもよるが、こうした方向での連携を当然視する文化や基盤を構築していくことが課題となる。同時に、連携の実施がN W E C の効果的な運営のメリットだけでなく、連携先に、プログラムの他にどのようなメリットをもたらしているかを、総括する時期に来ているように思う。

また、施策の協賛等に限らず、地方自治体、学校等に幅広く情報を発信できる体制があると、より有効に活用いただけるのではないかと考える。例えば、地方自治体のHPにリンクを貼ってもらうよう依頼することや、男女共同参画宣言都市へは積極的に情報発信するなど他団体等との連携を積極的に進められること等も検討されてはどうか。より積極的にアピールをするのであればマーケティング力のある団体（N P O や研修会社等）と連携するとイメージも変わる。

今後ともさまざまな連携先と時宜に合ったテーマを設定して社会的ニーズに応える連携事業を実施し、N W E C のみならず連携先での男女共同参画の取組促進につながる展開が一層期待される。

## **（５）男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進**

N W E C のナショナル・センターとしての対外的機能が最も発揮されうるのが、この国際貢献・連携協力の推進に関わる分野である。今年度も時代の要請に応える適時性の高い事業が揃っているが、とりわけ「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」と「N W E C 国際シンポジウム」の2つの事業において「男性にとっての男女共同参画」をテーマとして取り上げた点が注目される。日本社会において今まで多くの

分野で取組の立ち遅れが目立ち、実質的な男女共同参画社会の推進を図るうえで今後一層重要性を増すのは、この男性と男女共同参画という問題設定であることは間違いない。その点で国際的な視野から海外のベストプラクティスの情報や、男性のワークライフバランスの重要性に対する認識を共有し合い、日本と海外諸国とが相互に意見を交換してこの問題に積極的に取り組む素地が作られたという意味で、これらの取組の意義は大きい。こうした試みが今後さらに多くの国を巻き込んで拡大していき、国内においてもこの問題への関心を広げていくことが大きく期待される。またそれ以外の2事業も、グローバルな視点から見ていずれも緊急性と重要性の高い事業であり、それぞれNWE Cの主導的な役割が十分発揮されている内容となっていることが評価できる。

プログラムの内容も興味深く、参加者の評価も高い。継続して実施していただきたい。

#### <国際協力機構との連携による研修>

人身取引撲滅と被害者保護は重いテーマであるが、国境を越えたネットワークの強化に資する方策検討について、1年次、2年次の取り組みと成果を見える化し、3年次へとつなげることを期待する。

#### <NWE C国際シンポジウム>

「男性にとっての男女共同参画」をテーマにした国際シンポジウムは、NWE Cの事業として画期的であり、男性の参加者が約3割を占めているのは評価できる。対象として「男性」を明確に打ち出し、男性パネリストを据えた事業を今後もつづけてほしい。

#### <外国人女性の困難等への支援に関する調査研究>

外国人女性の困難等への支援に関する研究も順調に進められており、その成果のフィードバックも行われている。

住民の多国籍化、外国人女性や子供の適応困難など、グローバルな問題はローカルな問題として起こっている。その実態把握と課題解決に向けた調査研究は今後ますます重要となる。調査研究に当たっては、自治体ごとに外国人女性が置かれている状況が異なるとともに、国籍により抱える困難さも違うことを配慮して、実質的に支援に役立つ調査研究であることを願う。得られた知見を具体的な事業の展開のみならず、さらに自治体の施策へ繋げる方策を期待したい。

### (6) 会館利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解の促進・利用の促進

東日本大震災以降厳しい状況が続く中、交通の利便性の点から考慮すると、宿泊利用率40.3%で前年度より6.5%増は、利用拡大に努めた結果として評価できる。一連の取組が着実に成果を上げてきていることの証しであり、今後一層こうした取組が継続されていくことを望みたい。

NWE C利用者の新規開拓のためにさまざまな努力を傾注していることが特徴としてまず指摘できる。前年度の利用実績を検証する、潜在的利用者の多様なニーズを丹念にくみ取る、研修プログラムなどの相談に的確に対応する、利用者に対する積極的な声掛けをするなどにより、宿泊利用率が前年度より改善されており評価したい。利用拡大にむけての戦略的な広報として、インターネットの合宿サイトへの情報掲載や、企業向けセミナーなどの機会での会館利用の積極的情報提供など、NWE Cを知ってもらうための着実な努力が利用者増などにつながる効果を挙げており、また社会教育施設として学校関係の利用に焦点を絞り、図書パッケージ貸出を拡大させるなど戦略的な利用拡大の取組が行われていることなども重要である。

ただ、会館利用や宿泊施設利用が伸び悩むのは、それ以外の社会的要因の存在を考慮する必要がある。たとえば大学の場合、学生の交通費や宿泊代などに配慮して、可能な限り近場の学習施設を使うという実情があり、広い視点からの要因分析が必要である。

また、NWE Cの主催事業を例にとれば、あえて宿泊せざるをえないイベント（夜間の交流を目的とした）や学習プログラム（交流も含んだ）を組み込むなど、ひと工夫がほしい。宿泊施設があるメリットを活かすために、首都圏からの参加者に限らず、地方都市からの利用者拡大を検討してはどうか。また、首都圏でのイベント等のスケジュールと併せての開催や地方公務員が参加しやすいプログラム等の開発、嵐山地区等の観光と組んだアピールができればよいのではないか。

## **（7）業務運営の効率化**

理事長のリーダーシップが十分に発揮され、また職員の問題意識も高く、結果としてきわめて効率的な業務運営がなされていると評価できる。特に人件費、一般管理費、業務経費等の削減への努力は顕著な成果を挙げているが、一方でもはやこれ以上の削減が困難な限界レベルにまで近付いている。この状態が続くと、かえってNWE C本来の業務そのものの質の低下を招きかねないため、むしろ関係諸機関との連携を一層強化して負担の軽減に努める方策も今後特に重要になってくると思われる。

業務運営の効率化については、目標を達成しているが、それぞれの視点から更なる効率化を目指して運営に努められたい。27年4月からのPFI化導入での成果を期待する。

ラスパイレス指数が国家公務員、他法人と比較して低い水準にあるが、職員の給与については、人材育成の点からも、処遇の改善には留意されたい。教育施設にとって人がすべてである。

保有財産のプール・体育館については、処分費と今後の維持費のバランスの双方から更なる検討が必要である。

事業拡大及びネットワークの拡大は、一方でリスクを増やすことでもある。個人情報や蓄積しているNWE Cには、理事長から職員の一人ひとりにいたるまで、その重要性を十分に認識し、漏えいさせないために不断の努力を求めたい。

### 3 平成25年度事業全体に対する評価・指摘事項等

平成25年度計画にあげられた目標は、ほとんど達成されており、かなり完成度の高い結果となっている。我が国のナショナル・センターとしての本来的役割を組織の全職員がしっかりと認識し、既存事業の内容充実に向けた創意工夫はもとより、新規事業の積極的な開拓、効率的な業務運営のための取組みといった各般の努力が、各所にわたって顕著に認められる。

また、どの事業の内容・手法も、十分に検討されており、それぞれ質の高いサービスが提供されていることは特筆に値する。とりわけ、時代の動きを的確にとらえ社会の要請に迅速にこたえていこうとする姿勢を貫き、そうした現状把握から生まれた取組みを実現すべく、効率的な業務運営の下で、多くの関係機関・団体との連携を図っていることは、男女共同参画の推進に向けた中核的かつ連結・交流拠点としての基本的役割を全うするものといえる。

引き続きこうした方向での事業展開が望まれるが、その際、限界に近付いている効率化の努力がかえって本来的業務を弱体化させることがないように、創意工夫と柔軟な管理運営の実現に留意すべきであろう。また、関係機関・団体との連携の拡充を図りつつも、男女共同参画の推進に向けた中核的かつ連結・交流拠点としての役割自体について、常に見直し再構築していくことが重要と考える。

その一方で、最近のマスコミ等の報道をみていると、一部の企業や行政機関には、顕在化していないものの、未だに女性蔑視や男女共同参画を軽視する文化や風潮が残っているものと推察される。こうした動向を踏まえ、「気づき」に焦点を当てた適切な教育的プログラムの開発・実施について検討してほしい。また、関係機関から、事業成果に対する評価についての新たな指標を求められていることもあり、形式的・画一的な評価ではなく、それぞれの事業の趣旨・目的に即した、具体的な評価指標の在り方についての検討も望まれる。

NWECの活動や情報をより有益に活用してもらうためには、何よりもまず、認知度を上げることに力を入れていくことが大切である。特に、埼玉県嵐山地区という、首都圏近郊で豊かな自然環境に囲まれた場所であるという特徴や、宿泊施設が付帯していることのメリット、さらには、国内外から人と情報が集まり世界をリードする情報発信拠点であるというNWEC自体のもつブランド性をもっと活用できないものであろうか。

女性教育や男女共同参画に関する情報格差や学習機会の格差が広がりつつある現在、地方創生の視点を踏まえ、斬新で魅力的な情報発信を行うことは、こうした格差を縮めることに貢献するものである。その第一歩としてNWECの認知度を高めること、そして社会が必要とする学びの機会や場を提供し続けていくことこそが、男女共同参画社会という豊かな未来社会を築いていく上で、何よりも求められているのである。



## 4 事業別評価

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施
年度計画の項目 (I-1-(1)①)	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施 ①企業を成長に導く女性活躍促進セミナー

事業名	企業を成長に導く女性活躍促進セミナー
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長(1)、専門職員(2)、研究員(1)、客員研究員(3) 計7名

年度実績概要
<p>1. 趣旨</p> <p>本セミナーは、企業における女性の活躍推進を図り、男女共同参画社会の形成に資するため、企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進者、管理職、リーダーを対象に実施した。</p> <p>2. 実施概要</p> <p>【第1回】</p> <p>冒頭行われたオープニングセッションでは、女性の活躍を促進するための課題や、女性の活躍を創出していく上で何が求められているかについて議論をした。</p> <p>基調講演「女性リーダーに求められるもの～組織におけるキャリア形成を通じて～」では、女性リーダーに求めるものや必要な意識、組織の中で生き抜く知恵についてお話いただいた。</p> <p>ワークショップでは、グループに分かれて、リーダーシップをとる際に必要なコミュニケーション手法（アクションラーニング）について学び、参加者の多様な視点からの問いかけに基づきながら職場の課題に向き合い、課題解決の方策を探り、活発な議論が展開された。</p> <p>【第2回】</p> <p>一般社団法人埼玉県経営者協会ウーマノミクス推進委員会との共催並びに経済産業省関東経済産業局の後援による開催とした。内海理事長挨拶の後、「女性の活躍により飛躍する企業からの報告」と題して、東彩ガス株式会社、株式会社メトロール、日本電鍍工業株式会社の3名の方に事例発表いただいた。</p> <p>各発表者からは、社内での多岐にわたる女性社員活躍の紹介や、女性が働きやすい職場環境を整備していること、会社の成長には女性の力が欠かせないことが報告された。</p> <p>事例発表の後、3名をパネリストに、内海理事長がコーディネーター役となり「女性の活躍促進のために、今、何が必要か」をテーマにパネルディスカッションを行った。</p> <p>3. 開催日時</p> <p>【第1回】平成25年10月18日（金）～19日（土）NVEC</p> <p>【第2回】平成26年3月4日（火）（大宮ソニックシティ 市民ホール）</p> <p>○研修内容の分析</p> <p>【第1回】</p> <p>本研修では経営トップや管理職から、女性の活躍を促進することが企業の活力を高め、成長に導くことへの理解を調査結果や事例から説明いただくなど、客観的視点からの講義を重視した。また、企業で活躍する女性のロールモデルとなる女性からの講演を取り入れるなど、女性人材活用の推進者をエンパワーメントすることも狙った。同時に、参加者が自企業で抱えている問題点についてグループで話し合う技法の一つ「アクションラーニング」手法を活用した。参加者の多様な視点からの問いかけによって、考えを広げたり深めたりしながら検討成果をまとめ上げるとともに、受容と共感、相互の変化、シナジー効果などワークショップならではの高揚感あるプロセスを体感できるよう工夫した。</p> <p>【第2回】</p> <p>埼玉県が推進するウーマノミクス推進委員会の平成25年度第6回をNVECが企画した。</p> <p>地域の中小企業での女性活躍の促進は、経営者の意識が大きく影響する。そのため、経営者として女性の活躍に積極的に推進している方に、事例を報告いただいた。また、現場の女性チーフからは、職場での工夫や感じていることを語っていただいた。また、報告者と内海理事長とのパネルディスカッションを取り入れ、さらに会場からも質問を受けるなど、女性活躍に関する課題や方策について深い議論となるよう工夫した。</p> <p>○研修対象者の厳選</p> <p>企業の経営者、役員、管理職、現場で活躍する女性リーダーなど、女性人材活用の推進者を対象として限定した。</p> <p>○内容評価</p>

- ・プログラムの有用度
  - 第1回 100.0% (非常に有用 65.7% 有用 34.3%)
  - 第2回 93.7% (非常に有用 43.7% 有用 50.0%)
- ・プログラムの満足度
  - 第1回 96.9% (非常に満足 62.5% 満足 34.4%)
  - 第2回 93.7% (非常に満足 37.5% 満足 56.2%)

○参加者の地域バランス

第1回の参加者は、関東・甲信越の参加者が89.3%で、近畿と北陸・東海が共に2.9%ずつであった。  
また、大宮で開催した第2回は、埼玉県経営者協会との共催でもあり、埼玉県内の参加者が多くなっている。

実績を裏付けるデータ

1. 参加者の概況

- 【第1回】参加者 47名
- 【第2回】参加者 46名

2. アンケート結果

- 【第1回】満足度 96.9% (非常に満足 62.5%、満足 34.4%)
- 【第2回】満足度 93.7% (非常に満足 37.5% 満足 56.2%)

3. 主な意見・感想等

【第1回】

- ・女性の活躍を促進するには何がポイントで、「長時間勤務」など、どのような問題に今後取り組まなければならないことが明確な答えとして出たことがよかった。
- ・ダイバーシティを取り巻く背景、現況についての具体的なお話が伺えて非常にためになった。また、働き方の在り方、女性が男性に近づく・男性が女性に近づく、ではなく、第三の方策もあるのではといったお話は感銘を受けた。
- ・同じような悩みや問題があることを知り、力がわいた。今回出来た人脈を大切に、今後の活動につなげたいと思う。
- ・自社で人事業務に携わり、ダイバーシティ戦略を掲げる一方で、進め方ばかり気にしていたのでは？と反省した。「活躍したいと思える人が活躍できる社会（会社）」に心にスッと入ってきた。
- ・世界における日本の特異性を知ることができてよかった。
- ・社内の意識改革に取り組む様子を知って元気が出た。
- ・業界によって女性の活躍推進の度合いは違うので、進んでいる会社のお話を聞けて、とても勉強になった。

【第2回】

- ・実際に女性が活躍している企業の話が聞け、自分のモチベーションが上がった
- ・女性の職域を限定せず、やる気のある人に任せるべきだということが必要だと感じた
- ・男性も女性に見習い、前向きな考え方と顧客目線で業務に向かう大切さが理解できた
- ・男性には感じられない難しさ、バリアのようなものがあることを知ることができた

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
<p>適時性：国の経済成長戦略として、企業における女性の活躍促進が掲げられており、また、社会活動におけるダイバーシティ（多様性の確保）、働きやすい環境の整備、仕事と家庭生活の両立への必要性から時宜を得た取組である。</p> <p>独創性：ヌエックの調査研究の活用や、内海理事長の企業に対する人脈の利用、グループワークでの実践の豊かな経験を取り入れ、宿泊研修では緑豊かな環境で研修者が課題に集中して取り組むことができ交流も深められるなど、NWECならではの研修であると言える。</p> <p>発展性：第1回セミナーでは財団法人21世紀職業財団の後援をいただき、第2回セミナーでは一般社団法人埼玉県経営者協会ウーマノミクス推進委員会と共催、経済産業省関東経済産業局の後援で開催するなど関係機関との協力関係を構築した。</p> <p>効率性：第1回セミナーでは5,000円の受講料を設定し、事業運営の効率性を高めた。また、第2回セミナーでは一般社団法人埼玉県経営者協会ウーマノミクス推進委員会と共催で開催することにより、講師謝金や会場確保費用、資料作成等をNWECが負担することなく事業を実施できた。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点 判 定	応募倍率	プログラムの有用度			
	B	A			
<p>○応募倍率 第1回 58.8% 第2回 59.0%</p> <p>○プログラムの有用度 第1回 100.0%（非常に有用 65.7% 有用 34.3%） 第2回 93.7%（非常に有用 43.7% 有用 50.0%）</p> <p>○プログラムの満足度 第1回 96.9%（非常に満足 62.5% 満足 34.4%） 第2回 93.7%（非常に満足 37.5% 満足 56.2%）</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	女性の活躍を促進する上で、企業分野における人事担当者等の意識啓発は欠かせないと認識に基づき、今年度から正規に年度計画に位置付けて実施した事業である。
達成	NWECとしては新領域であるにもかかわらず、一般社団法人埼玉県経営者協会や経済産業省関東経済産業局と連携して、広報や会場手配、講師交渉などを効果的に進めている。また、男女共同参画の視点に立った女性活躍促進をテーマに絞るなど、NWECの独自色を出したプログラムの内容を追求しており、参加者からもその点が高く評価された。企業における男女共同参画推進リーダーが身に付けるべき課題解決の一つの手法として、アクション・ラーニングの体験機会をプログラムに取り入れた点も参加者から評価されている。

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
応募倍率が第1回58.8%、第2回59.0%と低調であることから、効果的な事業の周知・広報を工夫することや研修内容へのニーズを研究しプログラムに反映させる必要がある。また、参加者の有用度や満足度が非常に高いことから、企業の統括団体や各種研修機関等との協力関係を構築することで、本事業の発展が期待できる。

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施
年度計画の項目 (I-1-(1)②)	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施 ②女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修

事業名	女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修		
担当課室	事業課		
スタッフ	事業課長 (1)	専門職員 (1)	係員 (1) 計3名

年度実績概要
<p>1. 趣旨</p> <p>男女共同参画社会の形成に向けた、女性関連施設・地方公共団体・民間団体の役割を認識し、地域の男女共同参画を積極的に推進するリーダーとしてのエンパワーメントと連携・協働関係の構築を支援することを目的とし、必要な知識、マネジメント能力、ネットワーク力を身につけるために、高度で専門的な研修を行う。</p> <p>2. 実施概要</p> <p>今回の研修のテーマは、「男女共同参画の現在（いま）を見つめ、これからの在り方を考える」。国連女性の地位委員会日本政府代表・十文字学園女子大学教授 橋本ヒロ子氏による講演、関係省庁の施策説明、内閣府男女共同参画会議議員・実践女子大学人間社会学部教授 鹿嶋 敬氏の講義により、男女共同参画の根本にある考え方や日本内外の男女共同参画の現状について学習した。また、昨年に比べ時間を拡大したコース別分科会では、災害時、地域で必要不可欠な機関・施設になるための事例や第3次男女共同参画基本計画で新設された男性・子どもにとっての男女共同参画の事例、DV被害者支援等、喫緊の課題に関する事例、地域資源を活かした事例など、高い人権意識に基づき官民・多様な団体の連携、NPOとの協働等によって各地域で取り組まれている好事例の報告を元にグループディスカッションを行った。加えて、情報交換会・自由交流等により、全国からの参加者相互のネットワークづくりも図られた。</p> <p>3. 開催日時（場所）</p> <p>平成25年6月12日（水）～14日（金） （国立女性教育会館）</p> <p>【評価指標】</p> <p>○研修内容の分析</p> <p>各地域で男女共同参画を推進するためには、女性関連施設、団体、行政の3者の連携が不可欠であることから、平成22年度から地方公共団体コースを加え、3者の連携・協働のあり方の討議を取り入れるなど、3者が課題等を共有し、連携・協働できる内容としている。</p> <p>初日の午前実施したプレ・ワークショップ「男女共同参画推進の基礎知識」には、任意であったが、地方公共団体職員と団体リーダーから85名の参加があった。男女共同参画の基礎を学習する内容は好評で、研修の導入に最適であった。</p> <p>鹿嶋敬氏の基調講演、橋本ヒロ子氏の講義は男女共同参画の現状について広い視野に立って語られ、各地域での推進者への学びに大きく貢献した。内閣府・文部科学省・厚生労働省の報告「男女共同参画社会形成に向けた今日の政策課題」では、男女共同参画の関連施策について説明され、自組織で活用できる国の事業について理解を深めることができた。また、2日目の午後コースと3日目の午前の計約6時間に及ぶコース別ワークショップでは、各コースとも課題に対応するヒントを多く含んだ事例の厳選により、高い評価を得た。</p> <p>これは、各コース参加者のニーズへの適合、事例報告者のわかりやすい説明、ファシリテーターによる適切な進行によるものである。本研修の趣旨である、第3次男女共同参画基本計画を実現するための連携・協働関係の構築支援のため、女性関連施設管理職・地方公共団体職員・団体リーダーの3コース参加者が一同に集うプログラム「課題把握のディスカッション」「全体会」では、3者の連携・協働関係を意識した構成とした。</p> <p>さらに、情報交換会での立食形式の導入、自由交流でのテーマごとの実施等の工夫により、ネットワークの構築に貢献することができた。</p> <p>研修後、本研修を各地域でどのように生かすかを計画する「研修成果の活用プラン」を提出いただいた。</p> <p>○研修対象者の厳選</p> <p>地方公共団体職員コースについて、地域でのリーダー育成の観点から、参加対象を男女共同参画課長等の行政担当責任者に限定して募集した。また、全コースにおいて参加者の決定にあたっては実際の業務・活動</p>

内容の確認を行う等、基幹的な指導者を厳選した。

○課題の厳選

東日本大震災で顕在化した、地域における男女共同参画の視点の未定着を踏まえ、災害時、地域で必要不可欠な視点の再度の点検・見直し、地域で求められる機関・施設になるための事例を選んだ。また、第3次男女共同参画基本計画で新設された男性・子どもにとっての男女共同参画の事例、DV被害者支援等、喫緊の課題に関する事例を盛り込んだ。

○内容評価

参加者の課題意識に答えるプログラムの工夫と、基本的な知識から専門的・実践的内容。参加型ワークショップ等の実施により、有用度100.0%（非常に有用58.1%、有用41.9%）、満足度99.2%（非常に満足47.5%、満足51.7%）と満足度は昨年度より3.2ポイント上昇した。

○影響評価

研修6ヶ月後に実施したフォローアップ調査では、「研修の成果を仕事や活動に役立てている」との回答が97.6%と高くなっている。また、研修の成果を普及・活用した方法では、「具体的な事業の企画・運営への指導・助言」が多く、本研修が実践に活かされていると言える。また、地域（他機関、団体・グループ等との連携）での普及・活用方法では、「ネットワーク構築に向けた働きかけ」を行ったとの回答が高くなっている。研修参加者は、本研修で得た資質や能力を、地域の男女共同参画を推進するための連携・協働関係の構築に繋げている。

○フォローアップ・アンケート調査の回収率向上のための取組

アンケート用紙を、研修時の研修アンケートと統合し、質問項目を厳選・簡略化した。また、文字も大きくイラストも挿入し、書きやすさと印象の柔らかさを狙った。回収率は93.8%と昨年度より3.2ポイント上昇した。

○参加者の地域バランス

参加者の地域バランスは昨年度と比較し、関東ブロックは0.4ポイント減少の51.1%、九州・沖縄ブロックで1.2ポイント上昇の11.0%、北陸・東海ブロックで1.1ポイント上昇の11.0%など大きな変化はない。昨年同様、参加者の負担する交通費がネックになり、遠隔地からの参加者が増えにくい状況が続いていると思われる。

実績を裏付けるデータ

詳細は添付のアンケート集計結果参照【】は平成24年度実績

1. 参加者の概況

・応募倍率

149.2%（定員120名 応募者179名 参加者163名）【110.8%（定員120名 応募者133名 参加者132名）】

・地域バランス（参加地域）

北海道・東北 16名 9.8% 関東 83名 51.1% 甲信越 8名 4.9% 北陸・東海 18名 11.0% 近畿 10名 6.1%  
中国・四国 10名 6.1% 九州・沖縄 18名 11.0%

【北海道・東北 12名 9.1% 関東 68名 51.5% 甲信越 9名 6.8% 北陸・東海 13名 9.9% 近畿 8名 6.1%  
中国・四国 9名 6.8% 九州・沖縄 13名 9.8%】

2. アンケート結果

・全体の満足度について

満足度99.2%（非常に満足47.5% 満足51.7%）【満足度96.0%（非常に満足30.3% 満足65.7%）】

・プログラムの有用度について

有用度100.0%（非常に有用58.1% 有用41.9%）【有用度98.9%（非常に有用46.8%有用52.1%）】

・フォローアップ調査について

アンケート集計結果（対象者数145 回答136 回収率93.8%）【対象者数128 回答116 回収率90.6%】

プラス評価 97.6%（大いに役立っている36.8% 役立っている60.8%）

【プラス評価 98.2%（大いに役立っている39.4% 役立っている58.8%）】

・目標達成度

・男女共同参画についての視点、考え方を身につけることができた。99.2%

・男女共同参画施策に関わる国の施策・動向を理解することができた。94.1%

・地域で男女共同参画を推進するための連携・協働の在り方について、手がかりを得ることができた。92.0%

3. 主な意見・感想等

・「男女共同参画の現在（いま）を見つめ、これからの在り方を考えるといったテーマにせまるプログラムであったこと、また、得た情報から男女共同参画の進捗と課題が自分自身の中で整理できたことから、非常に有用な研修であった。地域に帰り、ニーズを拾い上げ、そのニーズに応える事業の工夫に取り組みたい。

・新任者向けの基礎知識→基調講演から始まり、各講義→ワークショップでの他センター関係者との意見

交換・共有→自分へのフィードバックという流れの中で、多くの学びと気づきがあった。

- ・第3次男女共同参画基本計画に基づく内閣府をはじめとする国の動向等確認できた。また、分科会を通じ各センターでの取組や事業等の具体的な情報交換ができた。
- ・男女共同参画の推進について、非常に分かりやすいプログラムが展開され、今後の事業を企画運営していく上で参考となった。

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
<p>適時性：東日本大震災で顕在化した、地域における男女共同参画視点の必要性を踏まえ、復興・防災からも地域で検討・見直しが必要な内容を取り入れた。また、第3次男女共同参画基本計画で新設された男性・子どもにとっての男女共同参画の事例、DV被害者支援等、喫緊の課題に関する内容も取り扱ったことは、時宜にかなった取組として評価できる。</p> <p>独創性：これまでに実施した研修や調査研究により把握した各組織・機関の課題を基に設定したプログラムの実施、NVECが行った調査研究成果の情報提供などNVECの独創性を活かした取組となっている。</p> <p>発展性：研修では、先進的であり、各組織・機関にとって有用と思われる事例を選び提供した。また、全国からの参加者との情報交換や交流を支援することで、連携共同関係に生きるネットワークを構築できたことは評価できる。</p> <p>効率性：女性関連施設管理職コースを特定非営利活動法人全国女性会館協議会との共催により行うことで、NVECと全国女性会館協議会双方の人的ネットワークを活用し、女性会館のニーズや先進事例を収集し、企画に役立てたことは効率性向上の取組として評価できる。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点 判 定	応募倍率	プログラムの有用度			
	A	A			
<p>○応募倍率：149.2% 【110.8%】</p> <p>○プログラムの有用度：有用度100.0%（非常に有用58.1% 有用41.9%）【98.9%】</p> <p>○影響調査：97.6%（大いに役立っている36.8% 役立っている60.8%）【98.2%】</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	女性関連施設、地方公共団体、民間団体・女性グループを、地域で男女共同参画を推進する主体と位置づけ、その期間的指導者に対し、専門的な研修、情報交換の機会を提供した。
達成	プログラムの満足度99.2%、有用度100%ともに昨年度を上回っており、参加者が研修で学び得た内容を具体的な事業で役立てていることが伺える。

## 4. 今後の課題

<p>研修の開催時期を5月中・下旬へと移動させたい。これは現開催時期の6月中旬が、男女共同参画週間前の準備期でもあり、地方議会も開催されるなどかねてからの参加者意見を反映させるものである。</p> <p>また、引きつづき、遠隔地からの参加を促進させるため、全国の各地域から報告者を招聘することや、早い時期のNVECホームページの掲載・周知メール、募集期間中の二次・三次の広報を行うことなどで参加者の地域バランスを改善させていきたい。</p> <p>さらに、研修効果を全国に効果的に広める観点から、たとえばNVECホームページで研修の内容や資料が閲覧できるなど研修内容の広報や発信を工夫し、男女共同参画社会のより一層の推進を図っていきたい。</p>
---

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施
年度計画の項目 (I-1-(1)③)	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施 ③大学職員のための男女共同参画推進研修

事業名	大学等における男女共同参画推進セミナー
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長 (1) 専門職員 (1) 係員 (1) 計3名

年度実績概要
<p>1. 趣旨 大学等における男女共同参画意識の浸透や男女共同参画の推進体制の構築など、学内での男女共同参画の推進を図り、また、研究者に占める女性の割合の改善を図ることを目的に、これに関わる教職員を対象として、専門的、実践的な研修を実施する。</p> <p>2. 実施概要 研修は、大学等における男女共同参画を推進する意義の講義や大学等における女性のキャリア形成支援に関する講義の後、テーマごとに3つの分科会に分かれ、昨年より時間を拡大して事例報告やグループ討議等を行った。分科会では、各校の課題について情報共有するとともに男女共同参画推進への問題意識を持つきっかけとし、その後、各分科会の報告を全体会でを行い、情報共有した。</p> <p>3. 開催日時(場所) 平成25年11月28日(木)～29日(金) NVEC</p> <p>【評価指標】</p> <p>○研修内容の分析(専門的・参加型・実践的であったか) 国立大学、私立大学、高等専門学校等における男女共同参画の先駆的な取組や現状について、学内における男女共同参画の体制づくりや女性研究者支援の在り方、男女共同参画社会実現に向けた理系女子学生へのキャリア形成支援に関する事例の紹介や、これらの課題解決に向けた分科会を設定するなど、専門性の高い研修とした。分科会では、参加型のグループワーク形式を取り入れることにより、参加者が自校の課題の把握や分析を行うとともに、情報交換会でも得られた他大学における取組の状況把握を通じて、解決へのヒントを得るなど、実践的な内容を提供した。 国立大学では、男女共同参画の組織が整備されつつあるが、私立大学、高等専門学校では男女共同参画の推進体制がまだ十分でないことから、分科会の事例報告では、私立大学、高等専門学校の先進的な事例も取り入れ、プログラムの充実を図った。</p> <p>○研修対象者の厳選 校種では平成24年度より、大学と同様、高等教育機関である短期大学・高等専門学校を対象としているが、より幅広い参加者を得るため、対象を「意思決定組織に所属する教職員及び男女共同参画推進担当責任者」から「大学・短期大学・高等専門学校における男女共同参画推進に関わる教職員」とし、募集を行った。</p> <p>○課題の厳選 「大学における男女共同参画の体制づくり」という大きな土台となる課題に加え、「大学における女性研究者支援の在り方」、男女共同参画社会実現に向けた「理系女子学生へのキャリア形成支援」という3つの課題を取り上げた。</p> <p>○内容評価(参加者の85%以上からプラス評価を得られたか) 3つの課題に関する講義をはじめ、国立大学、私立大学、高等専門学校の事例など、高い意識で男女共同参画を推進している様々な先進的な取り組みを取り上げた。参加者によるプログラム全体の満足度は97.2%(非常に満足43.5%、満足53.7%)、有用度は98.6%(非常に有用56.6% 有用42.0%)と高い評価を得ている。</p> <p>○参加者の地域バランス 関東・甲信越以外の地域からの参加者は9～14名であり、全体の59.8%を占めていることなど、全国各地からバランスよく参加しているものと思われる。 全参加者のうち、大学からの参加者は67名(77.0%)であった。そのうち、国公立別の割合は、国立40名(46.0%)、公立6名(6.9%)、私立21名(24.1%)であった。昨年度より高等専門学校の職員も募集の対象としているが、今年度の高等専門学校からの参加者は18名(20.7%)であった。</p> <p>※今後の評価にあたっては、研修等の満足度等ではなく、人材養成業務を実施することにより発現すること</p>

が期待される成果・効果についての客観的かつ具体的な指標を設定（略）する必要がある。  
（総務省評価委員会からの指摘）

実績を裏付けるデータ

1. 参加者の概況
  - ・参加者定員 80名【80名】
  - ・応募者数 94名【94名】
  - ・応募倍率 117.5%【117.5%】
  - ・参加者内訳 教員系41名、職員系46名【教員系35名、職員系55名】
  - ・参加者の地域バランス 北海道・東北14名(16.1%)【12名(13.3%)】  
関東31名(35.6%)【35名(38.9%)】 甲信越4名(4.6%)【2名(2.2%)】  
北陸・東海10名(11.5%)【12名(13.3%)】  
近畿9名(10.3%)【11名(12.2%)】 中国・四国10名(11.5%)【6名(6.7%)】  
九州・沖縄9名(10.3%)【12名(13.3%)】
2. アンケート結果
  - ・全体の満足度 97.2%(非常に満足43.5% 満足53.7%)【92.0%(非常に満足44.0% 満足48.0%)】
  - ・プログラムの有用度 98.6%(非常に有用56.6% 有用42.0%)  
【100.0%(非常に有用58.9% 有用41.1%)】
3. 主な意見・感想等
  - ・グループワークもあり、それぞれが日ごろからかかえている問題をはき出し、共有することで、勇気づけられ、これからのモチベーションも変わってくるのではないかと感じた。
  - ・他大学の取り組みや事例を聞くことができ、参考になった。
  - ・女子学生支援について教員間で、その必要性を論じていたところだったので、各校の状況などが具体的にわかり非常に参考になった。
  - ・男女共同参画関連のセミナーに参加したのが初めてだったので、基本的な知識・情報から課題解決の手法まで取り上げていただけで充実したセミナーを過ごすことができた。
  - ・同じ立場の方々と情報交換できて、新たなネットワークが築けてよかった。宿泊研修だと日頃の忙しい業務を離れることができ、じっくり考えることが出来て満足した。
  - ・内容的に満足だが、慌ただしいプログラムだったように感じた。

## 自己点検評価調査書

## 1. 定性的評価

観点判定	適時性	独創性	発展性	効率性
	A	A	A	A

適時性：文部科学省の「女性研究者研究活動支援事業」などにより各大学には男女共同参画室、女性研究者支援室などの推進体制ができつつあるが、学校間によって取り組みにまだ差が見られる。こうした中、学内における男女共同参画の体制づくりや女性研究者支援の在り方、男女共同参画社会実現に向けた理系女子学生へのキャリア形成支援を課題の大きな柱として研修を展開したことは、時宜に合わせた取組である。

独創性：3つの大きな課題解決を目指した分科会の設定や、宿泊を伴う研修を活かし、宿泊棟を会場とする情報交換会の設定は、参加者同士のネットワークを広げるとともに、他校の取組から自校の課題を把握し、解決のヒントを得る機会を提供している。

発展性：各課題に即した講義、企業の取組事例、分科会での各大学等の事例報告や講師も交えたグループワークなどを通じて、参加者が自校の課題の把握や分析、課題解決のヒントをつかむことは、研修終了後も各校の業務における発展性が見られるものと期待できる。

効率性：講師については、国立大学、私立大学、省庁関係者等から幅広く講師、事例報告者を選出し、プログラムの特徴を踏まえた事業実施となった。講師の依頼については、昨年度より時期を早め、知名度の高い講師を招聘できるよう計画的に依頼交渉を進めた。また、大学における男女共同参画の調査研究を進めている研究国際室と連携して事例報告者（校）を選定するなど、効率よく人選が進められるようにした。

## 2. 定量的評価

観点判定	応募倍率	プログラムの有用度		
	A	A		

○応募倍率：117.5%  
○プログラムの有用度：97.2%

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	大学等における男女共同参画推進への取り組みは進みつつあるが、十分であるとは言えない。また、文部科学省の支援事業終了後の女性研究者支援をいかに継続していくか、男女共同参画社会実現のための理系女子学生へのキャリア形成支援の方法など、課題は多い。その中で各課題に対する基本的な考え方、先進的な取り組みを行っている学校の事例、分科会での討議など、全体の動向や他校の推進状況について多くの情報を得ることができる本研修の意義は大きい。
達成	また、アンケート結果を見ても、満足度、有用度ともに100%に近い数字となっているなど、高い評価を得ており、本研修のねらいは十分達成できたと思われる。

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
本研修の成果をもとに研修内容をさらに充実、発展させることはもちろん、1,200校を超える大学・短期大・高等専門学校から一校でも多くの参加を得られることが大きな課題である。今年度、参加対象者を学内で「意思決定組織に所属する教職員」から「男女共同参画推進に関わる教職員」と間口を広げたように、実際に推進業務を担当する担当者の参加が重要と考える。参加者募集における広報についても、あて先を男女共同参画室、女性研究者支援室などとし、男女共同参画推進を担当する部署に直接届くようにした。その結果、全国立大学、推進担当部署が明示されている公立大学、積極的に推進している私立大学等への電話による募集活動の際も、募集の案内がすでに届いていることから円滑に話ができる場所が多かった。このような地道な広報活動を次年度も継続して行っていく必要がある。また、募集に当たっては、文部科学省、一般社団法人国立大学協会、日本私立大学団体連合会、日本私立短期大学協会、独立行政法人国立高等専門学校機構からの後援を受けた。今後もこうした連携を重視し、参加者を拡大するとともに学内における男女共同参画意識の浸透が進められるようにする。

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	1 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施
年度計画の項目 (I-1-(1)④)	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施 ④男女共同参画推進フォーラム

事業名	男女共同参画推進フォーラム
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長 (1) 専門職員 (2) 係員 (2) 計5名

年度実績概要
<p>1. 趣旨</p> <p>男女共同参画を推進する行政担当者、女性団体やNPOのリーダー及び大学や企業において組織内のダイバーシティ、女性の活躍を推進する担当者等が一堂に会し、課題の共有と課題解決のための方策を探る研修を実施する。同時に、組織分野を越え、連携・協働して男女共同参画を推進するためのネットワーク形成を図る。</p> <p>2. 実施概要</p> <p>1日目の基調講演では「女性の活躍推進と社会の活性化」というテーマで、経営にダイバーシティが求められる背景とその効果などを佐々木常夫氏（東レ経営研究所）にお話いただいた。2日目のパネルディスカッションでは、女性の活躍への期待などについて議論がなされた。最終日の「女性リーダーらんざん会議」では大学、企業、自治体、NPO法人の方をパネリストに迎え、分野を越えて女性リーダーのあり方などについて議論がなされた。また、3日間にわたり、大学、企業、民間団体等50件のワークショップと11件のポスター展示を実施し、日頃の研究成果や実践活動についての報告、会場の参加者との質疑応答、協議などが行われた。</p> <p>3. 開催日時（場所）</p> <p>平成25年8月22日（木）～24日（土） NVEC</p> <p>【評価指標】</p> <p>○研修内容の分析（専門的、参加型、実践型であったか）</p> <p>昨年度までの交流事業から研修事業として新たに実施することになり、「女性の活躍推進と社会の活性化」と題して、基調講演、パネルディスカッションを実施し、より専門的な学びの機会を提供した。また、会館提供ワークショップでは、地域での実践活動報告を踏まえグループワークをするものや、パネルディスカッション形式のものなど、専門的、参加型、実践型の学ぶ機会を提供した。</p> <p>○研修対象者の厳選</p> <p>対象を行政、企業、大学、NPO等の組織において男女共同参画の推進に携わる者と明確にして募集した。</p> <p>○課題の厳選</p> <p>全体のテーマを「女性の活躍で日本を元気に」として、基調講演、パネルディスカッションを実施し、さらにワークショップのテーマの中に「企業における女性活躍推進」、「大学における女性の活躍推進」を新たに加え、女性の活躍推進にはどうすればよいかという課題に厳選して実施した。</p> <p>○内容評価（参加者85%以上からプラス評価を得られたか）</p> <p>参加者からは、有用度100.0%、満足度88.2%の評価を得ることができた。</p> <p>○影響評価（ワークショップ参加者の85%からプラス評価を得られたか）</p> <p>ワークショップ運営者からは、有用度90.9%、満足度88.2%の評価を得ることができた。</p> <p>○フォローアップ調査回収率向上のための取組</p> <p>昨年度までは調査票の項目が多かったことから、質問項目を簡略化して、回答し易いように調査票の改善を図った。</p> <p>○参加者の地域バランス</p> <p>参加者募集において、埼玉新聞に広告掲載するなど、特に埼玉県、東京都に募集を図ったことから、東京都、埼玉県合わせて40%以上と高い状況となった。しかし、北海道・東北、近畿でも昨年度より参加者の割合が増えている。</p> <p>○全国フォーラムにおける交流機会の充実</p> <p>交流事業から研修事業になったが、情報交換会や、ボランティアによる交流プログラムを行い、また、50のワークショップを行うことにより、学びだけでなく参加者同士の情報交換・交流の場を提供することができた。</p> <p>○大学や企業等からの参加促進状況</p> <p>参加者において、研究者・大学職員の割合は、昨年の4.8%から5.5%と増加しており、学生も2.1%から2.7%と増加している。今回から集計する企業関係者は、3.1%の状況であり、全体ではまだ低い状況である。</p>

#### ○NWECボランティアに対する活動支援状況

昨年度までは、NWECがプログラムを提示して、ボランティアが運営する形としていたが、今年度は、ボランティア自らが企画・運営する形としてNWECはプログラムを支援する形にした。これにより、ボランティアの考えによる新たなプログラムを実施することができた。

#### ○フォローアップ調査結果の研修プログラムへの反映

これまでは「募集ワークショップ」という枠で、研修室を使用するタイプのワークショップと展示ワークショップという名称でいわゆるポスター展示の両方を募集していた。展示ワークショップは、例年応募も少なく、毎年ほぼ同じ団体の応募が多いという傾向があった。今年度は、「ワークショップ」と「ポスター展示」の2種類に募集の枠をあらかじめ分ける形で一般募集を行った。また、「ワークショップ」と「ポスター展示」の両方への応募も可能とした。この結果、「ポスター展示」には、大学の男女共同参画担当部署をはじめとして、初めて参加する団体の応募が増えた。

また、募集ワークショップ運営者は、長年の参加者が多く、このような参加者層にとっては、本事業の位置づけが交流事業から研修事業へと変わっても、「夏のフォーラム」≒「NWECの一番大きな事業」という位置づけは変わらないと思われる。このため、企業や大学関係者など新しい層の掘り起こしと同時に、1,000名という募集定員の決して小さくない割合を占めるこれらの長年の参加者たちも、引き続き、関心を持って参加してもらえるように、NWECが提供するパネルディスカッションの登壇者の人選にも配慮した。

#### 実績を裏付けるデータ

##### 1. 参加者の概況

参加者 1049名（女性899名 男性150名） 定員1,000名

年代別 10代（0.3%）20代（6.5%）30代（8.1%）40代（12.0%）50代（21.4%）60代以上（40.4%）

地域別 北海道・東北（10.9%）関東（66.9%）甲信越（11.3%）北陸・東海（3.3%）近畿（4.7%）中国・四国（1.2%）九州・沖縄（1.7%）

##### 2. アンケート結果

満足度 91.1%（非常に満足48.9%、満足42.2%）

##### 3. 主な意見・感想等

- ・基調講演のお話やワークショップは日常の活動に参考になりました。
- ・ワークショップが色々あってどこに参加して良いか迷ったが、初めて参加して良かったです。
- ・全国から多くの方が参加され、情報交換等、有意義なフォーラム内容だったと思います。自分の活動のヒントをいただきました。
- ・ダイバーシティの視点から、仕事、家庭、人生について、非常に考えさせられる内容だった。

## 自己点検評価調査

## 1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
<p>適時性：今年度は「女性の活躍で日本を元気に」をテーマに基調講演、パネルディスカッションを実施し、「第3次男女共同参画基本計画」の「第1分野政策・方針決定過程への女性の参画の拡大」、「女性の活躍促進により経済活性化」行動計画など、時宜を得た取り組みである。</p> <p>独創性：会館提供ワークショップにおいて、地域センターの実践活動報告、CSW（国連女性の地位委員会）の報告など、会館のネットワークを活用したワークショップを実施し、独創性を生かした取り組みである。</p> <p>発展性：女性リーダー会議を実施し、大学、企業、自治体、NPOの様々な分野の女性リーダーによる女性リーダーのあり方等を議論したことは、フォーラムの目的とする組織分野を越え、連携協働して男女共同参画を推進するためのネットワークづくりの取り組みにつながり発展性がある。</p> <p>効率性：フォーラムの開催期間中に社会教育実習生を受け入れ、体験実習を兼ねることで効率的な事業運営を行った。また、これまで事前登録制であったが参加者及び職員の負担軽減のため、宿泊以外は当日申込するなど、運営の効率化を図った。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点 判 定	応募倍率	プログラムの有用度			
	A	A			
<p>○応募倍率：104.9%（定員1,000名、応募者1,049名）【90.5%（定員1,000名、応募者1,035名）】【24年度実績】</p> <p>○プログラムの有用度：参加者100.0%（はい100.0%）【98.2%】 ワークショップ運営者90.9%（非常に役に立った54.5%+役に立った36.4%）【100%（非常に役に立った54.8%+役に立った45.2%）】</p> <p>○フォローアップアンケート：有用度 95.2%（非常に役立った57.1%+役立った38.1%）【100.0%（非常に役立った56.8%+役立った43.2%）】</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	募集定員を上回る参加者を得ることができた。 募集ワークショップでは、日頃の研究成果や実践活動報告などが行われ、参加者、運営者共に、視野を広めるとともに情報交換の場となり、当事業の目的であるネットワークづくりをすることができた。新たに研修と位置づけ、基調講演、パネルディスカッション、女性リーダー会議を実施するなど、参加者からのプログラムの有用度も高く、ねらいを十分に達成することができた。
達成	

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
今年度は、交流事業から研修事業として実施し、基調講演、パネルディスカッション、女性リーダー会議と3日間それぞれにNVEC主催プログラムを組み込み、新聞掲載など幅広く広報したにも関わらず、参加者数は昨年度と比較して微増であった。今後、参加者が関心のあるテーマでの講演や、企業、大学などからのワークショップ参加の促進を実施する必要がある。また、引き続き、行政、企業、大学、NPO等、幅広い参加を促進するため、新聞等を活用した幅広く広報を実施していく。

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(2))	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (2) 基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム・研修資料の作成
年度計画の項目 (I-1-(2)①)	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (2) 基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム・研修資料の作成 ①大学等における男女共同参画に関する調査研究

事業名	大学等における男女共同参画に関する調査研究
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長(1) 研究員(2) 客員研究員(1) 計4名

年度実績概要	<p>1. 趣旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学等の研究機関における女性研究者支援を促進するため、課題を明らかにすることを目的とした調査研究を実施するとともに支援マニュアルを作成する。2年計画の1年次は、国公立大学の男女共同参画推進機関へヒアリング調査を実施し、女性研究者支援の課題を明らかにするとともに、参考となる事例を収集する。</li> </ul> <p>2. 実施概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで女性研究者支援事業に取り組んだ76機関の報告書を整理・分析して、医・看護系、理工系、人文系などの学問分野別に取組内容・組織体制・学内連携・学外連携などの観点にしたがって分類した。</li> <li>・女性研究者支援事業に取り組んでいない研究機関にも拡大推進するために、女性研究者支援事業を実施していないが「男女共同参画推進室」など、男女共同参画推進のための機関を設置している国立大学の取組についても情報を収集し、取組内容・組織体制を整理した。</li> <li>・上記の分析・検討から、男女共同参画推進の組織体制、取組内容などから76機関を分類し、それぞれの分類グループにしたがって12大学を対象にヒアリング調査を実施した。</li> </ul> <p>3. 得られた知見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学における男女共同を進めるための取組みは、○女性研究者を増やすための支援（採用制度、昇進・評価、制度、次世代育成支援（大学院生・大学生対象、中高生対象））、○ワークライフバランス支援と環境整備（勤務体制、育児・介護の支援・拡充、情報提供・ネットワーク、男性への支援（育児・介護・研究等）、意識啓発）として実施されていることが明らかになった。</li> <li>・さらに、推進するためには、大学内の組織作り、資金調達が重要であり、大学間のネットワークも効果的であることが明らかになった。</li> </ul> <p>4. 成果の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学職員研修、国立大学協会教育・研究委員会男女共同参画小委員会、文部科学省の勉強会で調査研究の中間報告を行った。</li> </ul>
実績を裏付けるデータ	<p>平成25年7月10日（水）文部科学省勉強会 報告題 大学における男女共同参画についてのアンケート調査報告</p> <p>平成25年10月10日（木）文部科学省勉強会 報告題 「大学等における男女共同参画に関する調査研究」の進捗状況</p> <p>平成25年11月29日（金）平成25年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」 報告題 大学等における男女共同参画に関する調査研究の報告</p> <p>平成26年1月10日（金）国立大学協会教育・研究委員会男女共同参画小委員会 報告題 NVECの「大学等における男女共同参画に関する調査研究」</p>

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	
<p>適時性：第3次男女共同参画基本計画の中で重点事項とされている「第11分野 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実」「第12分野 科学技術・学術分野における男女共同参画」の大学における男女共同参画の推進、女性研究者の活躍推進に合致するテーマとなっている。さらに、大学における男女共同参画の推進、女性研究者の活躍促進は「第4期科学技術基本計画（平成23年）」や「第2次教育振興基本計画」においても重点的な施策として挙げられている。</p> <p>独創性：NWECCが実施している大学職員研修を実施するなかで構築したネットワークを活用してニーズに応じた調査研究を企画・実施することができる。</p> <p>発展性：現在の政策課題である「女性が輝く社会の実現」に向けて大学の役割は大きい。今後はより効果的な支援が検討されると考えられる。そのために必要な知見を出していきたい。</p> <p>効率性：NWECCが持つネットワークを活用することによって質問紙調査、インタビュー調査を効率的に実施することができた。</p>					

## 2. 定量的評価

観点	プログラムの有用度	学習プログラム・参考資料作成数			
判定	A	—			
<p>プログラムの有用度：96.9%（非常に有用 42.9% 有用54.0%）</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	<p>予定していたインタビュー調査を着実に実施するとともに、途中成果をNWECCの主催事業だけでなく、文部科学省の勉強会や国立大学協会の委員会で報告し評価が得られた。</p>
達成	

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>最終年である次年度は今年度の成果を踏まえてガイドブックを作成することを計画している。ガイドブックに盛り込む内容を検討し、大学を対象とした追加のインタビューを実施する。さらにより広く活用することができるガイドブックとするために、市販することも視野に入れて編集を進める。</p>

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(2))	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (2) 基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム・研修資料の作成
年度計画の項目 (I-1-(2)②)	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (2) 基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム・研修資料の作成 ②女性関連施設に関する調査研究

事業名	女性関連施設に関する調査研究
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長 (1) 情報課専門職員 (1) 事業課専門職員 (1) 計3名

年度実績概要
<p>1. 趣旨</p> <p>女性関連施設の機能の充実・強化を図るため、指定管理、人材育成等新たな課題の実態把握と分析をテーマに5年計画で行う調査研究の3年次として、女性関連施設の情報事業に関する実態調査を実施し、報告書を作成する。</p> <p>2. 実施概要</p> <p>(1) 質問紙調査</p> <p>「女性／男女共同参画センターの情報事業に関するアンケート」を、女性関連施設データベース登録の女性／男女共同参画センターのうち、メールアドレス登録があるところに対し、メールで質問紙調査を行った。 対象施設：全国の女性／男女共同参画センター338施設に配布、有効回答数298施設（回答率88.2%）</p> <p>(2) ヒアリング調査</p> <p>質問紙調査だけでは把握できない詳細について、地域、運営形態、図書資料提供の場、インターネットでの情報事業、広報誌の3つについて特徴的な取組みがあることなどから選定した10施設にヒアリング調査を行い、研究協力者所属の2施設について事例を執筆いただいた。</p> <p>3. 得られた知見</p> <p>(1) 質問紙調査では、①図書資料提供の場について、②インターネットでの情報事業について、③広報誌についての3点について尋ねた。</p> <p>図書資料提供の場を持つ施設は約9割（262施設）、そのうち貸出をしている施設は9割弱（228施設）、利用者が使えるパソコンがある施設は約4割（100施設）であった。</p> <p>ホームページを持つ施設は9割以上で、そのうち約6割（173施設）は地方公共団体のページで行っており、施設独自で持っているのは約4割（112施設）である。メルマガを行っているのは2割弱（50施設）、SNS（ブログ、ツイッター、フェイスブック等）は2割強（67施設）であり、2010年以降に開始した施設が8割を占める。</p> <p>広報誌を施設独自で発行しているのは7割以上（217施設）、大半が印刷媒体による発行（95.4%）である。発行頻度は年1～2回が半数を占めた。</p> <p>(2) ヒアリング調査では、①図書資料提供の場、②インターネットでの情報事業、③広報誌に関する取組みについて、内容・方法、工夫・困難、他機関・団体との連携、成果・効果、課題と今後に向けた展望について詳しく聞いた。</p> <p>4. 成果の活用</p> <p>(1) 参考資料の作成</p> <p>調査研究の結果を踏まえて、『女性関連施設の情報事業に関する調査報告・事例集』を作成し、全国の女性関連施設等に配布するとともにNWECのホームページに掲載し、成果の普及に努めた。</p> <p>(2) 研修事業への反映</p> <p>調査研究の成果および参考資料は、平成26年度にNWECの主催事業や外部事業への講師派遣等において活用し、さらに積極的に成果普及を行う。</p>
実績を裏付けるデータ
<p>平成25年度「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」会館提供ワークショップ「女性／男女共同参画センターのアクティブな情報発信を目指して」の参加者からの評価は、参考になった100%（とても参考になった50%、参考になった50%）であった。</p>

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	

適時性：活用したいがまだできていない施設が多い、SNS（ブログ、ツイッター、フェイスブック等）について調査し、ヒアリング事例で工夫や課題について紹介したことは、時宜を得ていると評価できる。

独創性：全国の女性関連施設の情報事業について調査し、高い回答率を得たことはナショナルセンターであるNVECだからこそできたことと評価できる。

発展性：特に事例紹介で、各地の施設が図書資料提供の場、インターネットでの情報事業、広報誌にどのような工夫をし、効果をあげているかをまとめて発信したことは、今後他の施設が取り組む際に参考となり、地域の男女共同参画拠点としての情報発信に資するものである。

効率性：質問紙調査は「女性関連施設データベース」に登録されているEメールアドレスによりメールで行い、効率的に行った。

## 2. 定量的評価

観 点 判 定	プログラムの有用度	学習プログラム・ 参考資料作成数			
	A	A			

○平成25年度「男女共同参画推進フォーラム」会館提供ワークショップ「女性／男女共同参画センターのアクティブな情報発信を目指して」の参加者からの評価は、参考になった100%（とても参考になった50%、参考になった50%）と高い評価を得た。

○「女性関連施設の情報事業に関する調査報告・事例集」を作成。

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	調査研究は計画通り実施されている。本年度の調査をもとに作成した調査報告・事例集は、女性関連施設が今後、情報事業に取り組む際に参考となり、地域の男女共同参画拠点としての情報発信に資するものである。
達成	

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
ナショナルセンターとして、今後も引き続き、地域の男女共同参画拠点である女性関連施設についての調査研究を実施する。

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	2 男女共同参画・女性教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施
年度計画の項目 (I-1-(1)④)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施 ①教育・学習プログラムの開発

事業名	教育・学習プログラムの開発	
担当課室	事業課	
スタッフ	理事長、理事、調整主幹、専門官、事業課、情報課	計19名

年度実績概要	
1. 趣旨 NWECが開発・実施したプログラムを地域の女性センター等で活用するための支援を行う。また、学生を対象としたキャリア教育プログラムによる単位取得事業を大学等と連携して実施する。プログラムの提供・共同実施と併せて、男女共同参画に係る講師の斡旋を行う体制を整える。	
2. 実施概要	
(1) 講師斡旋事業 全国の女性／男女共同参画センターや都道府県・市区町村男女共同参画部署の担当者に対する学習支援として、あらかじめ会館のホームページ上に提示した講師を、依頼に基づき斡旋する。25年度は、26年度からの斡旋事業実施に向けて、講師を選定し、講師リスト・プロフィールをホームページ上に公表した。	
(2) 男女共同参画センターとの共同実施 平成23～24年度にNWEC主催事業としてプログラムを開発・実施した「複合キャリア形成研修」に基づき、群馬県ぐんま男女共同参画センターを支援するため、NWECが共催で「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修（女性のためのハッピーキャリア大研究）」を群馬県で実施した。 同センターでは平成26年度に単独での事業実施を予定している。	
(3) 大学と連携した事業実施	
①埼玉大学との連携授業（4年目）（受講学生は女性26名、男性36名、合計62名） ・平成25年4月9日～7月23日（前期2単位、火曜3限、全15回）、「ジェンダー概論」。 ・全15回授業のうち、2回をNWECが担当。理事長によるアンケート及びチェックシート記入の演習も取り入れた講義「男女共同参画社会の実現を目指して」、専門職員によるパソコン実習「専門情報を使う、男女共同参画統計を学ぶ」を実施。また、授業のテーマに合わせて、NWEC女性教育情報センターに所属する専門図書のパッケージ貸出を埼玉大学教養学部資料センターに行き、履修学生の学習支援の他、一般学生の利用に供した。	
②埼玉県私立短期大学協会（4年目）（受講学生は4大学より50名） ・平成25年9月2日（月）～4日（水）（2泊3日）NWECで実施。前期2単位。 テーマは「これからのキャリアを考えてみよう」。男女共同参画や女性が継続就労することの意義などについて学び、生徒一人一人がより前向きに卒業後の人生設計を組む力を養うことを狙った。 ・NWECの研究成果である「社会活動キャリア形成事例」をもとにグループワークを行うことで、キャリア形成に関する学習を深めた。 ・ゲストスピーカーとして先輩の話聞く夜間ワークショップについての学生評価が極めて高かった。 ・参加学生に対し、研修の最初と最後にキャリア形成に関する意識調査（アンケート）を行った。結果として「私でも両立できると思えるようになった」「社会に関わる仕事をしたいと思うようになった」「自分の人生設計を真剣に考えなければならないと気づいた」などの意識の変容がみられた。	
③女子大生キャリア形成セミナー（試行的実施） ・平成25年12月20日（金）～21日（土）（1泊2日）NWECで実施。 ・4年制大学の女子学生を対象に、自己の能力を發揮しつつ社会に参画しながら築くキャリアについて学ぶセミナーを、試行的に実施。 ・参加者は10名と少なかったものの、開催時期や学生の興味とマッチした内容などプログラム開発上の知見が多く得られた。企業の役員等で構成される女性グループ「リーダーシップ111」と連携実施。	
実績を裏付けるデータ	
(1) 男女共同参画センターとの共同実施	
①参加者概況 第1回23名、第2回19名、第3回20名（実人数32名、延べ人数62名）	
④アンケート結果 満足度 第1回100%、第2回100%、第3回94.7%、プログラム全体の有用度 100%	
(2) 埼玉県私立短期大学協会との連携授業	
①参加者概況（国際学院埼玉短期大学、埼玉純真短期大学、埼玉女子短期大学、武蔵丘短期大学）	
②アンケート結果 満足度100%	

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
<p>適時性：NWECが開発・実施したプログラムを地域のセンターや大学等で活用するための支援を強化することは、NWECの事業成果を普及させるために必要である。また、地域のセンター等で職員数が少なくなっている中、プログラム実施のための助言や共催、講師斡旋は時宜を得た取組と言える。</p> <p>独創性：平成23～24年度にプログラム開発を行い主催事業として実施した「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」の成果が県のセンターにおいて活用され、来年度センター独自で実施する段階まで支援を継続したのはナショナルセンターとしての姿勢と実績を評価できる。</p> <p>発展性：埼玉県私立短期大学協会との連携授業実施で蓄積したノウハウと知見を活用して、新たに4年制大学の女子学生を対象としたキャリアセミナーを実施しており、プログラム開発の成果を着実に積み上げ、新たな事業展開に向けて計画的に活用していると言える。</p> <p>効率性：群馬県ぐんま男女共同参画センター、埼玉大学、埼玉県短期大学協会など、事業（授業）実施のニーズをもつ組織と連携することで、男女共同参画や女性のキャリアについての学習機会を幅広い対象に提供している。特に、大学との連携事業は若年層へのアプローチ方策として効率的である。また、埼玉大学との連携授業において図書のパッケージ貸出しを行っている点も評価できる。「次世代の女性リーダー育成」という事業理念に賛同した「リーダーシップ111」メンバーが講師として無料で参加するなど、ナショナルセンターならではの利点が活用されている。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点 判 定	男女共同参画センターとの共同実施	大学と連携した単位取得授業の実施			
	A (1事業)	A (2授業)			
<p>○年度計画に記載される「女性関連施設等との共同実施」を実施。（群馬県ぐんま男女共同参画センター）</p> <p>○年度計画に記載される「大学と連携した単位取得授業」を実施。（埼玉大学、埼玉県私立短期大学協会）</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	NWECがこれまで開発・実施した学習プログラムを活用し、女性関連施設や大学と連携した事業を着実に実施した。連携先からの評価が高いことの証として、平成26年度も継続して連携事業を実施したいとの依頼を受けている。また、埼玉大学や埼玉県私立短期大学協会と実施してきた事業を踏まえて4年制大学の女子大生を対象としたキャリア形成セミナーを試行するなど、積極的な事業展開を図っている。
達成	講師の斡旋についても、そのシステムを整え、稼働体制に入っている。

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>試行した「女子大生キャリア形成セミナー」には、東京大学、筑波大学、津田塾大学、中央大学、早稲田大学、白梅女子大学、桜美林大学から合計10名の参加を得、人数は少ないものの充実した研修ができたと言える。プログラムに対する知見も得られた。次回は、日程の設定、広報の方法など、集客に関する課題を越えて、30名程度の学生を集めて研修を実施したい。</p>

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(1))	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発 ・普及 (1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施
年度計画の項目 (I-2-(1)) ②)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発 ・普及 (1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施 ②男女共同参画の視点に立った若者のキャリア形成支援に関する調査研究

事業名	男女共同参画の視点に立った若者のキャリア形成支援に関する調査研究
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究員(2)、客員研究員 計3名

年度実績概要	<p>1. 趣旨 男女共同参画の視点に立った若者へのアプローチの方策を検討するため、女性関連施設等で大学・企業・団体等と連携して行われている若者対象の事業の現状と課題について調査研究を実施し、先進事例についての成果を提供する。</p> <p>2. 実施概要</p> <p>①女性学研究者、家族社会学/青年社会学研究者、男女共同参画センター職員、自治体男女共同参画課職員と会館研究員で構成した検討委員会を組織し、若者を対象としたキャリア形成支援に関する先行研究や取組事例について情報を収集し、検討した。</p> <p>②都道府県(47)、政令指定都市(20)、市(769)、特別区(23)の男女共同参画担当部局を対象に、男女共同参画社会の実現に資することを目的に概ね18歳以上35歳未満の若者を対象に行われているキャリア形成関連事業の取組や連携の状況について質問紙調査を実施した。</p> <p>③女性/男女共同参画センターや男女共同参画担当部局が、大学や関連部局、他の社会教育施設、企業等と連携して行っている好事例を質問紙調査等から抽出し、ヒアリング調査を実施した。</p> <p>④若者を対象に事業を行う機関や大学等、女性/男女共同参画センターや男女共同参画担当部局の連携先となりうる機関を対象に、キャリア形成支援事業や他機関との連携の現状・課題等についてヒアリング調査を実施した。</p> <p>⑤質問紙調査及びヒアリング調査の結果を踏まえ、女性/男女共同参画センターや自治体の男女共同参画担当部局の職員を主な読み手とする事業実施のための実践に役立つ手引書を作成した。</p> <p>3. 得られた知見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体の男女共同参画担当部局を対象としたアンケート調査では、若者を対象とした事業の実施状況は平成24年度について、都道府県(63.8%)、政令市(95.0%)、政令市以外の市(18.0%)であり、高くはない。</li> <li>・実施していない理由としては、若者について男女共同参画担当部局ではなく、「庁内の他部局が実施している」、また、特に小規模な自治体では「参加者・対象者の確保が難しい」という回答が多い。</li> <li>・行われている事業の対象者として想定されている若者およびその事業は、主に「学生」を対象としたキャリア形成講座やデートDV防止講座、「無業者」を対象とした居場所づくりや就労支援、「正規雇用者」を対象としたキャリア形成セミナーやグループ形成支援講座、「ひとり親」を対象とした就職準備やサポートグループ、「結婚希望者」を対象としたライフプラン作りや結婚活動支援セミナーなどである。</li> </ul> <p>4. 成果の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成したハンドブックを地域の自治体の男女共同参画担当部局や女性/男女共同参画センター等担当者が事業企画等で活用できる</li> <li>・成果をまとめた報告書を冊子体・会館HPで提供する。</li> <li>・相談員研修の企画に協力し、ヒアリング対象者を講師として推薦した。</li> <li>・平成26年度「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」において本調査研究に関する情報提供を行う予定。</li> </ul>
実績を裏付けるデータ	<p>1. 都道府県(47)、政令指定都市(20)、市(769)、特別区(23)の男女共同参画担当部局を対象に、アンケート調査を実施した(回収率85%)</p> <p>2. 若者支援に関わる団体、男女共同参画センター、自治体担当者等にヒアリング調査を17か所実施し、そのうち14事例をハンドブックで紹介した。</p> <p>3. 男女共同参画の視点に立った若者キャリア形成支援ハンドブックを作成し、公開した。</p>

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	
<p>適時性：第3次男女共同参画基本計画の中で重点事項とされている「第7分野 貧困など生活上の困難に直面する男女への支援」において「若年期の自立支援の充実」や男女の経済的自立およびそのための進路や就職に関する指導について取り上げられている。若者のキャリア形成支援は、中央教育審議会でも取り上げられている重要な課題であり適時性がある。</p> <p>独創性：NWECCがネットワークを持つ女性関連施設・地方公共団体を活用して、ニーズに応じた調査研究を企画・実施した。</p> <p>発展性：男女共同参画施策の対象は、女性のエンパワーメントを中心としたものから、男性や若者にも広がりがつある。特に、若い時期から男女共同参画意識を醸成することは、将来的な男女共同参画社会実現につながっていく発展性がある。</p> <p>自治体の男女共同参画担当部局や女性/男女共同参画センター等担当者が事業企画等で活用できるハンドブックを作成したため、今後、地域での活用による発展が見込まれる。</p> <p>効率性：NWECCが持つネットワークを活用することによって質問紙調査、インタビュー調査を効率的に実施することができた。</p> <p>また、館内検討委員として、情報課、事業課専門職員とも随時情報交換を行いながら調査研究を進めたことで、研修ニーズや情報ニーズに沿ったハンドブックを作成し、効率性が高まった。</p>					

## 2. 定量的評価

観点	学習プログラム・参考資料作成数				
判定	A				
<p>○「男女共同参画の視点に立った若者のキャリア形成支援ハンドブック」を作成し、平成26年度の事業で情報提供を行う予定である。</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	<p>予定していたアンケート調査およびヒアリング調査を実施し、その成果をハンドブックとしてまとめた。</p>
達成	

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>改善点としては、若者という新しいテーマについて、調査研究の実施と事例報告書の作成を1年間の調査研究事業として実施したため、スケジュールがかなりタイトになった。調査研究の実施と普及版資料の作成は年度を分けたほうが良い。</p> <p>研究の成果は平成26年度の研修事業等で情報提供・報告等行っていく。</p> <p>若者についての基礎的調査が必要と考えられるため、次年度計画で行うことを検討したい。</p>

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)①)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施 ①女性関連施設相談員研修

事業名	①女性関連施設相談員研修		
担当課室	事業課		
スタッフ	事業課長 (1)	専門職員 (1)	係員 (1) 計3名

年度実績概要	
<p>1. 趣旨 女性関連施設の相談員を対象に、複雑・多様化する女性の悩みに適切に対応できる相談員の育成と業務の質の向上を内容とする専門的・実践的な研修である。</p> <p>2. 実施概要 研修は、女性関連施設における相談業務の意義と役割の講義や、メンタルヘルス、法知識の講義の後、配偶者等からの暴力被害者への支援、外国籍女性への支援、女性に対するネット暴力など、テーマごとに分かれての分科会を実施した。今年度は、講義ばかりでなく、初日にグループ討議を盛り込んだり、分科会の時間を長くするなど、参加者どうしの情報共有やディスカッションを重視した。</p> <p>3. 開催日時(場所) 平成26年2月5日(水)～7日(金) 2泊3日 (NVEC)</p> <p>【評価指標】 ○研究内容の分析&lt;先駆的・参加型・実践的であったか&gt;：講義や事例報告では各分野において第一線で活躍する講師を招聘し、最新の情報と技術を提供した。分科会では講義に加えて討議やグループワークなどで体験的な学びを深め、研修後も参加者が研修の成果を実践・活用できるようにした。 ○研修対象者の厳選：内容が極めて専門的・実践的であるため、女性関連施設において女性の悩みに関する相談業務に携わっている相談員を研修対象者とした。 ○内容評価&lt;参加者の85%以上からプラス評価を得られたか&gt;：研修後の参加者アンケートでは、この研修については99.0%が「有用であった」、93.8%が「満足であった」と回答しており、「講義や分科会での成果を業務で早速活用したい」「全国の相談員との交流の機会は貴重だった」等の声が寄せられた。</p>	
実績を裏付けるデータ	
<p>1. 応募倍率：133.8% (定員80名 応募者107名) 【130.0% (定員80名 応募者104名)】</p> <p>2. 地域バランス： 北海道・東北10名 (9.9%) 関東24名 (23.8%) 甲信越7名 (6.9%) 北陸・東海24名 (23.8%) 近畿 7名 (6.9%) 中国・四国16名 (15.8%) 九州・沖縄13名 (12.9%) 【北海道・東北13名 (13.0%) 関東37名 (37.0%) 甲信越4名 (4.0%) 北陸・東海21名 (21.0%) 近畿 4名 (4.0%) 中国・四国12名 (12.0%) 九州・沖縄 9名 (9.0%)】</p> <p>3. 全体の満足度について： 93.8% (非常に満足 48.4% 満足 45.4%) 【95.6% (非常に満足 45.1% 満足 50.5%)】</p> <p>4. プログラムの有用度について： 99.0% (非常に有用 61.6% 有用 37.4%) 【100.0% (非常に有用 69.6% 有用 30.4%)】</p>	

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
<p>適時性：外国籍女性、若年女性の貧困などの社会的課題や、第3次男女共同参画基本計画第9分野「女性に対するあらゆる暴力の根絶」からの課題である配偶者からの暴力被害支援の他に、いわゆる「ネット暴力」などの現代的な課題も取り上げた。相談員自身のメンタルヘルスに係わる講義や体験も行い、相談員のエンパワーメントを総合的に支える研修プログラムは時宜を得た取組として評価できる。</p> <p>独創性：NVECの調査研究と機能を活用した情報提供や女性関連施設ならではの視点を入れ、男女共同参画社会実現に向けた相談業務の意義を考えられるようにするなど、独創性のある取組として評価できる。</p> <p>発展性：支援に役立つ法知識や、関係機関との連携の方策と重要性、相談業務における実際の対応を想定した事例検討、技能の向上と相談事業への反映が期待できる点など、発展性のある取組である。</p> <p>効率性：講師の選定や分科会の運営にあたっては、平成23年度までの内閣委託事業実施企画委員の方々から協力とアドバイスを得るなど、人的資源を十分に活用した。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点 判 定	応募倍率	プログラムの有用度			
	A	A			
<p>○応募倍率：133.8%</p> <p>○プログラムの有用度：99.0%</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	地域での男女共同参画を推進し、女性のエンパワーメント支援を目指し、複雑・多様化する女性の悩みに対応可能な相談業務の質の向上を図ることができた。相談技術そのものの向上の他、法律の改正に伴うポイントやNVECの調査研究や機能の紹介など、相談業務に役立つ最新の情報を提供したことで、今後新たな相談事業の展開と相談者に対するエンパワーメントに向けての社会資源活用のきっかけを提供することができた。全国各地からの参加となったことで、幅広い地域間での情報共有やネットワークづくりのきっかけを提供できた。以上から本プログラムは適切なものであり、ねらいを十分に達成できたと考えられる。
達成	

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>定員は80名であったが、募集期間半ばで参加希望者が100名を超えたため、募集を締め切る状況となった。相談技術の向上、最新情報の提供、参加者同士の情報交換・ネットワーク作りなど、参加者が本研修に求めるニーズは幅広である。また新しい課題に対応するためにも相談員に対する研修の必要性和需要は今後さらに高まっていくと考えられるが、近年地方自治体においても独自の研修を行うなどの動きも見られる。学習効果を高めるために今後は研修内容のテーマを絞る、趣旨及び内容を地方自治体等で実施されるものと棲み分けて設定する、などの検討も必要である。</p>

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)②)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施 ②行政や関係機関と連携した喫緊の課題に対応した研修

事業名	女子中高生夏の学校2013～科学・技術者のたまごたちへ～		
担当課室	事業課		
スタッフ	事業課長 (1)	専門職員 (1)	係員 (1) 計3名

年度実績概要
<p>1. 趣旨</p> <p>女子中高生及び身近な支援者である保護者・教員に科学技術の楽しさと多様な分野で活躍する女性たちの姿に触れる機会を提供し、理系進路選択の魅力を伝える。</p> <p>2. 実施概要</p> <p>女子中高生プログラムでは、理系分野で活躍している先輩からのキャリア講演、職場訪問や、実験・実習、各学会・企業等によるポスター展示・キャリア相談、留学生との国際交流などが行われた。また、学生企画として、理系の女性の人生を疑似体験する才媛双六やクイズ形式で理系分野を学ぶサイエンスバトル!などが行われた。</p> <p>保護者・教員プログラムでは、学会、大学、企業等の科学・技術者との座談会を開催し、活発な話し合いが行われた。</p> <p>3. 開催日時(場所)</p> <p>平成25年8月8日(木)～10日(土) NVEC</p> <p>【評価指標】</p> <p>○研修内容の分析&lt;先駆的・参加型・実践的であったか&gt;</p> <p>女子中高生向けプログラムでは、理系の職場(資生堂、NTTドコモ)で活躍する女性によるキャリア講演、インターネットを活用し、女性科学・技術者が理系の生の現場を紹介する職場探訪(鉄道総合技術研究所、JR東日本研究開発センター、ジェイアール東海コンサルタンツ)を行った。また、12の実験・実習の中から参加者の興味関心に応じて選択するプログラムを行った。さらに34の学会、企業等のブース展示を回り、最先端の科学技術に触れるなど、理系への進路について相談する場や、外国人留学生と交流する場を設定した。そして、クイズに答えながら理系の道を疑似体験する「才媛双六」や各グループごとにオリジナル「才媛双六」の作成をはじめ、学生の企画によるプログラムも取り入れた。閉校式では参加者全員をサイエンスアンバサダーに任命し、学んだことを学校や地域に戻って広める活動を促した。</p> <p>この事業は、単に講演を聴いたり、実験・実習をするだけでなく、女子中高生と学生TA(ティーチングアシスタント)、研究者・技術者とのキャリア相談や、天体観望会など、夜遅くまで交流を図ることができ、宿泊施設を活用した2泊3日ならではのプログラムとなっている。また、2泊3日のプログラムで終わるのでなく、メンターによる参加者への相談活動によるフォローアップや、参加者が学校、地域に帰って夏学の体験を伝えるアンバサダー活動を実施することにより、参加者以外にも理系進路選択の意義を共有することを図ることができる。宿泊形式、理系の社会人女性による講演や座談会、実験プログラムなど、NVECのプログラムは多くの機関の先進的事例となっており、今後も内容を進化させて、継続して実施する。</p> <p>○研修対象者の厳選</p> <p>女子中高生の定員100名に対して222名の応募があった。全員研修の場所である大会議室の座席数と研修当日までのキャンセルを見越し、参加決定者を140名とした。参加決定については、抽選を原則とするが、学年、地域バランスを考慮した。また、同じ学校からの参加は3名までとし、できるだけ全国から広範囲の参加となるように「参加者のすそ野」を広げる配慮をした。</p> <p>○内容評価&lt;参加者の85%以上からプラス評価を得られたか&gt;</p> <p>キャリア講演、インターネットを活用した職場探訪、実験・実習やポスター展示、キャリア相談への参加、学生企画など、2泊3日の合宿プログラムを実施した。期間中は学生TAが各グループを支援した。参加者の満足度は、女子中高生98.2%(非常に満足84.8% 満足13.4%)、保護者100.0%(非常に満足81.8% 満足18.2%)、教員100.0%(非常に満足53.3% 満足46.7%)である。プログラムの有用度は、女子中高生94.2%(非常に有用54.4% 有用39.8%)、保護者93.9%(非常に有用48.9% 有用45.0%)、教員82.3%(非常に有用25.1% 有用57.2%)という評価であった。</p>

○影響評価<回答者の80%以上からプラス評価を得られたか>

本事業の成果が、参加者にとって実際の進路選択決定にどのような影響を与えているのか、現在高校3年生となっている過去の参加者を対象に、その進路先についてアンケート調査を実施している。本年度については、現在調査期間中である。平成24年度の調査では、回答者の69.0%が進路決定にあたり本事業が影響した、と回答している。また、進路先の学系統は、回答者の79.3%が理系である。

○フォローアップ調査回収率向上のための取組

2泊3日の合宿研修の成果が実際の学校生活等に役立てられているか等についてのフォローアップ・アンケートを合宿研修実施6ヶ月後に行った。調査期間は2月10日から3月10日までとした。回答の未提出者もいることから、対象者には個別に電話連絡等を行い、回収率の向上を図る。

○フォローアップ調査結果の研修プログラムへの反映

フォローアップ調査の結果については、企画委員に提示し、企画委員会の際にプログラム検討の材料としている。

実績を裏付けるデータ

1. 参加者の概況

- ・参加者定員 女子中高生100名【100名】 保護者・教員50名【50名】
- ・応募者数 女子中高生222名【200名】 保護者・教員40名【30名】
- ・応募倍率 女子中高生222.0%【200.0%】 保護者・教員80.0%【60.0%】
- ・参加者内訳 中学3年生48名、高校1年生43名、高校2年生33名、高校3年生5名、保護者22名、教員18名【中学3年生39名、高校1年生43名、高校2年生31名、高校3年生5名、保護者16名、教員14名】
- ・参加者の地域バランス 北海道・東北19名(11.2%)【22名(14.9%)】  
関東61名(36.1%)【51名(34.5%)】 甲信越18名(10.7%)【8名(5.4%)】  
北陸・東海19名(11.2%)【15名(10.1%)】  
近畿13名(7.7%)【19名(12.8%)】 中国・四国16名(9.5%)【11名(7.4%)】  
九州・沖縄23名(13.6%)【22名(14.9%)】

2. アンケート結果

- ・全体の満足度  
中高生 98.2%(非常に満足84.8% 満足13.4%)【98.2%(非常に満足79.1% 満足19.1%)】  
保護者 100.0%(非常に満足81.8% 満足18.2%)【100.0%(非常に満足80.0% 満足20.0%)】  
教員 100.0%(非常に満足53.3% 満足46.7%)【91.7%(非常に満足33.4% 満足58.3%)】
- ・プログラムの有用度  
中高生 94.2%(非常に有用54.4% 有用39.8%)【91.5%(非常に有用55.2% 有用36.3%)】  
保護者 93.9%(非常に有用48.9% 有用45.0%)【93.3%(非常に有用46.9% 有用46.4%)】  
教員 82.3%(非常に有用25.1% 有用57.2%)【85.5%(非常に有用27.6% 有用57.9%)】

3. 主な意見・感想等

- ・「理系」と言われてもはじめ何だろうって感じからスタートして、夏学に参加し、少し理解できた。
- ・たくさんの理系女子の方々と触れ合うことや、学校に普通に通っていたら、絶対出来ない経験が出来て、本当に楽しかった。機会があれば、TAとして戻ってきたい。
- ・今回参加したことにより自分の視野がまだまだ狭かったことを感じ、理系の世界の広さと面白さを知ることができた。
- ・進路選択に迷っていたが、夏学に参加して決めることができた。また、理系女子の社会での魅力についても知ることができた。
- ・理系の仕事をしようかどうしようかと悩んでいて、難しいから止めようと思ったけど、もう一度考えてみようと思った。
- ・文系に意志が傾いていたが、チャレンジも悪くないと思うことができた。

## 自己点検評価調査

## 1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性
判定	A	A	A	A
<p><b>適時性：</b>第3次男女共同参画基本計画第12分野の「科学技術・学術分野における男女共同参画の推進」に資するため、女子中高生の理系進路選択への支援となるよう、キャリア講演、インターネットを活用した職場探訪、実験・実習やポスター展示・キャリア相談、国際交流、学生企画など充実したプログラムを実施、提供している。</p> <p><b>独創性：</b>各プログラムを通じて、全国からの参加者がロールモデルとなる女性科学・技術者や女子大学生・大学院生と交流することにより、理系の女性によるネットワーク形成の機会を提供した。また、今回の「夏の学校」関係者による本研修独自のロールモデル集を作成、配付の予定である。</p> <p><b>発展性：</b>参加者アンケートにおける「大学生になりTAとして戻ってきたい」という感想が示すとおり、参加者である女子中高生が理系の大学に進み学生TAとなり、その経験を基に学生企画委員として関わり、さらに女性科学・技術者や教員等になって企画委員として企画、運営に参画していく、といった活動キャリアを上げていくつながりが生まれており、今後もそれが期待できる。また、宿泊形式、理系の社会人女性による講演や座談会、実験・実習などのプログラムは、他大学等の理系進路選択支援事業にも見られ、NVECのプログラムの広がりが見られる。</p> <p><b>効率性：</b>独立行政法人科学技術振興機構の委託事業として実施した。また、日本学術会議「科学と社会委員会 科学力増進分科会」「科学者委員会 男女共同参画分科会」の共催、男女共同参画学協会連絡会の協力、29の学会・団体の協賛等により実施した。企画委員や当日スタッフを含めた実行委員は、223人にのぼり、ボランティアとして運営面での協力を得ることにより効率的な運営をしている。</p>				

## 2. 定量的評価

観点	応募倍率	プログラムの有用度		
判定	A	A		
<p>○応募倍率：女子中高生222% 保護者・教員80%</p> <p>○プログラムの有用度：女子中高生94.2% 保護者93.9% 教員82.3%</p>				

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	平成17年度以来、9回目の開催となるが、企画委員をはじめとする人的な部分も含め、過去の研修成果とともに、これまでの継続によるノウハウの積み上げを生かした充実した内容となった。すでに理系を目指すことを決めている女子中高生だけでなく、進路を理系にするか文系にするか迷っている女子中高生にも、実験・実習や学生企画などを通じて理系の進路選択の魅力を伝えられる内容とした結果、そうした参加者からも有用度において高い評価を得ている。また、前回に引き続き関係者によるロールモデル集を作成、配付の予定だが、前回の33名を上回る44名の執筆者によるものとなり、参加者である女子中高生が理系の大学に進み学生TAとなり、その経験を基に学生企画委員として関わり、さらに女性科学・技術者や教員等になって企画委員として企画、運営に参画していく、といった活動キャリアを上げていくつながりを充実させるものとなっている。
順調	

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>○初日のプログラムについて、講演等の座学が続くため、周囲との意見交換などを取り入れるなど、工夫が必要である。</p> <p>○キャリア講演の講師については、引き続き女子中高生にとって知名度のある企業に勤務する方をお願いするが、研究系と技術系の2分野から話してもらおうようにする。</p> <p>○職場探訪について、3か所をスカイプで結んだため、1か所あたりの時間を十分に取ることができなかった。また、機器の接続等にも苦慮したため、より簡素な方法を採用する必要がある。</p> <p>○国際交流の時間にゆとりを持たせるとともに、さらに内容を充実させる必要がある。</p> <p>○保護者や教員のプログラムについて、初日など早い時期にお互いが知り合えるような内容のプログラムを設定するなどの工夫や、内容の充実が必要である。</p> <p>○合宿プログラム終了後のアンバサダー活動、メンター活動を充実させる。</p> <p>○参加者である女子中高生が学生TAや学生企画委員となり、さらに企画委員となるような活動キャリアを上げていくための交流をさらに充実させる。</p> <p>○各理工系分野から、将来どのようなキャリアに就くことができるのかを系統的にまとめたキャリア系統図の作成については、幅広く情報提供できるよう、継続して検討していく。</p> <p>○男女共同参画学協会連絡会をはじめ、各学会との連携をさらに強化する。</p> <p>○参加者募集に関して、より多くの人に広報が行き届くよう、その方法を工夫する。</p>

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(1))	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供
年度計画の項目 (I-3-(1)) ①	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供 ①男女共同参画統計に関する調査研究

事業名	男女共同参画統計に関する調査研究
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長(1) 情報課専門職員(1) 計2名

年度実績概要
<p>1. 趣旨</p> <p>地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供のために、5年計画で男女共同参画統計に関する調査研究を実施している。</p> <p>本年度は「男女共同参画統計データブック2012」を活用し成果の提供に努めるとともに、ミニ統計集「日本の女性と男性」(2014年)を作成する。また「男女共同参画ニュースレター」を年3回配信する。</p> <p>2. 実施概要</p> <p>1) 「統計リーフレット」の作成</p> <p>「男女共同参画統計データブック 2012」で収集した最新データをもとにミニ統計集「日本の女性と男性」のデータを更新して統計リーフレット(A4版三つ折り、日本語版・英語版)を作成した。</p> <p>2) 「男女共同参画の視点に立った若者のキャリア形成支援に関する調査研究」において、データブックを活用して「統計にみる男女共同参画と若者」を作成した。</p> <p>3) 「男女共同参画統計ニュースレター」の作成</p> <p>男女共同参画に関する国内外の動き、自治体の取組、データ解説などを紹介する「男女共同参画統計ニュースレター」を年3回作成し配信した。</p> <p>3. 調査研究の活用</p> <p>NWECの主催事業で男女共同参画統計データを活用講義やワークショップを実施すると共に男女共同参画センターや国際機関等で企画されている研修事業等で講義やワークショップを実施した。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「統計リーフレット」の刊行</li> <li>○男女共同参画統計を理解するための研修資料の対象別作成実績(該当があれば)</li> <li>○「男女共同参画統計ニュースレター」の配信先拡充(年度目標は1,700件)</li> <li>○研修資料等作成の視点(利用者のニーズに沿ったものか)</li> </ul> <p>この指摘は調査研究成果の普及に対するもの</p>
実績を裏付けるデータ
<p>1. 男女共同参画統計ニュースレター配信数</p> <p>女性関連施設、大学研究所・学会、研究者等 第14号 1,696件</p> <p>2. 男女共同参画統計データを活用した講義、ワークショップ等</p> <p>(1) 主催事業：男女共同参画推進フォーラム、埼玉私立短期大学協会との連携事業、企業を成長に導く女性活躍推進セミナー 女子大生キャリアセミナー</p> <p>(2) その他：国立教育政策研究所(社会教育主事講習)、大田区立男女平等推進センター(女性リーダー養成講座)、神奈川県生涯学習指導者研修、東京自治研究センター指導者研修、JICA(カンボジア国ジェンダー主流化本邦研修)、熊本県男女共同参画地域リーダー研修、北九州市女性リーダー国内研修、埼玉県越谷市枚方中学校校内研修、埼玉県若宮中・入西小・大家小合同研修、長野県男女共同参画センター(県内市町村職員研修)、かながわ女性センター(湖南・江ノ島みらいセミナー)、連合埼玉ユースラリー(組合員対象事業)、企業研修(アルビオン女性活躍推進講座)</p> <p>学会報告(経済統計学会)</p>

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
<p>適時性：男女共同参画政策を推進する上で男女共同参画の現状をデータで示すことは重要であり、第3次男女共同参画基本計画の第2分野の男女別統計（ジェンダー統計）の充実に対応するものである。また統計ニュースレターは国連のジェンダー統計をはじめ、国内外の男女共同参画に関わる最新の情報を発信しており、時宜にかなったものである。</p> <p>独創性：男女共同参画統計に関する調査研究はデータを収集してデータブックやリーフレットを作成するだけでなく、統計ニュースレターの刊行やNWECの主催事業や各地で実施されている研修事業の講義やワークショップにデータを活用するなど、総合的に事業を展開している。</p> <p>発展性：「男女共同参画データブック」「統計ニュースレター」の活用によって自治体、女性関連施設の事業展開や女性団体の活動の充実に寄与すると考えられる。今年度は「統計ニュースレター」にNWECと協定を結んでいるKWDI（韓国女性政策研究院）研究員の「韓国のジェンダー統計」記事を掲載し、海外の情報を発信することができた。</p> <p>効率性：統計リーフレットはHPからダウンロード可能な形で提供している。「統計ニュースレター」は研修事業の参加者に情報提供しメールで配信するなど効率的に情報を提供している。ニュースレターの編集委員会はメーリングリストを活用した会議によって効率的に実施した。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点	男女共同参画統計 ニュースレター配 信先				
判 定	A				
<p>○「男女共同参画統計ニュースレター」は、会館講師、委員等への新規配信先を増やした（1,696件（前年度1,601件））。</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	<p>ニュースレターの配信は目標値に少し届かなかったが、統計リーフレットの作成、ニュースレターの配信など中期計画を着実に実施した。また、データブックを活用した講義やワークショップについては、小中高の教員、企業関係者、女子大学生など対象を広げ、男女共同参画統計データの普及に努めた。</p>
達成	

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>ニュースレターの配信については年度途中で配信数を確認し、配信先を見直す。今年度は対象を広げる中で、ニーズにあったデータの提供に努めた。この経験を来年度予定しているデータブックに反映させたい。</p>

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(1))	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供
年度計画の項目 (I-3-(1)) ②	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供 ②調査研究成果の普及

事業名	調査研究成果の普及
担当課室	研究国際室、情報課
スタッフ	研究国際室長(1)、研究員(2)、情報課専門職員(2) 計5名

年度実績概要
<p>1. 報告書、冊子等の作成</p> <p>(1) 女性関連施設の情報事業に関する調査報告・事例集 (1,000部印刷、主として女性/男女共同参画センター等に配布) (平成25年度女性関連施設に関する調査研究)</p> <p>(2) ミニ統計集 日本の女性と男性2014 (日本語版 2,000部、主として情報提供及び主催事業等で配布, 英語版 500部印刷) (平成25年度男女共同参画統計に関する調査研究)</p> <p>(3) 男女共同参画と国際化 地域で暮らす外国人女性 (リーフレットデータの更新500部印刷、平成26年度「男女共同参画推進フォーラム」等で配布予定) (平成25年度外国人女性の困難等への支援に関する調査研究)</p> <p>(4) 参考資料 (900部印刷、主として全国自治体等に配布) (平成25年度外国人女性の困難等への支援に関する調査研究)</p> <p>(5) 男女共同参画の視点に立った若者のキャリア形成支援ハンドブック (1,000部印刷、主として主催事業、女性/男女共同参画センター等に配布) (平成25年度男女共同参画の視点に立った若者キャリア形成支援に関する調査研究)</p> <p>(6) 移民科研報告書 (50部印刷、主として研究分担者、委員等に配付) (科学研究費補助金・基盤研究B : 地域の男女共同参画の取組を核とした移民女性のエンパワメントと支援に関する研究)</p> <p>(7) 移民科研報告書抜粋 (700部印刷、主として全国自治体等へ配布) (科学研究費補助金・基盤研究B : 地域の男女共同参画の取組を核とした移民女性のエンパワメントと支援に関する研究)</p> <p>2. ホームページへの掲載</p> <p>(1) 平成24年度に開設した、男性を対象とした男女共同参画の推進を目的とした学習プログラムの企画・実施のための情報サイト「男女共同参画と男性」は、引き続き、男性の家庭・地域への参画促進における成果を普及・発展させる情報を提供した。</p> <p>(2) 報告書、ミニ統計集等については、ダウンロードできる形でNVECホームページに掲載した。</p> <p>3. 国立女性教育会館リポジトリへの掲載 「NVEC実践研究」第4号を論文単位で掲載した。</p> <p>4. NVECが実施する事業における普及</p> <p>(1) 大学等における男女共同参画に関する調査研究 ① 大学等における男女共同参画推進セミナー報告(有用度96.9%)</p> <p>(2) 外国人女性の困難等への支援に関する調査研究 ① 「男女共同参画と多文化共生ワークショップ」(有用度、96.9%)</p>

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
<p>適時性：大学等の研究機関における女性研究者支援の促進、男女共同参画の視点に立った若者のキャリア形成支援、男女共同参画関連情報の収集・発信等、「第3次男女共同参画基本計画」の各重要分野に焦点をあて調査研究を実施・情報発信をしたことは、政策的にも適宜にかなったものであるといえる。</p> <p>独創性：調査研究にて実施したアンケート調査のすべてにおいて、高い回答率を得た。また、NWECの主催事業にて調査報告を行うとともに、館外においても、講演等で報告をし高い評価を得たことは、来年度以降の調査研究においても役立つものであるといえる。</p> <p>発展性：報告書・ガイドブック等の作成及びホームページへの掲載、「男女共同参画と男性」情報サイトの運営・保守など、調査研究成果の普及は、今後の女性関連施設の事業展開等において役立つものであると評価できる。</p> <p>効率性：アンケート調査票及び報告書は、複数の調査研究経費を合わせて送付することにより、効率的かつ経費の削減をはかった。さらに、調査研究の実施、プログラム開発にあたっては、外部人材を活用して効率的かつ専門的に進め、経済的・時間的効率の向上を図った。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点 判 定	調査結果の普及媒体数				
	A				
<p>すべての調査研究において、事業計画通りに報告書及びハンドブック等を作成。都道府県、自治体における若者のキャリア形成支援に関するあり方等を検討するために行ったアンケート結果をまとめた報告書、科学研究費補助金事業においては3年間の研究成果をまとめた報告書や事例集を作成し、女性/男女共同参画センター、都道府県の男女共同参画担当課長等に送付するとともに、NWECホームページにダウンロードできる形で掲載をするなど、広く調査研究の成果を普及することに尽力した。</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	各調査研究は、報告書・教材の作成、Webサイトの運営・保守など計画通りに実施されている。
達成	科学研究費補助金事業では、当初の予定に加えて、外国人相談・支援担当者を対象とした「検討セミナー」、自治体及び女性/男女共同参画センター職員を対象とした「多文化共生ワークショップ」を実施するなど、プログラムの一層の充実にもつながっており、男女共同参画の普及に努めた。

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
来年度以降もナショナルセンターとして、今後も引き続き女性/男女共同参画センターや自治体等と連携して調査研究及び事業、報告並びに講義等を行い調査研究成果の普及に努めるとともに、「男女共同参画と男性」情報サイトを随時更新し、女性関連施設等が活用しやすい情報の収集・共有・発信にも努める。

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(2))	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供
年度計画の項目 (I-3-(2)) ①	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供 ①男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する情報資料の収集・整理・提供

事業名	男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する情報資料の収集・整理・提供
担当課室	情報課
スタッフ	情報課長 (1) 専門職員 (3) 情報係長 (1) 係員 (3) 計8名

年度実績概要	
<p>1. 趣旨</p> <p>男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として、広域的、専門的な資料・情報を収集し、多様な手段で広く一般に提供することにより、男女共同参画社会の推進を図る。</p> <p>2. 実施概要</p> <p>男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として、地域レベルでは収集困難な広域的、専門的な資料・情報の収集を図った。更に、収集した資料を個人向け及び団体向けに館外貸出した他、レファレンス・サービス、文献複写サービス、情報研修プログラムの実施等により広く利用に供し、男女共同参画のための情報提供を行った。</p> <p>3. 成果</p> <p>【収集資料】</p> <p>「収集資料統計」を参照。平成25年度は、特に企業や大学の男女共同参画担当部署が発行する資料の収集を継続して行い、2社（帝人株式会社、栗田アルミ工業株式会社）より社内で刊行する定期刊行物等を、10大学（新潟大学、富山大学、東京大学、名古屋市立大学、奈良県立医科大学、京都工芸繊維大学、香川大学、高知大学、福岡女子大学、琉球大学）より新たに男女共同参画に関するニューズレター等を受贈し、女性教育情報センターに備え付け広く一般の利用に供した。</p> <p>【利用状況】</p> <p>「利用状況統計」を参照。特に、パッケージ貸出サービスは、平成25年度に高校図書館への貸出を開始し、より若年層への男女共同参画のための情報や知識の提供を実現した。更に、十文字中学・高等学校と連携し、学生によるNVEC図書選書ツアー・プログラムを実施した。その結果、生徒9名による女性教育情報センター所蔵図書30冊の選書を行い、十文字中学・高等学校へ貸出した。</p> <p>【学習支援】</p> <p>図書資料の展示を年に4回行った。主催事業と連動した展示である「企業における女性の活躍促進」や「女性と音楽」「なくそう子どもへの虐待」等を実施すると同時に、資料リストを女性情報ポータルWinet上で公開し、男女共同参画の推進のための学習・教育を支援した。</p> <p>更に、埼玉大学教育機構との連携授業「男女共同参画社会を考える」や、埼玉県私立短期大学協会との連携事業「平成25年度女子学生のためのキャリア形成講座」を実施し、その中で、統計を用いた講義、女性教育情報センターを利用した情報検索の実習等を担当したことにより、レポート作成のための資料情報の収集選択スキルアップの支援を行った。</p>	
実績を裏付けるデータ	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収集資料統計（平成26年3月31日）</li> <li>・ 利用状況統計（平成26年3月31日）</li> </ul>	

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	

適時性：図書資料の展示を主催事業と連動して実施したことは、時宜に合わせた事業として評価できる。

独創性：「新聞切り抜き」は、NVEC設立当初から全国・地方紙（50紙）より女性関連記事を収集し、更にタイトル等を独自にデータベース化して公開しており、専門性に優れたコレクション構築として高く評価できる。

発展性：高校図書館へ図書パッケージ貸出サービスを開始したことは、より若年層へ男女共同参画の知識・情報を提供し、男女共同参画社会を幅広い年代で推進するという発展性が評価できる。

効率性：大学の男女共同参画担当部署が発行する資料の収集・展示は、各自治体の男女共同参画部署が発行する資料の収集・展示とあわせて、特定の地域や機関で網羅できない資料をナショナルセンターとして集中的に収集しており、効率性が評価できる。

## 2. 定量的評価

観 点 判 定	資料・情報の収集数				
	A				

図書、雑誌、新聞切り抜き等を、女性教育情報センターの備付け資料として引き続き収集し、特に新聞切り抜き数が19,478件（平成24年度）から22,225件（平成25年度）と大幅に増加していることは、定量的に評価できる。

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	地域レベルでは収集困難な広域的・専門的な国内外の資料・情報の収集、提供に着実に取り組んでいる。
達成	また、大学との連携授業や講習会の開催は、女性教育情報センターの専門性を活かした学習支援として今後の発展ができる取組である。

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習支援の充実として、大学との連携授業や学習支援の経験を基に、専門図書館としての豊富な資料や電子データの活用法を積極的に広報する。</li> <li>○遠隔利用者サービスの工夫を引き続き検討する。</li> </ul>

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(2))	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供
年度計画の項目 (I-3-(2)) ②	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供 ②女性情報ポータル及びデータベースの整備充実

事業名	女性情報ポータル及びデータベースの整備充実
担当課室	情報課
スタッフ	専門職員 (3) 係長 (1) 係員 (3) 計7名

年度実績概要
<p>1. 趣旨</p> <p>「女性情報ポータル“Winet”(Women's information network, ウィネット)」は、女性の現状と課題を伝え、女性の地位向上と男女共同参画社会の形成を目指した情報の総合窓口である。</p> <p>次の3要素で構成され、日々、データやコンテンツを継続的に整備充実することにより、政策担当者、研究・学習者、団体・グループ関係者、メディア関係者等ユーザーのニーズに、迅速・的確に応えるアクセス手段を提供している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性情報ナビゲーション（リンク集。インターネット上の有用な資源への道案内）</li> <li>・NWEC作成のデータベース</li> <li>・女性情報CASS（NWEC作成のデータベース、及び他の関連機関のデータベースの横断検索）</li> </ul> <p>2. 実施概要</p> <p>女性情報ポータル“Winet”の組織的なデータ更新、充実を図るとともに、利便性の高いポータルサイトを目指す。今年度もトピックス・ピックアップコンテンツの随時更新を行い、情報更新の一層の見える化、情報発信力の拡充を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○データベース化件数：601,634件（28,240件増）</li> <li>○アクセス件数：367,306件（81,832件増）</li> </ul> <p>3. 成果</p> <p>第三期中期計画期間中の目標値である、アクセス件数30万件、データベース化件数60万件を達成した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「女性情報ナビゲーション」 リンク1,065件（追加25件、修正40件、削除1件）</li> <li>(2) 「文献情報データベース」 総件数540,842件（26,357増） 新規に受け入れた図書、雑誌、地方行政資料、和雑誌記事、新聞記事等のデータを登録した。</li> <li>(3) 「新着資料お知らせ（アラート）サービス」（平成20年3月サービス開始）登録者126件（5件増）</li> <li>(4) 「女性情報レファレンス事例集」累計264事例（16事例増）</li> <li>(5) 「女性関連施設データベース」のデータ登録・更新を、Webシステムを活用して、全国の各施設職員が直接行った。登録数 施設概要623件（内、Web登録の施設は187館）、実施事業（情報・相談以外）30,267件（内、平成24年度開催の事業は344件）、情報事業372件、相談事業318件。</li> <li>(6) 「女性と男性に関する統計データベース」は更新された統計について、最新の数値を反映した。また『男女共同参画統計ニュースレター』（男女共同参画の推進に向けた統計の活用に関する調査研究により作成）のバックナンバーと英語目次をホームページに掲載した。</li> </ol>
実績を裏付けるデータ
参考資料参照

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
<p>適時性：女性情報ポータルトップ画面において、トピックス、ピックアップコンテンツを随時更新し、情報更新の一層の見える化、情報発信力の拡充を図り、情報提供の適時性を高めている。</p> <p>独創性：「文献情報データベース」において、女性情報ソースに基づく件名の付与等により、文献情報の詳細な検索が可能となっていることは、独自性、高度専門性として評価できる。</p> <p>発展性：「男女共同参画人材情報データベース」「女性関連施設データベース」の提供は、他機関の研修事業における講師や研修プログラムの参考とされ地方の男女共同参画事業の推進に役立つものである。</p> <p>効率性：「女性情報レファレンス事例集」は、全国の女性関連施設の情報専門職をサポートメンバーに作成しており、他機関と連携して効率化を図っている。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点 判 定	データベース化件数	アクセス件数			
	A	A			
<p>○データベース化件数：601,634件（28,240件増）</p> <p>○アクセス件数：367,306件（81,832件増）</p> <p>○大学等における男女共同参画推進セミナー「大学等における男女共同参画関連情報」：有用度83.0%（非常に有用36.6%、有用46.4%）</p> <p>○女性関連施設相談員研修「相談事業に役立つ国立女性教育会館の情報機能」：有用度83.9%（非常に有用16.1%、有用67.7%）</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	平成25年度のアクセス件数は、中期計画期間中の目標30万件を上回り、情報更新の一層の見える化、情報発信力の拡充を図った成果が出ている。データベース化件数も601,634件と順調に推移している。
達成	

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
引き続きコンテンツの整備充実に努め、電子計算機システム更新に合わせ、一層ユーザー・フレンドリーなポータルとすること、また利用者が検索エンジンでキーワード検索した際に上位に表示させる等、情報へのアクセスを一層高める工夫を行う。

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(2))	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供
年度計画の項目 (I-3-(2)) ③	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供 ③資料・情報の館外への貸し出し

事業名	男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する情報資料の収集・整理と館外貸出
担当課室	情報課
スタッフ	専門職員(1)係長(1)係員(3)計5名

年度実績概要
<p>1. 趣旨</p> <p>各施設における男女共同参画を推進するため、テーマ毎にパッケージ化した図書の館外への貸し出しを実施する。合わせて、高校生、大学生を対象として女性教育情報センターにて選書ツアーを実施し、学生が直接選書した図書を団体向けに貸出する。</p> <p>2. 実施概要</p> <p>平成22年6月よりサービスを開始した図書のパッケージ貸出サービスは、大学、女性関連施設、公共図書館等の機関を対象に、NVEC女性教育情報センターの蔵書から「男女共同参画」や「女性のライフプラン」「家族問題」など、男女共同参画社会の形成を目指した女性・家族・家庭に関する様々なテーマに合致する図書を、30冊から100冊程度のパッケージにまとめ、3ヶ月から1年程度、申込機関に貸し出すサービスである。平成25年度から、より若年層への男女共同参画の知識・情報の普及を目指して、新たに高校図書館を対象として貸出を開始した。</p> <p>3. 成果</p> <p>平成25年度までの累計利用機関数は47機関であり、第3期中期目標期間数値目標(20機関以上)を達成した。平成25年度は31機関の利用があり、72回、7,789冊と、貸出機関、貸出回数とも昨年度(24機関、64回、6,506冊)より増加した。特に、平成25年度は高校図書館への貸出を開始し、大学生や社会人のみならず、より若年層への男女共同参画のための情報や知識の提供を実現した。平成25年度に貸出を実施した高校図書館は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・十文字中学・高等学校(平成25年9月～平成26年2月)80冊</li> <li>・埼玉県立春日部女子高等学校(平成25年10月～12月)50冊</li> <li>・秋田県立湯沢翔北高等学校(平成26年1月～3月)50冊</li> </ul> <p>また、平成24年度の九州大学附属図書館に続き、香川大学図書館と金沢大学附属図書館では、図書が利用者の手に取られた回数や、書棚から離れている時間を計測するシステムの実証実験を行い、学生(若年層)の利用者ニーズの把握に努めた。</p> <p>更に、十文字中学・高等学校と連携し、生徒によるNVEC図書選書ツアー・プログラムを実施した。十文字中学・高等学校の生徒9名と職員1名が女性教育情報センターに来館し、情報課専門職員による資料検索のレクチャーを行った後、興味のあるテーマの図書を検索した。その後、図書のタイトルを見ながら書棚の間を巡ることで、新入生に手に取ってほしい図書候補30冊を選書し、パッケージ図書として十文字中学・高等学校へ貸出した。図書には、生徒が推薦コメントを作成し、十文字中学・高等学校図書館で展示・貸出した。</p>
実績を裏付けるデータ
サービス開始からの利用機関・貸出件数・貸出冊数 利用機関(新規・継続)

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	

適時性：学習支援、事業支援として様々なテーマの図書をパッケージ化して機関に貸し出すサービスは、遠隔地であっても多くの利用者が女性教育情報センターの図書を利用することができ、男女共同参画の推進のための学習を支援するナショナルセンターとして、高く評価できる。

独創性：専門図書館である女性教育情報センターの蔵書構成を活かして、機関・目的・対象別に男女共同参画社会形成のための知識と情報を提供する「図書のパッケージ貸出サービス」は高度に専門的であり、評価できる。

発展性：大学図書館、高校図書館、女性関連施設、企業、市立図書館と、館種を超えた図書館へ貸し出すことにより、連携ネットワークへ発展する可能性があり、高く評価できる。さらに、図書選書ツアー・プログラムは高校の授業との連携や、高校図書館の利用への結びつけ等今後の幅広い連携につながる可能性があり評価できる。

効率性：図書パッケージ貸出サービスにおいて、利用者動向調査のためのシステムの実証実験を行っていることは、人的投資をかけず、今後の利用者ニーズの把握ができる将来性、効率性が評価できる。

## 2. 定量的評価

観 点 判 定	連携機関数	貸し出し数			
	S	A			

平成24年度に引き続き利用機関を確実に拡大し、累計47機関への貸出を実施した。平成25年度は31機関に対して年間72回、延べ7,789冊の資料を貸出し、年度目標4機関以上を大幅に上回る実績をあげ、第3期中期目標期間数値目標（累計20機関以上）を達成した。

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	図書パッケージ貸出サービスでは、利用機関の大幅な拡大を実現し、男女共同参画の推進のための学習支援に貢献した。また、遠隔地への図書の貸出を通じて、女性教育情報センターが収集した専門的な資料を全国で活用できる図書サービスの拡大、館種を超えた図書館の連携ネットワークへの発展性が高く評価できる。
達成	

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
図書パッケージ貸出業務の効率化と、今後の利用機関の拡大へ対応するため、利用機関と連携して業務の定型化を一層進める。

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(3))	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (3) 女性アーカイブ機能の充実
年度計画の項目 (I-3-(3)) ①	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (3) 女性アーカイブ機能の充実 ①女性アーカイブ機能の充実

事業名	女性アーカイブ機能の充実
担当課室	情報課
スタッフ	情報課長(1)、専門職員(2) <span style="float: right;">計3名</span>

年度実績概要	
1. 趣旨	女性に関する過去の歴史的事実および現在の状況を検証し、現代の問題へのアプローチを可能とするため、歴史的価値・研究資料的価値を有する女性関係史・資料の収集・整理・保存および提供・公開を行い、男女共同参画の推進に関する啓発、学習・研究支援等に資する。
2. 概要	女性アーカイブセンターにおいて、女性関係史・資料を収集・整理・保存し、閲覧・展示・データベース等によって提供・公開する。会館のもつ全国の女性関連施設とのネットワークを活かし、連携して東日本大震災に関する史・資料のアーカイブ化を進める。また、企画展示を他機関と連携して実施する。
3. 成果	順調に事業を推進し、今年度の数値目標を達成することができた（【評価指標】参照）。また、女性の視点からの災害復興支援活動記録を収集・保存し公開する「NWEC災害復興支援女性アーカイブ（ <a href="http://w-archive.nwec.jp/saigai">http://w-archive.nwec.jp/saigai</a> ）」において、新たに4機関のデータを公開した。更に平成25年11月8日からは、国立国会図書館が運営するポータルサイト「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)（ <a href="http://kn.ndl.go.jp/">http://kn.ndl.go.jp/</a> ）」との連携を開始し、ひなぎくを経由したNWEC災害復興支援女性アーカイブのデータ検索が可能となった。また、展示用パネルおよび資料について3機関より利用の申し込みがあり、貸し出しを行った。
【評価指標】	
○資料の収集・デジタル化（年度目標1千点以上）	新規受入1,079点 資料選定委員会の助言に基づいて、資料の新規受入を行い、「女性デジタルアーカイブシステム（ <a href="http://w-archive.nwec.jp/">http://w-archive.nwec.jp/</a> ）」を通じて、全ての目録データと一部の画像データをインターネット上に公開した。また、平成25年7月1日より、同システム上で女性史年表を公開し、検索機能を拡張した。
○展示室利用（平成25年度までの累積目標2万7千件以上）	累計32,730件 所蔵展示および企画展示を実施し、10,796件の入場者数を記録した。
○企画展示における他機関との連携状況（期間中に5機関以上）	5機関の大学・企業・団体等と共催し、その他4機関・団体から資料提供等の協力を得た。また、連携企画として、他機関を会場とした特別展示を実施した。
実績を裏付けるデータ	
参考資料を参照	

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
<p>適時性：「NWECC災害復興支援女性アーカイブ」を構築し、全国の女性関連施設と連携して充実をはかっていることは、ナショナルセンターとして時宜を得た取り組みであると評価できる。</p> <p>独創性：「女性デジタルアーカイブシステム」を独自に構築し、収集した資料の目録情報と一部の画像をインターネットで公開している点に高度専門性がある。また、「NWECC災害復興支援女性アーカイブ」は、女性の視点を災害復興支援記録に活かすという独自性を持っている。</p> <p>発展性：企画展示においては、女性と音楽との関わりというテーマのもと、連動企画等によって多角的に情報を提供できた。また、展示用パネル・資料の貸出により、貸出先機関の事業に寄与している。</p> <p>効率性：「NWECC災害復興支援女性アーカイブ」は、女性関連施設がデータ登録を自ら行う一方、システム構築用経費を負担せずに済み、労力と費用の両面で相互に効率的なしくみである。また、展示用パネル・資料の貸出は、女性アーカイブ事業で蓄積された成果を活用するものであり、高く評価できる。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点	収集数	デジタル化数	他機関との連携数	展示室入場者数	
判 定	A	A	A	A	
<p>○資料の収集・デジタル化数：平成25年度 1,079点（延べ8,554点）</p> <p>○連携機関数：合計10機関（共催5、協力4、連携企画開催1）</p> <p>○展示室入場者数：平成25年度 10,796件（H23年度からの累計 32,730件）</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A 達成	各取り組みを順調に進め、今年度の数値目標を達成することができた。中期計画期間中の目標値に向けて、展示室入場者数も昨年度より若干増加させることができた。また、展示、インターネットによる公開、パネル等の貸出といった様々な形で女性アーカイブを活用し、他機関と連携しながら事業の展開を図っている。

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
引き続き、会館の持つネットワークを活かして「NWECC災害復興支援女性アーカイブ」の参加機関を増やし、公開する資料を充実させていく。「女性デジタルアーカイブシステム」は、他機関データベース等との連携により、検索の利便性を高めると同時に、アクセス数の増加をはかる。資料の収集にあたっては、コレクションの構築および充実に向けて自発的に取り組む。

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(3))	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (3) 女性アーカイブ機能の充実
年度計画の項目 (I-3-(3)) ②	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (3) 女性アーカイブ機能の充実 ②女性情報アーキビスト養成研修

事業名	女性情報アーキビスト養成研修(入門) + (実技コース)	
担当課室	情報課	
スタッフ	専門職員(2)	計2名

年度実績概要	
1. 趣旨	女性に関する原資料(女性アーカイブ)の保存技術や整理方法を体系的に学ぶ最初の一步として、実務者を対象に基礎情報を提供する。また、関係者相互に情報交換を行いネットワークづくりを進める。入門修了者向けには実習を取り入れたより実践的なプログラムを提供する。
2. 実施概要	「入門」では、女性アーカイブ概論をはじめ、著作権、資料の保存・活用に関する知識や情報を提供する講義のほか、アーカイブのネットワークや構築の事例報告を行った。 「実技コース」では、展示物へ人をひきつけるための空間づくりについて、基礎理論の解説および実践的なワークショップを行った。また、紙資料の修復に関わる基礎的な技術について、講師の実演をまじえた指導のもとで実習を行った。
3. 開催日時(場所)	平成25年12月4日(水)～6日(金) (会場: 国立女性教育会館) ① 入門: 12月4日(水)～5日(木) 1泊2日 ② 実技コース: 12月5日(木)～6日(金) 1泊2日
【評価指標】	○女性アーカイブ実務者への学習支援状況(年度目標20名以上) 「女性情報アーキビスト養成研修(入門) + (実技コース)」を実施し、「入門」に30名、「実技コース」に11名、のべ41名の参加を得た。  ○アーカイブ実務者同士のネットワーク構築支援 「女性情報アーキビスト養成研修(入門)」において情報交換会を実施した。実施にあたっては全員が自身の所属機関や担当業務等を紹介する時間を設け、場の提供のみにとどまらず、それぞれの立場や仕事状況などについて相互理解を深められるよう配慮した。また、希望者にはNVECメールマガジンの登録を行い、女性アーカイブセンターを含むNVEC実施事業に関する案内を開始した。過去の修了者間では、有志が集まり男女共同参画推進フォーラムに参加するなどの交流が続いている。
実績を裏付けるデータ	
※【】内は平成24年度実績	
○参加者数	①入門: 30名(女性28名、男性2名) 募集定員30名、応募者数34名、応募倍率1.13倍 【募集定員30名、応募者数32名、応募倍率1.07倍】 ②実技コース: 11名(女性10名、男性1名) 募集定員10名、応募者数11名、応募倍率1.10倍 【募集定員10名、応募者数12名、応募倍率1.20倍】
○所属	①入門: 女性・男女共同参画センター5名、図書館8名、女性史グループ1名、その他16名 【女性・男女共同参画センター11名、図書館7名、文書館・文学館1名、女性史グループ2名、

その他11名】

- ②実技コース：女性・男女共同参画センター2名、図書館3名、女性史グループ1名、その他5名  
【女性・男女共同参画センター7名、図書館2名、その他3名】

○地域バランス

- ①入門：北海道・東北2名、関東・甲信越25名、中部・北陸1名、中国・四国1名、九州・沖縄1名  
【北海道・東北2名、関東・甲信越32名、中部・北陸1名、近畿2名、中国・四国2名】
- ②実技コース：北海道・東北1名、関東・甲信越8名、中部・北陸1名、中国・四国1名  
【北海道・東北4名、関東・甲信越5名、中国・四国3名】

○終了時アンケート結果（回答者数：入門 26名、実技コース 10名）

- 1) 有用度 ①入門：98.6%（非常に有用である 69.8%、概ね有用である 28.8%）  
【97.4%（非常に有用である 63.2% 概ね有用である 34.2%）】
- ②実技コース：100.0%（非常に有用である 90.0%、概ね有用である 10.0%）  
【100.0%（非常に有用である 79.2% 概ね有用である 20.8%）】
- 2) 満足度 ①入門：95.7%（非常に満足した 43.5%、概ね満足した 52.2%）  
【93.1%（非常に満足した 51.7% 概ね満足した 41.4%）】
- ②実技コース：100.0%（非常に満足した 88.9%、概ね満足した 11.1%）  
【100.0%（非常に満足した 70.0% 概ね満足した 30.0%）】

3) 感想・意見等（自由記述より一部抜粋）

①入門

- ・組織だったアーカイブの概論を初めて聴講できたので役に立った。アーカイブをマラソンの給水所にたとえた話がとても納得できた。（女性アーカイブ概論）
- ・企業、団体という異なる立場からの講義だったが、熱い思いが伝わる内容で力をもらった。（アーカイブの実践報告）
- ・いろいろな立場の方が集い、さまざまな講師の方の話をうかがえて大変参考になった。（全体の感想）

②実技コース

- ・心理的、視覚的に訴える展示というものが体感できた。あたたかみのある展示をめざしたい。（アーカイブ展示の手法）
- ・資料修復の方法を実践的に学べ、大変有意義だった。（紙資料修復の実践）

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
<p>適時性：女性アーカイブの構築・運営に役立つ基礎的かつ新鮮な情報を提供しており、ナショナルセンターとして全国的に女性アーカイブ構築の推進を支援する取り組みとして評価できる。</p> <p>独創性：女性アーカイブに主眼を置き独自に開発している専門的な研修プログラムは他に例をみないものであり、ユニークである点が評価できる。</p> <p>発展性：研修修了者を講師に招いた実践報告を行い、研修で得たことを活用してその成果を還元する、という形で事業が発展している。また、参加者間および講師とのネットワークが広がることにより、新たな事業展開につながる可能性がある。</p> <p>効率性：「入門」では女性アーカイブセンターおよびアーカイブ展示室の見学と取り組みを紹介し、「実技コース」ではアーカイブ展示室を会場としたワークショップを行った。女性アーカイブセンターの所蔵資料や関係施設を積極的に活用している点で評価できる。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度			
判 定	A	A			
<p>○応募倍率 「入門」：113%（募集定員30名、応募者34名） 「実技コース」：110%（募集定員10名、応募者11名）</p> <p>○有用度 「入門」：98.6%（非常に有用69.8% 概ね有用28.8%） 「実技コース」：100.0%（非常に有用90.0% 概ね有用10.0%）</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A 達成	参加者アンケートでは、「入門」「実技コース」ともに全体の満足度・有用度が95%以上となり、研修内容を高く評価された。質疑応答も活発に行われ、女性アーカイブ担当者が現場で活かせる基礎的な知識を得、疑問を解決するための機会を提供できた。また、過去の研修参加者2名を講師に招いてアーカイブ実践の報告を行ったことは、事業の新しい展開として評価できる。

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
参加者にとってより魅力的な研修となるよう、プログラムの内容や全体の流れを今一度見直してアーカイブを構築し、それを研修において見直して改善を図る。基本となる内容を維持しながらも、新しいテーマを取り入れる可能性を探り、更に洗練したプログラムを目指す。あわせて、広報の範囲や手法をより拡張して本研修の周知に努める。

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-4-(1))	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (1) 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施
年度計画の項目 (I-4-(1))	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (1) 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施

事業名	国内の関係機関・団体等との協働事業の実施	
事業概要	女性関連施設、女性団体、民間団体、企業、大学等と男女共同参画・家庭教育情報に関する情報交換を行うとともに、7以上の機関等と協働で事業を実施し、連携効果による多様な企画や講師の活用を図る。 また、全国の関係機関・団体からの依頼に基づき、積極的に講師を派遣する。	
担当課室	全課室	
スタッフ	理事長、理事、全職員	計24名

年度実績概要	<p>1. 全国の関係機関との協働実績について【18機関（実数）（共催12、受託2、後援4）】</p> <p>(1) 共催機関数：12</p> <p>① <u>埼玉県経営者協会</u>（企業を成長に導く女性活躍促進セミナー）</p> <p>② <u>NPO法人全国女性会館協議会</u>（女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修）</p> <p>③ <u>埼玉大学、埼玉県私立短期大学協会</u>（大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育の推進）</p> <p>④ <u>群馬県ぐんま男女共同参画センター「女性のためのハッピーキャリア大研究」</u>（平成25年度「教育・学習プログラムの開発」）</p> <p>⑤ <u>日本学術会議「科学と社会委員会 科学力増進分科会」「科学者委員会 男女共同参画分科会」</u>（女子中高生夏の学校2013～）</p> <p>⑥ <u>(株)教育資料出版会、女性と音楽研究フォーラム、東京藝術大学附属図書館、東京大学大学院情報学環・学際情報学府図書室、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館</u>（アーカイブ企画展示）</p> <p>⑦ <u>リーダーシップ111</u>（女子大生キャリア形成セミナー）</p> <p>(2) 受託機関数：2</p> <p>① <u>独立行政法人科学技術振興機構（JST）</u>（女子中高生夏の学校2013～科学・技術者のたまごたちへ）</p> <p>② <u>独立行政法人国際協力機構（JICA）</u>（地域別研修～アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー）</p> <p>(3) 後援機関数：4</p> <p>① <u>21世紀職業財団、経済産業省関東経済産業局</u>（企業を成長に導く女性活躍促進セミナー）</p> <p>② <u>文部科学省</u>（女子大生キャリア形成セミナー）</p> <p>③ <u>独立行政法人国際協力機構（JICA）</u>（NVEC国際シンポジウム）</p> <p>(4) 上記の他、</p> <p>① 「女性関連施設に関する調査」を全国387箇所の女性／男女共同参画センターの協力により実施。</p> <p>② 「大学等における男女共同参画に関する調査研究」のヒアリング調査を全国12の国公私立大学の協力で実施。</p> <p>③ 「女子中高生夏の学校2013」では、<u>男女共同参画学協会連絡会</u>の協力、外29の学会・団体の協力を得た。</p> <p>④ 女性教育情報センターには、<u>民間企業2社及び10大学</u>から男女共同参画に関するニュースレター等を受贈するとともに、<u>図書パッケージ貸出サービス</u>として、<u>大学、高校、女性関連施設等31機関</u>へ貸出しを実施。特に、<u>十文字中学・高等学校と連携し、NVEC図書選書ツアー・プログラム</u>を実施した。</p> <p>⑤ <u>NVEC災害復興支援女性アーカイブ</u>において、新たに4機関のデータを公開した。また、<u>国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）</u>との連携を開始した。</p> <p>2. 連携の内容と効果について</p> <p>(1) <u>NPO法人全国女性会館協議会</u>との連携においては、互いの知見やネットワークの蓄積を持ち寄りプログラム企画会議を重ねることで、より質の高い研修内容を企画することができた。</p> <p>(2) <u>埼玉県私立短期大学協会</u>との連携においては、<u>短期大学生を対象としたキャリアプランニング研修</u>について協会から寄せられたリクエストにきめ細かく対応することで、実践的なプログラムの開発を進めることができた。</p> <p>(3) <u>埼玉大学</u>との連携で大学における授業の中にNVECの講義を設けることができ、若年層、特に男子学生に対するアプローチについて知見を深めることができた。</p>	
--------	--	--

- (4) 女性アーカイブ企画展においては、音楽関係団体や図書館などの協力を得た。
  - (5) 埼玉県経営者協会からのアプローチで、埼玉県が実施するウーマノミクス推進委員会の第6回をNVECが受け持った。講師謝金や会場（大宮ソニックシティ）借上費用、資料印刷等の経費や事務を協会が負担してくれたため、NVECはプログラム企画に専念することができた。今後はこのような費用面での連携効果を拡大していきたい。
  - (6) 平成21年度から実施した国際協力機構（JICA）の受託事業「国別研修タイ」の実績により、平成24年度から26年度までの3年間、「地域別研修」をNVECで実施することとなり、今まで以上の連携効果が見込まれる。
3. 全国の関係機関・団体への講師派遣
- 全国の地方自治体、大学、女性関連施設、企業、女性団体等の要請により、NVEC役職員を研修講師として派遣した。

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
<p>適時性：プログラム内容や講師について助言を得ることで、NWECが単独で実施する事業とは違った広がり企画・参加者を得ることができた。多様性が求められる中、多様な人たちと関わることでプログラムが充実する。</p> <p>独創性：「女性教育」「男女共同参画の視点に立ったキャリア教育の推進」「女性活用」などをテーマにした研修や授業を、女性センターのみならず、大学、企業、国際分野へと広げて実施していく中で、学会、大学、経営者協会をはじめとする当該分野の専門機関と連携して進める事業展開はNWECならではのものである。</p> <p>発展性：今期新たに実施した「女子大生キャリア形成セミナー」において「リーダーシップ111」、企業セミナーにおいて経済産業省関東経済産業局と連携しており、このようなネットワークから新たな講師や参加者を呼び込みに繋がる可能性がある。また、大学との連携事業は開発したプログラムを他大学の利用に展開させる可能性をもつ。これまでの実績が評価され、24年度からの3年間JICA受託事業を継続できたことも、連携関係の確実な構築が進んでいる証と言える。</p> <p>効率性：連携機関の経費分担、人的支援等により、経費の節減を図ることができている。企業セミナーにおいては、大宮ソニックシティの会場費、講師謝金を埼玉県経営者協会の負担で実施することができた。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点 判 定	提携数	講師等派遣数			
	A	A			
<p>○提携数：18機関（共催12，受託2，後援4）</p> <p>○講師等派遣実績：平成24年度34件 → 平成25年度15件</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	25年度は「女子大生キャリア形成セミナー」を、企業や大学等様々な女性リーダーで構成されるリーダーシップ111と共催で新たに実施した。また、昨年に引き続き実施した企業向けセミナーで、経済産業省関東経済産業局の後援を得られたことは、 <b>事業の効果的な運営だけでなく、NWECのPRIにもつながることが期待される。</b>
達成	一方、これまで築いてきた、大学や女性関連施設とのネットワークも、継続して事業を実施することで引き続き深められている。 年度計画に記載する7機関以上との事業の協働実施も倍以上の機関と実現しており、今年度の目標は達成している。

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
連携の実施は、連携先における男女共同参画の取組の促進につながることから、引き続き、あらゆる機会を捉えて拡大していく。

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(1))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施
年度計画の項目 (I-5-(1)) ①	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施 ①アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー

事業名	アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー		
担当課室	研究国際室		
スタッフ	研究国際係長 (1)、専門職員 (1)、派遣社員 (1)	計3名	

年度実績概要	<p>1. 趣旨 「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」は、開発途上国において男女共同参画の政策策定・政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者、NGOのリーダーを対象に、女性の能力開発を目的としている集団研修である。平成25年度のリーダーセミナーでは、男性にとっての男女共同参画をテーマとして設定し研修を行う。</p> <p>2. 実施概要 本研修では、日本国内の関連機関の視察や専門家による講義に加え、研修生同士がテーマに関する好事例を学び合うことを目指したカリキュラム構成としている。</p> <p>3. 開催日時 (場所) 平成25年9月26日(木)～10月5日(土) (受入期間 9月25日(水)～10月6日(日)) NVEC他</p> <p>【評価指標】</p> <p>○アジア太平洋地域における拠点としての取組 研修生には、出身国(5カ国)における男女共同参画政策と、男性の参画促進に関する取組の好事例をテーマとしたポスターを事前に提出するよう義務づけた。研修生が作成した資料は日本語と英語でパネルに加工し、研修最終日にNVECが主催した「平成25年度NVEC国際シンポジウム」で展示した。研修生は上記シンポジウムにも出席した。</p> <p>○研修の内容評価 (参加者の90%以上からプラス評価を得られたか) 研修の有用度と満足度はともに100%であった。特に具体的な事例に基づいた報告(NPO法人や石巻市の取組)と、研究者との意見交換(京都大学)の評価が高かった。</p> <p>○研修成果の活用調査に基づく研修内容の見直し状況 平成24年度リーダーセミナー(テーマ:女性に対する暴力の根絶)の研修生からは、「講師との意見交換の時間がもう少しあると望ましい」との要望が寄せられた。こうした意見に配慮して、今年度は講師や事例報告者の協力を得て、各講義の中で質問の時間を確保し、研修生が事例について意見や質問を述べる時間を確保した。</p>
実績を裏付けるデータ	<p>1. 参加者の概況 9名</p> <p>2. 国籍 カンボジア、モンゴル、タイ、ベトナム(以上各2名)、フィリピン(1名)</p> <p>3. アンケート結果 研修の有用度 100% (「非常に有用」100%) 研修の満足度 100% (「非常に満足」100%)</p>

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
<p>適時性：平成25年度の研修テーマは、第三次男女共同参画基本計画の新領域のひとつでもある「男性にとっての男女共同参画」とした。プログラム構成は研修期間中に各国のベストプラクティスを共有した。また日本国内関係機関の視察からは、男性にとってのワーク・ライフ・バランスの重要性や、災害復興期に男性が直面する問題など、男性にとっての男女共同参画を考える上で新たな視点を提示することができた。</p> <p>独創性：研修カリキュラムには、NVECがこれまで実施した「男性と男女共同参画」に関する調査研究報告を組み込み、会館の研究との連携を図るとともに、研究成果の国外への発信につとめた。</p> <p>発展性：京都市女性センターと京都大学女性研究者支援センターを視察し、センター職員と研修生との意見交換の時間を設けることにより、海外の事例をセンター職員が学ぶことができるよう双方向的な研修内容となるよう留意した。</p> <p>効率性：長期間にわたる英語での研修の企画、講師との調整、実施は専門職員と研究国際係長、派遣社員の三名体制で行い、講義資料の準備、謝金の支払いの手続き等、全て円滑に行うことができた。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点	プログラムの有用度				
判 定	A				
<p>100%の研修参加者が有用と回答した。特に、教材（とても有用100%）、研修の運営（非常に効率的89%、効率的11%）に関する評価が高かった。）</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	男女共同参画の推進が女性のみではなく、男性にとっても重要であることの社会的認知を高めることは、日本を含むアジア太平洋地域の共通の課題である。開発途上国の行政機関の担当者やNGO/研究機関の中核的人材が、本研修を通じて得た知見を自国の政策や取組に反映することは、中期計画の目的に合致している。
達成	

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
プログラム全体の時間配分について、講師との意見交換やNVEC職員との交流の時間が欲しかったとの意見がみられた。限られた日程の中で、より充実した議論や交流がおこなえるような工夫が必要と考える。

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(1))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施
年度計画の項目 (I-5-(1)) ②	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施 ②国際協力機構との連携による研修

事業名	国際協力機構との連携による研修（地域別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」）
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究員（1）、研究国際係長（1） <span style="float: right;">計2名</span>

年度実績概要	
1. 趣旨	<p>国際協力機構（JICA）がアジア太平洋地域において実施する「人身取引被害者保護・自立支援促進プロジェクト」のカウンターパートおよび近隣地域の人身取引対策に携わる関係者を対象としたワークショップ型研修。3年計画の第2年次。</p> <p>人身取引撲滅と被害者保護は一国のみで対応できる課題ではなく、国境を越えた広域的課題として対応するためにも、アジア地域におけるネットワーク形成が重要である。参加者が日本を含め、互いの国の人身取引対策に関する取組みについて相互理解を深め、特に予防、被害者の保護と自立支援に携わる関係機関の役割や協力体制等について把握し、機関の機能強化や連携、国を越えたネットワークの強化に資する方策を検討することを目的として実施した。</p>
2. 実施概要	<p>①参加者 タイ、ミャンマー、ベトナム、ラオス、カンボジア、フィリピンの人身取引対策関係者（中央・地方政府行政、シェルター、司法・法執行・入管関係者、ソーシャルワーカー及びNGO関係者）。</p> <p>②研修内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで行ってきた国別研修の経験と成果を踏まえ、①日本・参加国における人身取引予防・被害者保護・帰還・社会復帰の一連のプロセスおよび関連機関の関係の把握、グッドプラクティスや課題の共有</li> <li>・アジア地域における人身取引対策のネットワーク強化に向けて各国の状況やアプローチの理解と、改善策やネットワーク強化に資する方策の検討を行うための発表と討議</li> <li>・日本の人身取引対策の全体像および男女共同参画視点の女性に対する暴力に対する取組の理解を図るために、行政や民間の関係機関の視察と意見交換の時間を十分にとった。</li> <li>・幅広い関係者（①関係省庁等、②国際機関、③県警察、④地方自治体の女性相談所等、⑤民間団体等）を講師・見学先として、意見交換・講義を行った。</li> </ul>
3. 開催日時	<p>平成25年10月21日(月)～11月2日(土)</p> <p>地域別研修：10月21日～31日（6カ国15名）</p> <p>国別研修ミャンマー：11月1日～2日（1カ国5名）</p> <p>国別研修ベトナム：11月1日～2日（1カ国3名）</p>
開催場所	NWEC、JICA、婦人相談所、女性関連施設、社会福祉協議会、民間団体等
【評価指標】	<p>○アジア太平洋地域における拠点としての取組</p> <p>研修については委託元および研修生から高い評価を得ている。また、研修生は、帰国後に自国およびメコン地域で関係者を集めた成果発表会で研修成果を報告しており、NWECが日本で実施した研修成果が各国に広がっている。</p>
実績を裏付けるデータ	
1. 参加者の概況	6カ国15名（女性8名、男性7名）（各国政府が選定・推薦しJICAとNWECで選定）中央政府、司法関係者、警察官、入国管理官、労働局担当官、シェルター所長、ソーシャルワーカー、教員等
2. アンケート結果	<p>全体研修参加者の全体の満足度 有用度 93%（とても有用 50%、有用 43%）</p>

## 自己点検評価調査

## 1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
<p>適時性：人身取引問題は、地球規模の課題であると同時にアジア太平洋地域は女性や女児の被害が多く、政策的に重要な課題である。グローバル化に伴い移住労働者に関する関心やニーズも高く、適時性が高い。</p> <p>独創性：人身取引の問題解決のために、受入国と送出国の間で多分野連携協働をテーマに行われる6か国を対象としたワークショップ型の研修は、他に同様の例はなく独創的である。</p> <p>発展性：平成24年度まで3年間行ったタイを対象とした国別研修の評価が高く、6か国研修に発展している。日本での研修を契機に、日本で講師を務めた省庁団体関係者がメコンでの研修講師として招聘されている。NWECCの連携協定先であるフィリピンやカンボジアから以前会館のリーダー研修に参加した現カンボジア法務省次官も参加するなど、これまで調査研究やNWECCの国際研修でつながりがあるタイやベトナムに加え、ラオス、ミャンマーが研修参加対象国に加えられており、連携や発展がのぞめる。</p> <p>効率性：会館の国際研修実施経験で培ったノウハウや調査研究の知見と女性関連施設・団体等とのネットワークをいかして企画したプログラムである。NWECCの研修宿泊施設を利用し、専門職員によるNWECCの国内研修事業の成果を報告する講義をもうけ、委託管理収入も得ており効率性が高い。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点	プログラムの有用度				
判 定	A				
<p>(終了者アンケートにおける回答) 全体研修参加者の全体の満足度 有用度93% (とても有用50%、有用43%) 国別研修参加者のプログラムの有用度 ベトナム100%、ミャンマー100%</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
A	<p>人身取引の分野における国際研修の実施は、途上国に対する国際貢献と同時に、研修生間の国を越えた相互理解を深めた。国内の行政や女性相談関係者、民間団体が、国際的な課題について認識を深め、国内外のネットワークを深める役割も果たした。研修生からは帰国後に自国で役立つ知識や情報を得たとともに、日本の男女共同参画施策及び女性に対する暴力に対する活動を学ぶ貴重な機会になったと高く評価された。</p> <p>人身取引の分野で、途上国の女性の置かれている立場に着目して、被害の防止や女性被害者の保護とエンパワーメントの観点で、参加6か国の連携を目的にワークショップという参加型・実践的研修を実施したことや、NWECCの調査研究や国際・国内研修の成果を活用したことで本研修の充実を図ったことは、国際貢献、連携協力を推進するという中期計画の目的に合致している。</p>
順調	

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>参加6か国の人身取引を巡る状況が大きく異なり、担当分野が異なる研修生一人ひとりの研修ニーズが異なる。かつ共通語である英語力に差があったため、集団研修と国毎の多様な研修ニーズにこたえ、語学力に差がある参加者間の意見交換をより活発に行うために、視察先の選定や意見交換のありかたについて、研修の企画・運営を一層工夫していく必要がある。</p>

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(1))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施
年度計画の項目 (I-5-(1)) ③	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施 ③NWE C国際シンポジウム

事業名	NWE C国際シンポジウム
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際係長(1)、専門職員(1)、派遣社員(1) 計3名

年度実績概要	<p>1. 趣旨 本事業の目的は女性の人権、女性の能力開発、人材育成等地球規模の課題をテーマに海外専門家を招へいし、アジア太平洋地域の課題分析を行い、海外の研究者や行政関係者、女性団体等指導者との交流を深めるとともにネットワークづくりを進めることである。</p> <p>2. 実施概要 行政職員、在日大使館職員、女性関連施設職員、大学院生、援助関係者等を対象として、「男性にとっての男女共同参画」をテーマとした国際シンポジウムを実施した。</p> <p>3. 開催日時(場所) 平成25年10月5日(土) 13:00~17:30 (JICA研究所)</p> <p>【評価指標】</p> <p>1. アジア太平洋地域における拠点としての取組</p> <p>(1) 女性教育のナショナルセンターとしての人的ネットワークを活用して、国内外から専門家を招へいし、シンポジウムのテーマについて課題を共有し、解決のための方策について議論することを目指した。</p> <p>(2) アジア太平洋地域における男女平等政策について、参加者と海外の専門家が意見交換を行うことができる場を設定し、参加者間の交流を促進した。</p> <p>2. シンポジウムの内容評価</p> <p>(1) 基調講演では、オーストラリアにおける組織内での女性の登用の事例や、日本社会における男性にとってのジェンダー問題が、実証的データに基づき論じられた。NWE C主催の国際研修参加者によるポスター展示の後、パネルディスカッションでは国際機関や研究機関、男女共同参画センターで男性を対象としたジェンダー関連プロジェクトを実践している専門家より国内外(インド・ニジェール・日本)の事例を踏まえた、男女共同参画事業への男性の参画をどのように進めてゆくことができるかについての提言がなされた。</p> <p>(2) 第一部と第二部間の時間を活用して、シンポジウム参加者と報告者間の交流を促進するためポスター展示を行った。本事業に先立って実施した「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」の研修生9名が、5カ国における男女共同参画政策をポスターにまとめ展示した。参加者からは「諸外国の取組を知ることができた」との評価を得た。</p> <p>(3) 基調講演とパネルディスカッションの資料は事前に日英二カ国語の資料集を作成し、シンポジウム参加者に配付したほか、会館のホームページ上でもダウンロード可能な形式で公表している。</p>
実績を裏付けるデータ	<p>1. 参加者概況114名(定員 100名)</p> <p>2. アンケート結果</p> <p>有用度 第I部基調講演 96% (「非常に有用」76%、「有用」20%)</p> <p>有用度 ポスター展示 78% (「非常に有用」45%、「有用」33%)</p> <p>有用度 第II部パネルディスカッション 92% (「非常に有用」66%、「有用」26%)</p> <p>満足度 97% (「非常に満足」55%、「満足」42%)</p>

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
<p>適時性：第三次男女共同参画基本計画で、新たな取組が必要な領域のひとつとされた「男性にとっての男女共同参画」をテーマに設定し、多様な視点からの議論を喚起した。</p> <p>独創性：民間セクターの男性リーダーとの協働を通じた組織内における女性の登用の推進（オーストラリア）や、開発援助を通じた男性の意識改革（国連人口基金）、女性関連施設での男性介護者のネットワーク形成など、国内外での先進事例を紹介した。</p> <p>発展性：国際シンポジウムでの議論をより広く普及させるため、今年度より基調講演の動画配信を会館ホームページ上で開始した。国際シンポジウムの資料集は、平成26年3月にニューヨークの国連本部で開催された「第58回国連婦人の地位委員会」でも配付した。</p> <p>効率性：シンポジウムの企画、講師との調整、実施は専門職員と研究国際係長、派遣社員の三名体制で行い、講義資料の準備、謝金の支払いの手続き等、全て円滑に行うことができた。また、当日配布資料を事前に資料集として冊子に印刷しシンポジウム終了後も、参加者が学習・普及啓発活動のために活用できるよう留意した。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点 判 定	応募倍率	プログラムの有用度	プログラムの満足度		
	A	A	A		
<p>○応募倍率 定員 100 名、応募者 114 名</p> <p>○有用度 有用度 第 I 部基調講演 96%（「非常に有用」76%、「有用」20%）</p> <p>○有用度 ポスター展示 78%（「非常に有用」45%、「有用」33%）</p> <p>○有用度 第 II 部パネルディスカッション 92%（「非常に有用」66%、「有用」26%）</p> <p>○満足度 97%（「非常に満足」55%、「満足」42%）</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
A	<p>「第三次男女共同参画基本計画」においても、「第3分野男性、子どもにとっての男女共同参画」が設けられており、我が国の男女共同参画の推進にあたっては、基本計画に沿って具体的な取組が進められている。本事業を通じて、アジア太平洋諸国における男女平等政策の最新の情報を学び、日本も含めた各国の先進的な取組に関する議論を深める場を設けることは、中期計画の目的に合致している。</p>
達 成	

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>平成 25 年度は男性の参加者が占める割合は 3 割程度であった。シンポジウムのテーマ毎に設定される主要なターゲットに情報が届くよう、広報の充実を図っていきたい。男女共同参画を推進している身近な地域の事例（静岡市女性会館）は、業務の役に立つとの意見が複数みられたため、次年度以降も引き続きこのような事例をプログラムに反映するよう留意していく。</p>

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(2))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (2) 地球規模の課題についての調査研究の実施
年度計画の項目 (I-5-(2)) ①	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (2) 地球規模の課題についての調査研究の実施 ①外国人女性の困難等への支援に関する調査研究

事業名	外国人女性の困難等への支援に関する調査研究
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究員 計 1名

年度実績概要	
1. 趣 旨	これまで取り組んできた人身取引の教育・啓発に関する調査研究を踏まえ、外国人女性の抱える困難等の実態と課題解決に向けた教育・啓発をテーマに3年計画で行う調査研究の3年次として、外国人女性の抱える困難等の実態と課題解決に向けた啓発活動に資する参考資料を作成する。
2. 実施概要	<p>① 外国人女性の支援について地域の学習活動を促進するプログラムについて検討した</p> <p>② 「自治体における外国人女性に関わる取組についてのアンケート調査」を踏まえて、自治体に外国人女性支援についての取組の現状と課題について聞き取りを行った。</p> <p>③ 外国人女性支援について検討する学習プログラムを「男女共同参画推進フォーラム」におけるNVEC提供ワークショップおよび「男女共同参画と多文化共生ワークショップ」として実施した。</p> <p>④ 外国人女性支援についてその必要性や課題について啓発する参考資料を作成した。</p> <p>⑤ 人身取引に関するパネルの貸出および手引書を活用した学習支援を継続した。</p>
3. 得られた知見	<p>(1) 自治体に対して行ったヒアリング調査からは、自治体毎に外国人女性が置かれている状況が異なることや外国人居住者数が少ないために政策課題としての優先度が低くなっていること、前年度のアンケート調査を裏付ける結果となった。</p> <p>(2) 国際担当部局では男女共同参画の視点が不十分であり、男女共同参画部局や女性関連施設では、外国人女性の把握やつながりが薄いことが明らかになった。</p> <p>(3) 海外の調査からは、送出国では、移住女性が抱える課題について人権侵害の問題だけでなく女性のキャリアや労働という観点からの取り組みも進められはじめていること、受入国である欧米では、外国人女性のエンパワーメントや連帯活動が活発であること、国を超えた政府と支援団体のネットワークが強化されつつあること、一方で、当事者支援団体の視点から見える問題についての情報を得た。</p>
4. 成果の活用	<p>(1) 「男女共同参画推進フォーラム」のNVEC提供ワークショップ及び「アジア諸国における人身取引対策協力促進推進セミナー」において、調査研究の報告を行った</p> <p>(2) 「NVEC実践研究」に、海外の取組に関する調査研究報告を掲載した</p> <p>(3) パネルの貸し出しを昨年から継続して行った</p> <p>(4) 成果を地域の自治体の男女共同参画担当部局や女性/男女共同参画センター等担当者が事業企画等で活用できる</p> <p>(5) 成果をまとめた報告書を冊子体・会館HPで提供する。</p> <p>(6) 平成26年度会館の研修において本調査研究に関する情報提供を行うためのコマをプログラムとして設ける予定。</p>
実績を裏付けるデータ	<p>平成25年8月23日(金)「男女共同参画推進フォーラム」において「移民女性が抱える課題の解決に向けた地域における連携」をテーマにしたNVEC提供ワークショップを開催</p> <p>平成26年2月3日(月)「外国人相談・支援担当者に対するジェンダー視点プログラム」検討セミナー開催</p> <p>平成26年2月4日(火)「男女共同参画と多文化共生ワークショップ」を主婦会館プラザエフにて開催</p> <p>平成26年2月5日(水)「相談員研修」において調査研究の情報提供を行う</p> <p>そのほか、啓発パネルをNVEC研修棟に展示しNVECボランティアが来館者に随時説明しているほか、館外にも貸出を継続。</p>

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
<p>適時性：グローバル化で国際的な人の移動が増加する中、日本に暮らす途上国出身の女性の数が増加。「少なくとも一方の親が外国人」の子どもも増加している。しかし、彼女たちが直面する生活上の課題や困難の実態の把握は十分にされていない、この問題は国連女子差別撤廃委員会からも指摘されるとともに、第3次男女共同参画基本計画の新規課題となっており、調査研究のテーマとして取り上げたことは、ナショナルセンターとして時宜に合ったものである。</p> <p>独創性：これまで見過ごされてきた外国人女性の人権について、NWECの人身取引に関する調査研究及び国内外のネットワークをいかしつつ、外国人女性の人権保障に資する地域の女性関連施設や女性団体等の活動について行う調査研究は、独創的である。</p> <p>発展性：調査研究で得た知見を国際研修や「男女共同参画推進フォーラム」等のNWECの研修事業の企画にいかした。NWECホームページやNWEC実践研究を活用して調査研究の成果を発信した。海外協力機関の協力を得て国際会議やワークショップを実施しており、今後さらなる国際的発展がのぞめる。</p> <p>効率性：本調査研究の実施にあたり、NWECが全国の自治体や女性関連施設に持つネットワークを活用・協働したことにより、経済的・時間的効率をはかった。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点	プログラムの有用度				
判 定	A				
<p>○「男女共同参画と多文化共生ワークショップ」の有用度は、96.9%（「とても参考になった」72.7%＋「参考になった」（24.2%））</p> <p>○国際研修や国内の相談員研修等において、調査研究の成果を発信した。</p> <p>○参考資料「外国人女性の困難等への支援に関する参考資料」を作成した。</p> <p>○昨年度の調査研究の成果を「NWEC実践研究」に報告論文として掲載した（「世界社会フォーラムにおける人の移動に関するワークショップ」）。</p> <p>○貸出用展示パネルが、女性関連施設や女性団体等が主催する全国4事業でDV防止週間やDVチャリティーにて活用された（参加者数3,200人、開催都道府県：練馬、広島、高知、愛媛）。</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	3年計画の3年次として、男女共同参画の視点に立った教育・学習支援についてプログラムを試行的に実施するとともに、啓発用参考資料を作成した。
達成	これまで実施してきた人身取引に関する調査研究の成果を踏まえて「外国人女性」に焦点をあてた調査を立ち上げ、米国、韓国、フィリピンの海外連携協力3機関や東南アジア諸国地域と連携と協力して会議を開催するなど、中期計画を順調に進めた。

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
外国人女性の必要とする支援や教育・啓発活動に関する女性関連施設や女性団体等の関心は一部にとどまり、一般的関心は未だ低く、先進的事例も少ない。調査研究成果をホームページ等を通じて今後は発信していく。

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(3))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (3) 国際的なネットワークの構築
年度計画の項目 (I-5-(3))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (3) 国際的なネットワークの構築

事業名	国際的なネットワークの構築	
担当課室	研究国際室	
スタッフ	研究国際室長 (1)、研究員 (2)、専門職員 (1)、研究国際係長 (1)	計5名

年度実績概要	
1. 海外の協定締結機関等との関係	<p>(1) 韓国両性平等教育振興院 (KIGEPE, Korean Institute for Gender Equality Promotion and Education) 平成18年4月26日、交流及び協力に関する協定を締結 平成25年7月3日～6日、研究国際室長および専門職員の2名が「東南アジアにおける男女平等政策に関する比較研究」(科学研究費補助金)の現地調査に訪問し、研究員と意見交換を行う。</p> <p>(2) 韓国女性政策研究院 (KWDI, Korean Women's Development Institute) 平成18年9月28日、研究交流及び協力に関する協定を締結 平成25年4月5日、同院ヘイスク・チャン副院長が来館、NWEC職員と交流・意見交換を行う。 NWEC男女共同参画統計ニュースレター No.14に文有良上席研究員が寄稿</p> <p>(3) フィリピン大学機構 (University of the Philippines System) 平成21年3月11日、学術協力に関する協定を締結 平成26年1月19日～28日、研究国際室専門職員が「東南アジアにおける男女平等政策に関する比較研究」(科学研究費補助金)の現地調査に訪問し、研究員と意見交換を行う。</p> <p>(4) 延辺大学女性研究中心 (中華人民共和国吉林省) 平成21年5月12日、研究交流及び協力に関する協定を締結</p> <p>(5) カンボジア王国女性省 (Ministry of Women's Affairs of Kingdom of Cambodia) 平成22年4月6日、交流と協力に関する協定を締結 平成25年5月30日～31日、JICA研修「ジェンダー主流化プロジェクトフェーズ2」に同省職員2名が参加し来館、会館職員と交流・意見交換を行う。 平成25年9月、アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナーに同省職員が参加。 平成25年10月24日、JICA受託研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」に研修生として参加中の法務省次官ソテアヴィー・チャン氏(平成20年度国際研修「アジア太平洋地域の女性リーダーエンパワメントセミナー」研修生)が来館、会館職員と交流・意見交換を行う。 平成26年2月8日～15日、研究国際室専門職員が「東南アジアにおける男女平等政策に関する比較研究」(科学研究費補助金)の現地調査に訪問し、研究員と意見交換を行う。</p>
2. 国際的ネットワークの構築	<p>平成25年6月26日、労働政策研究・研修機構 (JILPT) Visiting Researcher プリティ・アローラ氏(インド災害対策研究センター、平成23年度国際研修「リーダーセミナー」に研修生)が来館、NWEC職員と交流・意見交換を行う。後日、同氏がJILPTに提出した成果物に会館訪問等が掲載。</p> <p>平成25年9月26日～10月5日、NWEC国際研修「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」を開催。カンボジア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナムから9名が参加。</p> <p>平成25年10月5日、「NWEC国際シンポジウム」を開催。基調講演者としてカサンドラ・ケリー氏(オーストラリア)、パネリストとしてラヴィ・K. ベルマ氏(インド)を招聘。ケリー氏の基調講演動画を会館ホームページより配信。</p> <p>平成25年10月21日～11月2日、国際協力機構 (JICA) 地域別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」を開催。タイ、ミャンマー、ベトナム、フィリピン、カンボジア、ラオスから15名が参加。</p> <p>平成26年3月10日～21日、Commission on the Status of Women (CSW: 第58回 国連婦人の地位委員会) に日本政府代表団の一員として、研究国際室専門職員及び総務課企画係長の2名が参加(ニューヨーク)。また、CSWについての理解を深めるための学習資料「CSW早わかり(リーフレット)」を作成した。</p> <p>平成26年3月12日、カナダ民族音楽者のロダ博士が来館し、カナダにおける女性研究者の状況等に関する講話及びNWEC職員と交流・意見交換を行った。</p>

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
<p>適時性：協定締結機関とは、国際研修や調査研究を通じての交流が引き続き行われており、NVECがアジア太平洋地域との連携を強化していくためにも適切なものである。</p> <p>独創性：協定締結機関及びNVEC国際研修元参加者の来館など、ナショナルセンターとして海外機関との連携やネットワーク構築をアピールした。 平成23年度から日本政府代表団の一員として参加をしているCSWについて、平成25年度「男女共同参画推進フォーラム」にて報告し、アンケートの意見を基に、CSWについての理解を深めるための学習資料「CSW早わかり(リーフレット)」を作成。</p> <p>発展性：協定締結機関から国際研修への参加をはじめ、海外3機関以上へ調査研究・事業の準備を進めるために訪問するなど、来年度以降の事業を展開していくためにも適切なものである。</p> <p>効率性：国際協力機構等から外部資金を得ることにより管理経費の削減に努めるとともに、NVEC国際シンポジウム等の広報にも協力を得て、効率的に事業を実施している。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点	協力関係機関数				
判 定	A				
<p>NVEC国際研修修了生が労働政策研究・研修機構(JILPT)にVisiting Researcherとして、また、カンボジア王国法務省次官として来館、リーダーセミナー中、期間限定で立ち上げたFacebookを通じて研修前後から交流を深めるとともに、女性教育情報センター前での国際研修使用パネルの展示など、NVECの取組みを国内外に広く普及させた。</p> <p>平成25年7月に協定先である韓国両性平等教育振興院(KIGEPE)、平成26年1月にフィリピン大学機構、2月にカンボジア王国女性省を調査研究のために訪問、平成26年3月には国連女性の地位委員会(CSW)に参加するなど、来年度以降の調査研究及び事業実施に向け、準備を進めている。</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A 達成	協定締結機関とは、活発な人的交流、調査研究、情報・研修事業を通じた相互の情報交換・支援が行われた。協定先であるKIGEPE及びフィリピン大学機構への訪問やCSWに参加するなど、来年度以降の調査研究及び事業実施に向け、準備を進めている。また、独立行政法人国際協力機構(JICA)のアジア太平洋地域6カ国を対象とした研修事業を1本受託し、途上国の男女共同参画を通じた支援にも大きく貢献している。

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
今までに構築してきた海外機関との協力体制を強化しつつ、アジア太平洋地域における男女共同参画及び女性教育の人材育成のための拠点としての役割を果たすと同時に、国際研修修了生等のつながりを一層強めるため、情報交換・議論を定期的に行うなど、NVECを中心とした研修参加者とのネットワーク構築を図り、会館ホームページ等で研修成果を国内外に普及させる。

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅳ－(3))	6 会館利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解・利用の促進 (1) 利用者への学習支援 (2) 利用の拡大
年度計画の項目 (Ⅳ－(3))	6 会館利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解の促進・利用の促進 (1) 利用者への学習支援 (2) 利用の拡大

事業名	利用者への学習支援と利用の拡大	
担当課室	事業課	
スタッフ	全職員	計26名

年度実績概要	
1. 利用者への学習支援	
(1) 研修プログラム作成支援の実績： NWECを利用する団体・グループ等が企画・実施する研修等のプログラムについて、NWEC職員等が学習相談・利用相談を受け、研修プログラム作成を支援した。	
(2) 利用者アンケートの結果の反映 利用者アンケートで寄せられた意見をもとに検討を行い、宿泊研修施設の修繕等を行った。	
2. 利用者の拡大	
(1) 平成24年度の利用状況の分析と対応 平成24年度の宿泊に関する利用統計を分析した結果、東日本大震災以降、年間を通じて学校の利用が減少していたことから、学校関係者をターゲットとしたアプローチを戦略的に進めた。具体的には、勉強合宿や部活動での利用プランなど学校関係者に魅力的と思われるチラシを作成した上で、埼玉県内の女子高等学校への訪問活動や、埼玉県立高等学校長協会における利用受入説明などを行った。 また、埼玉県以外の関東地区の高等学校には、近隣の文化施設紹介を同封の上、利用案内を郵送した。加えて、千葉県・東京都・神奈川県等の高等学校、埼玉県・東京都の看護師等養成学校及び短期大学・大学、関東近県の保育士養成系学校に対するダイレクトメールの送付を行うとともに、女子大学に勤務する教員あてにゼミ等での利用案内資料を添付したダイレクトメールを送付した。	
(2) 利用拡大戦略に基づく取組 過去に利用しているが平成25年度に予約がない団体に連絡をし、予約をしない理由について確認を行い、その理由についての検証及び改善を行った。また、埼玉県物産観光協会に加盟し大宮ソニックシティに利用案内のチラシを置いたり、インターネットの合宿サイトに研修宿泊施設案内情報を掲載し、新規利用の獲得に取り組んだ。	
(3) 学校・企業等の利用促進 NWEC利用のモデルプランを作成の上、高等学校、専修学校、短期大学、大学、近隣の地方公共団体等に積極的な広報を行った。また、学生に直接情報を届けることを目的として、大学生協と交渉し、学生向けのパンフレットに情報を掲載した。企業へも訪問をし、積極的な広報を行った。	
(4) 宿泊室利用率の実績（期間目標55%） 平成25年度宿泊率利用率40.3%であり、平成24年度の33.8%より6.5ポイント改善した。	
(5) 利用者実績（利用者数・利用団体数） 延べ利用者数 126,837人 利用団体数 2,819団体	
実績を裏付けるデータ	
1. 利用の受入れ状況（①平成25年度国立女性教育会館利用状況、②年度別利用状況 は別添参照） (1) 延べ利用者数 126,837人 (2) 利用団体数 2,819団体	
2. 利用者アンケートにおける学習相談満足度：99.2%（非常に満足46.4%、満足52.8%） 利用の感想：99.1%（非常に役に立った43.1%、役に立った56.0%）	
3. 学習支援の実績 (1) 情報提供回数505回 (2) 講義回数20回	
4. 利用拡大の取り組み	
(1) 役員・職員による講演回数：15回	
(2) チラシの配布件数 4,740件 東武東上線沿線学習塾 55件、女子大学教員宛 2,287件、旅行会社教育担当宛 12件 埼玉県高等学校・専門学校、東京都高等学校・専門学校、千葉県高等学校・専門学校、神奈川県高等学校・専門学校 2,386件	
(3) 訪問活動実績 15カ所（埼玉県内の女子高等学校、全国公立小・中学校女性校長会、埼玉県私立学校校長会など）	

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
<p>適時性：インターネットの合宿サイトに研修宿泊施設案内情報を掲載したことは、多くの利用者がインターネット上で得た情報から宿泊場所を選択していくという近年の傾向に対応した取組である。</p> <p>独創性：社会教育施設として、学校関係の利用に焦点を絞り、戦略的に利用拡大に取り組んだ点は評価できる。特に、図書のパッケージ貸出しを拡大させ、高校へアプローチを図ったことはNWEC独自の工夫といえる。</p> <p>発展性：企業向けセミナーなど新規主催事業において会館施設の利用を積極的に紹介。また、学校が4月に行うオリエンテーションなどの利用については口コミで利用者が増えており、利用団体へのキメ細かな対応が評価された結果と言える。</p> <p>効率性：大口の利用団体が来館した際に、食堂や受付で直接職員が声かけを行い、施設利用の感想を尋ねたり、次回利用のニーズなどの把握に努めた。こうした積極的な情報収集から獲得された利用は少なくなかった。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点	研修施設使用率				
判 定	B				
平成25年度宿泊率利用率40.3% 【平成24年度33.8%】					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	利用者に対する積極的な声かけ、前年度の利用実績の分析に基づいた戦略的な利用拡大の取組により宿泊施設利用率を40.3%まで回復できたことは一定の成果である。
順調	

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>利用状況の分析に基づく、焦点化した利用拡大戦略を継続していく。その際、人件費も含む費用対効果を意識した取組に務める。</p> <p>また、平成27年4月より実施予定のPFI化への対応も踏まえつつ、より魅力ある施設環境の提供、新たな層への周知などを引き続き検討し、取り組んでいく。</p>

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ-1-(1))	1 適切な法人運営体制の充実 (1) ガバナンス・内部統制の充実
年度計画の項目 (Ⅱ-1-(1))	1 適切な法人運営体制の充実 (1) ガバナンス・内部統制の充実

事業名	ガバナンス・内部統制の充実
事業概要	<p>○原則として毎週、係長以上が参加する運営会議を開催し、理事長のリーダーシップのもと、会館が担う役割やリスク等の課題について職員全員が情報を共有する。</p> <p>○職員の業務遂行に関する資質・能力の向上を目的とした研修を実施する。</p> <p>○リスク低減に向けた規程等についての見直しを行い、職員全員に周知徹底する。</p> <p>○会館の業務の有効性・効率性、法令の遵守、財務会計の透明性等の観点から職員全員を対象としたモニタリングを実施するとともに、結果については役職員に周知し、必要に応じて組織運営の改善に反映させる。</p>
担当課室	総務課
スタッフ	理事長、理事、全職員 計26名

年度実績概要	<p>1. 理事長のリーダーシップについて</p> <p>(1) 理事長のリーダーシップの確保と効率的業務を目的として運営会議を毎週開催している。運営会議には、理事長、理事、各課室長及び各課室連絡担当係長（職員の過半数）が出席、理事長が各部署から業務報告や懸案事項の報告を受け、解決のための指示を直接伝達している。対応結果は、再度同会議で報告され、確実なPDCAサイクルが機能している。</p> <p>(2) 年4回理事長が招集・実施する役員会では、理事、監事及び各課室長が出席し、NVECの業務運営や評価に関する重要事項を審議している。</p> <p>(3) 理事長を補佐する組織としては、組織が小規模なため総務課が担うが、全課室に対して直接指示が下ることも多い。</p> <p>2. リスク管理体制の整備について</p> <p>(1) 上記運営会議においては、予算の執行状況をはじめ、年度計画の実施状況や新たに発生した事案等について、理事長、理事に対し迅速な報告がなされている。報告案件については、理事長、理事のチェックのもと、リスクの把握、分析、対応検討が速やかに実施され、対応結果の報告が確実に実施されるという体制が整っている。</p> <p>(2) リスクの一つである宿泊室利用率の向上については、毎週実施している運営会議において隔週で状況報告を行い、その都度、理事長、理事より対応について指示があるとともに、出席メンバーが状況と対応策について情報を共有している。</p> <p>(3) 事業の企画・実施に係るリスクや課題については、理事長、理事、各課室長、各事業担当者等が出席する「自己点検評価委員会」や「研修・調査研究事業検討会」を通じて把握するとともに、以降の事業実施に活かせるよう対応策の検討・共有を図っている。</p> <p>3. コンプライアンス体制の整備について</p> <p>平成20年度に整備された以下の倫理行動規程にいて、理事長を補佐する組織としては、組織が小規模なため総務課が担うが、全課室に対して直接指示が下ることも多い。運営会議や役員会・監事監査・内部監査の際や職員研修を通じて、周知徹底を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独立行政法人国立女性教育会館における研究活動に係る行動規範</li> <li>・独立行政法人国立女性教育会館における研究活動上の不正行為に関する基本方針について</li> <li>・独立行政法人国立女性教育会館研究費不正使用防止委員会設置要項</li> <li>・独立行政法人国立女性教育会館職員倫理規程</li> </ul> <p>4. 監事監査</p> <p>「監事監査規程」に基づき、2名の監事による監査を実施。平成25年度は「監事監査計画」に基づき、四半期毎に計4回の定期監査（業務及び会計を対象）を実施した。監査結果は理事長に報告され、いずれも是正改善を必要とする事項は無かった。</p>
--------	---

5. 年度計画の着実な実施について

「研修・調査研究事業検討会」や「自己点検評価委員会」の開催、利用拡大戦略や広報実施計画を策定全課室横断的な取り組みを計画的に実施するとともに、毎週の運営会議における各課室からの事業実施状況の報告により、年度計画の着実な実施に努めた。

6. 法人のミッションの周知

役員に対しては役員会等において、職員に対しては館内研修や運営会議等の場所において周知しているが、組織が小規模なため、理事長の方針が迅速且つ直接役員に伝えられる機会が多い。また、事業の企画段階では「研修・調査研究事業検討会」、実施後は「自己点検評価委員会」の際に、再確認がなされている。

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
<p>適時性、独創性、発展性、効率性：</p> <p>平成24年度に開催された「国立女性教育会館の在り方検討会」における議論を受け、組織の今後の在り方について、理事、理事長、各課室長及び総務課企画係による館内検討会を重ね、各部署の意見を吸い上げるとともに、理事長の主導のもと、職員がポジションにこだわらない自由な意見交換や提言を行い、NVECの将来像について考えた。25年度はここで決定した方向性に基づき、こうした一連の動きを通じ、職員の一人一人がNVECが担う役割や内包している課題等を認識するとともに、時代の要請に応じた組織の在り方について考えを深め、それらの意見を集約することで、今後の事業展開の方向性をまとめることができた。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点	役員会実施回数	監事監査実施回数	運営委員会実施回数	運営会議実施回数	
判 定	A	A	A	A	
<p>○役員会規程に基づき、予定されていた4回の役員会を開催した。</p> <p>○監事監査計画に基づき、予定されていた4回の監査を実施した。</p> <p>○運営委員会規程に基づき、予定されていた3回の運営委員会を開催した。</p> <p>○運営会議規程に基づき、原則として毎週火曜日、理事長、理事、課室長、各課連絡担当係長を構成員とする運営会議を開催した。</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
A	法人のもつリスクを常に意識し、週一度開催される運営会議で理事長に対し状況を報告、その都度対応についての指示を仰いだ。例えば、リスクの一つに挙げられる「研修事業の定員充足」については、毎週運営会議において報告、定員割れが考えられる場合は、各課室ももつネットワークを最大限に活用した広報を重ねて行うなど全館体制で対応した。その他の課題についても、常にNVECの今後の在り方について職員が課題と改革に向かう意識を共有しながら、新たな事業展開の方向性を探る視点から対応にあたった。
達 成	また、役員会、監事監査を定期的に行い、NVECの現状と課題について適切に報告し、助言を得るとともに、得られた助言を速やかに業務に反映している。

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
小規模組織であることから理事長のリーダーシップが存分に発揮できる利点を活かし、今後も職員が一丸となって、時代の要請に的確に応じた業務展開を推進していく。

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ-2-(1))	2 人件費・管理運営の適正化 (1) 人件費・管理運営の適正化 (2) 保有資産の見直し
年度計画の項目 (Ⅱ-2-(1))	2 人件費・管理運営の適正化 (1) 人件費・管理運営の適正化 (2) 保有資産の見直し

事業名	人件費・管理運営の適正化と保有資産の見直し
事業概要	<p>(1) 人件費・官吏運営の適正化 政府の給与改善を踏まえ、引き続き人件費削減を図るとともに、業務運営の見直しと自己収入等の増加に向けた努力を不断に行い、中期目標期間中に、一般管理費については平成22年度比15%以上、その他の事業費（外部資金で実施する事業及び利用の増加による支出増等を除く）については平成22年度比5%以上を削減する。</p> <p>(2) 保有資産の見直し 平成23年度末までに埼玉県から借り受けているNVECの敷地面積を見直し、敷地の一部返却による土地借料削減を図る。（23年度に実施済）</p>
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長（1）、総務係長（1）、会計係長（1）、専門職員（1）、係員（1）計5名

年度実績概要
<p>1. 人件費・管理運営の適正化</p> <p>引き続き、理事が事務局長を兼任し、人件費削減を図った。 また、国家公務員に準拠し、臨時特別措置に対応した。</p> <p>(1) 一般管理費効率化 平成25年度 92,913千円 22年度比102%（中期計画期間中の目標値：85%） (2) 業務経費効率化 平成25年度 369,574千円 22年度比 94%（中期計画期間中の目標値：95%） (3) 人件費削減状況 平成24年度 163,220千円 23年度比 93% （※中期計画期間中の目標値は、22年度の基準金額に対する割合）</p> <p>2. 給与水準の適正化と結果の公表</p> <p>役職員の報酬・給与等と職員給与については、その実績値と、国家公務員及び他法人の給与水準との年額の比較をHPにおいて情報公開している。 ラスパイレス指数は、事務職が国家公務員比81.1、他法人比77.2であり、研究職が国家公務員比67.4、他法人比68.7となっており、国家公務員と比較して低い水準にある。</p> <p>3. 保有財産の見直し</p> <p>抜本的に組織の在り方を見直す中で、施設のPFI化の検討を開始し、企業や専門家に対するヒアリングを平成24年度から引き続き行い、アドバイザー業務を委託した。 平成25年2月には公共施設等運営事業の実施方針を公表し、3月には特定事業として選定した。</p> <p>4. 重要な財産の処分</p> <p>平成23年12月の役員会で廃止を決定した温水プールの処分を進めているが、電気室が隣接する体育館と一体となっていることや、建物の取り壊しに多額の経費がかかることが課題となっている。施設のPFI化検討の中で、現状維持もやむを得ない状況となる可能性があることから、当面は安全面に注意しつつ、建物を維持する。</p> <p>5. 諸手当、法定外福利厚生費</p> <p>(1) 「国と異なる諸手当」及び「法人独自の諸手当」の支給はない。 (2) 法定外福利厚生費については、医療・健康にかかる費用などを支出。 (3) 健康保険組合の保険料に関する労使負担割合については、職員については国家公務員共済組合の割合に準じている。また、有期雇用職員については、全国健康保険協会の健康保険料率に従っている。</p>

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
<p>適時性：独立行政法人通則法に定める企業会計原則の適用及び独立行政法人会計基準による会計処理により、適正な運営が実施されている。役職員の報酬・給与等と職員の給与は国の基準に準じて支給されるとともに、その実績値と国家公務員及び他法人の給与水準との年額の比較をHPにおいて情報公開するなど、公正性、透明性が確保された運営が確保されている。</p> <p>独創性：施設の有効活用について、運営を民間業者に委託するPFI化の検討を進めた。</p> <p>発展性：施設の運営を民間業者に委託するPFIの導入により、より積極的な施設の有効活用が期待できる。</p> <p>効率性：超過勤務の縮減に向けて、各課室長による職員の労働時間管理を更に徹底した。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点 判 定	一般管理効率化	業務経費効率化	人件費削減状況	ラスパイレス指数	
	C	S	A	A	
<p>1. 効率化率（財務諸表及び決算報告書により記載）</p> <p>(1) 一般管理費効率化 平成25年度 95.5%（中期計画期間中の目標値：85%）</p> <p>(2) 業務経費効率化 平成25年度 87.1%（中期計画期間中の目標値：95%）</p> <p>(3) 人件費削減状況 平成25年度 93%</p> <p>2. ラスパイレス指数：事務職81.1、研究職67.4【23年度：事務職83.9、研究職66.9】</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	<p>一般管理費を除く各経費は、目標値を達成しており、中でも業務経費効率化については、目標値より大幅に削減できている。</p> <p>また、事業の実施において15機関との連携を実現、一部の事業について会場借上、講師謝礼、印刷等にかかる費用を連携先が負担するなど経費削減が可能となった。</p>
達成	<p>施設運営を民間業者に委託するPFI化の検討を進めたことは、保有施設の新たな利用の可能性を探る試みとして評価できる。</p>

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>人件費、一般管理費、業務経費の削減については、限界にきており、これ以上の削減はナショナルセンターとしての本来業務の質の確保に影響することから、自己収入の拡大や外部機関との連携による人的・経費的負担の削減を戦略的に進めていくことが必要である。</p> <p>また、施設の運営について、NWECCのミッション遂行に支障を来さぬような実現の方法についてスピード感をもって検討を進めていく。</p>

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ-3-(1) (2)、4-(1))	3 業務運営の改善及び効率化 (1) 業務運営の改善 (2) 人材育成、多様な人材の活用 4 業務運営の点検・評価 (1) 自己点検・評価等による業務の改善
年度計画の項目 (Ⅱ-3-(1) (2)、4-(1))	3 業務運営の改善及び効率化 (1) 業務運営の改善 (2) 人材育成、多様な人材の活用 4 業務運営の点検・評価 (1) 自己点検・評価等による業務の改善

事業名	業務運営の改善及び効率化と業務運営の点検・評価
事業概要	<p>3 業務運営の改善及び効率化</p> <p>(1) 業務運営の改善：効果・効率的な業務運営を行う観点から、事務・事業の見直し、検証を定期的に運営会議で行い業務運営に反映させる。積極的に事務事業の外部委託を進め、必要に応じ組織の再編等を行う。</p> <p>(2) 人材育成、多様な人材の活用：職員の資質・業務遂行能力の向上に資するため研修を実施する。外部人材の活用による組織の活性化について、引き続き検討を行う。</p> <p>4 業務運営の点検・評価</p> <p>(1) 自己点検・評価等による業務の改善：自己点検・評価委員会による評価を実施する。その際、各事業間の有機的連携を重視した自己点検・評価を行う。自己点検と連動した外部評価を実施する。評価結果をHPで公表する。</p>
担当課室	総務課
スタッフ	3. 業務運営の改善・効率化：総務課長、専門官、企画・総務・会計係長、専門職員3 計8名 4. 業務運営の点検・評価：全館職員 計24名

年度実績概要
<p>1. 業務運営の改善</p> <p>原則として毎週火曜日に理事長、理事、各課室長、各課室係長の出席のもと開催される運営会議において、不断の業務見直しを図っている。また、NVECの今後の在り方についてゼロベースで検討するためのプロジェクトチームを課室横断的なメンバーで発足させ、プログラム開発や学習者への支援の在り方など6テーマについて企画立案を行った。</p> <p>2. 人材育成、多様な人材の活用</p> <p>(1) 職員研修の計画的実施</p> <p>職員の資質、能力の向上を図るため、人事異動及び職員採用時の新任職員研修を5月に実施した他、学習プログラムの開発に関わるメンバーを対象としたコミュニケーション手法に関する研修や、全職員を対象としたホスピタリティ研修を理事長主導のもとで実施した。また、全職員を対象に情報セキュリティ研修を平成25年3月に、それぞれ実施した。</p> <p>また、職員の業務能力の向上、男女共同参画に係る情報収集を図るため、外部関連機関などで実施される研修にも積極的に参加した。(17件)</p> <p>(2) 人事に関する計画</p> <p>文部科学省、国立大学、都道府県の教育委員会などと人事交流を実施し、組織活性化を図っている。また、新分野の開拓のため、企業関係に詳しい客員研究員を3名継続して導入している。</p> <p>(3) 職場環境の整備・充実に関する取組</p> <p>インフルエンザ予防接種の受診など共済組合による厚生経費を適切に活用し、職員の健康管理の支援等、職場環境の保持に努めた。</p> <p>(4) 危機管理体制等の整備・充実に関する取組</p> <p>平成26年3月3日(月)、利用者のある平日昼間の地震とそれに伴う火災発生、消火、避難誘導の訓練及び心肺蘇生の訓練を実施。</p> <p>訓練には、比企広域消防本部の消防職員立会いのもと、会館全職員及び施設委託管理業者が参加し非常時に必要な行動を確認した。起震車による強震度の地震も体験した。</p> <p>昨年度危機管理マニュアル策定委員会で作成に着手したマニュアルについて完了した。</p> <p>(5) 外部委託の活用</p> <p>施設管理、保守、消費税申告書類作成、アンケート集計や主催事業時のバス運行など事業実施に伴い派生する業務等について可能な限り外部委託を活用している。また、施設の効率的な運用を図り、職員</p>

の業務は事業の企画・実施などの専門的分野に特化する、という意図から、施設運営を民間業者に委託するPFI化について着手した。

(6) 職員評価の取組状況とそのフィードバック状況

職員評価については、従来より勤務評定を適切に行っている。

3. 自己点検・評価

各事業担当者が事業成果を「業務実績報告書」と「自己点検評価調書」で構成されるA4用紙1シートにまとめた。また、計5回実施された自己点検評価委員会（理事長、理事、課室長が出席）では、課題の検討を効率化するために、上記報告書・調書とは別に作成した「課題検討シート」に基づく議論を行い、組織内で成果と課題を共有した。

4. 外部評価委員会

(1) 6月中旬に外部評価委員会を終了、7月初旬に評価報告書を文部科学省に提出した。

(2) 第3期中期計画に記載された事業のうち、平成24年度に実施された34項目の事業について評価を行った。

その実績については、年度計画を十分に達成したものと評価した上で、男女共同参画社会づくりを支える貴重な知見が蓄積されたNVECの更なる事業展開を進めるためには、「職員の更なるプロフェッショナル化」という視点から、職員の能力開発とそれに対応した処遇の改善に取り組むことが強く望まれるとの指摘があった。

5. 評価結果についてはHPの情報公開ページにおいて、適切に公開している。

実績を裏付けるデータ

1. 常勤職員の数 平成25年度 22名（役員を除く） 【平成24年度 24名】
2. 職員採用数 1名
3. 職員研修回数 館内4回、館外17回

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
<p>独創性：運営会議や自己点検評価委員会は、職員の半数以上の出席のもと開催される。小規模組織の利点を活かし、現場（係長）からトップ（理事長）までの情報共有の下、業務改善や事業検証がなされる。</p> <p>適時性、発展性：25年度は職員の資質向上を図るため、積極的に外部組織への研修への参加を推進するとともに、館内においても「学習プログラム開発のためのスキルアップ」「ホスピタリティ」「情報セキュリティ」などをテーマとする館内研修を実施した。得られた知見、情報、ネットワークは、今後の事業企画に活かされることが期待される。</p> <p>効率性：新事業の実施に際し、当該分野に詳しい客員研究員を3名採用したことは、効率的手法である。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点 判 定	職員研修開催数 (館内4回、館外 17回)	人事交流数	常勤職員の増減数 (2名減)		
	A	A	A		
<p>○国の機関、都道府県、大学等との人事交流</p> <p>【転入】 1名（東京大学(1)）</p> <p>【転出】 3名（東京大学(1)、東京工業大学(1)、埼玉大学(1)）</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	
A	トップダウン、ボトムアップの迅速さ、職員全体の情報共有が可能であることなどの小規模組織の利点をしっかりと活用しながら、自己点検評価、外部評価を経て、着実にPDCAサイクルを回し、業務改善を図っている。
達成	職員の資質向上のため、定期的な人事交流や積極的な研修参加も実施している。

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
平成25年度は、マンパワーと業務の質の確保の必要から、将来常勤職員としての採用を見込んで、2名の特別有期職員を直接採用した。ミッション遂行のために必要なマンパワーの確保と各職員の資質向上を目指し、今後は採用した職員の育成に努める。

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅳ－(1))	(1) 契約の点検・見直し
年度計画の項目 (Ⅳ－(1))	(1) 契約の点検・見直し

事業名	契約の点検・見直し	
事業概要	引き続き、入札可能な契約案件については一般競争入札を実施する。一者応札となった契約については、公告期間、入札参加条件、仕様書の見直し等の改善を行い、一者応札の削減を図るとともに、契約監視委員会等による定期的な契約点検を実施する。	
担当課室	総務課	
スタッフ	総務課長(1)、会計係長(1)、専門職員(2)、会計係(1)	計5名

年度実績概要
<p>1 契約の競争性、透明性の確保</p> <p>(1) 契約に係る規程類の整備及び運用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省所管独立行政法人の少額随意契約に係る基準額を平成19年度より国と同基準とし、一般競争入札の範囲を拡大している。</li> </ul> <p>(2) 契約の執行体制、審査体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各課からの要望や仕様書を総務課会計係でとりまとめ、一般競争入札が必要な案件では入札を執行して契約を締結している。入札金額に満たない物品・役務・工事等の発注に対しては、過去の契約単価を調査し、複数の業者から見積書を徴収するなどして、安価な契約の締結に努めている。</li> </ul> <p>(3) 契約監視委員会を平成26年2月に開催し、随意契約、一者応札等について報告を行い、審査を受けた。指摘された事項として、例えば工事・役務・物品に分かれて契約を行ったものについて、できる限りまとめた契約</p> <p>2 契約実施状況</p> <p>(1) 随意契約の見直し状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」(平成21年11月17日閣議決定)に基づき、外部有識者2名を含む契約監視委員会を設置(平成22年11月30日)し、入札・契約の適切な実施についてチェック体制の強化を図った。</li> <li>引き続き入札可能なものについては全て入札を実施しており、平成25年度随意契約の実績は、入札不可能な水道料金、土地借料、郵便料金(信書)の3件のみ。</li> </ul> <p>(2) 一者応札について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一者応札の削減に向け、引き続き「充分な公告期間の確保、入札条件の緩和」等の努力を行った結果、当該件数については、平成25年度は7件となった。</li> </ul> <p>(3) 再委託は、無し。</p> <p>(4) 関連法人は、無し。</p>
実績を裏付けるデータ
<p>1 入札実績 : 22件【24年度 18件】</p> <p>2 随意契約状況 : 3件(水道料金(埼玉県水道局)、土地借料(埼玉県)、郵便料金(信書)(日本郵便))</p> <p>3 一者応札状況 : 7件(派遣業務: アデコ、テンプスタッフ、ヒューマンリソシア)(封書運送業務: 日本郵便)(複写機賃借・保守: 五光事務機)(PFIアドバイザー業務委託: 日本総研)(エレベーター保守業務: 日立ビルシステム)</p> <p>4 一者応札の原因分析:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>派遣業務については、十分な公告期間を設けて実施したが、求職希望者が少ない秋から年度末にかけて募集を行ったため一者応札となった。</li> <li>封書運送業務については、23年度の契約相手方の落札価格が低かったため、他の応札者がなく、24、25年度一者応札となっている。</li> <li>複写機賃借・保守については、3社から問い合わせがあったが、消費税の駆け込み需要のため、納品が難しく、2社が辞退した。</li> <li>PFIアドバイザー業務は、3社から問い合わせがあったが、アドバイザー経験の豊富な1社のみ応札。</li> <li>エレベーター保守業務は、落札者のエレベーターが設置されているため。</li> </ul>

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観点	適時性	効率性			
判定	A	A			
<p>適時性：少額随意契約に係る基準額の国への準拠や「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成21年11月17日閣議決定）に基づく契約監視委員会の設置等、適切な処置がなされている。</p> <p>効率性：一者応札の削減に向け、引き続き十分な公告期間の確保、入札条件の緩和など、契約業務を効率的に実施した。</p> <p>事柄の性格上、定められた手続きの適切な適用に尽力した。</p>					

## 2. 定量的評価

観点	随意契約数	一者応札数	契約監視委員会開催数		
判定	A	B	A		
<p>○随意契約数 25年度3件【23年度4件】</p> <p>○一社応札数 25年度7件【23年度1件】</p> <p>○契約監視委員会開催数 契約監視規程に基づき、25年12月に確実に実施。【24年12月】</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	整備された規程に基づく契約が執行されており、透明性も確保されている。契約監視委員会も確実に開催されている。
達成	随意契約は、入札契約とすることが不可能な水道料金、土地料金、郵便料金（信書）の3件のみに限られていることに加え、低価格物品等の調達等においても、複数業者からの見積り徴収を徹底しており、契約に関する競争性も確保されていると言える。

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
引き続き、適正な契約の実施に努め、NVECホームページ等を用いた積極的な情報公開により公平性・透明性の拡大を図る。

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅳ－(2))	(2) 外部資金の導入
年度計画の項目 (Ⅳ－(2))	(2) 外部資金の導入

事業名	外部資金の導入
事業概要	科学研究費補助金等の申請や国・民間企業等からの受託事業等の積極的な受け入れを行い、外部資金を確保する。
担当課室	全課室
スタッフ	理事長、理事、全職員 計26名

年度実績概要	
<p>1. 受託事業経費 平成25年度は2機関から合計5,131千円の事業を受託。前年度比197千円増。 【平成24年度実績：2件、49,74千円】</p> <p>2. 科学研究費補助金 平成25年度は5件、合計8,826千円を獲得。前年度比12,574千円減。 【平成24年度実績：5件、21,400千円】</p> <p>3. 寄附金収入 平成25年度は目的寄附金など14件、合計833千円の収入。前年度比20千円増。 【平成24年度実績：11件、813千円】</p>	
実績を裏付けるデータ	【】内は24年度
<p>1. 受託事業経費</p> <p>(1) 女子中高生夏の学校2013 (独立行政法人科学技術振興機構JST) 2,647千円【2,098千円】</p> <p>(2) 地域別研修 (独立行政法人国際協力機構JICA) 2,486千円【2,876千円】</p> <p>2. 科学研究費補助金</p> <p>(1) 東南アジアにおける男女共同参画の政策の比較研究 2,300千円【 - 千円】</p> <p>(2) 地域の男女共同参画の取組を核とした移民女性のエンパワーメント支援に関する研究 3,600千円【5,700千円】</p> <p>(3) 若年ホームレスの生活支援と就労意欲の醸成のためのシステム構築に関する研究 1,500千円【1,500千円】</p> <p>(4) 経済インフラの社会ジェンダー分析 726千円【 - 千円】</p> <p>(5) 女性研究支援者のためのシステムの構築と政策提言のための研究 700千円【2,700千円】</p> <p>3. 寄附金収入</p> <p>(1) 女性アーカイブ寄附金 130千円【 100千円】</p> <p>(2) 科学・技術分野の女性人材育成支援事業支援寄附金 673千円【 576千円】</p> <p>(3) 女性教育振興寄附金 30千円【 137千円】</p>	

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
<p>適時性：独立行政法人の運営費が確実に削減されていく中で、受託や科研費を活用しながらの事業運営を図ることは時宜に適っている。</p> <p>独創性：男女共同参画推進や女性のエンパワーメントというテーマで資金獲得を進めているのはNVECならではの成果である。</p> <p>発展性：科学研究費補助金の獲得により実施される研究成果が、研修プログラムの開発にも活用されており、NVECの事業運営形態を活かした発展的な取組であると言える。</p> <p>効率性：科学研究費補助金の採択件数が2件増加している点や採択率が100%であることから、採択のために必要とされる業務及び時間が極めて効率的に投入されていると言える。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点 判 定	受託事業経費	科研費獲得額	寄附金収入額		
	A	B	A		
<p>1. 受託事業経費 5,131千円【昨年比 197千円増】</p> <p>2. 科学研究費補助金獲得額 8,826千円【昨年比 12,574千円減】</p> <p>3. 寄附金収入額 833千円【昨年比 20千円増】</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A 達成	科学研究費補助金の獲得額は昨年度を下回っているが、採択件数は昨年より2件増加している。収入額と経費のバランス、職員の業務負担とNVECが得られる事業成果を測った結果であり、合理的判断の結果と言える。受託事業については、前年度を上回る額を獲得しており、その採択率とともに、評価できる。

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
引き続き、外部資金導入を促進するが、特に受託事業については、収入額と事業実施にかかる経費のバランスを測りつつ、人件費をはじめとする事実上の持ち出しがないかどうかを見極めながら決定していく。

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅳ－(3))	(3) 自己収入の拡大
年度計画の項目 (Ⅳ－(3))	(3) 自己収入の拡大

事業名	自己収入の拡大
事業概要	積極的な広報活動や新たな利用者層の開拓、寄附金の拡大など自主的な取り組みのほか、受益者の負担を適正なものとする観点から、情報センターのデータベース利用に一部受益者負担を導入すること等により、自己収入を拡大する。
担当課室	全課室
スタッフ	理事長、理事、全職員 計26名

年度実績概要	
1. 積極的な広報活動（広報実施計画の実施状況）	<p>25年度新たに、埼玉県物産観光協会を通じて、NWECの利用案内について観光パンフレットやメールマガジンへの記事の掲載を行うとともに、埼玉県観光物産センターにNWECの利用案内や主催事業チラシを設置した。</p> <p>また、NWEC及び内閣府・文部科学省、嵐山町の広報誌、メールマガジン等を通して、主催事業の参加者募集をはじめ、女性アーカイブセンターの企画展示等、NWECの取組について積極的に広報を行った。また、内閣府や文部科学省が実施する全国的な会議や研修・イベント等の際に、利用案内チラシ・パンフレットやNWEC概要チラシ等の配布を積極的に行った。</p> <p>また、NWECホームページにおいて「ヌエッキーの部屋」を通じて利用団体やその利用内容、ボランティア活動、海外等からの来訪者、施設等の紹介を行うことにより、実施している事業だけでなくNWECの様々な取組を幅広く、わかりやすく情報発信した。</p>
2. 自己収入増加に向けた取組状況	<p>(1) 平成25年度は、宿泊に関する利用統計を分析した結果、東日本大震災以降、年間を通じて学校の利用が減少していたことから、職員による学校長訪問や校長会において利用受入れに関する説明を実施するとともに、女子大学の個々の教員に対するダイレクトメールの送付を行ったことにより、利用率は前年度比6.5%増の40.3%に上昇した。</p> <p>(2) 積極的な外部資金の導入を進め、受託事業2件、科学研究費補助金5件、寄附金14件を獲得した。</p>
3. 情報センターのデータベース利用に対する一部受益者負担の導入	<p>平成24年度に、一部受益者負担に向け、認証システムの導入実験を完了、システム安全性を確認したが、課金を想定していた海外のデータベースが学術認証フェデレーションにアクセスできないなど、運用面で実現性が乏しいことが判明。また、民間の情報産業会社（NTT、NEC）へのヒアリングから、現在は多くの機関が情報の無料化を進めているトレンドにあり、データベースへの課金は得策ではないことがわかった。</p> <p>今後は、自己収入の増加については、別の箇所を検討することとしていく方向で検討を進める。</p>
実績を裏付けるデータ	
自己収入の実績	
(1) 受託事業収入	5,131千円 【前年度4,937千円】
(2) 科学研究費補助金収入	8,826千円 【前年度21,400千円】
(3) 寄附金収入	833千円 【前年度 813千円】
(4) 研修施設使用料金収入	111,440千円 【前年度93,411千円】
(5) 研修等参加費用	75千円 【前年度 234千円】
(6) その他雑収入（科学研究費補助金間接経費、文献複写料、職員講演料等）	1,314千円 【前年度 5,172千円】

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
<p>適時性：研修内容の質を高め、引き続き資料代金の徴収を実施したことは、今後のNWECの継続的な事業展開を進める上で、時宜に適った取組と言える。</p> <p>独創性：科学研究費補助金の獲得は、調査研究機能を有するNWECならではの取組である。</p> <p>発展性：一部の研修において参加費や資料代を有料化したことは今後の収入増に向けた取り組みとして評価できる。</p> <p>効率性：利用を中止している温水プールを倉庫として貸出したことは、保有資産を効率的に活用しているといえる。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点 判 定	研修施設使用収入	研修参加料収入	映画等撮影収入		
	A	A	A		
<p>1. 研修施設使用収入 111,440千円 【前年度 93,411千円】</p> <p>2. 映画等撮影収入 - 千円 【前年度 219千円】</p> <p>3. 研修参加料収入 75千円 【前年度 234千円】</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	<p>利用拡大戦略に基づき、限られた職員数、経費の中で宿泊室利用率を6.5ポイント上昇させ、施設利用料金の徴収に着実に結びつけている。</p> <p>また、科学研究費補助金の獲得や、保有施設の有効活用による着実に自己収入を上げてきている。</p>
達成	

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>研修施設利用を着実に増やすとともに、特に企業や大学を対象としたセミナー等の有料化の拡大をはじめ、新たな自己収入増のためのシステムづくりの検討を引き続き進めていく。</p>

## 業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅷ-4・5)	Ⅷ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 4 施設・設備の計画的整備、快適な環境構築 5 情報セキュリティ体制の充実
年度計画の項目 (Ⅷ-(1))	Ⅷ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 (1) 情報セキュリティ体制の充実

事業名	施設・設備の計画的整備、快適な環境構築及び情報セキュリティ体制の充実		
事業概要	<p>1. 長期的視野に立った保守・管理を行うとともに、利用者が安全で快適に利用できる環境を提供するため、必要な施設・設備の改修等を計画的に進める。</p> <p>2. 施設の有効活用のための工夫に努めるべく、個々の施設の有用性についての検証を行い、具体的措置を講ずる。</p> <p>3. 情報の安全管理を徹底するため、セキュリティポリシーの見直しを定期的に行うとともに、職員研修を実施する。</p>		
担当課室	総務課		
スタッフ	総務課長(1)、会計係長(1)、専門職員(2)、係員(1) 計5名		

年度実績概要	<p>1. 施設・設備の計画的整備、快適な環境構築</p> <p>(1) 安全で快適な環境を提供するための施設計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○研修棟や本館の屋上の防水工事を実施した。</li> <li>○宿泊B・C棟の廊下の壁紙やカーペットの改修を行った。</li> <li>○その他、脆弱性のあるシステムの調査を実施し、脆弱性の対応を実施した。</li> </ul> <p>(2) 施設の有効活用のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地元菅谷小学校のマラソン大会の会場として敷地の利用を承諾(12月)するとともに、同校生徒の美術作品の展示をロビーで実施した。(3月)</li> </ul> <p>2. 情報セキュリティ体制の充実</p> <p>(1) セキュリティポリシーの見直し状況</p> <p>セキュリティポリシーに基づく実施手順について、現実に即しているか検討を行い、情報を守るためにデータセンター及びクラウドシステムへの移行を行うことが有効との結論を得て、電算機の更新の検討段階で、メールサービスの導入に切り替えることになり、平成27年1月から実施する仕様書を検討した。</p> <p>(2) 職員研修の実施</p> <p>セキュリティポリシーに関する職員研修を実施し、身近なセキュリティ対策について周知を図った。また、国立情報学研究所が実施する情報セキュリティセミナーに情報課情報係長が参加し、ウェブサイトの改ざんや情報漏洩について最近の動向と対策について情報を得た。</p>
実績を裏付けるデータ	<p>1. 施設に対する利用者の評価</p> <p>NWECを利用する団体及び個人に対し、退館時に提出する「利用者カード」により、施設等に対する評価を調査した結果、「非常に快適だった」「快適だった」で示される満足度が合計98.6%であった。</p> <p>【前年度実績 98.0%】</p> <p>2. セキュリティポリシー研修</p> <p>国際セキュリティ月間の平成25年8月1日から31日の間、ワンポイントで身近なセキュリティについて研修を実施した。</p>

## 自己点検評価調書

## 1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
<p>適時性：定期的な研修及び機会あるごとに情報セキュリティに関する注意喚起によって職員のセキュリティに関する関心を高めることができています。</p> <p>独創性：地元小学校の行事を呼び込むことで、施設を有効活用するとともに、若年層やその保護者の来館を呼び込み、NVECについて広報する機会としている。</p> <p>発展性：宿泊棟の廊下の壁紙やカーペットの改修を行ったことで、利用者の施設に対する印象がよくなり、今後の利用者増加が期待される。</p> <p>効率性：宿泊B・C棟の屋上の防水工事と同時に、腐食が見られた屋根の補修工事を実施することで、工事の短縮及び経費削減を図った。</p>					

## 2. 定量的評価

観 点 判 定	利用者の満足度	セキュリティポリシー研修の実施	セキュリティに関するトラブル件数		
	A	A	A		
<p>○「利用者カード」による設備等についての満足度 98.6%【前年度実績 98.0%】</p> <p>○ 年度計画に記載されるセキュリティポリシーに関する研修を確実に実施した。（平成25年8月1-31日）</p> <p>○ 不正アクセス、ウイルス・不正プログラム感染等により、利用者に被害を与えることがなかった。</p>					

## 3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	来館者への印象を高めるとともに、学習情報を提供するための展示パネルをロビーを中心として各所に設置したことは、利用者に快適な研修環境を提供するための工夫として評価できる。 セキュリティポリシーについても、見直しを通して更に充実したシステム構築を検討しているとともに、決められた研修を確実に実施している。
達成	

## 4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
セキュリティに関する人材が不足している。計画的・定期的な職員研修の充実によって人材育成を図っていく。

## 5. 外部評価の観点

◆ 評価の基本： ナショナルセンターとしての役割  
男女共同参画推進の中核機関  
公共性を実現する機関

評価の観点	評価する際に手がかりとなる事項の例
独自性・先駆性を有する事業を企画実施しているか 〔独自性・先駆性〕	・先行事例の有無 ・事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
新たな社会的課題の解決に向けて積極的に取り組んでいるか 〔現代的課題性〕	・事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
事業内容がよい事例として全国に広まっているか 〔モデル性〕	・他機関の事業内容の分析 ・事業内容に対する事業参加者の意見 ・事業内容に対する専門家（研究者、実践者）の意見
事業内容が日本を代表するものとして国際社会において一定の役割を果たしているか 〔国際性〕	・他国における同種の機関との関係 ・国内における代替可能な機関の有無 ・海外の専門家の評価
事業の成果が国や地方公共団体における政策の企画実施に役立っているか 〔政策性〕	・国や地方公共団体の政策担当者の意見 ・事業内容に対する専門家（研究者、実践者）の意見
事業内容が高度な専門性をもつものとして地域の関係機関の活動により影響を与えているか 〔高度専門性〕	・事業実施後における地域の関係機関の活動内容 ・事業内容に対する専門家（特に地域の研究者や実践者）の意見
事業の成果が参加者以外にも波及しているか 〔波及性・普及性〕	・事業参加者が中心となっていく講習会等の有無 ・事業に関連する分野における団体の数及びそれらの事業内容
会館のもつ内部資源を有効に活用しているか 〔内部資源の有効活用〕	・内部資源の把握とそれらに着目した事業内容の分析
関係する機関や団体のネットワークの形成を促しているか 〔ネットワークの促進〕	・ネットワーク形成に関する専門家（研究者や実践者）の意見
様々なレベルで関係者の交流を促しているか 〔交流の促進〕	・交流事業の内容（プログラム・方法・対象者など）分析 ・交流事業参加者の事業後のフォローアップ
事業成果を他の事業に活用しているか 〔事業成果の有効活用〕	・事業の成果の把握とそれらに着目した事業内容の分析
最小の投入で最大の効果を上げるという点から事業の企画実施に創意工夫を行っているか 〔効率性〕	・事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
宿泊施設を有意義に活用しているか 〔施設の有効活用〕	・宿泊に関わる事業に参加した者や関係者の意見
評価の結果を積極的に改善に結びつけているか 〔評価結果の有効活用〕	・評価結果の把握とそれらに着目した事業計画の分析

## 6. 独立行政法人国立女性教育会館の業務運営に関する計画（平成25年度）

平成25年3月29日  
文部科学大臣へ届け出

独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三号）第三十一条の規程により、独立行政法人国立女性教育会館中期計画（平成23年度3月31日文部科学省大臣認可）に基づき、平成25年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

### I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

#### 1 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上

##### (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施

###### ① 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー

- ・ 企業における人材活用の推進者、管理職、チームリーダー等を対象に、企業内の男女共同参画及び女性の活躍を促進するための実践的なセミナーを実施する。
- ・ 研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

###### ② 女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修

- ・ 全国の女性関連施設の管理職、男女共同参画行政責任者、女性団体のリーダー等を対象に、地域の男女共同参画を積極的に推進するリーダーとして必要な専門的知識、マネジメント能力、ネットワークの活用等を内容とする高度で専門的、実践的な研修を実施する。
- ・ 研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。
- ・ 研修事後に実施するフォローアップ調査の回収率を高めるとともに、研修成果の活用について、回答者の80%以上からプラス評価を得る。
- ・ 参加者の地域的なバランスを促進するため、計画的な取組を行う。

###### ③ 大学等における男女共同参画推進セミナー

- ・ 大学、短期大学、高等専門学校における意思決定組織に所属する教職員、男女共同参画推進部局の責任者等を対象に、男女共同参画意識の学内への浸透方法、女性リーダーの養成方策、地域の女性関連施設との連携方策等を内容とする高度で専門的、実践的な研修を実施する。
- ・ 研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

###### ④ 男女共同参画推進フォーラム（仮称）

- ・ 行政・企業・大学・NPO等の組織における男女共同参画推進担当者、女性団体、女性／男女共同参画センター職員、その他男女共同参画に関心のある者を対象に、男女共同参画のための意識変革、女性活躍促進、女性のキャリア形成支援、ワーク・ライフ・バランス等の課題解決に資するための研修を実施するとともに、分野横断的に、連携・協働を推進するためのネットワーク形成を図る。
- ・ 研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

## (2) 基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム、研修資料の作成

### ①大学等における男女共同参画に関する調査研究

- ・大学等の研究機関における女性研究者支援を促進するため、課題を明らかにすることを目的とした調査研究を実施するとともに、支援マニュアルを作成する。
- ・2年計画で行う調査研究の1年次として、国公立大学の男女共同参画推進機関へヒアリング調査を実施し、女性研究者支援の課題を明らかにするとともに、参考となる事例を収集する。

### ②女性関連施設に関する調査研究

- ・女性関連施設の機能の充実・強化を図るため、人材育成、災害復興時における男女共同参画の視点等、新たな課題の実態把握と分析をテーマに5年計画で行う調査研究の3年次として、男女共同参画関連情報の収集・発信に関する実態調査を実施し、報告書を作成する。
- ・作成した資料を用いた研修について、事後に実施するフォローアップ調査の充実を図り、研修の成果を的確に把握することにより、研修内容を見直す。

## 2. 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラムの開発・普及

### (1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施

#### ①教育・学習プログラムの開発

- ・男女共同参画に関する「意識の変革」を促進するために、大学・学校・企業・官公庁等の管理職・人事担当者や、児童・生徒・学生等を対象に効果的な教育・学習を支援するプログラム開発を行うことを目指し、プログラム開発に関する調査等を行う。
- ・対象に応じた効果的なプログラム開発とそのための調査・研究の実施、プログラムを実施する機関・団体に対する助言、講師紹介・派遣などのサポートを行うための体制を整備する。
- ・多様な個人のキャリアを男女共同参画の視点から社会と結びつけ長期的な視野に立ったキャリア形成に資するための専門的・実践的研修プログラムを、女性関連施設等と共同で実施する。
- ・大学等におけるキャリア教育の充実に資するよう、学生を対象としたキャリア教育プログラムを開発するとともに、開発したプログラムによる事業（単位取得授業）を大学等と連携して実施する。

#### ②男女共同参画の視点に立った若者のキャリア形成支援に関する調査研究

男女共同参画の視点に立った若者へのアプローチの方策を検討するため、女性関連施設等で大学・企業・団体等と連携して行われている若者対象の事業の現状と課題について調査研究を実施し、若者のアプローチに先進的に取り組んでいる事例等をまとめ提供する。

## (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修

### ①女性関連施設相談員研修

- ・女性のエンパワーメント支援を目指し、複雑・多様化する女性の悩みに適切に対応できる相談業務の質の向上を図るため、女性に対する暴力や女性の貧困など、喫緊の課題解決に必要な知識・技能習得のための、専門的・実践的な研修を行う。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からのプラス評価を得る。

### ②行政や関係機関と連携した喫緊の課題に対応した研修

社会が抱える様々な喫緊の課題を解決するために、行政や関係機関等が実施する研修について、これまで会館が実施してきた研修の経験や女性教育、男女共同参画等に関する専門的知識を活かし、連携して実施する。

## 3. 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等

### (1) 地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供

#### ①男女共同参画統計に関する調査研究

- ・平成23年度に作成した『男女共同参画統計データブック2012』に記載される統計データが、女性関連施設等が事業を行う際の企画・運営等に役立つよう、その提供の方法等について研究するとともに、2015年版の発行に向けて、2012年版のデータを基に、新たに必要とされているデータを検討する。
- ・統計調査の成果等を提供する「男女共同参画統計ニュースレター」の配信先を1700件まで拡充する。

#### ②調査研究成果の普及

- ・基幹的指導者の資質・能力の向上及び喫緊の課題をテーマとして実施した調査研究の成果について、ホームページや地域共同リポジトリ等を通じて普及する。

### (2) 全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供

#### ①情報資料の収集・整理・提供（大学・企業関係資料の充実）

- ・男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書について、地域レベルでは収拾困難な広域的、専門的な資料を収集するとともに、レファレンスサービス、文献複写サービス、図書資料の展示などによる情報提供を行う。
- ・引き続き大学の男女共同参画推進部署が発行する資料の収集に力を入れるとともに、企業の男女共同参画推進部署が発行する資料の収集を開始する。
- ・研修受講者への学習支援を強化するため、研修テーマに沿った資料リストを女性情報ポータル（W i n e t）に掲載するなど情報提供を充実させる。

#### ②女性情報ポータル及びデータベースの整備充実

- ・文献情報データベース及び独自の調査に基づく各種データベースについて、56万件以上のデータベース化を達成する。
- ・女性ポータルのアクセスについて、年間28万件以上を達成する。

### ③ 図書のパッケージ貸出

- ・各施設における男女共同参画事業を支援するため、テーマ毎にパッケージ化した図書の貸出を4機関以上に実施する。

## (3) 女性アーカイブ機能の充実

### ① 女性アーカイブ機能の充実

- ・歴史的価値、研究資料的価値を有する女性関連史・資料を1千点以上収集・整理し、女性アーカイブシステム及び女性デジタルアーカイブシステム、展示を通じて利用に供するとともに、インターネットを通じて広く一般に公開する。
- ・災害復興支援に各地の女性センターが果たした実績（活動記録）を女性アーカイブとして残し、公開する事業「災害復興支援女性アーカイブの構築」を、女性センター等と連携・協力して段階的に進める。
- ・展示室への入室について、累計2万7千人以上を達成する。
- ・女性アーカイブの企画展を他機関と連携して実施する。

### ② 女性情報アーキビスト養成研修

- ・女性アーカイブの保存技術や整理方法を体系的に学ぶ最初の一步として、実務者20名以上を対象に基礎情報を提供する「女性情報アーキビスト養成研修（入門）」を実施する。  
また、実務者同士の情報交換の場を提供することでネットワークづくりを推進する。
- ・入門研修の修了生10名を対象に、女性アーカイブの保存や整理に必要なとされる基本的実技を学ぶ「女性情報アーキビスト養成研修（実技コース）」を実施する。

## 4. 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進

### (1) 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施

- ・女性関連施設、女性団体、民間団体、企業、大学等と男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する情報交換を行うとともに、7以上の機関等と協働で事業を実施し、連携効果による多様な企画や講師の活用を図る。
- ・全国の関係機関・団体からの依頼に基づき、職員や客員講師を派遣する。

### (2) 交流機会の提供による会館を中心としたネットワークの構築

#### ① 男女共同参画推進フォーラム（仮称）【再掲】

- ・行政・企業・大学・NPO等の組織における男女共同参画推進担当者、女性団体、女性／男女共同参画センター職員、その他男女共同参画に関心のある者を対象に、男女共同参画のための意識変革、女性活躍促進、女性のキャリア形成支援、ワーク・ライフ・バランス等の課題解決に資するための研修を実施するとともに、分野横断的に、連携・協働を推進するためのネットワーク形成を図る。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

## 5. 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進

### (1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力、連携に資する研修の実施

#### ① アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー

- ・ 開発途上国等において男女共同参画の政策策定ならびに政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者及びNGOのリーダーを対象に、女性の能力開発に係る喫緊の課題をテーマとした参加型の実践的なセミナーを行う。
- ・ 研修実施にあたり、参加者の90%以上からプラス評価を得る。
- ・ 研修修了生等による出身国での成果の活用についての調査を行い、同調査の結果等を踏まえ、研修の効果的な実施の観点から、研修内容等の見直しを行う。

#### ② 国際協力機構との連携による研修

国際協力機構が実施する開発途上国の行政職員等を対象とした研修について、男女共同参画、女性教育に関する専門的な観点から連携して実施する。

#### ③ NWE C国際シンポジウム

- ・ 女性の人権やエンパワーメントに係る地球規模の課題をテーマに海外の専門家を招へいするNWE C国際シンポジウムを開催し、アジア太平洋地域の課題分析を行い、海外の研究者や行政関係者・女性団体等指導者との交流を深めるとともに、意見交換を行う。
- ・ 研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

### (2) 地球規模の課題についての調査研究の実施

#### ① 外国人女性の困難等への支援に関する調査研究

外国人女性の抱える困難等の実態と課題解決に向けた教育・啓発をテーマに3年計画で行う調査研究の3年次として、外国人女性の抱える困難等の実態と課題解決に向けた学習活動等に関する事例について調査研究を実施し、報告書としてとりまとめる。

### (3) 国際的なネットワークの構築

- ・ 研修修了生等に対し、研修終了後の定期的なメール送信や議論の呼びかけを通じネットワーク構築を図る。
- ・ 研修成果について、「男女共同参画推進フォーラム(仮)」におけるパネル展示や英文報告書の会館ホームページへの掲載等の方法により国内外に普及する。

## 6. 会館利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解の促進・利用の促進

### (1) 利用者への学習支援

- ・ 施設を利用する団体・グループ・個人が企画・実施する研修等のプログラムについての学習相談を受け、研修プログラム作成を支援する。
- ・ 会館が有する専門性を活かして男女共同参画や女性教育に関する学習機会を提供する。
- ・ インターネットで提供する学習教材について、試験的に提供を開始する。

## (2) 利用の拡大

利用拡大戦略（年度）を作成し、企業・大学向けのサンプルプランの作成・提案を行うなど大学・企業等からの利用を促進する。

## II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 適切な法人運営体制の充実

#### (1) ガバナンス・内部統制の充実

- ・原則として毎週、係長以上が参加する運営会議を開催し、理事長のリーダーシップのもと、会館が担う役割やリスク等の課題について職員全員が情報を共有する。
- ・職員の業務遂行に関する資質・能力の向上を目的とした研修を実施する。
- ・リスク低減に向けた規程等についての見直しを行い、職員全員に周知徹底する。
- ・会館の業務の有効性・効率性、法令の遵守、財務会計の透明性等の観点から職員全員を対象としたモニタリングを実施するとともに、結果については役職員に周知し、必要に応じて組織運営の改善に反映させる。

### 2 人件費・管理運営の適正化

#### (1) 人件費・管理運営の適正化

- ・政府における総人件費削減の取組を踏まえた見直しを行う。
- ・関係機関・団体との連携による経費等の削減に努める。
- ・関係機関・団体との人事交流や客員研究員等外部人材の活用など、多様な人材を確保することにより、組織を活性化する。

#### (2) 保有資産の見直し

- ・保有資産について、運営会議等において見直しの検討を行い、外部評価委員会等において検証する。

### 3 業務運営の改善

#### (1) 業務運営の改善

- ・効果的・効率的な業務運営を行う観点から、事務・事業の見直し、検証を定期的に運営会議で行い、業務運営に反映させる。
- ・施設の管理運営を外部委託する等、事務事業の効率化を検討するとともに、必要に応じて組織の再編等を行う。

#### (2) 人材育成、多様な人材の活用

- ・職員の資質・業務遂行能力の向上に資するため研修を実施する。
- ・外部人材の活用による組織の活性化について、引き続き検討を行う。

### 4 業務運営の点検・評価

#### (1) 自己点検・評価等による業務の改善

- ・自己点検・評価委員会による評価を実施する。その際、各事業間の有機的連携を重視した自己点検・評価を行う。
- ・自己点検と連動した外部評価を実施する。

- ・評価結果をホームページで公表する。

### Ⅲ 予算・収支計画及び資金計画

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な運営を行う。また、管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算により運営する。

- 1 予算（人件費の見積もりを含む。）  
別紙1のとおり
- 2 収支計画  
別紙2のとおり
- 3 資金計画  
別紙3のとおり

### Ⅳ 財務内容の改善に関する事項

#### （1）契約の点検・見直し

- ・引き続き、入札可能な契約案件については一般競争入札を実施する。
- ・一者応札となった契約については、公告期間、入札参加条件、仕様書の見直し等の改善を行い、可能な限り一者応札の削減を図るとともに、契約監視委員会等による定期的な契約点検を実施する。

#### （2）外部資金の導入

科学研究費補助金等の申請や国・民間企業等からの受託事業等の積極的な受入れを行い、外部資金を確保する。

#### （3）自己収入の拡大

- ・宿泊室利用率の向上等により、自己収入の拡大を図る。
- ・会館の活動について、広報実施計画（年度）を策定し、会館の利用促進を図る。

### Ⅴ 短期借入金の限度額

短期借入金の限度額は1億4千万円。短期借入金が想定されるのは、運営費交付金の受入れに遅延が生じた場合である。

### Ⅵ 余剰金の使途

会館の決算において、余剰金が生じたときは、研修事業、情報事業、調査研究事業及び交流事業の充実に充てる。

### Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

#### （1）情報セキュリティ体制の充実

セキュリティポリシーに関する職員研修を実施する。

(以上)

## 平成25年度予算

(単位:百万円)

区 別	金 額
収入	
運営費交付金	530
施設整備費補助金	—
入場料等収入	123
受託収入	5
計	658
支出	
業務経費	374
うち研修関係経費	248
うち調査・研究関係経費	38
うち情報関係経費	88
施設整備費	—
受託経費	5
一般管理費	279
計	658

[人件費の見積り]

平成25年度は177百万円を支出する。

但し、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当、退職者給与及び国際機関派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

## 平成25年度収支計画

(単位:百万円)

区 別	金 額
費用の部	
經常費用	662
業務費	379
一般管理費	276
減価償却費	7
財務費用	
臨時損失	
収益の部	
運営費交付金収益	527
入場料等収入	123
受託収入	5
施設費収益	—
寄附金収益	
資産見返運営費交付金戻入	7
資産見返物品受贈額戻入	
純利益	
目的積立金取崩額	
総利益	

## [注記]

当該法人における退職手当については、独立行政法人国立女性教育会館役員退職手当規程及び独立行政法人国立女性教育会館職員退職手当規程に基づいて支給することとし、毎事業年度に想定される全額を運営費交付金に加算する。

## 平成25年度資金計画

(単位:百万円)

区 別	金 額
資金支出	
業務活動による支出	655
投資活動による支出	3
次期中期目標の期間への繰越金	-
資金収入	
業務活動による収入	
運営費交付金による収入	530
入場料等収入	123
受託収入	5
投資活動による収入	
施設費による収入	-
前期中期目標の期間よりの繰越金	-

7. 平成26年度 国立女性教育会館外部評価委員会委員名簿

天 野 正 子 (東京家政学院大学学長)

犬 塚 協 太 (静岡県立大学国際関係学部国際関係学科教授、  
静岡県立大学男女共同参画推進センター長)

齋 藤 悦 子 (お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科准教授)

○笹 井 宏 益 (国立教育政策研究所生涯学習政策研究部長)

夏 目 智 子 (全国地域婦人団体連絡協議会事務局長)

萩 原 貴 子 (ソニー光株式会社代表取締役社長)

(○座長、五十音順)

## 8. 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会規程

### (設置)

第1条 独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）に、独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

### (役割)

第2条 委員会は、会館が実施した業務の実績に関し客観性を持った質の高い評価を行うと共に、評価を踏まえた今後の事業活動の充実及び活動内容の在り方に資する提言を行う。

### (委員)

第3条 委員会は、会館の業務に関し識見を有するもののうちから、理事長が委嘱する8名以内の委員で構成する。

### (委嘱期間)

第4条 前条に規定する委員の委嘱期間は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員を生じた場合の補欠委員の委嘱期間は、前任者の残任期間とする。

### (委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、第3条の委員のうちから、委員の互選により選出する。

3 委員長は、委員会を召集し、その議長となる。

4 委員長に事故があるときは、副委員長が、その職務を代理する。

### (関係者の出席)

第6条 委員会は、必要があるときは関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

### (庶務)

第7条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

### (雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

### 附 則

1 この規則は平成18年2月10日から施行する。

2 この規程の施行後、最初及び委員長が置かれていないときに召集される委員会の会議は、第5条第3項の規定にかかわらず、理事長が召集する。

## 9. 自己点検評価調書の記載について

### 1. 定性的評価の観点について

○各業務区分に応じた定性的評価の観点については、基本的な考え方は記のとおり。特段の事情がある場合などで、このほかの観点を使用する事が適当と思われるときは、任意に観点を設ける事も可能です。

**適時性**：喫緊の課題を踏まえたプログラムの実施や男女共同参画基本法等の政策との関連点等、時宜に合わせてその事業を実施することが、男女共同参画の推進等に資することを示すもの。

**独創性**：独自の視点による調査研究や先進的なプログラムの作成等、「国立女性教育会館ならではの」高い専門性等を示すもの。

**発展性**：会館で作成されたプログラム等をモデルとした地方の活動事例、研修やフォーラムをきっかけに拡大した女性関連団体等のネットワーク等、会館が提供した情報等で男女共同参画の展開に資するもの。

**効率性**：事業をより円滑に実施するための取組等を示すもの。

評価の観点	適時性	独創性	発展性	効率性
観点の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 政策性</li> <li>・ 必要性</li> <li>・ 国際性</li> <li>・ 緊急性</li> <li>・ ナショナルセンターとしての対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 独自性</li> <li>・ 新規性</li> <li>・ 先駆性</li> <li>・ 高度専門性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 影響性</li> <li>・ 汎用性</li> <li>・ 応用性</li> <li>・ 多様性</li> <li>・ 将来性</li> <li>・ モデル性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間的投資</li> <li>・ 人的投資</li> <li>・ 設備的投資</li> <li>・ 内部資源の活用</li> <li>・ 施設の有効活用</li> <li>・ 他機関との連携</li> </ul>

### ○定性的評価の基準

(S：極めて顕著な成果が認められる)

A：十分に成果が認められる

B：概ね成果が認められる

C：一部成果が認められる

D：成果が認められない

## 2. 定量的評価の観点について

定量的評価の観点については、原則として、中期計画、年度計画に数値的目標が掲げられているとおり、文部科学省独立行政法人評価委員会の指標を準用し設定した。なお、それ以外の定量的評価の指標については、他の指標との整合性等を考慮し独自に作成した。

事業区分	評価観点	評価基準				
		S	A	B	C	D
研修事業	応募倍率		100%以上	99～90%	89～70%	69%以下
	プログラムの有用度		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	影響評価		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
調査研究事業	プログラムの有用度		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	情報提供数（※1）		5回以上	4～3回	2～1回	0回
	プログラム・参考資料作成数（延べ）		4件	3件	2件	1件
交流事業	プログラムの有用度		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	影響評価		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
情報事業（※2）	資料等利用者数		6,000人以上	5,999～5,800人	5,799～5,500人	5,499人以下
	利用者の満足度		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	データベース化件数		500,000件以上	500,000件以上	499,999～490,000件	489,999～480,000件
	アクセス件数		120,000件以上	119,999～117,000件	116,999～114,000件	113,999件以下
	資料収集数（延べ）		5,000点以上	3,700点以上	3,699～3,000点	2,999点以下
理解・利用の促進	資料等利用者数					
	学習相談利用者の満足		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	プログラム作成数		3種類以上	2種類	1種類	無し
	宿泊利用率		50%以上	45%以上	45%未満	42.5%未満
	利用者数		122,100人以上	122,099～119,300人	119,299～116,600人	116,599人以下
	目的利用者数		61,100人以上	61,099～58,700人	58,699～58,300人	58,299人以下
連携協力	利用団体数		2,860団体以上	2,859～2,800団体	2,799～2,730団体	2,729団体以下
	共催・受託件数		6件以上	5件	4件	3件以下
国際関係	プログラムの有用度		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	活用可能性		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	連携機関数（延べ）		6機関以上	5機関	4機関	3機関以下
	プログラム・参考資料		2件	1件	0件	
業務の効率化 （平成17年度 の基準金額に 対する割合）	一般管理費効率化		85%以下	—	—	85%以上
	業務経費効率化		95%以下	—	—	85%以上
	人件費削減効率化		95%以下	—	—	85%以上

※1 男女共同参画に関する統計の調査研究に限る

※2 「資料等利用者数」「利用者の満足度」はセンターの運営、「データベース化件数」「アクセス件数」はポータルの充実、「資料収集数」「アクセス件数」「資料等利用者数」はアーカイブの構築に限る

### 3. 総合評価の判定基準の考え方

各観点評価の結果を基に、総合的判定を行うが、考え方は次のとおりとする。

S = 5点、A = 4点、B = 3点、C = 2点、D = 1点

<例>

4つの観点で評価し、Aが3つ、Bが1つの場合

$( (4点 \times 3) + (3点 \times 1) ) \div 4 = 3.75 \approx 4 \rightarrow$  総合評価 A

※S評価については、文部科学省等からその根拠について詳細な確認を求められる傾向にあります。

判定結果をSとする場合、「評価の観点」に応じた明確な理由を「理由欄」に記述してください。

### 4. 中期計画の実施状況に関する判定の考え方

判定に使用する用語は、次のとおりとする。

- A 達成 : 計画以上の成果が達成されている
- B 順調 : 計画通り実施されており、当該年度計画を95～100%達成
- C ほぼ順調 : ほぼ計画通り実施されており、当該年度計画の達成率は80～94%
- D 一部要注意 : 一部計画の実施に支障があり、当該年度計画の達成率は50～79%
- E 要注意 : 計画の実施に注意が必要であり、当該年度計画の達成率は49%以下

## 參考資料

## 平成25年度「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」実施要項

### 1. 趣 旨

本セミナーは、企業における女性の活躍推進を図り、男女共同参画社会の形成に資するため、企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進者、管理職、リーダーを対象に実施します。

オープニングセッションでは、企業経営者をお招きして女性の活躍促進のためにはどのようなマネジメントが必要なのかを考え、続いての基調講演により、女性経営者のこれまで築き上げてきたキャリアから、女性リーダーに求められるものは何かを学びます。

そして、ワークショップでは参加者の直面する疑問や課題に向き合い解決の方向を探ります。さらに、情報交流会において参加者同士による情報交換やネットワークづくりの場を提供します。

### 2. 主 催

独立行政法人 国立女性教育会館（NWE C）

### 3. 後 援

公益財団法人 21世紀職業財団

### 4. 会 場

国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728

TEL:0493-62-6718・6724 ホームページ URL:<http://www.nwec.jp/>

### 5. 期 日

平成25年10月18日（金）～10月19日（土） 1泊2日（※）

（※）初日のみの参加も可能です。

### 6. 参 加 者

企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進者、管理職及びリーダー

### 7. 定 員 80名

### 8. 日 程

10/18 （金）	13:00 13:30 13:40 14:50 15:00 16:30 16:50 17:50 18:30 20:00										
		受付	開会	オープニング セッション	休憩	基調講演	休憩	ワーク ショップ 1	休憩	※ 情報交流 会	
10/19 （土）	9:00 10:00 10:10 12:00 13:00 14:50 15:00										
	NWEC からの 情報提供	休憩	ワーク ショップ 2	昼 食	ワークショップ3		閉 会				

※「情報交流会」は、希望者のみで、有料のプログラムになります。

## 9. 内 容

第1日 10月18日 (金)

- (1) 開会 13:30～13:40  
主催者あいさつ 国立女性教育会館理事長 内海 房子

- (2) オープニングセッション

「今、女性の活躍を促進するために何が求められているのか？」

13:40～14:50

女性の活躍促進を実施している企業からの事例を踏まえて、女性の活躍を促進するための課題や、女性の活躍を創出していく上で、何が求められているかについて議論します。

ゲスト : 浦野 光人 氏 株式会社ニチレイ相談役

ゲスト : 武石 恵美子 氏 法政大学キャリアデザイン学部教授

コーディネーター : 内海 房子 国立女性教育会館理事長

### 【ゲスト紹介】

浦野 光人 氏

1971年横浜市立大学文理学部経済地理学科卒業、日本冷蔵株式会社（現株式会社ニチレイ）入社。1990年物流事業部物流企画課長、1995年低温物流企画部長兼企画課長。1997年経営企画部長、1999年取締役経営企画部長。2001年代表取締役社長、2007年代表取締役会長に就任。2013年6月から現職。人事院交流審査会委員、公益財団法人産業教育振興中央会理事長、文部科学省中央教育審議会委員、大学設置・学校法人審議会委員、公益社団法人経済同友会幹事、内閣府規制改革会議委員など、社外団体の役職を多く務める。

武石 恵美子 氏

筑波大学第二学群人間学類卒業後、労働省（現 厚生労働省）、ニッセイ基礎研究所、東京大学社会科学研究所助教授等を経て、2006年4月より法政大学。2001年お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程修了。博士（社会科学）。厚生労働省「中央最低賃金審議会」「労働政策審議会 障害者雇用分科会」および「雇用均等分科会」、東京都「男女平等参画審議会」等の公職を務める。著書に、『雇用システムと女性のキャリア』（勁草書房）、『人を活かす企業が伸びる』（共編著、勁草書房）、『女性の働きかた』（編著、ミネルヴァ書房）、など多数。

- (3) 基調講演「女性リーダーに求められるもの  
～組織におけるキャリア形成を通じて～」 15:00～16:30

これまで築き上げてきたキャリアをもとに、女性リーダーに求めるものや必要な意識、組織の中で生き抜く知恵について、お話いただきます。

講 師：井手 明子 氏 らでいっしゅぼーや株式会社代表取締役社長

【講師紹介】

井手 明子 氏

1977年早稲田大学政治経済学部卒業後、電電公社(現NTT)入社。NTTにおいてネットワーク商品の販売管理、トラフィック増収施策や人材育成を担当。NTTドコモ転籍後は、法人営業企画、丸の内支店長、フロント業務のオペレーション管理、CSR推進等を経て、2006年執行役員、2008年より広島にて中国支社長として中国エリアでの携帯事業を担当。2012年6月より情報セキュリティ部長として、情報セキュリティ推進を担当。2013年5月有機・低農薬野菜宅配事業会社である、らでいっしゅぼーや代表取締役社長に就任、NTTドコモ執行役員コマース事業推進担当を兼務、現在に至る。

～ 休憩 (コーヒーブレイク) ～

- (4) ワークショップ1 16:50～17:50  
グループに分かれて、参加者同士の背景や問題意識を共有し、対談や講演で得たことの相互理解を深めていきます。
- (5) 情報交流会 (希望者のみ参加：有料3,000円) 18:30～20:00  
全国からの参加者と交流し、参加者同士の情報ネットワークづくりを行います。  
※夕食を兼ねた立食形式の情報交流会です。

第2日 10月19日 (土)

- (6) NWE Cからの情報提供 9:00～10:00  
講 師：国立女性教育会館 研究国際室  
統計データを用いた国際比較を通じて、女性の活躍と男女共同参画の推進をわかりやすく解説します。
- (7) ワークショップ2 10:10～12:00  
グループに分かれて、リーダーシップをとる際に必要なコミュニケーション手法 (アクションラーニング) について学びます。そして、アクションラーニングで、参加者の多様な視点からの問いかけにもとづきながら、職場の課題の深掘りをすすめます。

(8) ワークショップ3 13:00～14:50  
引き続き、グループごとにアクションラーニングに基づいたディスカッションを行い、話し合ったことを発表して全員で共有します。

(9) 閉会・アンケート記入 14:50～15:00

#### 10. 所要経費

(1) 受講料 5,000円  
(初日のみ参加は3,000円・2日目のみ参加は2,000円)

(2) 情報交流会費 3,000円 (希望者のみ)  
※食堂において、1日目に夕食を兼ねた情報交流会を立食形式で行います。

(3) 宿泊費 会議期間中は1泊1,000円 (前・後泊も1泊1,000円)

(4) 食 事 カフェテリア形式の食堂を備えておりますので、ご利用ください。(1食 700円～1,000円程度)  
朝食 7:30～8:30 昼食 11:30～13:30 夕食 18:00～20:00

※(1) 受講料 (2) 情報交流会費 (3) 宿泊費 は、受付時に集金いたします。

※(4) 食費は、食堂にて個人ごとの現金払いです。

※上記費用お支払いの際、領収書を発行いたします。

## ■各プログラムについて

### 第1日 10月18日(金)

1. 研修棟2階大会議室でのオリエンテーションから始めます。前より詰めておかけください。
2. 16:30からの休憩(コーヒープレイク)では、1階ラウンジにて挽き立てコーヒー(有料)・お菓子(無料)をご用意しています。ぜひご利用ください。
3. 「ワークショップ1」は研修棟1階110研修室で行います。休憩の時間に移動ください。
4. 情報交流会に参加を希望されている方は、18:30に本館1階食堂へお集まりください。(夕食を含みます)

なお、参加を希望されない方も、食堂にて別途通常の夕食サービスをご利用いただけます。

### 第2日 10月19日(土)

1. 9:00より研修棟1階110研修室での「NWE Cからの情報提供」から始めます。開始時間までに会場へお集まりください。(会場は8:30より入場できます。)
2. 10:00からの休憩(コーヒープレイク)では、1階ラウンジにて挽き立てコーヒー(有料)・お菓子(無料)をご用意しています。ぜひご利用ください。
3. 2日間の研修について、「アンケート」記入へのご協力をお願いいたします。記入後のアンケートは、お帰りの際に名札と一緒にご提出ください。

※都合によりセミナーの途中でお帰りになられる方は、お帰りの際に当会館スタッフへご提出ください。

## ■会館ご利用に際して

### 1. 宿泊室の鍵について

宿泊室の鍵は、18日(金)「ワークショップ1」終了後~18:30までに本館フロントでお受け取りください。

※宿泊室の鍵の返却は、19日(土)8:50までに必ず本館フロントへお返しください。

外線電話を各部屋から使用した場合はチェックアウト時に料金の精算をお願いします。

### 2. 各施設の場所および利用時間・営業時間

#### 【飲み物の自動販売機】

研修棟 1階ラウンジ、 2階大会議室前ロビー  
本館 1階レストラン前  
宿泊棟 A棟1階ラウンジ、B棟1階エレベーター横奥

【貸しロッカー】※料金100円、使用後にお金は戻ります。

研修棟 1階(大階段下) 本館 1階ロビー

【共同浴場】※バス付きのお部屋にご宿泊の方もご利用いただけます。

宿泊棟1階 大浴場:女性用 小浴場:男性用 17:30~23:30

【売店】※フェイスタオル・石けん等の生活用品、お菓子、飲み物、地域のお土産など

本館フロント横 8:30~21:30

【貸出】 浴衣(150円)・バスタオル(80円)・ドライヤー(無料)

【販売】 フェイスタオル(150円)・歯ブラシセット(50円)・浴用石けん(50円)  
リンス入りシャンプー(50円)

## ■ご連絡

お帰りのバス運行について

東武東上線の電車に合わせて国立女性教育会館と東武東上線武蔵嵐山駅東口の間  
無料の貸切バスを運行します。どうぞご利用ください。

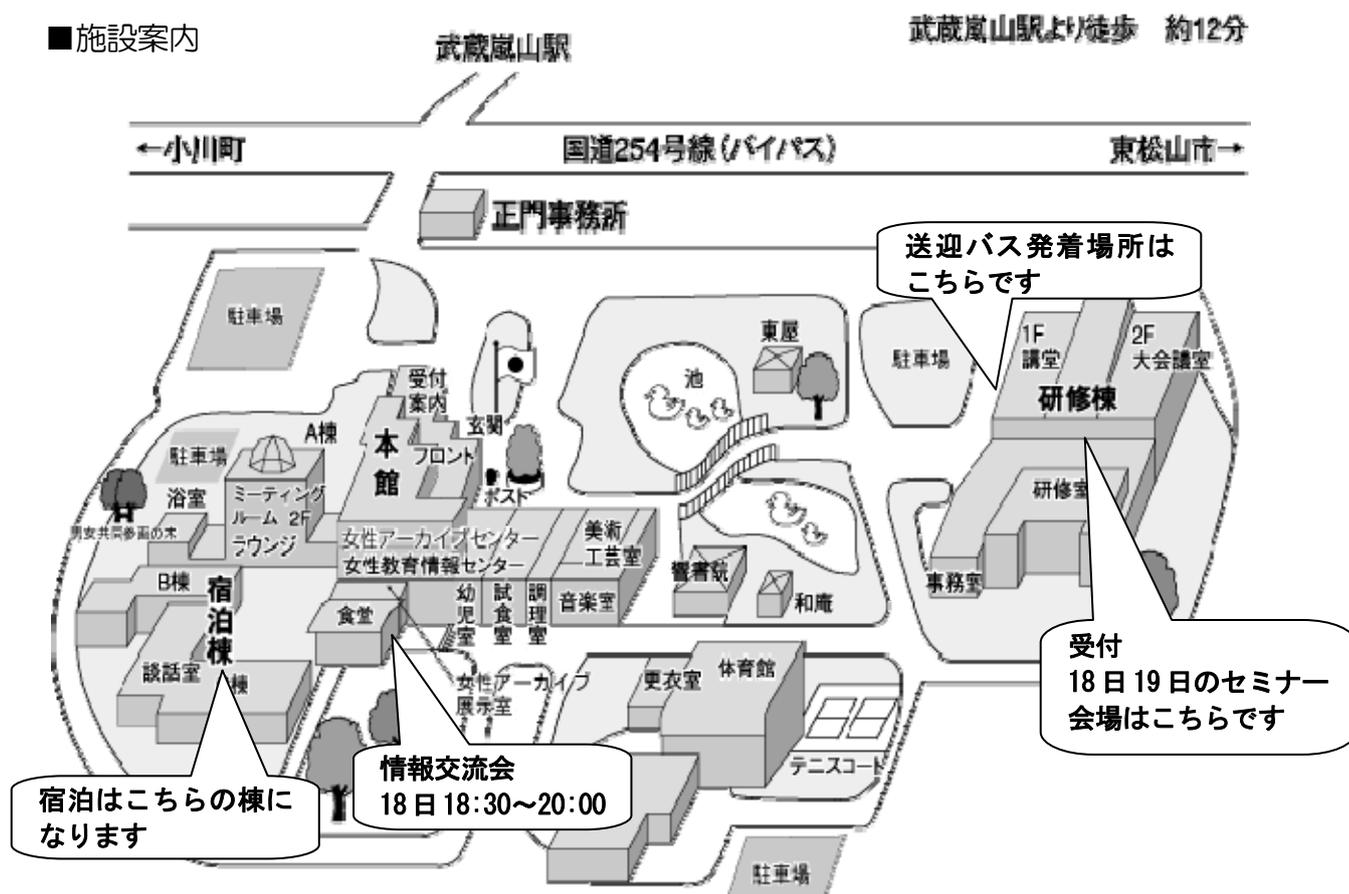
### ★18日(金)

送迎バス発車予定時刻 会館 → 武蔵嵐山駅東口	〔上り〕東武東上線 武蔵嵐山 → 池袋	〔下り〕東武東上線 武蔵嵐山 → 小川町
無料貸切バス 16:40 発 研修棟前→ 武蔵嵐山駅東口	(急行) 17:05 → 18:13 (快速) 17:17 → 18:19	(快速) 17:00 → 17:07 (急行) 17:13 → 17:20
無料貸切バス 18:00 発 研修棟前→ 武蔵嵐山駅東口	(快速) 18:21 → 19:20 (急行) 18:37 → 19:44	(急行) 18:19 → 18:26 (急行) 18:35 → 18:42

### ★19日(土)

送迎バス発車予定時刻 会館 → 武蔵嵐山駅東口	〔上り〕東武東上線 武蔵嵐山 → 池袋	〔下り〕東武東上線 武蔵嵐山 → 小川町
無料貸切バス 15:05 研修棟前→ 武蔵嵐山駅東口	(快速) 15:30→16:29	(快速) 15:30→15:37
無料貸切バス 15:35 研修棟前→ 武蔵嵐山駅東口	(急行) 15:52→17:02 (快速) 16:22→17:30	(快速) 16:00→16:07

## ■施設案内



平成25年度「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」参加者概況

定員：80

参加者：47

応募倍率：58.8%

1. 性別

	合計
女性	38
男性	9
合計	47

2. 18日オープニングセッション

	女性	男性	合計
参加	37	9	46
不参加	1	0	1
合計	38	9	47

3. 18日基調講演

	女性	男性	合計
参加	37	9	46
不参加	1	0	1
合計	38	9	47

4. 18日ワークショップ1

	女性	男性	合計
参加	23	4	27
不参加	15	5	20
合計	38	9	47

5. 18日情報交流会

	女性	男性	合計
参加	15	2	17
不参加	23	7	30
合計	38	9	47

6. 19日情報提供

	女性	男性	合計
参加	16	2	18
不参加	22	7	29
合計	38	9	47

7. 19日ワークショップ2

	女性	男性	合計
参加	14	2	16
不参加	24	7	31
合計	38	9	47

8. 19日ワークショップ3

	女性	男性	合計
参加	14	2	16
不参加	24	7	31
合計	38	9	47

※地域ブロック別参加者内訳

	女性	男性	合計	割合%
北海道・東北	—	—	—	—
関東・甲信越	33	9	42	89.3
北陸・東海	3	—	3	6.4
近畿	2	—	2	4.3
中国・四国	—	—	—	—
九州・沖縄	—	—	—	—
合計	38	9	47	100.0

9. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

	女性	男性	合計
北海道	—	—	—
(札幌市)	—	—	—
青森県	—	—	—
岩手県	—	—	—
宮城県	—	—	—
(仙台市)	—	—	—
秋田県	—	—	—
山形県	—	—	—
福島県	—	—	—
茨城県	—	2	2
栃木県	—	—	—
群馬県	—	—	—
埼玉県	15	3	18
(さいたま市)	(2)	—	(2)
千葉県	—	—	—
(千葉市)	—	—	—
東京都	17	4	21
神奈川県	1	—	1
(横浜市)	—	—	—
(川崎市)	—	—	—
(相模原市)	—	—	—
山梨県	—	—	—
新潟県	—	—	—
(新潟市)	—	—	—
長野県	—	—	—
富山県	—	—	—
石川県	—	—	—
福井県	—	—	—
岐阜県	2	—	2
静岡県	—	—	—
(静岡市)	—	—	—
(浜松市)	—	—	—
愛知県	1	—	1
(名古屋市)	—	—	—
三重県	—	—	—
滋賀県	—	—	—
京都府	—	—	—
(京都市)	—	—	—
大阪府	2	—	2
(大阪市)	(2)	—	(2)
(堺市)	—	—	—
兵庫県	—	—	—
(神戸市)	—	—	—
奈良県	—	—	—
和歌山県	—	—	—
鳥取県	—	—	—
島根県	—	—	—
岡山県	—	—	—
(岡山市)	—	—	—
広島県	—	—	—
(広島市)	—	—	—
山口県	—	—	—
徳島県	—	—	—
香川県	—	—	—
愛媛県	—	—	—
高知県	—	—	—
福岡県	—	—	—
(北九州市)	—	—	—
(福岡市)	—	—	—
佐賀県	—	—	—
長崎県	—	—	—
熊本県	—	—	—
(熊本市)	—	—	—
大分県	—	—	—
宮崎県	—	—	—
鹿児島県	—	—	—
沖縄県	—	—	—
合計	38	9	47

# 平成25年度「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」 アンケート集計結果

H25.10.28

参加者	47名	
アンケート回答数	36件	女性:27 男性:8 不明:1
アンケート回答率	76.6%	

## 1. オープニングセッション・基調講演についてご意見をお聞かせください。

- ・女性のキャリアアップの推進について、第三の道という新しい考え方に共感を持った。その道に対する具体的な方法を共に見いだしていきたいと思う。また、基調講演については具体例を示され共感した。
- ・オープニングセッション・講演→ニチレイさんの具体的なお話がとてもおもしろかった。勉強になった。「長時間労働は罪」とも印象に残った。
- ・よかった。
- ・大変勉強になった。当社の課題を具体的に考えるきっかけとヒントがたくさんあった。
- ・大変参考になった。男性の意識改革だけでなく、女性自身の意識も大切だと思うので、意識した活動を心掛けたいと思う。井手さんのお話では、リーダーシップの在り方や「見たことがないのでひるむ」など、会社に戻り共有したいと思った。
- ・とても参考になった。「女性に枠を設けてはいけない」「女性活用に理由はいらない」という言葉が印象に残った。(飲み会での裏話もよかった)
- ・女性の就労率が上がる中、管理職の登用が進まない原因は何か、改めて考えさせられた。井手さんのお話も実際に体験されたことを伺えてよかった。社会的に活躍された方も親近感が持てた。
- ・女性の活躍を推進していくのに何を大切にしていかなければいけないのかを学べ、また、LEAN INの中の話も含めての井手社長のお話で頑張っているところと思った。ありがとうございます。
- ・興味深いお話を聞かせていただいた。
- ・男性社会に女性が入るのではなく「第三の働き方」という言葉が印象的だった。時間制限のある女性の生産性は高いと思う。是非男性も時間制限のある働く機会を得て、みんなの生産性が向上し、長時間残業が少しでも削減できればよいと思った。
- ・井手さんのお話は非常に分かりやすく、自分に当てはめて考えられる内容であった。浦野さん、武石さんのお話も有意義だったが、これまでも聞いたことがあるお話だった。女性だけでなく、男女問わずどういう人が活躍できるのかという視点はとても大切だと思った。私はポジティブアクションには疑問符を持っている。
- ・異業種企業の取組、特にニチレイさんの日本の伝統的な(?)男性社会でのdiversityの取組について、失敗談から聴かせていただけるのは新鮮だった。
- ・たくさんの心に残るキーワードがあり、気づいていなかったことに気づくことが出来てよかった。井手さんの講演は具体的なイメージと方法が分かってとてもよかった。
- ・ダイバーシティ推進(=今を変える)のためのマジックはない。これは自力でやらなければ意味がないという言葉が刺さった。内海さんがおっしゃっていたように、理由はなく、今を変えるための手段として、自分たちの手で成長する社会、会社を創っていかねばならないと痛感した。
- ・オープニングセッション:いろいろな人達が活躍できる社会」「新しい第三の道を企業も追求していくべき」日本社会全体が変化していく必要を実感した。基調講演:現実の日本企業で女性が活躍していけるために非常に有意義な内容だった。自身としてはもっと早く聞きたかったと同時に、これからの方々に伝えられることは何か考えた。
- ・女性の活躍推進を企業にメリットを感じてもらえるか難しい課題である。
- ・井手様のお話は経験に基づいたもので、すんなり聞くことが出来た。最後の質問にあったような、井手様ご自身の話にも興味がわいた。
- ・第三の働き方についての考えをもっと勉強したいと思った。育成責任とマネジメントについてお考えを伺えてよかった。
- ・普段聞くことが出来ない企業の方の話聞くことができ大変参考になった。女性リーダーになるには長い道のりがやはり必要であると思う。女性の考え方も変えないとなかなか難しいと思う。
- ・オープニングセッション:浦野様の「女性活躍促進にマジックはない」、武石先生の「第三の働き方」、内海様の「理由どうこうでなく、活躍したいと思っている人が活躍しているという状況が素晴らしい」というお話が印象的だった。基調講演:井手様の実体験に基づいたお話は非常に説得力があった。
- ・ダイバーシティとプレゼンティブとの言葉を初めて知った。とても勉強になる。今までいろいろなことをしてきたが、基調講演とても楽しく拝聴した。社会とつながった気分、若い頃に戻りたくなった。ありがとうございました。
- ・武石先生、浦野様のお話は、いろんな観点からのお話で大変勉強になった。井手様のお話はご自身の体験に基づいたもので納得いくものだった。
- ・オープニングセッションの中で話の中心となっていた長時間残業についてはなかなか解決策が無いものだったので、第三の働き方というのは少しヒントになった。講演会は、井手さんの考えがとてもすんなり入り、納得のいく内容だったので、今後の施策や自分自身の考え方にもとても参考になった。
- ・大変よかった。特に、井手明子さんについては自然な感じで(かっこつけてない感じ)分かりやすかった。会社で考え方を活用できそうだ。
- ・大変参考になった。武石先生の第三の働き方についてももっと勉強したいと思う。
- ・女性の活躍推進するには何がポイントで、どのような問題「長時間勤務」など、今後取り組まなければならないことが明確な答えとして出たことがよかった。
- ・「女性の活躍推進宣言」を行っているダイバーシティ経営を目指している当社にとって、より以上進化していくため、大変よいお話を聞かせていただいた。いろいろな仕組みを整えつつある発展途上の当社にとって、女性が多い職場の課長と2人で受講させていただき聞いて学んだことを実践・行動。
- ・立派だった。自営業だが、大企業の代表経験者の経営組織上のことが大変参考になった。
- ・様々な切り口が伺え参考になった。
- ・オープニングセッションでは企業、大学を含めた問題と解決指摘が明確で非常に役に立った。基調講演では具体的な課題と解決策が提案され大変優れていた。
- ・ダイバーシティを取り巻く背景、現況についての具体的なお話が伺えて非常にためになった。また、働き方の在り方、女性が男性に近づける・男性が女性に近づける、ではなく、第三の方策もあるのではといったお話は感銘を受けた。
- ・オープニングセッションに参加し、まだまだ道中途の女性活躍であるが、こうした地道なセミナーから第一歩が始まると考える。大変よかったと思う。

- ・ 浦野光人先生の歯切れよいお話がとても参考になった。女性の活躍が最終目的でなく手段である。目的は経済発展したよい社会づくり。女性をどう活躍させるかは手段であって、目標は企業の成長という言葉が心に響いた。その結果、自分が輝けるのだと感じたので発想の展開になった。

## 2. ワークショップ1. 2. 3についてご意見をお聞かせください。

- ・ ワークショップ1→自己紹介のみだったが、異業種の方のいろいろなお話を聞くことが出来大変刺激になった。ワークショップ2・3→「質問」することの難しさを感じた。今後も意識する。相手に気づかせる。
- ・ ワークは面白かった。
- ・ ワークショップ1は、参加者とコミュニケーションを取る、相手のことを知るよい時間だった。
- ・ アクションラーニング体験は二度目だったが、質問形式で対話するのは難しいと感じた。質問することで自分の問題とも向き合えたと思う。
- ・ いろいろな会社の方の考え方を手法にそって聞けたおかげで、考えを整理することができた。ありがとうございます。
- ・ コミュニケーションの手段としても、アクションラーニングを役立てたいと思った。
- ・ 実際に起きている課題をどのように解決していくのかという手法を学ぶと同時に、他社での参考例を多く聞くことができ大変役に立った。
- ・ 多くのみなさまと様々なお話ができて楽しかった。
- ・ 自分の考えていた課題がみなさんと話をするにより、本質的な課題が見えてくると思った。会社の風土にかかわるような抜本的な課題が見つかった場合、対策の検討が難しいと思った。
- ・ 1:立場の異なる人との状況を知り、ネットワークを広げることができた。2・3:意見交換を通じて自分の問題にも参考にすることができた。
- ・ 1で自分自身のことであるのに7分間という制限で紹介することの難しさを感じた。2・3で、実体験に基づく課題で問題提示者と共に親身な問題解決策を見出すことができた。その手法で問題提示者に質問する「だけ」が非常に難しく、自分の意見を押しつけないことの難しさを感じるようになった。もっと時間をかけて更に課題に対しての取り組み方について学びたいと思った。
- ・ 課題提示者になったことでたくさんの気づきを得ることができてよかった。
- ・ ワークショップ2・3は1回でもよかった。疲れた。
- ・ 1のみの参加だったが、いろいろな方のお話が聞け有意義だった。
- ・ WS2とWS3は問題の深掘りをする過程が楽しかった。ALは非常に女性的な問題解決手法だと思う。
- ・ ワークショップは1のみしか参加できなかったが、いろいろな環境の会社があるのだなと感じた。
- ・ 業種は違っても課題は同じ内容で、解決への取り組み方を共有し考えることができたと思う。
- ・ 1～自己紹介、参加動機など時間をいただき考え、みなさんスムーズに話ができ硬さがとれ活発に意見交換できた。当社のOJTでも試してみたい。2～データから見る女性の活躍推進の現状と課題～自社の経営力向上には女性の活躍推進が必須。男性に「働きかける」3～質問する力の育成によって共通の認識が醸成していく。課題解決のための質問と振り返りにより解決の糸口が見つかった。
- ・ 今までのコミュニケーションの取り方は全て間違いではないが、意見、アドバイスを言わず、質問でアクションラーニングという言葉も初めてだった。自分が何に悩んでいるかが明白になるので感激だ。今後、家庭、会社で生かしていきたい。

## 3. このセミナーは、あなたにとって有用でしたか。

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%	※%
非常に有用であった	17	63.0	5	62.5	1	100.0	23	63.9	65.7	100.0
有用であった	10	37.0	2	25.0	-	-	12	33.3	34.3	
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	1	12.5	-	-	1	2.8		
合計	27	100.0	8	100.0	1	100.0	36	100.0	100.0	100.0

### 【非常に有用であった】理由

- ・ 同じような悩みや問題があることを知り、力がわいた。今回出来た人脈を大切に、今後の活動につなげたいと思う。
- ・ 1泊2日という短い時間だったが、充実した情報交換ができた。
- ・ 世界における日本の特異性を知ることができた。ワークショップによって、参加者同士の情報交換ができ勇気が出た。
- ・ 先行して女性活躍に取り組んでいる他社の状況を教えていただいた。
- ・ いろいろなフィールドの方とお話することができてよかった。今後、前向きに活動していこうと思った。
- ・ 他社の取組を知れ、懇親を深められた。
- ・ 自社で人事業務に携わり、ダイバーシティ戦略を掲げる一方で、進め方ばかり気にしていたのでは？と反省した。「活躍したいと思える人が活躍できる社会(会社)」心にスッと入ってきた。
- ・ 女性特有の考え方を学んだ。
- ・ 社内の意識改革に取り組む様子を知れて元気が出た。情報提供も様々な切り口があって考えさせられた。

- ・ 人生を戻すことは出来ないが、専業主婦で磨けたこともある。その中で人生を豊かにする努力をしてきた。趣味は必ず実益に結びつける努力も怠らなかった。それなりに満足した人生だったが、お話を聞いて、キャリアの人生もとても素敵で、私もしてみたかった。そういう意味で、若い人を理解して応援していく。
- ・ いろんな観点で女性活躍について考える機会を持てたので大変勉強になった。
- ・ 企業の施策や取組を聞けるセミナーはこれまででもたくさん参加してきたが、今回は井手さんの考え方を伺うことができ、また、ちょうどキャリアアップを考える上で何がネックになるのだろうと考えている時だったので、とても参考になった。
- ・ ダイバーシティ経営を目指している当社として、本日は女性職場の多い部署の課長と2名で参加させていただいた。外国人女性も含めた女性の活躍推進を図るため研修を通じ、その糸口を見つけることができた。
- ・ 具体的な役職の立場ではないが、アドバイスとして大変役立てられると思う。
- ・ 実務経営者と高等教育者の講義が有効だった。
- ・ オープニングセッションでの企業の方の発言とそれに答えた浦野先生のお話が参考になった。Q: 女性管理職30%、ダイバーシティといった言葉だけ踊っている気がする。会社はどうなるのだ。→A: マジックはない。重要な課題だ。
- ・ 何が問題なのかを明白にすることが大事。

#### 【有用であった】理由

- ・ 自分の考えを深められた。
- ・ 「女性のキャリア開発」が参考になった。社内の女性活躍を進める時に参考にしたいと思う。
- ・ 様々な視点でとらえることにより、女性自身の意識にアピールできること、また、実践方法についてもっと勉強が必要と思った。
- ・ 女性の仕事に対する意識が少し分かった。
- ・ 現状や取組など具体的に伺うことができ、参考になった。

#### 4. このセミナー全体の満足度は、いかがでしたか。

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%	※%
非常に満足した	16	59.3	3	37.5	1	100.0	20	55.5	62.5	96.9
満足した	10	37.0	1	12.5	-	-	11	30.6	34.4	
少し物足りなかった	-	-	1	12.5	-	-	1	2.8	3.1	3.1
物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	1	3.7	3	37.5	-	-	4	11.1		
合計	27	100.0	8	100.0	1	100.0	36	100.0	100.0	100.0

#### 「非常に満足した」理由

- ・ 「やる気」「何とかしなきゃ」の思いがより強くなった。他のメンバーにも参加してもらい、この思いが共有できればよいと思う。本当にありがとうございました。
- ・ なかなか直接お話を聞くことができない内海さんや井手さんのお話を伺ってとてもよかった。
- ・ 深夜まで内海理事長からお話を伺えてとても勉強になった。多くの会社の方が同じ目的で働いていることを知ることが出来たのも私にはよい刺激となった。多くのことを考えることが出来た大切な時間だった。ありがとうございます。
- ・ いろいろな方の環境や考え方を知ることになり、今後の活動に活かしていきたいと思う。アクションラーニングは職場でも実践してみたいと思う。
- ・ 異業種の方々の考え方に触れることが出来て楽しかった。
- ・ 2日目だけでは・・・のご心配を事前にいただいたが、全く問題なかった。もちろん1日目も参加したかったが。
- ・ 内海さん、頑張ってください！泊まりがけでいろいろな話ができるといいなと思ったが、今回は残念ながら日帰り。次回参加したいと思う。他社との交流も含めいろいろなお話も聞けた。その中で、感じて考えることもでき、持ち帰り、行動・実践しながら次の一手をまた考えていこうと思う。
- ・ 建設(土木工事)の現場監督さんも女性の進出が多くある。親切な対応に感謝。
- ・ 企業のグローバル組織、人材育成の必要性を感じているが、女性の活躍向上と同時に、日本人と外国人社員を含めたダイバーシティ(多様性を今後議論していただきたい。
- ・ 自分の考えを深められた。

#### 「満足した」理由

- ・ 業界によって女性の活躍推進の度合いは違うので、進んでいる会社のお話を聞け、とても勉強になった。休憩の時のおやつがとても有り難かった。もっと参加会社が増えればよいと思う。ありがとうございました。
- ・ 親世代は少子化のためにも、男も女も子どもの頃から家事労働を出来る人に育てることがポイントの一つではないだろうか。
- ・ 女性の視点、女性の考え方、女性だからこそその特質に関わるお話などが伺えたことが非常に貴重だった。(女性のリーダーシップの在り方、多様性)

「少し物足りなかった」理由

- ・ 同業社がいなかったことが残念。

5. あなた自身についてお聞かせください。

【このセミナーをどのように知りましたか】(複数回答あり)

	人数	% (36名中)
会館のホームページ	2	5.6
会館のメルマガ	1	2.8
『ダイバーシティ経営企業100選』に選ばれた企業への会館からの案内	2	5.6
NWEC職員	1	2.8
理事長からの案内	7	19.4
人事部からの連絡	2	5.6
上司からの紹介	3	8.3
職場	2	5.6
関係者からの紹介	1	2.8
埼玉県経営者協会	3	8.3
埼玉経営品質協議会	1	2.8
労政時報のメルマガ	1	2.8
元日本IBMの西嶋氏からの紹介	1	2.8
メール(どこからかは失念)	1	2.8
友人	1	2.8
ボランティア連絡	3	8.3
無回答	6	16.7

【社名(所属)をセミナー参加団体として公表してよろしいですか】

	人数	%
可	27	75.0
不可	2	5.6
分からない	1	2.8
無回答	6	16.6
合計	36	100.0

- \* ボランティア1含む。
- \* 社名でなく屋号のため、それでもよければ公表可1含む。
- \* ボランティア1含む。

【社名(所属)公表可の参加団体】

NO.	社名(所属)	NO.	社名(所属)
1	アピ株式会社(2名)	11	NECラーニング株式会社
2	東彩ガス(2名)	12	NECソフト株式会社
3	NEC(2名)	13	東京トヨペット株式会社(2名)
4	NECシステムテクノロジー株式会社(2名)	14	株式会社東芝
5	第一生命保険	15	栗田アルミ工業株式会社(2名)
6	株式会社キャッチネットワーク	16	若葉産業株式会社
7	(株)ニチレイフーズ	17	(株)ネットラーニング
8	埼玉県庁	18	(株)システムサイエンス研究所
9	嵐山町役場(2名)	19	(一社)参画社会地域フォーラム
10	(株)サイサン	20	NWECボランティア

\* フューチャーズ(屋号でもよければ公表可)

## 平成25年度 第2回「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」実施要項

### 1. 趣 旨

本セミナーは、埼玉県経営者協会が実施するウーマノミクス推進委員会と連携し、企業における女性の活躍推進を図り、男女共同参画社会の形成に資するため、主として埼玉県経営者協会加盟企業の経営者、役員、管理職、現場で活躍する女性リーダーなどを対象に実施します。

### 2. 主 催

独立行政法人 国立女性教育会館（NWE C）

### 3. 共 催

一般社団法人 埼玉県経営者協会ウーマノミクス推進委員会

### 4. 後 援

経済産業省 関東経済産業局（申請中）

### 5. 会 場

大宮ソニックシティビル4階 市民ホール403・404

〒330-8669 さいたま市大宮区桜木町1-7-5

<http://www.sonic-city.or.jp/>

### 6. 期 日

平成26年3月4日（火） 13時30分～16時30分

### 7. 参 加 者

企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進者、管理職及びリーダー

### 8. 定 員

100名

### 9. 参 加 費

無料

### 10. 日 程

	13:00	13:30	13:40	14:40	15:00	16:20	16:30
3/4 (火)		受付	開会	事例発表	休憩	パネル ディスカッション	閉会・ アンケート 記入

## 11. 内 容

- (1) 開会 13:30～13:40
- (2) 事例発表 13:40～14:40  
「女性の活躍により飛躍する企業からの報告」をテーマに、女性の活躍促進の取り組み事例を3社の方に発表していただきます。  
事例発表者  
二木 綾子 東彩ガス株式会社フォローアップチーム リーダー  
松橋 卓司 株式会社メトロール 代表取締役社長  
伊藤 麻美 日本電鍍工業株式会社 代表取締役
- (3) パネルディスカッション 15:00～16:20  
「女性の活躍促進のために、今、何が必要か」をテーマに、事例発表に引き続き3社の方をパネリストとして迎え、コーディネーターのもと、女性の活躍を促進するための課題や、女性の活躍を創出していく上で、何が求められているかについてディスカッションしていただきます。  
パネリスト  
二木 綾子 東彩ガス株式会社フォローアップチーム リーダー  
松橋 卓司 株式会社メトロール 代表取締役社長  
伊藤 麻美 日本電鍍工業株式会社 代表取締役  
  
コーディネーター  
内海 房子 独立行政法人国立女性教育会館 理事長
- (4) 閉会・アンケート記入 16:20～16:30

## 12. 申込方法・期限等

- (1) 申込方法  
添付のちらし裏面の申込書に必要事項を記入し、下記あて先までFAXにてお申し込みください。  
あて先 一般社団法人埼玉県経営者協会  
FAX番号 048-641-0924
- (2) 申込期限  
平成26年2月25日(火)(必着)  
※ 先着順に受け付けます。期間内でも定員に達した場合は申込の受付を締め切らせていただきますので、ご了承ください。

## 13. その他

研修中、職員が撮影した写真を事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

## 第2回「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」 アンケート集計結果

参加者 46名  
アンケート回答数 32件 女性：15 男性：10 不明：7  
アンケート回答率 69.6%

### 1 この研修全体は、あなたにとって、有用でしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%	※%
非常に有用であった	5	33.3%	5	50.0%	4	57.1%	14	43.7%	43.7%	93.7%
有用であった	10	66.7%	5	50.0%	1	14.3%	16	50.0%	50.0%	
あまり有用でなかった	-	-	-	-	2	28.6%	2	6.3%	6.3%	6.3%
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	15	100.0%	10	100.0%	7	100.0%	32	100.0%	100.0%	100.0%

#### <意見・感想等>

##### 「非常に有用であった」理由

- ・ やりがいを与える、やりがいと感じる力が女性の方が強いのかも知れません。男性は働かれないという選択で生きている中、女性は働かなくても良い中で働こうと思う意志があるからでしょうか？元気のいい女性社員をとらうと思いました。
- ・ 伊藤社長の話しで0からの出発にもかかわらず、強い意志をお持ちで今の会社経営に変えられたのはすばらしいと思いました。
- ・ あらためて、自分のためにも、子供のいる後輩の女性のためにも、がんばろうと思えた事
- ・ 女性の活躍事例が具体的で実践したいと思わせていただいた。
- ・ 組織マネジメントの話は素晴らしかった。
- ・ 両立支援制度など、女性の働きやすい環境づくりに関する組織をもっと聞きたかった。
- ・ 女性と男性の違いを認識した上で、仕事上の取引先との付き合い方等で役立てることができればと感じました。
- ・ 女性の特長を活かした職場での活躍について多くの参考になる話を聴くことができた。
- ・ 女性社員活用におけるヒントが多々あった。
- ・ すぐにでも女性を(営業職)活用しようと考えていました。とても役に立ちました。
- ・ 女性特有の特性や能力を生かせる職場にできるかが課題
- ・ 自分の職場(部署)が女性2名なこともあり、女性の立場から会社へ貢献することへのヒントを多く頂きました。伊藤社長の“子供の頃習った(片づけ等)当たり前のこと、社内でのコミュニケーション”というお話しはすぐにでも役立てたいと思います。

##### 「有用であった」理由

- ・ 普段、仕事をしている中で他社の取締役の方はもちろん、実際に活躍されている方の話を聞く機会が無かったため
- ・ 女性社員が多い職場のため、自分自身がどうあるべきなのか、また登用するにも自分のようになりたいたいと思ってもらえるよう今以上に考えて行動したい
- ・ お客様の立場に立った提案、女性のアイデアや使命感職責に適したスキルやマインドを自社事例に当てはめて考えることができた。
- ・ 実際に女性が活躍している企業の話が聞けて、自分のモチベーションが上がりました。また、特に伊藤社長のお話が心に残りました。
- ・ 女性の職域を限定せず、やる気がある人に任せるべきだということが必要だと感じられてよかった。
- ・ 各企業の会社にとっての目標、目的を聞く事が出来、参考になった。
- ・ 当社がいかに遅れているか感じた。
- ・ 非常にわかりやすいセミナーでした。
- ・ 東彩ガス6名リフォームアドバイザー活躍。女子力向上委員会、研修内容。
- ・ 各社の取組みの具体例や女性が職場で活躍していく上で男性には感じられない難しさ、バリアのようなものがあることを知ることができたこと。
- ・ 使命感、女性特有・・・人材は教育ではなく発掘←納得できました。

##### 「あまり有用でなかった」理由

- ・ ポイントに対する資料不足

### 2 このセミナー全体の満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%	※%
非常に満足した	5	33.3%	4	40.0%	3	42.9%	12	37.5%	37.5%	93.7%
満足した	10	66.7%	5	50.0%	3	42.9%	18	56.2%	56.2%	
少し物足りなかった	-	-	1	10.0%	1	14.2%	2	6.3%	6.3%	6.3%
物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	15	100.0%	10	100.0%	7	100.0%	32	100.0%	100.0%	100.0%

<意見・感想等>

#### 「非常に満足した」理由

- ・女性の方が前を見て歩いているというのが伝わりました。面接(就職活動)を行っていても女性の方がはっきりとした意見をもっていると思います。女性の入社を増やしたいと思ってしまいました。
- ・初めてこのようなセミナーに参加させて頂いて、いろんな分野の方のお話を聞けた事は今後の仕事にとっても役立つと思います
- ・男性の目線から、新鮮に感じたことと、男性も女性に見習い、前向きな考え方と顧客目線で業務に向かう大切さが理解でき満足
- ・女性社員活用におけるヒントが多々あった。
- ・(株)メトロールさんの資料も印刷して頂けると良かったです。
- ・普段職場で同じように働いているとどうしても閉じこもってしまう、視野が狭くなってしまいう中で、本日他の企業の方のお話を聞けたことはとても勉強になり、参考になりました。

#### 「満足した」理由

- ・実際に会社の中でどのような仕事を女性に任せているのかを聞く事が出来たので
- ・色々な意見や考えを聞くことが出来参考になりました。ありがとうございました。
- ・女性を採用するメリットについてたくさん話をうかがうことができたが、自分の身を正すためにもデメリットについてももっと聞きたかったです。
- ・様々な意見を聞いて、勉強になりました。
- ・使命感をもち目標をもって取組む人材の必要性を強く感じました。
- ・即、明日から実行できるような対策に結びつかなかった。気持ちは引きしまったが行動が伴わない。
- ・創業社長としての強みを強く感じられおもしろかった。
- ・女性の能力の活用方法、男性に負けないスキル
- ・普段感じられない視点での物事の検討がたいへん興味深かった。
- ・率直な意見が聴けたこと、また会社役員としての取組みに対する意気込みなどについて聴くことができ大変参考になりました。
- ・女性の活躍されてる会社の事例は、大変参考になりました。
- ・パネリストのお話がとてもおもしろく、楽しく聞くことができました。
- ・女性に特化したチームや改善活動サークルなどの組織にする活動
- ・女性が活やく出来る用、会社じたいで作らなければいけない

#### 「少し物足りなかった」理由

- ・下記テーマについて話しが有れば・・・

### 3 今後、このセミナーで取り上げて欲しいテーマ・内容・方法等について

- ・「女性が働きやすい職場づくり」について、具体的な事例をよりくわしくききたいと感じます。
- ・女性だけでなく男性社員が成長できる！！と思わせるセミナーに参加させたいと考えております。忙しさを理由に適当な行動、言動が多いです。いつも言い訳ばかり。又は、だまります。男女ともモチベーションが上がる話を聞かせて下さい。
- ・「子育てしながら働くこと」に対して否定的な上司、幹部へのアプローチの仕方。
- ・自動車、販売会社の女性活用について取り上げてほしい
- ・コストをかけずに活き活きと女性に活躍してもらう方法。不満を持ち、イヤイヤ働く女性を活き活きと働くようにする制度、行動、面談方法など。
- ・現場での詳しい事例報告が欲しかった。女性での苦情、困難等
- ・今日同様のセミナーの他の企業の事例を聴いてみたいと思います。
- ・女性管理職への登用の課題と対応策
- ・“女性が活躍するために男性が考えなければならないこと”“女性登用について”“家庭と仕事の両立について”
- ・パワーポイントは、わかり易いが、聞いただけでは時間と共に忘れてしまうため、資料があったほうが良いと思う。
- ・またこういった他の企業の方、企業で働く女性の方のお話を聞く機会があればぜひ参加したいと思います。

#### ◆性別

		%
女性	15	46.8
男性	10	31.3
不明	7	21.9
合計	32	100.0

#### ◆年代

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
20代	2	13.3	-	-	-	-	2	6.3
30代	5	33.3	3	30.0	-	-	8	25.0
40代	5	33.3	1	10.0	1	14.3	7	21.9
50代	2	13.3	6	60.0	1	14.3	9	28.0
60代	1	6.8	-	-	1	14.3	2	6.3
無回答	-	-	-	-	4	57.1	4	12.5
合計	15	100.0	10	100.0	7	100.0	32	100.0

平成25年度

「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」  
実施要項

1. 本年度テーマと本研修の目的

**テーマ：男女共同参画の現在（いま）を見つめ、これからの在り方を考える**

本研修は、地域で男女共同参画を推進する女性関連施設管理職・地方公共団体職員・団体リーダーのエンパワーメントと連携・協働関係の構築を支援し、持続可能な組織の在り方や、第3次男女共同参画基本計画を実現するための施策・事業の在り方を学ぶことを目的としています。

2. 本研修の特徴

- ①男女共同参画の視点を持ち、実態把握・課題分析を行い、実践に結びつけます。
- ②男女共同参画の中核となるリーダーの、関係力・連携力の向上を図ります。
- ③実践事例を重視し、課題解決につなげます。
- ④研修の成果を地域に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ活かす、というサイクルを考えたプログラムとなっています。

3. 主 催

独立行政法人国立女性教育会館

4. 共 催

NPO 法人全国女性会館協議会（女性関連施設管理職コースにおける共催となります）

5. 参加者

- (1) 女性関連施設管理職コース：50名  
公私立女性会館・女性センター、男女共同参画センター等、男女共同参画社会の形成に向けた拠点としての施設の管理職
- (2) 地方公共団体職員コース：35名  
都道府県・市区町村の男女共同参画推進責任者
- (3) 団体リーダーコース：35名  
地域で男女共同参画を推進する団体等のリーダー

6. 日程

6/12 (水)	10:40	11:40	12:15	13:00	13:25	15:10	16:50	17:40	19:00	20:30
	プレ・ワーク ショップ		受付	開 会	講演	関係省庁報告 情報提供	調査 報告	夕 食	情報 交換会	
6/13 (木)	9:00	10:40	12:00	13:20			17:10	17:40	19:00	20:30
	講義	課題把握 討議	昼 食	コース別 ワークショップ I			情報 提供	夕 食	自由交流	
6/14 (金)	8:50	11:35	12:40							
	コース別 ワークショップ II	全体会	閉 会							

## 7. 内容

### 第1日 6月12日(水)

(希望者のみ参加)

10:40~11:40

#### プレ・ワークショップ「男女共同参画推進の基礎知識」

主に初任者を対象として、日本における男女共同参画推進の歴史的背景など基礎知識を学びます。

講師：石崎 裕子 国立女性教育会館事業課専門職員

#### (1) 開会

13:00~13:20

①主催者あいさつ

内海 房子 国立女性教育会館理事長

②共催者あいさつ

桜井 陽子 全国女性会館協議会理事長

#### (2) プログラムの趣旨説明

13:20~13:25

森下 敏広

国立女性教育会館事業課専門職員

#### (3) 講演「男女共同参画の<sup>いま</sup>現在とこれからの在り方

～国際的な視野から日本の男女共同参画を見る～

13:25~14:55

★男女共同参画への深い理解と実践から、男女共同参画を推進する地域のリーダーに必要な知見や問題意識への理解促進を図ります。

講師：橋本 ヒロ子

国連女性の地位委員会日本政府代表

十文字学園女子大学教授、十文字中学・高等学校校長

#### (4) 報告「男女共同参画社会形成に向けた今日の政策課題」

15:10~16:40

★関係府省からの施策説明に加え、参加者の質疑応答から、今知りたい国の動向や、男女共同参画推進のポイントを探ります。

講師：宮本 隆 内閣府男女共同参画局推進課課長補佐

講師：藤江 陽子 文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課課長

講師：度会 哲賢 厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課母子家庭等自立支援室室長補佐

コーディネーター：西澤 立志 国立女性教育会館理事

#### 情報提供「NWE Cの取り組みについて」

★今後のNWE Cの取り組みについて、報告します。

報告者：櫻田 今日子 国立女性教育会館総務課専門官

#### (5) 報告「男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究」

16:50~17:40

★国立女性教育会館で実施した調査研究の成果をもとに、男性の家庭・地域への参画を促進するための方策について考えます。

講師：飯島 絵理 国立女性教育会館研究国際室客員研究員

渡辺 美穂 国立女性教育会館研究国際室研究員

#### (6) 情報交換会（\*希望者のみ参加:有料1,000円）

19:00~20:30

★全国からの参加者と交流し、今後の活動に役立つ関係づくりを図ります。

**第2日 6月13日(木)**

**(7) 講義「男女共同参画社会の実現のために、**

**今、私たちは何をすればよいのか～現状と課題～**

9:00～10:30

- ★「男女共同参画社会の実現のために、今、私たちは何をすればよいのかを現状と課題から考えます。

講師：鹿嶋 敬 実践女子大学人間社会学部教授

**(8) 討議「課題把握のためのディスカッション」**

10:40～12:00

- ★予算縮小、人員削減、庁内連携、地域住民への啓発、効果的な事業の進め方など、各施設、地方公共団体及び女性団体が抱える問題を把握し、課題の明確化・共有化を図ります。

報告者：納米 恵美子 公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会理事・事業本部長

報告者：萩原 綾子 静岡県健康福祉部子ども未来局局长

報告者：山口 文代 NPO 法人パートナーシップながれやま代表

コーディネーター：西山 恵美子 国立女性教育会館客員研究員

**(9) コース別ワークショップⅠ**

**「事例に学ぶ～男女共同参画の視点で地域課題を解決する組織の在り方～**

13:20～17:00

- ★事例報告に基づきグループワークを行い、実践に役立つ力をつけます。

**<女性関連施設管理職コース>**

**テーマ「危機を乗り越えるために必要な組織マネジメント力」**

◎組織の存続危機や大震災等、想定外の状況に直面した際、これまでの組織の在り方を見直し、その危機を乗り越えるための解決策を身につけます。

報告者：田端 八重子 もりおか女性センター センター長

報告者：仁科 あゆ美 一般財団法人大阪府男女共同参画推進財団理事兼統括  
ディレクター

ファシリテーター：小山内 世喜子 青森県男女共同参画センター副館長

**<地方公共団体職員コース>**

**テーマ「官官・官民・多様な団体との連携と、施策・事業の推進」**

◎柔軟な発想で、多様な団体との連携により地域課題を解決していく施策・手法を考えます。

報告者：野口 登志子 鳴門市健康福祉部人権推進課係長

報告者：渡辺 泰浩 大分県消費生活・男女共同参画プラザ課長補佐

ファシリテーター：荒巻 千枝子 千葉県環境生活部県民交流・文化課副主幹

**<団体リーダーコース>**

**テーマ「地域資源を活かした事業展開」**

◎地域課題を事業に結びつける組織運営、人材・施設・財源など地域資源の有効なネットワークづくりなど、組織活性化に向けた手法を考えます。

報告者：西田 京子 NPO 法人たすけあい佐賀代表

報告者：吉田 恭子 NPO 法人エンツリー理事長

ファシリテーター：廣瀬 隆人 宇都宮大学教授

(希望者のみ参加)

**情報提供「NVEC 情報機能の最新情報」**

17:10～17:40

NVEC の情報機能は、常に進化しています。女性情報ポータルの新機能、リニューアルした女性デジタルアーカイブシステム、新しく公開した震災 NVEC 災害復興支援女性アーカイブ等について、情報提供します。

説明：森 未知 国立女性教育会館情報課専門職員

**(10) 自由交流** (希望者のみ参加)

19:00～20:30

★参加者がテーマごとに有志で集い、情報交換や交流を行います。自由交流を希望する方は、参加申込書の所定欄に、希望テーマを記入いただきます。

また、テーマの一つとして NVEC 職員による「第 57 回国連女性の地位委員会についての報告」を行います。

**第 3 日 6 月 1 4 日 (金)**

**(11) コース別ワークショップⅡ**

**「参加者の事例を検討する～男女共同参画の視点で地域課題を解決する事業の在り方～」**

8:50～11:20

★第 3 次男女共同参画基本計画に則り、地域で推進するための事業の在り方について、コース別に検討します。参加者が実践しているまたは、実践予定の 1～2 事例に沿った検討を通じて、実務に活かせるヒントを得ます。

**<女性関連施設管理職コース>**

「既成概念を打ち破り、発展する男女共同参画事業の進め方」

◎困難な状況に陥った際、どうやって地域課題を解決する事業を推進すればよいのか、被災地である福島県と行列ができる講座でおなじみの「エセナおた」から学びます。

報告者：中野 伸介 福島県男女共生センター副館長

報告者：坂田 静香 大田区立男女平等推進センター「エセナおた」センター長

ファシリテーター：木須 八重子 公益財団法人せんだい男女共同参画財団理事長

**<地方公共団体職員コース>**

「第 3 次男女共同参画基本計画を地域で実現する事業の在り方」

報告者：鈴木 紀美代 静岡県くらし・環境部県民生活局男女共同参画課課長

報告者：宮川 ゆり子 小山市総務部男女共同参画課課長

ファシリテーター：荒巻 千枝子 千葉県環境生活部県民交流・文化課副主幹

**<団体リーダーコース>**

「第 3 次男女共同参画基本計画に応える事業の在り方」

報告者：米山 麻以子 公益財団法人東京 YWCA 主任

報告者：旭 多貴子 さんかく 21・安城、あいち国際交流はなのき会

ファシリテーター：廣瀬 隆人 宇都宮大学教授

**(12) 全体会「第3次男女共同参画基本計画実現に向けた連携・協働の在り方」**

11:35~12:35

★ワークショップで話し合われた内容の各コースファシリテーター報告を元に、連携・協働の在り方について討議を行います。

報告者：木須 八重子 公益財団法人せんだい男女共同参画財団理事長

報告者：荒巻 千枝子 千葉県環境生活部県民交流・文化課副主幹

報告者：廣瀬 隆人 宇都宮大学教授

コーディネーター：西山 恵美子 国立女性教育会館客員研究員

**(13) ふりかえり**

12:35~12:38

★アンケート記入

**(14) 閉会**

閉会あいさつ

西澤 立志 国立女性教育会館理事

12:40 終了

**8. 研修成果の活用プラン**

研修の受付当日、アンケートと共に「研修成果の活用プラン」を配付いたします。研修後の成果活用を計画いただき、お帰りの際に提出いただきます。

**9. その他**

- (1) 6月12日（水）と14日（金）に、国立女性教育会館と東武東上線武蔵嵐山駅間で無料送迎バスを運行いたしますのでご利用ください。
- (2) 期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。
- (3) 研修期間中、参加者の所属する施設や団体、地方公共団体等のパンフレットやチラシなどを自由に交換する情報交換コーナーを設置します。お持ちになった資料は各自で所定の場所に並べ、参加者の方が資料を自由にお持ち帰りできるコーナーです。

平成25年度「女性関連施設・地方公共団体職員・女性団体リーダーのための男女共同参画推進研修」参加者概況

2013年6月18日 現在

1. 性別

	参加者			
	女性関連施設管理職	地方公共団体職員	団体リーダー	総計
	計	計	計	計
女性	51	29	56	136
男性	12	10	5	27
計	63	39	61	163

定員 120 名  
 申込者数 179 名  
 キャンセル 16 名  
 参加者数 163 名 \* プレ・ワークショップのみ  
 定員充足率 135.8 % 参加13名を含む

2. 年代別

	女性関連施設管理職		地方公共団体職員		女性団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
20代	1	-	3	1	-	-	4	1	5
30代	3	1	5	1	2	-	10	2	12
40代	6	2	12	4	5	-	23	6	29
50代	22	9	9	4	12	-	43	13	56
60代	11	-	-	-	24	4	35	4	39
70代以上	-	-	-	-	12	1	12	1	13
無回答	8	-	-	-	1	-	9	-	9
計	51	12	29	10	56	5	136	27	163

3. 勤務形態

	女性関連施設管理職		地方公共団体職員		女性団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
常勤 (専任)	27	8	17	8	5	-	49	16	65
(兼任)	2	-	6	-	2	-	10	-	10
無回答	7	2	5	2	1	-	13	4	17
非常勤 (専任)	4	1	-	-	1	-	5	1	6
(兼任)	2	-	-	-	1	-	3	-	3
無回答	-	-	-	-	2	-	2	-	2
嘱託 (専任)	3	-	-	-	1	-	4	-	4
(兼任)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	6	1	1	-	43	5	50	6	56
計	51	12	29	10	56	5	136	27	163

4. 施設区分(女性関連施設管理職コースのみ)

	女	男	計
(1)公立Ⅰ:管理運営者が教育委員会	3	-	3
(2)公立Ⅰ:管理運営者が男女共同参画担当部課	13	4	17
(3)公立Ⅱ:指定管理者を導①運営者が財団法人、社団法人、任意団体等	14	7	21
②管理運営者が企業	4	-	4
③管理運営者がNPOなど	10	-	10
(4)私立	-	-	-
(5)その他	7	1	8
(6)無回答	-	-	-
計	51	12	63

\* その他の内容 \*

5. プレ・ワークショップ「男女共同参画推進の基礎知識」

	女性関連施設管理職		地方公共団体職員		女性団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
基礎知識	19	6	18	6	21	2	58	14	72

\* 参加者数

6. 情報提供「NWEC情報機能の最新情報」

	女性関連施設管理職		地方公共団体職員		女性団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
見学	25	10	16	5	17	-	58	15	73

\* 申込者数

7. 会館の利用歴(複数回答)

	女性関連施設管理職		地方公共団体職員		女性団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
会館が主催する男女共同参画に携わるリーダー向け研修に参加したことがある	10	4	4	1	14	-	28	5	33
会館が主催する本事業以外の事業に参加したことがある	11	2	3	-	13	-	27	2	29
会館を利用し、事業を実施したことがある	5	-	-	-	3	-	8	-	8
会館で実施された、他の機関・団体で実施した事業に参加したことがある	6	1	-	-	6	-	12	1	13

8. 地域ブロック別参加者内訳

	女性	男性	合計	%
北海道・東北	12	4	16	9.8
関東	73	10	83	51.1
甲信越	6	2	8	4.9
北陸・東海	14	4	18	11.0
近畿	7	3	10	6.1
中国・四国	8	2	10	6.1
九州・沖縄	16	2	18	11.0
合計	136	27	163	100.0

9. 地域別 ※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数を含む

	女性関連施設管理職		地方公共団体職員		女性団体リーダー		総数		
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	計
北海道	-	2	-	-	1	-	1	2	3
(札幌市)	-	2	-	-	-	-	-	2	2
青森県	1	-	1	-	-	-	2	-	2
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	1	-	-	1	-	-	1	1	2
(仙台市)	1	-	-	1	-	-	1	1	2
秋田県	1	-	-	-	1	-	2	-	2
山形県	1	-	1	-	1	-	3	-	3
福島県	-	1	1	-	2	-	3	1	4
茨城県	-	-	6	2	1	-	7	2	9
栃木県	2	-	4	1	1	-	7	1	8
群馬県	1	1	-	-	-	-	1	1	2
埼玉県	1	-	2	-	24	2	27	2	29
(さいたま市)	-	-	-	-	1	-	1	-	1
千葉県	1	1	1	1	2	-	4	2	6
(千葉市)	1	1	1	-	-	-	2	1	3
東京都	13	1	1	-	5	1	19	2	21
神奈川県	2	-	1	-	5	-	8	-	8
(横浜市)	1	-	-	-	-	-	1	-	1
(川崎市)	1	-	-	-	-	-	1	-	1
(相模原市)	-	-	-	-	3	-	3	-	3
山梨県	1	-	-	-	-	-	1	-	1
新潟県	1	-	1	1	-	-	2	1	3
(新潟市)	1	-	-	-	-	-	1	-	1
長野県	1	-	2	1	-	-	3	1	4
富山県	1	-	-	1	-	-	1	1	2
石川県	-	-	-	-	1	-	1	-	1
福井県	-	-	1	-	1	2	2	2	4
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	2	-	1	-	-	-	3	-	3
(静岡市)	1	-	1	-	-	-	2	-	2
(浜松市)	1	-	-	-	-	-	1	-	1
愛知県	-	-	3	-	2	-	5	-	5
(名古屋市)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	1	-	1	1	-	-	2	1	3
滋賀県	-	1	-	-	2	-	2	1	3
京都府	1	-	-	-	-	-	1	-	1
(京都市)	1	-	-	-	-	-	1	-	1
大阪府	2	2	-	-	-	-	2	2	4
(大阪市)	-	1	-	-	-	-	-	1	1
(堺市)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	1	-	1	-	-	-	2	-	2
(神戸市)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	1	-	-	-	-	-	1	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	-	-	-	1	-	2	-	2
(岡山市)	1	-	-	-	1	-	2	-	2
広島県	1	-	-	-	-	-	1	-	1
(広島市)	1	-	-	-	-	-	1	-	1
山口県	-	-	-	-	2	-	2	-	2
徳島県	-	1	-	-	-	-	-	1	1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	1	1	-	-	-	-	1	1	2
高知県	1	-	-	-	-	-	1	-	1
福岡県	5	-	-	-	3	-	8	-	8
(北九州市)	4	-	-	-	-	-	4	-	4
(福岡市)	-	-	-	-	3	-	3	-	3
佐賀県	-	1	-	-	-	-	-	1	1
長崎県	1	-	-	-	-	-	1	-	1
熊本県	2	-	-	-	3	-	5	-	5
(熊本市)	2	-	-	-	3	-	5	-	5
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	1	-	1	1	-	-	2	1	3
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	51	12	29	10	56	5	136	27	163

平成25年度「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」  
アンケート集計結果(最終報告)

平成25年9月26日

参加者数 150名  
アンケート回答数 123件  
アンケート回答率 82.0%

1 研修開催の情報を何で知りましたか。(複数回答)

		管理職 (54名中)	地方 公共 団体 (34名 中)	団体 リー ダー (35名 中)	合計	(123名 中)
行政から	男女共同参画課	17	21	10	48	39.0
	教育委員会	1	-	-	1	0.8
	その他の行政	-	3	2	5	4.1
社会教育施設から	女性教育関連施設	12	1	-	13	10.6
	生涯学習センター	-	-	-	-	-
	公民館	-	1	-	1	0.8
団体・組織から	男女共同参画団体・女性団体	3	1	15	19	15.4
	上記以外の団体等から	4	-	2	6	4.9
国立女性教育 会館から	ホームページ・メールマガジン	24	8	10	42	34.1
	ダイレクトメール	15	10	10	35	28.5
	チラシ・ポスター	4	1	2	7	5.7
	又エックニュース	3	3	4	10	8.1
マスコミ関係から(新聞)	-	-	-	-	-	-
その他	1	1	-	2	1.6	

2 この研修内容は有用でしたか。

(1) 研修全体について

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	合計	%	※%	※%
非常に有用であった	59	59.5	9	37.5	68	55.3	58.1	100.0
有用であった	35	35.4	14	58.3	49	39.8	41.9	
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	5	5.1	1	4.2	6	4.9	-	-
合計	99	100.0	24	100.0	123	100.0	100.0	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※%	※%
非常に有用であった	36	66.7	7	20.6	25	71.4	68	55.3	58.1	100.0
有用であった	16	29.6	24	70.6	9	25.7	49	39.8	41.9	
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	2	3.7	3	8.8	1	2.9	6	4.9	-	-
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0	100.0	100.0

<理由>

- ・ 新任者向けの基礎知識→基調講演から始まり、各講義→ワークショップでの他センター関係者との意見交換・共有→自分へのフィードバックという流れの中で多くの学びと気づきがあった。
- ・ 第3次男女共同参画基本計画に基づく内閣府をはじめとする国の動向等確認できた。分科会を通して各センターでの取り組みを参考にできたとともに、事業等の具体的な情報交換ができた。
- ・ 男女共同参画の推進について、非常に分かりやすいプログラムが展開され、今後の事業を企画運営していく上で参考となった。

(2) 各プログラム等について

【12日 講義「男女共同参画の現在とこれからの在り方」】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	49	49.6	10	41.7	59	48.0
有用であった	41	41.4	13	54.1	54	43.9
あまり有用でなかった	2	2.0	1	4.2	3	2.4
有用でなかった	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	3	3.0	-	-	3	2.4
無回答	4	4.0	-	-	4	3.3
合計	99	100.0	24	100.0	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%
非常に有用であった	28	51.8	11	32.4	20	57.1	59	48.0
有用であった	23	42.6	19	55.9	12	34.3	54	43.9
あまり有用でなかった	1	1.9	2	5.9	-	-	3	2.4
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	1	2.9	2	5.7	3	2.4
無回答	2	3.7	1	2.9	1	2.9	4	3.3
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0

<理由>

- ・日本と海外との比較を通して日本が抱える特有の現状を知ることができた。
- ・世界の中での日本の状況や国連の動向などの説明を分かりやすく聞かせていただき理解が深まった。この研修を受けるに当たって基礎知識として大変重要であった。
- ・国内だけではなく、世界的にも男女共同参画の向上の必要性を感じた。

【12日 報告「男女共同参画社会形成に向けた今日の政策課題」】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	14	14.1	3	12.5	17	13.8
有用であった	58	58.7	14	58.3	72	58.5
あまり有用でなかった	20	20.2	6	25.0	26	21.1
有用でなかった	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	3	3.0	-	-	3	2.4
無回答	4	4.0	1	4.2	5	4.1
合計	99	100.0	24	100.0	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%
非常に有用であった	9	16.7	1	2.9	7	20.0	17	13.8
有用であった	31	57.4	23	67.8	18	51.5	72	58.6
あまり有用でなかった	12	22.2	8	23.5	6	17.1	26	21.1
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	1	2.9	2	5.7	3	2.4
無回答	2	3.7	1	2.9	2	5.7	5	4.1
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0

<理由>

- ・第3次基本計画の分野ごとに各省庁から数字をもとにした施策説明があったため、分かりやすくなり、またセンターに戻って使える内容であった。
- ・各担当省庁が国の計画に基づき具体的な取組を紹介されたことが新しい情報提供になった。
- ・内閣府、文科省、厚労省それぞれの報告を同じ立場で一度に伺う機会はこれまでなかったので新鮮で、理解が深まった。

【12日 報告「男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究」】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	28	28.3	3	12.5	31	25.2
有用であった	61	61.7	17	70.9	78	63.4
あまり有用でなかった	3	3.0	2	8.3	5	4.1
有用でなかった	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	3	3.0	-	-	3	2.4
無回答	4	4.0	2	8.3	6	4.9
合計	99	100.0	24	100.0	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%
非常に有用であった	13	24.1	4	11.8	14	40.0	31	25.2
有用であった	37	68.5	23	67.6	18	51.4	78	63.4
あまり有用でなかった	2	3.7	3	8.8	-	-	5	4.1
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	2	5.9	1	2.9	3	2.4
無回答	2	3.7	2	5.9	2	5.7	6	4.9
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0

<理由>

- ・発表、冊子とも非常に体系的かつ具体的なので役に立ちそうである。「既に地域活動に関わっている男性」への視点はあまりなかったのが参考になった。
- ・参加者が参加しながらの報告は大変よかった。この方法は現場でも活用できる。
- ・うちの講座でも実践の参考にさせていただきたい。

【12日 情報交換会(希望者)】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	40	40.4	6	25.0	46	37.4
有用であった	35	35.4	10	41.6	45	36.6
あまり有用でなかった	3	3.0	1	4.2	4	3.3
有用でなかった	1	1.0	-	-	1	0.8
参加しなかった	12	12.1	6	25.0	18	14.6
無回答	8	8.1	1	4.2	9	7.3
合計	99	100.0	24	99.9	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%
非常に有用であった	23	42.5	10	29.4	13	37.1	46	37.4
有用であった	22	40.7	12	35.3	11	31.4	45	36.6
あまり有用でなかった	1	1.9	-	-	3	8.6	4	3.3
有用でなかった	-	-	-	-	1	2.9	1	0.8
参加しなかった	5	9.3	9	26.5	4	11.4	18	14.6
無回答	3	5.6	3	8.8	3	8.6	9	7.3
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0

<理由>

- ・ 同じ目的意識を持ち交流する機会は多くはなく貴重な時間だった。それぞれの施設の創意工夫はとても刺激になった。
- ・ 様々な団体の方と話し、たくさんの情報交換ができた。情報やネットワークを今後役に立てたい。
- ・ 行政・団体・NPOなど、たくさんの意見や情報がたくさんあり、とても参考になった。

【13日 講義「男女共同参画社会の実現のために、今、私たちは何をすればよいのか」】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	72	72.7	15	62.4	87	70.7
有用であった	20	20.2	7	29.2	27	22.0
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-
有用でなかった	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	1.0	1	4.2	2	1.6
無回答	6	6.1	1	4.2	7	5.7
合計	99	100.0	24	100.0	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%
非常に有用であった	39	72.1	23	67.7	25	71.4	87	70.7
有用であった	11	20.4	9	26.5	7	20.0	27	22.0
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	1.9	1	2.9	-	-	2	1.6
無回答	3	5.6	1	2.9	3	8.6	7	5.7
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0

<非常に有用であった理由>

- ・ 新聞記者の目と第2, 3次男女共同参画基本計画等にずっと携わって来られたことが誰にも負けぬ累積効果となっていて、最上の講演で感服の至りだった。
- ・ 日本の現在の男女共同参画社会への取り組み方の現状問題点、今後の課題が明確で分かりやすく伝わった。
- ・ 話される内容の全てが「男女共同参画の今まで、これから」を理解しやすかったし、帰ってからでも伝えやすいと思った。

【13日 討議「課題把握のためのディスカッション」】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	39	39.4	6	25.0	45	36.6
有用であった	50	50.5	16	66.7	66	53.7
あまり有用でなかった	2	2.0	-	-	2	1.6
有用でなかった	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	2.0	1	4.2	3	2.4
無回答	6	6.1	1	4.2	7	5.7
合計	99	100.0	24	100.0	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%
非常に有用であった	20	37.0	9	26.5	16	45.6	45	36.6
有用であった	30	55.5	21	61.8	15	42.9	66	53.7
あまり有用でなかった	-	-	1	2.9	1	2.9	2	1.6
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	1.9	2	5.9	-	-	3	2.4
無回答	3	5.6	1	2.9	3	8.6	7	5.7
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0

<理由>

- ・人材をテーマに各々が事例をもとに発表されわかりやすかった。
- ・それぞれの立場からの意欲的、先進的な取組を課題解決のための方策をお聞きし大変参考になった。分かりやすかった。
- ・この討議があることでWSへスムーズにつながったと思う。

【13日 コース別ワークショップ I「事例に学ぶ～男女共同参画の視点で地域課題を解決する組織の在り方～」】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	57	57.6	10	41.7	67	54.6
有用であった	30	30.3	12	49.9	42	34.1
あまり有用でなかった	3	3.0	-	-	3	2.4
有用でなかった	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	2.0	1	4.2	3	2.4
無回答	7	7.1	1	4.2	8	6.5
合計	99	100.0	24	100.0	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%
非常に有用であった	30	55.5	11	32.4	26	74.3	67	54.6
有用であった	18	33.3	18	52.9	6	17.1	42	34.1
あまり有用でなかった	2	3.7	1	2.9	-	-	3	2.4
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	1.9	2	5.9	-	-	3	2.4
無回答	3	5.6	2	5.9	3	8.6	8	6.5
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0

<理由>

- ・地域資源を生かし根気強く取り組んでおられる事例が発表され、とても参考になった。
- ・実例、ファシリテーターとともに新たな点に気づかせてくれた。
- ・他のセンターでの具体的な事例からに参考になる点が多く、有用であった。

【13日 情報提供「NWEC情報機能の最新情報」(希望者)】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	4	4.0	2	8.3	6	4.9
有用であった	32	32.4	11	45.9	43	35.0
あまり有用でなかった	9	9.1	1	4.1	10	8.1
有用でなかった	1	1.0	-	-	1	0.8
参加しなかった	30	30.3	7	29.2	37	30.1
無回答	23	23.2	3	12.5	26	21.1
合計	99	100.0	24	100.0	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%
非常に有用であった	3				3	8.6	6	4.9
有用であった	25	46.2	9	26.5	9	25.7	43	35.0
あまり有用でなかった	2	3.7	5	14.7	3	8.6	10	8.1
有用でなかった	1	1.9	-	-	-	-	1	0.8
参加しなかった	9	16.7	14	41.2	14	40.0	37	30.1
無回答	14	25.9	6	17.6	6	17.1	26	21.1
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0

<理由>

- ・情報センター機能を参考にして当センターも運営していくヒントになった。
- ・使い方や内容を知るきっかけとなり、今後利用してみたいと思えた。
- ・winetの使い方が分かった。

【13日 自由交流】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	7	7.1	2	8.3	9	7.3
有用であった	19	19.2	7	29.2	26	21.1
あまり有用でなかった	4	4.0	-	-	4	3.3
有用でなかった	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	40	40.4	10	41.7	50	40.7
無回答	29	29.3	5	20.8	34	27.6
合計	99	100.0	24	100.0	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%
非常に有用であった	3	5.6	3	8.8	3	8.6	9	7.3
有用であった	13	24.1	7	20.6	6	17.1	26	21.1
あまり有用でなかった	1	1.9	1	2.9	2	5.7	4	3.3
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	19	35.1	16	47.1	15	42.9	50	40.7
無回答	18	33.3	7	20.6	9	25.7	34	27.6
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0

<理由>

- ・1日目の情報交換会以上に少人数の中で深く話し合う事ができた。また、自分の課題に対してもいろいろアドバイスが聞けて有意義な時間だった。
- ・ニューヨークからのCSW報告では、情報がホットなままで伝わってきた。世界も地方も抱えている問題に違いはないと再確認した。

【14日 コース別ワークショップⅡ「参加者の事例を検討する～男女共同参画の視点で地域課題を解決する事業の在り方～」】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	55	55.5	10	41.7	65	52.8
有用であった	28	28.3	10	41.7	38	30.9
あまり有用でなかった	2	2.0	-	-	2	1.6
有用でなかった	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	5	5.1	1	4.2	6	4.9
無回答	9	9.1	3	12.4	12	9.8
合計	99	100.0	24	100.0	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%
非常に有用であった	38	70.3	10	29.4	17	48.5	65	52.8
有用であった	11	20.4	13	38.3	14	40.0	38	30.9
あまり有用でなかった	-	-	1	2.9	1	2.9	2	1.6
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	3.7	3	8.8	1	2.9	6	4.9
無回答	3	5.6	7	20.6	2	5.7	12	9.8
合計	54	100.0	34	100.0	35	99.9	123	100.0

<理由>

- ・参加者同士の事例や事例発表などよい事例が多かった。
- ・実際事業に携わった方々のお話を聞くことが出来てよかった。
- ・他の自治体の取組を知ることで、いろいろヒントがもらえてよかった。

【14日 全体会「第3次男女共同参画基本計画実現に向けた連携・協働の在り方」】

	女性	%	男性	%	合計	%
非常に有用であった	33	33.3	8	33.3	41	33.3
有用であった	41	41.4	10	41.7	51	41.5
あまり有用でなかった	1	1.0	-	-	1	0.8
有用でなかった	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	7	7.1	1	4.2	8	6.5
無回答	17	17.2	5	20.8	22	17.9
合計	99	100.0	24	100.0	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%
非常に有用であった	20	37.0	9	26.5	12	34.3	41	33.3
有用であった	23	42.5	13	38.2	15	42.9	51	41.5
あまり有用でなかった	1	1.9	-	-	-	-	1	0.8
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	3	5.6	3	8.8	2	5.7	8	6.5
無回答	7	13.0	9	26.5	6	17.1	22	17.9
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0

<理由>

- ・3日間のまとめを分かりやすく整理できた。また、まとめの中から新たな気づきと課題をもらえた。
- ・危機の中から生まれる新たな発想、意欲、事業展開の実践例は極めて有意義であった。
- ・他のコースのまとめの意見の他、報告者から+αの有用な意見が聞けてよい全体会だった。

3 研修の達成度をご回答ください。

(1)男女共同参画の視点、考え方を学ぶことができた。

	女性	%	男性	%	合計	%
十分できた	43	43.4	18	75.0	61	49.6
おおむねできた	53	53.6	5	20.8	58	47.2
あまりできなかった	1	1.0	-	-	1	0.8
できなかった	-	-	-	-	-	-
無回答	2	2.0	1	4.2	3	2.4
合計	99	100.0	24	100.0	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	※%
十分できた	32	59.2	11	32.4	18	51.4	61	49.6
おおむねできた	21	38.9	21	61.7	16	45.7	58	47.2
あまりできなかった	-	-	-	-	1	2.9	1	0.8
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	1	1.9	2	5.9	-	-	3	2.4
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0

(2)男女共同参画政策に関わる国の施策・動向を理解することができた。

	女性	%	男性	%	合計	%
十分できた	34	34.3	9	37.5	43	35.0
おおむねできた	57	57.6	12	50.0	69	56.0
あまりできなかった	5	5.1	2	8.3	7	5.7
できなかった	-	-	-	-	-	-
無回答	3	3.0	1	4.2	4	3.3
合計	99	100.0	24	100.0	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%
十分できた	24	44.4	6	17.6	13	37.1	43	35.0
おおむねできた	26	48.1	23	67.7	20	57.2	69	56.0
あまりできなかった	3	5.6	2	5.9	2	5.7	7	5.7
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	1	1.9	3	8.8	-	-	4	3.3
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0

(3)地域で男女共同参画を推進するための自組織が抱える課題を把握することができた。

	女性	%	男性	%	合計	%
十分できた	25	25.3	2	8.3	27	22.0
おおむねできた	64	64.6	16	66.7	80	65.0
あまりできなかった	6	6.1	3	12.5	9	7.3
できなかった	-	-	-	-	-	-
無回答	4	4.0	3	12.5	7	5.7
合計	99	100.0	24	100.0	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%
十分できた	15	27.8	5	14.7	7	20.0	27	22.0
おおむねできた	36	66.7	24	70.6	20	57.1	80	65.0
あまりできなかった	1	1.9	3	8.8	5	14.3	9	7.3
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	2	3.7	2	5.9	3	8.6	7	5.7
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0

(4)地域課題解決のための組織の在り方について、方向性や手立てを得ることができた。

	女性	%	男性	%	合計	%
十分できた	18	18.2	-	-	18	14.6
おおむねできた	59	59.6	14	58.3	73	59.4
あまりできなかった	17	17.2	6	25.0	23	18.7
できなかった	-	-	1	4.2	1	0.8
無回答	5	5.1	3	12.5	8	6.5
合計	99	100.0	24	100.0	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%
十分できた	9	16.7	1	2.9	8	22.9	18	14.6
おおむねできた	38	70.2	18	53.0	17	48.5	73	59.4
あまりできなかった	3	5.6	13	38.2	7	20.0	23	18.7
できなかった	1	1.9	-	-	-	-	1	0.8
無回答	3	5.6	2	5.9	3	8.6	8	6.5
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0

(5) 地域課題解決のための事業や企画の在り方について、方向性や手立てを得ることができた。

	女性	%	男性	%	合計	%
十分できた	22	22.2	3	12.5	25	20.3
おおむねできた	61	61.6	15	62.5	76	61.8
あまりできなかった	10	10.1	2	8.3	12	9.8
できなかった	-	-	1	4.2	1	0.8
無回答	6	6.1	3	12.5	9	7.3
合計	99	100.0	24	100.0	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	※%
十分できた	15	27.8	3	8.8	7	20.0	25	20.3
おおむねできた	34	62.8	23	67.7	19	54.3	76	61.8
あまりできなかった	1	1.9	5	14.7	6	17.1	12	9.8
できなかった	1	1.9	-	-	-	-	1	0.8
無回答	3	5.6	3	8.8	3	8.6	9	7.3
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0

(6) 地域で男女共同参画を推進するための連携・協働の在り方について、手がかりを得ることができた。

	女性	%	男性	%	合計	%
十分できた	20	20.2	1	4.2	21	17.1
おおむねできた	64	64.6	18	75.0	82	66.7
あまりできなかった	7	7.1	2	8.3	9	7.3
できなかった	-	-	-	-	-	-
無回答	8	8.1	3	12.5	11	8.9
合計	99	100.0	24	100.0	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	※%
十分できた	12	22.2	4	11.8	5	14.3	21	17.1
おおむねできた	38	70.3	22	64.7	22	62.8	82	66.7
あまりできなかった	1	1.9	5	14.7	3	8.6	9	7.3
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	3	5.6	3	8.8	5	14.3	11	8.9
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0

(7) 全国の各地域で男女共同参画を推進するリーダーの人々とのネットワークづくりのきっかけを得ることができた。

	女性	%	男性	%	合計	%
十分できた	30	30.3	1	4.2	31	25.2
おおむねできた	52	52.5	13	54.1	65	52.9
あまりできなかった	10	10.1	7	29.2	17	13.8
できなかった	1	1.0	-	-	1	0.8
無回答	6	6.1	3	12.5	9	7.3
合計	99	100.0	24	99.9	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	※%
十分できた	23	42.6	4	11.8	4	11.4	31	25.2
おおむねできた	25	46.2	18	52.9	22	62.8	65	52.9
あまりできなかった	3	5.6	9	26.5	5	14.3	17	13.8
できなかった	-	-	-	-	1	2.9	1	0.8
無回答	3	5.6	3	8.8	3	8.6	9	7.3
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0

(8) その他

	女性	%	男性	%	合計	%
十分できた	2	2.0	1	4.2	3	2.4
おおむねできた	-	-	-	-	-	-
あまりできなかった	-	-	-	-	-	-
できなかった	-	-	-	-	-	-
無回答	97	98.0	23	95.8	120	97.6
合計	99	100.0	24	100.0	123	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%
十分できた	1	1.9	1	2.9	1	2.9	3	2.4
おおむねできた	-	-	-	-	-	-	-	-
あまりできなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	53	98.1	33	97.1	34	97.1	120	97.6
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0

<その他の内容>

- ・他施設の状況を共有できた。
- ・勉強不足、自己啓発の必要性を認識した。
- ・自地域の課題を大局観から見下ろすことができ、大きな刺激を受けた。

4 この研修での満足度は、いかがでしたか。

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	合計	%	※%	※%
非常に満足した	48	48.5	9	37.5	57	46.3	47.5	99.2
満足した	48	48.5	14	58.3	62	50.3	51.7	
少し物足りなかった	1	1.0	-	-	1	1.0	0.8	0.8
物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	2	2.0	1	4.2	3	2.4	-	-
合計	99	100.0	24	100.0	123	100.0	100.0	100.0

	管理職	%	地方公共団体	%	団体リーダー	%	合計	%	※%	※%
非常に満足した	29	53.7	10	29.4	18	51.4	57	46.3	47.5	99.2
満足した	25	46.3	24	70.6	13	37.1	62	50.5	51.7	
少し物足りなかった	-	-	-	-	1	2.9	1	0.8	0.8	0.8
物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	-	-	-	-	3	8.6	3	2.4	-	-
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0	123	100.0	100.0	100.0

<理由>

- ・基礎から実践面まで一気に学ぶことができた。国際レベル、国レベル、地域レベル、それぞれについて知見を深めることができた。
- ・団体コースに参加してよかった。市民意識に基づく協働の意味が理解できた。組織として実施すべきことの棲み分けの理解が深まった。
- ・講義、報告、ワークショップ、全てのプログラムが学びの多い内容だった。全国各地の参加者の方と交流できて視野が広がった。

7 あなたご自身のことをお聞かせください。

◆年代

	管理職	% (54名中)	地方公共団体	% (34名中)	団体リーダー	% (35名中)
20代	1	1.9	4	11.8	-	-
30代	4	7.4	6	17.6	2	5.7
40代	7	13.0	15	44.1	5	14.3
50代	29	53.6	9	26.5	10	28.6
60代	10	18.5	-	-	12	34.2
70代以上	-	-	-	-	5	14.3
無回答	3	5.6	-	-	1	2.9
合計	54	100.0	34	100.0	35	100.0

## ◆ご所属

	女性	%	男性	%
【管理職コース】 公立Ⅰ：管理運営者が教育委員会	3	3.0	-	-
【管理職コース】 公立Ⅰ：管理運営者が男女共同参画担当部課	12	12.1	4	16.7
【管理職コース】 公立Ⅱ：指定管理者を導入	11	11.1	7	29.2
【管理職コース】 公立Ⅱ：指定管理者を導入	4	4.0	-	-
【管理職コース】 公立Ⅱ：指定管理者を導入	8	8.1	-	-
【管理職コース】 私立	-	-	-	-
【管理職コース】 その他	4	4.0	1	4.2
【地方公共団体コース】 都道府県	6	6.1	1	4.2
【地方公共団体コース】 市町村	18	18.2	9	37.3
【団体リーダーコース】 女性団体、グループ	9	9.1	1	4.2
【団体リーダーコース】 特定非営利活動法人	7	7.1	-	-
【団体リーダーコース】 その他	17	17.2	1	4.2
無回答	-	-	-	-
合計	99	100.0	24	100.0

## ◆会館のご利用歴(複数回答)

	女性	% (99名中)	男性	% (24名中)
会館が主催する男女共同参画に携わるリーダー向け研修に参加したことがある。	23	23.2	5	20.8
会館が主催する今回の研修以外の研修等に参加したことがある。	24	24.2	2	8.3
会館を利用し、研修等を実施したことがある。	6	6.1	-	-
会館で実施された、他の機関・団体で実施した研修等に参加したことがある。	10	10.1	1	4.2

	管理職	% (54名中)	地方公共団体	% (34名中)	団体リーダー	% (35名中)	合計	% (123名中)
会館が主催する男女共同参画に携わるリーダー向け研修に参加したことがある。	13	24.1	3	8.8	12	34.3	28	22.8
会館が主催する今回の研修以外の研修等に参加したことがある。	12	22.2	3	8.8	11	31.4	26	21.1
会館を利用し、研修等を実施したことがある。	5	9.3	-	-	1	2.9	6	4.9
会館で実施された、他の機関・団体で実施した研修等に参加したことがある。	7	13.0	-	-	4	11.4	11	8.9

平成25年度「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」  
フォローアップアンケート集計結果(最終)

● 回答者について

	対象者	回答数	%
管理職コース	58	57	98.3
地方公共団体コース	39	38	97.4
団体リーダーコース	48	41	85.4
合計	145	136	93.8

回収率:93.8%

1 研修の成果はあなたの仕事や活動に役立ちましたか

(※%は「無回答」を除いた割合)

	件数	%	※%
a. 非常に役立った	46	33.8	36.8
b. 役立った	76	55.9	60.8
c. あまり役立たなかった	3	2.2	2.4
d. 役立たなかった	0	0.0	0.0
無回答	11	8.1	
合計	136	100.0	100.0

プラス評価者(a+b)	
件数	%
122	97.6

2 研修の成果を普及・活用した方法

(1) 所属する組織内での普及・活用方法

ア. それぞれの内容における「活用プラン」および「実績」への回答数

内容	実績		プラス評価者の実績			
	合計		a		b	
	件数	% (136名中)	件数	% (46名中)	件数	% (76名中)
研修内容の報告・説明	108	79.4	39	84.8	60	78.9
各種広報資料への執筆・公表	16	11.8	5	10.9	9	11.8
研修資料を活用した勉強会・研修会の開催	23	16.9	12	26.1	10	13.2
所属組織・団体の体制づくり・整備への提言	20	14.7	11	23.9	8	10.5
来年度事業・予算への反映	35	25.7	13	28.3	21	27.6
具体的な事業の企画・運営への指導・助言	50	36.8	21	45.7	24	31.6
その他	10	7.4	2	4.3	7	9.2
合計	262		103		139	

(表の中のa~bは、設問1におけるプラス回答者の件数とする)

(2) 地域(他機関、団体・グループ等との連携)での普及・活用方法

ア. それぞれの内容における「活用プラン」および「実績」への回答数

内容	実績		プラス評価者の実績			
	合計		a		b	
	件数	% (136名中)	件数	% (46名中)	件数	% (76名中)
研修資料の提供	32	23.5	11	23.9	17	22.4
研修内容の説明	29	21.3	12	26.1	15	19.7
各種広報資料への執筆	10	7.4	2	4.3	6	7.9
勉強会・研修会での指導・助言・協力	31	22.8	14	30.4	14	18.4
他の組織・団体の体制づくり・整備への指導・助言・協力	21	15.4	6	13.0	12	15.8
具体的な事業の企画・運営への指導・助言	31	22.8	11	23.9	18	23.7
ネットワーク構築に向けた働きかけ	33	24.3	15	32.6	15	19.7
その他	15	11.0	3	6.5	11	14.5
合計	202		74		108	

(表の中のa~bは、設問1における回答件数とする)

## 平成25年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」実施要項

### 1. 趣 旨

男女共同参画社会の実現は、国、地方公共団体、国民すべてに課せられた責務であり、高等教育機関としての大学・短期大学・高等専門学校においても、その一翼を担うべきことが求められています。文部科学省の「女性研究者研究活動支援事業」などをきっかけに男女共同参画推進室が設置されるなど、大学等における男女共同参画推進への取組が進みつつあります。

しかし、学内全体への男女共同参画意識の浸透や男女共同参画の推進体制はいまだ十分とは言えません。また、研究者に占める女性の割合も諸外国に比べ依然として低い状況にあります。

このような状況を踏まえ、本セミナーでは、大学・短期大学・高等専門学校における男女共同参画の推進に向けて、それに関わる教職員を対象として、専門的、実践的な研修を行います。

### 2. 主 催

独立行政法人国立女性教育会館

### 3. 後 援

文部科学省  
一般社団法人国立大学協会  
日本私立大学団体連合会  
日本私立短期大学協会  
独立行政法人国立高等専門学校機構

### 4. 会 場

国立女性教育会館  
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728  
TEL 0493-62-6724・6725  
FAX 0493-62-6720  
Eメールアドレス [progdiv@nwec.jp](mailto:progdiv@nwec.jp)  
ホームページURL <http://www.nwec.jp/>

### 5. 期 日

平成25年11月28日（木）～11月29日（金） 1泊2日

### 6. 参加者

大学・短期大学・高等専門学校における男女共同参画推進に関わる教職員

### 7. 定 員

80名

## 8. 日 程 (各プログラムの間に5～15分程度の休憩があります)

11/28 (木)	12:10 13:00 13:15 15:00 15:40 17:00 17:30 18:15 19:30 21:00										
			受付	開会	基調講演	文部科学省説明と質疑応答	講義	情報提供	※情報提供	夕食休憩	※情報交換会
11/29 (金)	9:00 9:50 11:50 12:50 14:30 15:00 15:10										
	情報提供	ワークショップ 分科会1 分科会2 分科会3	昼食	ワークショップ 分科会1 分科会2 分科会3	全体会	ふりかえりアンケート記入	閉会				

- ・※印が付いているプログラムは希望者のみのプログラムです。
- ・当事業は、「第3次男女共同参画基本計画」における「第11分野 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実」「第12分野 科学技術・学術分野における男女共同参画」に位置付けられている事業です。

## 9. 内 容

### 第1日 11月28日(木)

#### (1) 開会

13:00～13:10

- ①主催者あいさつ 内海 房子 国立女性教育会館理事長  
 ②プログラムの趣旨説明 千装 将志 国立女性教育会館事業課専門職員

#### (2) 基調講演「大学における男女共同参画の意義」

13:15～14:45

大学における男女共同参画を推進する意義について考え、大学における男女共同参画推進のための組織や体制づくり等をどのように進めたらよいかなどについての理解を深めるきっかけとします。

講師：羽入 佐和子 お茶の水女子大学学長

#### (3) 文部科学省説明と質疑応答「女性研究者支援と研究力強化」

15:00～15:30

文部科学省の説明を聞き、科学技術・学術分野における男女共同参画を推進する上での現状及び国の施策について知り、大学における男女共同参画推進に向けた今日の政策課題についての理解を深めます。

講師：和田 勝行 文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課  
 人材政策推進室室長

#### (4) 講義「大学における女性のキャリア形成支援」

15:40～16:55

大学内での男女共同参画に向け、女性研究者や女子学生へのキャリア形成支援の必要性などについて理解を深めます。

講師：渡辺 三枝子 筑波大学名誉教授  
 筑波大学大学研究センター客員研究員

(5) 情報提供「内閣府主催の大学教職員等向け研修について」

17:00～17:20

内閣府男女共同参画局では、昨今、注目されている交際相手からの暴力について、大学教職員等に対する研修を実施しています。若年層の男女間における暴力に関する基本情報に加え、12月に開催する研修について情報提供します。

講師：湯澤 麻起子 内閣府男女共同参画局推進課暴力対策推進室課長補佐

(6) 情報提供（\*希望者のみ）「大学等における男女共同参画関連情報」

17:30～18:00

男女共同参画社会及び女性・家庭・家族に関する専門図書館である国立女性教育会館「女性教育情報センター」が収集・提供する関連資料、女性情報ポータルWinetからデータベース検索を使った情報の活用について情報提供します。

講師：森 未知 国立女性教育会館情報課専門職員

(7) 情報交換会（\*希望者のみ）

19:30～21:00

夕食後、それぞれが抱える課題の解決に向けた方策について情報を交換するとともに、参加者同士のネットワークづくりを行います。

第2日 11月29日（金）

(8) 報告「大学等における男女共同参画に関する調査研究の報告」

9:00～9:40

昨年度からNWE Cが行っている大学における男女共同参画に関する調査研究について、最新の結果を報告します。

講師：野依 智子 国立女性教育会館研究国際室研究員

(9) コース別ワークショップ

9:50～11:50

12:50～14:20

大学における男女共同参画推進の主要な課題について、事例報告をもとにディスカッションを行い、実践力を養います。

<分科会1>「大学における男女共同参画の体制づくり」

事例① 「全構成員で取組む男女共同参画～優しい大学づくりを目指して～」

報告者：長安 めぐみ

香川大学特任教授

男女共同参画推進室副室長

石井 明

香川大学工学部知能機能システム工学科教授

男女共同参画推進室副室長

事例② 「大学における男女共同参画意識共有のためのトップダウンとボトムアップの相乗効果」

報告者：伊達 紫

宮崎大学フロンティア科学実験総合センター教授

清花アテナ男女共同参画室室長

### ＜分科会 2＞「大学における女性研究者支援の在り方」

事例① 「名古屋大学における男女共同参画の取組」

報告者：東村 博子 名古屋大学大学院生命農学研究科教授  
男女共同参画担当総長補佐  
男女共同参画室室長

事例② 「上智大学の女性研究者支援モデル育成事業とその後」

報告者：ユー・アンジェラ 上智大学学術交流担当副学長  
上智学院男女共同参画推進室室長

### ＜分科会 3＞「理系女子学生へのキャリア形成支援」

事例① 「推薦入試（女子枠）での実績と工科系女子へのキャリア形成支援」

報告者：山下 啓司 名古屋工業大学大学院物質工学専攻教授  
工学教育総合センターキャリアサポートオフィス長

事例② 「国立高専機構における女子学生へのキャリア形成支援の取組について」

報告者：内田 由理子 香川高等専門学校一般教育科教授  
国立高等専門学校機構男女共同参画推進室併任教授

(10) 全体会 14:30～15:00

各分科会の報告により、参加者の情報共有を行います。

(11) ふりかえり・アンケート記入 15:00～15:10

研修をふりかえり、参加者それぞれがアンケートに記入します。

(12) 閉会 15:10

## 10. その他

(1) 11月28日（木）と29日（金）に国立女性教育会館と東武東上線武蔵嵐山駅との間で無料送迎バスを運行いたします。

(2) 期間中、職員が撮影した写真を事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

平成25年度 大学等における男女共同参画推進セミナー 参加者概況

平成25年12月5日現在

1. 性別

	合計	定員	80名
女性	70	応募者	94名
男性	16	参加者	87名
無回答	1		
合計	87	応募倍率	117.5%

2. 参加日別

	女性	男性	無回答	合計
全日程	48	10	0	58
28日のみ	11	4	—	15
29日のみ	11	2	1	13
合計	70	16	1	87

3. 年代

	女性	男性	無回答	合計
20代	3	—	—	3
30代	17	2	—	19
40代	16	3	—	19
50代	17	10	—	27
60代以上	10	1	—	11
無回答	7	—	1	8
合計	70	16	1	87

4. 情報提供参加 (28日参加者 73名)

	合計
女性	41
男性	7
無回答	0
合計	48

5. 分科会 (29日参加者 72名)

	女性	男性	無回答	合計
分科会1「大学における男女共同参画の体制づくり」	21	5	—	26
分科会2「大学における女性研究者支援の在り方」	23	3	1	27
分科会3「理系女子学生へのキャリア形成支援」	14	4	—	18
合計	58	12	1	71

6. 会館利用歴(複数回答)

	女性	男性	無回答	合計
会館主催一ター向け研修に参加	10	1	—	11
会館主催その他の事業に参加	14	5	—	19
会館を利用し、事業を実施	3	1	—	4
他の諸機関・団体実施の事業に参加	5	2	—	7
利用歴なし(全項目無回答)	48	11	1	60

※所属別

	合計
国公立大学	46
私立大学	21
高専(国公立)	18
その他	2
合計	87

※職種別

	合計
教員系	41
職員系	46
合計	87

※地域ブロック別参加者内訳

	女性	男性	無回答	合計
北海道・東北	12	2	—	14
関東	27	3	1	31
甲信越	3	1	—	4
北陸・東海	7	3	—	10
近畿	8	1	—	9
中国・四国	6	4	—	10
九州・沖縄	7	2	—	9
合計	70	16	1	87

8. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

	女性	男性	無回答	合計
北海道	1	—	—	1
(札幌市)	(—)	(—)	(—)	(—)
青森県	2	1	—	3
岩手県	2	—	—	2
宮城県	7	—	—	7
(仙台市)	(3)	(—)	(—)	(3)
秋田県	—	—	—	—
山形県	—	—	—	—
福島県	—	1	—	1
茨城県	2	—	—	2
栃木県	2	—	—	2
群馬県	2	—	—	2
埼玉県	2	—	—	2
(さいたま市)	(1)	(—)	(—)	(1)
千葉県	2	1	—	3
(千葉市)	(1)	(—)	(—)	(1)
東京都	16	2	1	19
神奈川県	1	—	—	1
(横浜市)	(1)	(—)	(—)	(1)
(川崎市)	(—)	(—)	(—)	(—)
(相模原市)	(—)	(—)	(—)	(—)
山梨県	1	—	—	1
新潟県	2	1	—	3
(新潟市)	(1)	(1)	(—)	(2)
長野県	—	—	—	—
富山県	2	1	—	3
石川県	—	—	—	—
福井県	—	—	—	—
岐阜県	—	—	—	—
静岡県	2	2	—	4
(静岡市)	(1)	(2)	(—)	(3)
(浜松市)	(—)	(—)	(—)	(—)
愛知県	2	—	—	2
(名古屋市)	(1)	(—)	(—)	(1)
三重県	1	—	—	1
滋賀県	—	1	—	1
京都府	2	—	—	2
(京都市)	(2)	(—)	(—)	(2)
大阪府	4	—	—	4
(大阪市)	(2)	(—)	(—)	(2)
(堺市)	(—)	(—)	(—)	(—)
兵庫県	1	—	—	1
(神戸市)	(1)	(—)	(—)	(1)
奈良県	1	—	—	1
和歌山県	—	—	—	—
鳥取県	1	—	—	1
島根県	—	—	—	—
岡山県	1	—	—	1
(岡山市)	(—)	(—)	(—)	(—)
広島県	1	1	—	2
(広島市)	(—)	(—)	(—)	(—)
山口県	1	—	—	1
徳島県	1	—	—	1
香川県	1	1	—	2
愛媛県	—	1	—	1
高知県	—	1	—	1
福岡県	—	2	—	2
(北九州市)	(—)	(1)	(—)	(1)
(福岡市)	(—)	(—)	(—)	(—)
佐賀県	—	—	—	—
長崎県	3	—	—	3
熊本県	—	—	—	—
(熊本市)	—	—	—	—
大分県	1	—	—	1
宮崎県	—	—	—	—
鹿児島県	—	—	—	—
沖縄県	3	—	—	3
合計	70	16	1	87

# 平成25年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」 アンケート集計結果

参加者 87名  
アンケート回答数 72件  
アンケート回答率 82.8%

## I 本研修に関する意見・感想

1. この研修の内容は、あなたの考えを深めたり、今後の事業を行う際に役立てたりするうえで、有用でしたか。

1日目:11月29日(木)

### 1 講義「大学における男女共同参画の意義」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	19	35.8	8	61.5	3	49.9	30	41.6	30	56.6
有用であった	20	37.7	1	7.7	1	16.7	22	30.6	22	41.5
あまり有用でなかった	-	-	-	-	1	16.7	1	1.4	1	1.9
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	4	7.5	3	23.1	-	-	7	9.7		
無回答	10	18.9	1	7.7	1	16.7	12	16.7		
合計	53	100.0	13	100.0	6	99.9	72	99.9	53	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

#### <意見・感想等>

- ・力強く上品でユーモアのある羽生先生のご講演に引き込まれた。まさに今回のセミナーのスタートにふさわしい内容だった。
- ・男女共同参画推進に重要な学長のリーダーシップが非常に成功した事例、先進的な取組を知ることがお茶大の事例中心で分かりやすい内容だった。(お茶大の先進事例が参考に)

### 2 文部科学省説明と質疑応答「女性研究者支援と研究力強化」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	6	11.3	5	38.4	1	16.7	12	16.7	12	21.8
有用であった	28	52.8	2	15.4	3	49.9	33	45.8	33	60.0
あまり有用でなかった	7	13.2	2	15.4	1	16.7	10	13.9	10	18.2
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	3.8	3	23.1	-	-	5	6.9		
無回答	10	18.9	1	7.7	1	16.7	12	16.7		
合計	53	100.0	13	99.9	6	100.0	72	100.0	55	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

#### <意見・感想等>

- ・男女共同参画について地域性の影響があるという話が聞けただけでも価値があった。
- ・政府施策の概要が分かり、キャリア支援のベースにある哲学や基本教育について示唆の多い講演だった。
- ・質疑応答の時間がもう少し長くあるとより望ましいと感じた。
- ・現状を具体的な数値で見ることができてよかった。
- ・示されたデータが基調講演と同じようであった。質問への回答が不明確であった。
- ・あまりに一般的すぎて、他の多くの場での文科省からの発表と似通っていて新しい情報が少なかった。

### 3 講義「大学における女性のキャリア形成支援」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	18	34.0	4	30.8	2	33.3	24	33.3	24	43.6
有用であった	18	34.0	4	30.8	3	50.0	25	34.8	25	45.5
あまり有用でなかった	4	7.5	1	7.7	-	-	5	6.9	5	9.1
全く有用でなかった	1	1.9	-	-	-	-	1	1.4	1	1.8
参加しなかった	2	3.8	3	23.0	-	-	5	6.9		
無回答	10	18.8	1	7.7	1	16.7	12	16.7		
合計	53	100.0	13	100.0	6	100.0	72	100.0	55	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

#### <意見・感想等>

- ・今後、教育者として何をなすべきか考えさせられた。いろいろと胸に響く(痛い?)言葉を頂戴したと
- ・現代においても成育の初期からジェンダーステレオタイプの影響を受けていることに衝撃を受けた。男女共同参画推進のためには、次世代のライフキャリア形成をサポートすることが重要であることを確認し
- ・形だけ整えればいいのではなくて内容が学生にマッチしているのか、教員側の意識にモレがないか常に考えながらやる必要があることに気づかされた。

- ・ 保護者の問題、ロールモデルと学生との乖離の話など、自分が現実を見て漠然と感じていたことを、具体的にお話しただけなのが考えをまとめる機会となった。

#### 4 情報提供「内閣府主催の大学教職員等向け研修について」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	5	9.4	4	30.8	2	33.3	11	15.3	11	21.6
有用であった	26	49.1	2	15.4	2	33.3	30	41.7	30	58.8
あまり有用でなかった	7	13.2	2	15.4	1	16.7	10	13.9	10	19.6
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	3	5.7	3	23.1	-	-	6	8.3		
無回答	12	22.6	2	15.4	1	16.7	15	20.8		
合計	53	100.0	13	100.0	6	100.0	72	100.0	51	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

##### <意見・感想等>

- ・ このようなことについて無知だったので、データがとても印象的だった。暴力のない社会を創っていかねければと思った。
- ・ 男女共同参画のセミナーの中でDV問題も学生に伝えるべきだとは言われたが、具体的に情報を与えていただけなので、持ち帰って提供できるものが得られたと感じた。
- ・ 今年度、来年度県の女性センターと共催でDVや教職員向けのセミナーを開催する予定なので参考に
- ・ 大学等における男女共同参画とDV (domestic, date)との関連がうすい。

#### 5 情報提供「大学等における男女共同参画関連情報」(希望者のみ)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	9	17.0	3	23.1	3	49.9	15	20.8	15	36.6
有用であった	16	30.2	2	15.4	1	16.7	19	26.4	19	46.4
あまり有用でなかった	4	7.5	1	7.7	1	16.7	6	8.3	6	14.6
全く有用でなかった	1	1.9	-	-	-	-	1	1.4	1	2.4
参加しなかった	7	13.2	4	30.7	-	-	11	15.3		
無回答	16	30.2	3	23.1	1	16.7	20	27.8		
合計	53	100.0	13	100.0	6	99.9	72	100.0	41	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

##### <意見・感想等>

- ・ このようなデータベースをお持ちだということを初めて知った。大変有用だと思う。
- ・ アンケート調査やヒアリング調査のまとめが素晴らしかった。ぜひ、グラフ等結果をWebにのせてほしい。大学幹部と研修等に生かしていきたい。
- ・ パンプ等でも十分情報が伝えられると思った。
- ・ すでにHPを見ていたので、あまり有用ではなかった。参加しなくてもよかったと感じた。

#### 6 情報交換会

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	17	32.1	5	38.4	3	50.0	25	34.7	25	62.5
有用であった	11	20.7	2	15.4	1	16.7	14	19.4	14	35.0
あまり有用でなかった	1	1.9	-	-	-	-	1	1.4	1	2.5
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	7	13.2	3	23.1	-	-	10	13.9		
無回答	17	32.1	3	23.1	2	33.3	22	30.6		
合計	53	99.9	13	99.9	6	100.0	72	100.0	40	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

##### <意見・感想等>

- ・ 他校の方とリラックスした雰囲気では話ができて、情報共有ができた。
- ・ 全国の大学・高専の方と話すことができた。各機関の特殊性・共通点に気づくとともに、今後へのヒント
- ・ 多くの方とお話ができて、高専・国立大学で日頃あまり知らない様子もうかがうことができ、とてもよい時間となった。異なる性格の機関でも共通点が多いことも発見だった。

## 7 報告「大学等における男女共同参画に関する調査研究の報告」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	21	39.6	4	30.8	2	33.3	27	37.5	27	42.9
有用であった	26	49.1	6	46.1	2	33.3	34	47.2	34	54.0
あまり有用でなかった	-	-	1	7.7	1	16.7	2	2.8	2	3.2
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	1.9	1	7.7	-	-	2	2.8		
無回答	5	9.4	1	7.7	1	16.7	7	9.7		
合計	53	100.0	13	100.0	6	100.0	72	100.0	63	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

### <意見・感想等>

- ・初めて見るデータだったのでとても興味深かった。
- ・ガイドブックの完成を楽しみにしている。
- ・ここまで来るのは遠いので朝が早すぎた。2日目から参加する場合もあるので10時くらいから始まり、終了時刻を4時くらいにするとよいと思う。

## 8 コース別ワークショップ・参加分科会

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
分科会1	21	39.5	5	38.5	-	-	26	36.1	26	40.0
分科会2	18	34.0	1	7.7	3	50.0	22	30.6	22	33.8
分科会3	11	20.8	5	38.5	1	16.7	17	23.6	17	26.2
分科会不明	3	5.7	2	15.3	2	33.3	7	9.7		
合計	53	100.0	13	99.9	6	100.0	72	100.0	65	100.0

(※は「組不明」を除いた場合)

### ※分科会コース別

	分科会1	%	分科会2	%	分科会3	%	不明	%	合計	%
非常に有用であった	23	88.5	16	72.8	10	58.8	-	-	49	75.5
有用であった	2	7.7	5	22.7	7	41.2	-	-	14	21.5
あまり有用でなかった	-	-	1	4.5	-	-	-	-	1	1.5
全く有用でなかった	1	3.8	-	-	-	-	-	-	1	1.5
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	1	14.3		
無回答	-	-	-	-	-	-	6	85.7		
合計	26	100.0	22	100.0	17	100.0	7	100.0	65	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

### <意見・感想等>

#### (分科会1)

- ・グループに分かれ、個々の機関の具体的な問題を共有し、全員で解決策を探した点、また、スピーカーのアドバイスも有用であった。
- ・「全ての大学が等しい男女共同参画を推し進めているわけではない」ということが分かり、ゼロだからこそ、いろいろやれる！という意識にかえてくれた。
- ・課題、事情が異なる機関で話し合いをしても一般的内容にしかならない。

#### (分科会2)

- ・他大学の方との情報交換、特に課題の共有化ができたことはよかった。名大の事例報告は大変参考に
- ・情報は共有できたが、解決・方向を示すものではなかった。

#### (分科会3)

- ・他の大学・高専も同様の悩みを抱えていることが分かりほっとした一方で、進んでいる学校の事例を紹介して事項にも取り入れたい。
- ・事例紹介2例とも本校の取組に参考になるものだった。お互いの抱えている問題、取組例などを共有することができてよかった。結果的に女子に限ったことではなく男子にも有益な取組ができるのではないかと感じた。

## 9 全体会

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	11	20.8	1	7.7	1	16.7	13	18.1	13	29.5
有用であった	21	39.5	5	46.1	1	16.7	27	37.5	27	61.4
あまり有用でなかった	3	5.7	-	-	1	16.7	4	5.6	4	9.1
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	1.9	1	7.7	-	-	2	2.8		
無回答	17	32.1	6	46.2	3	49.9	26	36.1		
合計	53	99.9	13	100.0	6	99.9	72	100.0	44	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

- ・他の分科会の内容についてもっと詳しく知ることができたらと思う。(時間的に厳しいとは思いますが、パワーポイントのスライドで提示していただけたらより分かりやすくなるように感じた)
- ・他の分科会の話を知りたかったので、ありがたい機会だった。
- ・他の分科会の報告は資料をいただいているので特に必要なかったと思われる。

## 2. 研修全体は有用でしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	29	54.7	8	61.5	2	33.4	39	54.1	39	56.6
有用であった	22	41.5	5	38.5	2	33.3	29	40.3	29	42.0
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全く有用でなかった	1	1.9	-	-	-	-	1	1.4	1	1.4
無回答	1	1.9	-	-	2	33.3	3	4.2		
合計	53	100.0	13	100.0	6	100.0	72	100.0	69	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

### <意見・感想等>

- ・自分の職場・学校以外でのことを多く知ることができ参考になった。持ち帰って利用できるものが多かつ
- ・共通のテーマについて深く討論することができた。
- ・他機関の状況を知ることができるので、所属機関の現状を見直す機会となる。

## 3. この研修での満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に満足した	23	43.4	5	38.5	2	33.4	30	41.7	30	43.5
満足した	27	50.9	8	61.5	2	33.3	37	51.3	37	53.7
少し物足りなかった	1	1.9	-	-	-	-	1	1.4	1	1.4
物足りなかった	1	1.9	-	-	-	-	1	1.4	1	1.4
無回答	1	1.9	-	-	2	33.3	3	4.2		
合計	53	100.0	13	100.0	6	100.0	72	100.0	69	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

### <意見・感想等>

- ・分科会でのグループワークの時間もたっぷりあり、深く課題について討論できた。
- ・同じ立場の方々と情報交換できて、新たなネットワークが築けてよかった。宿泊研修だと日頃の忙しい業務を離れることができ、じっくり考えることができ満足だ。
- ・分科会でも出ていたが、多様な立場の方と横につながって話し合うことができる雰囲気は男女共同参画推進という活動のもつ不思議な魅力と思った。初めてこうした場に参加したが、予想外の収穫だっ
- ・男女共同参画関連のセミナーに参加したのが初めてだったので、基本的な知識・情報から課題解決の手法まで取り上げていただけて充実したセミナーを過ごすことができた。
- ・内容的には満足だったが、慌ただしいプログラムだったように感じた。
- ・もう少しコース別ワークショップのディスカッションの時間を長く取ってほしい。

## 4. 今後この研修で取り上げて欲しいテーマ・内容・方法について

- ・キャリア支援(教育)の単位化工夫
- ・男女共同参画関連の職務に就いていない教職員に対する意識啓発について
- ・現状の「男女比が社会で平衡していない」ということの問題点がわからなかったので、それを取り上げてほしい。
- ・男女共同参画の失敗例など
- ・男性へ向けての男女共同参画教育について
- ・男女関係なく必要な支援・教育というものが心に残ったので、さらに掘り下げて勉強したかった。どうもありがとうございました。
- ・子育て中の研究者が子連れで参加して、子育てをしながらワーク・ライフ・バランスをどう実現しているのかという座談会的なものを実施してほしい。
- ・高専の場合、キャリア教育に大学と時系列で違う面が見られるので、できればワークショップに高専のみのキャリア教育についての部門をつくっていただけると助かる。
- ・大学の共同参画というと、教員・理系女子学生に焦点が当たるが、事務職員もふまえた内容も聞いてみたいと思った。
- ・文部科学省の担当セクションとの話し合いを含むセミナー。
- ・ワークショップの意見交換等については、大学の実状をふまえたものとしてほしい。
- ・大学等における管理職セミナー
- ・後で見るときのために資料はカラーコピーでお願いしたい。
- ・大阪でもこのような研修を行ってほしい。
- ・「今後の男女共同参画について」の展望
- ・JST事業後の男女共同参画推進の継続をいかに進めるのか。

- ・小規模学校で男女共同参画に取り組むためにはどうしたらよいか。
- ・女性研究者と婚活
- ・大都市・地方など、地域によって男女共同参画や女性研究者支援の展開に違いがあるので講演や事例紹介で偏りがないと有り難い。
- ・海外の大学等における男女共同参画施策について取り上げてほしい。
- ・女性が働く上で必要である制度、しくみなど関係法規と関連づけた具体的なセミナーを開催していただきたい。
- ・働く女性の意識 → 悩みをどう解決していくか。シェアリング、メントレ等の研修がほしい。
- ・このような機会をいただきまして誠にありがとうございました。できるだけたくさんの方(様々な)方が参加できる方法がよいと思う。もっと便利な場所で行われればたくさんの方が参加できると思う。
- ・1日目からグループワークを入れてほしい。また、グループ替えを行うとより情報交換がたくさん行えてよいと思う。
- ・大学院生の結婚・出産への支援
- ・大学評価に男女共同参画を盛り込むための評価の制度作りをテーマにしてほしい。
- ・大学の規模や構成に分けた取組と問題点を教員(男女)、職員、執行部の各々の立場から明らかにできるような内容を期待したい。
- ・実践例・モデルとなる事業・取組を知りたい。
- ・資料の印刷がモノクロだったので分かりにくいので、できればカラーで印刷してほしい。
- ・情報交換会の前に夕食を食べ過ぎてしまい、あまり食べられなかった。できれば夕食を兼ねる形にした方がよいように思う。
- ・男女共同参画取組事例の中に公立大学での取り組み紹介
- ・女性比率が割合多い中で、むしろ問題、課題として考えられることについて講義
- ・大学内の改革等の実際例を多く(事務方レベルのものも)聞きたい。
- ・メンター制のあり方(活発化するために)部局を巻き込んだ男女共同参画の進め方
- ・管理職セミナーについて
- ・介護制度について
- ・マイノリティの視点をもつ
- ・少子高齢化を見据えて
- ・ワールドカフェ
- ・男女共同参画の失敗例など重要性をふまえたリーダー育成
- ・失敗した事例を共有することもできたらありがたい。

## 参加者自身について

### ◆性別

	人数	%
女性	53	73.6
男性	13	18.1
不明	6	8.3
合計	72	100.0

### ◆年代

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
20代	3	5.6	-	-	-	-	3	4.2
30代	12	22.2	-	-	-	-	12	16.7
40代	16	29.6	2	16.7	-	-	18	25.0
50代	14	25.9	9	75.0	-	-	23	31.9
60代	7	13.0	1	8.3	-	-	8	11.1
70代以上	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	2	3.7	-	-	6	100.0	8	11.1
合計	54	100.0	12	100.0	6	100.0	72	100.0

### ◆研修開催の情報を何で知りましたか。(複数回答)

		女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
		(53名中)		(13名中)		(6名中)		(72名中)	
国立女性 教育会館から	ホームページ・メールマガジン	5	9.4	2	15.4	-	-	7	9.7
	ダイレクトメール	16	30.2	5	38.5	-	-	21	29.2
	ちらし	12	22.6	-	-	-	-	12	16.7
	又エックニュース	5	9.4	-	-	-	-	5	6.9
その他	25	47.2	7	53.8	-	-	32	44.4	

平成25年度「男女共同参画推進フォーラム～女性の活躍で日本を元気に」  
実施要項

1. 趣旨

男女共同参画を推進する行政担当者、女性団体やNPOのリーダー及び大学や企業において組織内のダイバーシティ、女性の活躍を推進する担当者等が一堂に会し、課題の共有と課題解決のための方策を探る研修を実施します。同時に、組織分野を越え、連携・協働して男女共同参画を推進するためのネットワーク形成を図ります。

2. 主題

「女性の活躍で日本を元気に」

3. 主催

独立行政法人 国立女性教育会館

4. 会場

国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地

5. 期日

平成25年8月22日（木）～8月24日（土）

6. 対象

行政、企業、大学、NPO等の組織において男女共同参画の推進に携わる方、  
ならびに、女性団体、女性／男女共同参画センター職員、その他男女共同参画  
に関心のある方 1,000名

7. 日程

8/22 (木)	13:00		13:15	14:45	15:30	17:30	19:00	20:00
		開 会	基調講演		ワーク ショップ1	夕食	情報交換会	
8/23 (金)	10:00	12:00	13:00	15:00	15:30	17:30	18:30	20:00
	ワーク ショップ2	昼休み	パネルディス カッション		ワーク ショップ3		交流会 (会費制)	
8/24 (土)	10:00	12:00	13:00	15:00				
	ワーク ショップ4	昼休み	女性リーダーらんざん 会議					

## 8. 内容

### **第1日 8月22日(木) (受付: 12:00~17:00 本館ロビー)**

(1) 開会 主催者あいさつ 13:00 ~ 13:10

(2) 「女性の活躍推進と社会の活性化」 13:15 ~ 14:45

少子高齢化という社会構造の大きな変化が進み、既存の価値観や社会システムの見直しがせまられる中、成長の原動力として、女性の活躍への期待が高まっています。本プログラムでは、ワーク・ライフ・バランス推進の第一人者でいらっしゃる佐々木常夫氏をお招きして、男女共同参画社会の実現に向けて、女性の活躍を推進し、活力のある社会を創出していく上で、何が求められているのかご講演いただきます。

基調講演：佐々木常夫 株式会社東レ経営研究所特別顧問

(3) ワークショップ1 15:30 ~ 17:30  
会館提供ワークショップと全国から募集したワークショップを行います。

(4) 情報交換会 19:00 ~ 20:00  
今後の連携・協働に向けた参加者同士のネットワークづくりの場です。

### **第2日 8月23日(金) (受付: 9:00~17:00 本館ロビー)**

(5) ワークショップ2 10:00 ~ 12:00  
会館提供ワークショップと全国から募集したワークショップを行います。

(6) 「女性の活躍推進と社会の活性化」 13:00 ~ 15:00

昨日の基調講演に引き続き、本プログラムでは、地域や企業をはじめ、社会のあらゆる分野において、成長の原動力として女性の活躍を推進し、男女共同参画社会を実現していく上での現状と課題、今後の展望などについて、それぞれの分野で第一人者としてご活躍中のパネリストの方々とともに考えます。

#### パネルディスカッション

パネリスト (五十音順、敬称略)

佐藤良子 立川市大山自治会 会長

藻谷浩介 株式会社日本総合研究所 調査部 主席研究員

森川典子 ボッシュ株式会社 取締役副社長

コーディネーター

野村浩子 日経BP社 日経マネー編集部 副編集長

(7) ワークショップ3 15:30 ~ 17:30  
会館提供ワークショップと全国から募集したワークショップを行います。

- (8) 交流会 18:30 ~ 20:00  
夕食を兼ねた交流会 (参加費 3,000 円、要事前申込、立食形式)

**第3日 8月24日(土) (受付:9:00~14:30 本館ロビー)**

- (9) ワークショップ4 10:00 ~ 12:00  
全国から募集したワークショップと会館提供ワークショップを行います。

- (10) 「女性リーダーらんざん会議」(於:研修棟2階 大会議室) 13:00 ~ 15:00

本プログラムは、大学、企業、行政、NPO団体といった様々な分野で活躍されている女性リーダーの方々にご登壇いただき、これからの女性リーダーのあり方や様々な分野での女性の活躍を推進していく上での現状、課題などについて、自由に語り合う場とします。

パネリスト (五十音順、敬称略):

天野正子 東京家政学院大学 学長

生越多恵子 株式会社ハウス オブ ローゼ 取締役 専務執行役員

中川智子 宝塚市長

日置真世 NPO法人地域生活支援ネットワークサロン 理事 事務局顧問

コーディネーター:

内海房子 国立女性教育会館 理事長

★ポスター展示 (場所: 本館ロビー)

フォーラム期間中、全国から募集した団体・グループによる展示発表を行います。

9. ワークショップ・ポスター展示のテーマ

「第3次男女共同参画基本計画」に示されている施策を参考に、以下7つのテーマを設定し、ワークショップとポスター展示を募集しました。

- ①【女性のキャリア形成支援】
- ②【企業における女性の活躍推進】
- ③【大学における女性の活躍推進】
- ④【男性にとっての男女共同参画】
- ⑤【安全・安心と男女共同参画】
- ⑥【男女共同参画の地域づくり】
- ⑦【男女共同参画センターの役割】

10. 企画委員 (五十音順・敬称略)

本フォーラムの企画を会館と協働で行います。

- ・小山内世喜子 アピオあおもり 青森県男女共同参画センター副館長
- ・田中雅文 日本女子大学教授
- ・根岸茂文 一般社団法人埼玉県経営者協会専務理事・事務局長
- ・森和江 埼玉県地域婦人会連合会 副会長
- ・矢澤澄子 元東京女子大学教授 (企画委員長)

## 11. 参加申込

事前の申込はご不要です。当日、直接受付にお越しください。

**★なお、会館への宿泊を希望される場合は、国立女性教育会館ホームページより、または宿泊申込書（別紙）に必要事項をご記入の上、国立女性教育会館事業課宛に郵送してください。**

**宿泊申込期間：7月25日（木）～8月2日（金）17:00 必着（先着順）**

## 12. 所要経費

- (1) 参加費：無料
- (2) 宿泊費：フォーラム開催期間中は、小学生以上1泊あたり1,000円  
★未就学児は1名あたり1泊500円。
- (3) 交流会費：3,000円（8/23 18:30～20:00、立食形式）
- (4) 食費：1食あたり700円～1,000円程度  
★カフェテリア方式の食堂（本館1階）をご利用ください。  
★8月23日（金）夜は、交流会で貸切のため通常営業は行いません。

## 13. 保育

フォーラム期間中、おおむね2歳以上から学齢未満の幼児保育を実施します。

ご希望の場合は、事業課・清水（0493-62-6725）までご連絡ください（先着順、お預かりすることのできるお子様の人数に限りがあります）。

## 14. 情報交換コーナー（場所：実技研修棟 音楽室）

参加者の皆さまが、ご所属団体のパンフレットやチラシなどの資料や書籍などを自由に交換・販売するコーナーを設置しますので、ご利用ください。

資料の運搬、陳列、金銭の取扱いなどは、各自の責任でお願いします。

## 15. 送迎バス

期間中、国立女性教育会館本館前～東武東上線武蔵嵐山駅東口間で無料送迎バスをピストン運行しますのでご利用ください。

★運行間隔は、武蔵嵐山駅への電車の到着にあわせ、1時間3～4本程度です。

## 16. 荷物の発送

荷物を事前に会館まで宅配便で送る場合、宛名は**国立女性教育会館フロント気付「団体名」**としてください。当日、本館フロントで引き取りください。

## 17. その他

以下の点、あらかじめご了承ください。

- ①参加者同士の交流・情報交換の促進を目的とした場ですので、行き過ぎた勧誘や署名運動、募金等のご遠慮願います。
- ②期間中、職員が撮影した写真を事業記録や広報のために使用することがあります。

平成25年度「男女共同参画推進フォーラム」参加者概況

1. 参加区分別人数

(人)

一般参加者			WS・ポスター展示運営者			講師・会館運営者			合計		
	計	%		計	%		計	%		計	%
女性	599	85.2	女性	205	87.6	女性	95	84.8	女性	899	85.7
男性	104	14.8	男性	29	12.4	男性	17	15.2	男性	150	14.3
無回答	0	0.0	無回答	0	0.0	無回答	0	0.0	無回答	0	0.0
計	703	100.0	計	234	100.0	計	112	100.0	計	1,049	100.0

定員 1,000名  
充足率 104.9%

平成24年度参加者 1,035名

【区分内訳】

一般参加者 事前申込者(宿泊)、当日申込者  
WS・ポスター展示運営者 募集ワークショップ及びポスター展示運営者  
講師・会館関係者 企画委員、会館プログラム講師・運営者、会館ボランティア等

【一般参加者・区分別人数】 (人)

	宿泊	日帰り	合計
女性	144	455	599
男性	15	89	104
無回答	-	-	-
計	159	544	703

2. 参加日別(延べ人数)

(人)

	一般参加者				WS・ポスター展示運営者				講師・会館運営者				合計			
	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%
22日	382	81	463	43.8	74	15	89	29.7	62	10	72	32.2	518	106	624	39.4
23日	324	50	374	35.3	110	13	123	41.0	80	13	93	41.5	514	76	590	37.3
24日	198	23	221	20.9	74	14	88	29.3	51	8	59	26.3	323	45	368	23.3
計	904	154	1,058	100.0	258	42	300	100.0	193	31	224	100.0	1,355	227	1,582	100.0

3. 年代別

(人)

	一般参加者				WS・ポスター展示運営者				講師・会館運営者				合計			
	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%
10～19歳	1	1	2	0.3	1	-	1	0.2	-	-	-	-	2	1	3	0.3
20～29歳	38	14	52	7.4	3	4	7	3.0	5	4	9	8.0	46	22	68	6.5
30～39歳	49	11	60	8.5	14	5	19	8.1	6	-	6	5.4	69	16	85	8.1
40～49歳	67	16	83	11.8	31	3	34	14.6	8	1	9	8.0	106	20	126	12.0
50～59歳	139	28	167	23.8	32	5	37	15.9	16	4	20	17.9	187	37	224	21.4
60代以上	275	33	308	43.8	69	6	75	32.1	34	7	41	36.6	378	46	424	40.4
無回答	30	1	31	4.4	55	6	61	26.1	26	1	27	24.1	111	8	119	11.3
計	599	104	703	100.0	205	29	234	100.0	95	17	112	100.0	899	150	1,049	100.0

4. 職業形態別

(人)

	一般参加者				WS・ポスター展示運営者				講師・会館運営者				合計			
	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%
教育委員会	-	-	-	-	4	1	5	2.1	-	-	-	-	4	1	5	0.5
男女共同参画行政	127	40	167	23.7	13	2	15	6.4	4	2	6	5.3	144	44	188	17.9
その他の行政	-	-	-	-	2	1	3	1.3	-	-	-	-	2	1	3	0.3
研究者・大学教員	14	9	23	3.3	18	2	20	8.6	12	3	15	13.4	44	14	58	5.5
小・中・高校教員	2	1	3	0.4	1	-	1	0.4	-	-	-	-	3	1	4	0.4
団体・グループ	321	31	352	50.1	101	12	113	48.3	63	8	71	63.4	485	51	536	51.1
施設関係者(女性関連・社会教育)	38	7	45	6.4	20	2	22	9.4	5	-	5	4.5	63	9	72	6.8
その他の施設	-	-	-	-	1	-	1	0.4	-	-	-	-	1	-	1	0.1
企業関係者	13	2	15	2.1	6	4	10	4.3	6	2	8	7.1	25	8	33	3.1
議員	2	-	2	0.3	4	-	4	1.7	-	-	-	-	6	-	6	0.6
学生	14	2	16	2.3	4	3	7	3.0	3	2	5	4.5	21	7	28	2.7
主婦・主夫	4	-	4	0.6	1	-	1	0.4	-	-	-	-	5	-	5	0.5
無職	-	-	-	-	3	-	3	1.3	-	-	-	-	3	-	3	0.3
その他	42	8	50	7.1	27	2	29	12.4	2	-	2	1.8	71	10	81	7.7
無回答	22	4	26	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	22	4	26	2.5
計	599	104	703	100.0	205	29	234	100.0	95	17	112	100.0	899	150	1,049	100.0

## 5. 都道府県別

(人)

	一般参加者				WS・ポスター展示運営者				講師・会館運営者				合計			
	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	計	%
北海道	30	1	31	4.4	-	-	-	-	2	-	2	1.9	32	1	33	3.1
青森県	2	-	2	0.3	2	-	2	0.9	4	-	4	3.6	8	-	8	0.8
岩手県	10	-	10	1.4	12	4	16	6.9	1	-	1	1.0	23	4	27	2.6
宮城県	4	-	4	0.6	1	1	2	0.9	-	-	-	-	5	1	6	0.6
秋田県	7	1	8	1.1	2	2	4	1.7	-	-	-	-	9	3	12	1.1
山形県	3	-	3	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	0.3
福島県	17	2	19	2.7	3	3	6	2.6	-	-	-	-	20	5	25	2.4
茨城県	66	3	69	9.8	-	-	-	-	-	-	-	-	66	3	69	6.6
栃木県	63	6	69	9.8	-	-	-	-	-	-	-	-	63	6	69	6.6
群馬県	31	5	36	5.1	1	-	1	0.4	-	-	-	-	32	5	37	3.5
埼玉県	72	21	93	13.2	31	7	38	16.2	38	8	46	41.1	141	36	177	16.8
千葉県	51	11	62	8.8	3	-	3	1.3	1	-	1	1.0	55	11	66	6.3
東京都	91	17	108	15.4	98	6	104	44.4	32	8	40	35.7	221	31	252	23.9
神奈川県	10	4	14	2.0	14	1	15	6.4	2	1	3	2.7	26	6	32	3.0
山梨県	17	3	20	2.8	13	3	16	6.9	-	-	-	-	30	6	36	3.4
新潟県	17	3	20	2.8	8	-	8	3.4	1	-	1	1.0	26	3	29	2.8
長野県	46	6	52	7.4	-	-	-	-	1	-	1	1.0	47	6	53	5.0
富山県	-	1	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	0.1
石川県	-	1	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	0.1
福井県	1	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	5	5	10	1.4	-	-	-	-	4	-	4	3.6	9	5	14	1.3
愛知県	5	1	6	0.9	2	-	2	0.9	-	-	-	-	7	1	8	0.8
三重県	1	3	4	0.6	5	-	5	2.1	1	-	1	1.0	7	3	10	1.0
滋賀県	9	1	10	1.4	-	-	-	-	1	-	1	1.0	10	1	11	1.0
京都府	1	1	2	0.3	1	-	1	0.4	2	-	2	1.9	4	1	5	0.5
大阪府	15	2	17	2.4	7	1	8	3.4	4	-	4	3.6	26	3	29	2.8
兵庫県	1	2	3	0.5	-	1	1	0.4	-	-	-	-	1	3	4	0.4
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	2	-	2	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	0.2
島根県	1	-	1	0.1	1	-	1	0.4	-	-	-	-	2	-	2	0.2
岡山県	2	-	2	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	0.2
広島県	1	-	1	0.1	1	-	1	0.4	-	-	-	-	2	-	2	0.2
山口県	3	-	3	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	0.3
徳島県	1	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	1	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1
福岡県	2	1	3	0.5	-	-	-	-	1	-	1	0.9	3	1	4	0.4
佐賀県	2	-	2	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	0.2
長崎県	-	1	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	0.1
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	3	-	3	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	0.3
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	3	-	3	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	0.3
沖縄県	3	2	5	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	5	0.5
不明・無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	599	104	703	100.0	205	29	234	100.0	95	17	112	100.0	899	150	1,049	100.0

## 平成25年度「男女共同参画推進フォーラム」

### アンケート集計結果

参加者数:937名(講師、関係者を除く) アンケート回答数:317件 アンケート回答率:33.8%

1. 参加日に○をつけてください。(複数回答)

	女性	%	男性	%	不明	%	総計	%
8/22(木)	171	39.8	29	43.9	7	36.8	207	40.2
8/23(金)	151	35.1	24	36.4	7	36.8	182	35.3
8/24(土)	108	25.1	13	19.7	5	26.3	126	24.5
合計	430	100.0	66	100.0	19	100.0	515	100.0

2. フォーラムは、あなたにとって、役に立ちましたか。どちらかに○をつけてください。

※母数はそれぞれ女性、男性、不明の合計数とする

	女性	% (261名中)	男性	% (44名中)	不明	% (12名中)	合計	% (317名中)
はい	249	95.4	42	95.5	10	83.3	301	95.0
いいえ	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	12	4.6	2	4.5	2	16.7	16	5.0
合計	261	100.0	44	100.0	12	100.0	317	100.0

3. 以下のプログラムについて、うかがいます。あてはまるものに○をつけてください。

◆ 3-①基調講演「女性の活動躍進と社会の活性化」(8/22、講堂)

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
非常に満足した	62	23.8	9	20.5	2	16.7	73	23.0	33.0
満足した	102	39.1	19	43.2	2	16.7	123	38.8	55.7
少し物足りなかった	15	5.7	1	2.3	1	8.3	17	5.4	7.7
物足りなかった	4	1.5	2	4.5	2	16.7	8	2.5	3.6
参加しなかった	29	11.1	4	9.1	2	16.7	35	11.0	
無回答	49	18.8	9	20.5	3	25.0	61	19.2	
合計	261	100.0	44	100.0	12	100.0	317	100.0	100.0

◆ 3-②パネルディスカッション「女性の活動推進と社会の活性化」(8/23、講堂)

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
非常に満足した	55	21.1	4	9.1	2	16.7	61	19.2	36.3
満足した	73	28.0	12	27.3	1	8.3	86	27.1	51.2
少し物足りなかった	10	3.8	3	6.8	1	8.3	14	4.4	8.3
物足りなかった	3	1.1	2	4.5	2	16.7	7	2.2	4.2
参加しなかった	28	10.7	4	9.1	1	8.3	33	10.4	
無回答	92	35.2	19	43.2	5	41.7	116	36.6	
合計	261	100.0	44	100.0	12	100.0	317	100.0	100.0

◆ 3-③女性リーダー嵐山会議(8/24、大会議室)

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
非常に満足した	33	12.6	5	11.4	2	16.7	40	12.6	48.8
満足した	33	12.6	4	9.1	2	16.7	39	12.3	47.6
少し物足りなかった	3	1.1	-	-	-	-	3	0.9	3.7
物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	49	18.8	12	27.3	4	33.3	65	20.5	
無回答	143	54.8	23	52.3	4	33.3	170	53.6	
合計	261	100.0	44	100.0	12	100.0	317	100.0	100.0

4. フォーラムの満足度についてうかがいます。1つだけを選んで○をつけてください。

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
非常に満足した	65	24.9	12	27.3	-	-	77	24.3	30.3
満足した	122	46.7	19	43.2	6	50.0	147	46.4	57.9
少し物足りなかった	19	7.3	4	9.1	1	8.3	24	7.6	9.4
物足りなかった	4	1.5	2	4.5	-	-	6	1.9	2.4
無回答	51	19.5	7	15.9	5	41.7	63	19.9	
合計	261	100.0	44	100.0	12	100.0	317	100.0	100.0

5. フォーラムの開催月についてうかがいます。どちらかに○をつけてください。

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
今のまま(8月開催)でよい	181	69.3	33	75.0	8	66.7	222	70.0	81.6
ほかの月がよい	45	17.2	4	9.1	1	8.3	50	15.8	18.4
無回答	35	13.4	7	15.9	3	25.0	45	14.2	
合計	261	100.0	44	100.0	12	100.0	317	100.0	100.0

何月がよいですか。

※5. で「他の月がよい」を選択した方の総数を母数とする

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
4月	1	2.2	-	-	-	-	1	2.0	2.2
5月	4	8.9	-	-	-	-	4	8.0	8.9
7月	3	6.7	-	-	-	-	3	6.0	6.7
9月	2	4.4	-	-	-	-	2	4.0	4.4
10月	15	33.3	2	50.0	-	-	17	34.0	37.8
11月	7	15.6	-	-	1	100.0	8	16.0	17.8
その他※	8	17.8	2	50.0	-	-	10	20.0	22.2
無回答	5	11.1	-	-	-	-	5	10.0	
合計	45	100.0	4	100.0	1	100.0	50	100.0	100.0

\*「その他」詳細

・9,10月(2件)

・3,10月

・6,11月

・10,11月

・8月以外

・7-8月以外

・秋

・春

・春か秋

6. フォーラムへの感想・ご意見などご自由にお書きください。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
記入あり	153	58.6	30	68.2	11	91.7	194	61.2
無回答	108	41.4	14	31.8	1	8.3	123	38.8
合 計	261	100.0	44	100.0	12	100.0	317	100.0

※感想・ご意見詳細

・	ぜひ続けてほしいです！ 毎年楽しみにしています！！
・	たくさん勉強させていただきました。ありがとうございました。 意識がより高まりました。
・	今回のフォーラムは充実し、満足感を持てるものでした。
・	今回初めてWSを主催、参加の皆様の多種の意見が直接聞くことが出来大いなる”気づき”を得ました。
・	今年も来て良かったです。
・	最近の社会情勢を見て少し元気を無くしていましたが、皆さんのお話を聞き、元気をもらって帰ることができま す。
・	初めての参加で大変勉強になりました。
・	大変勉強になりました。 これから仕事に生活に生かしていきたいと思います。
・	男女共同参画について、色々な方面から考えることができた。まだまだ解決していくべき問題があるのだと感 じた。
・	毎年、楽しみに参加しています。ワークショップ等に刺激を受け、参加者の多さに励まされ地域に帰ります。 ぜひこういった事業を引き続き継続してください。
・	様々な視点・立場から男女共同参画を考える重要な機会となりました。また女性リーダーを増すこと、未来の 女性リーダーを育てることの必要性をひしひしと感じました。

7. 最後に、あなたご自身についてうかがいます。あてはまるものに○をつけてください。

◆ ①性別、②年齢

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
10代	1	0.4	1	2.3	-	-	2	0.6	0.6
20代	18	6.9	4	9.1	-	-	22	6.9	7.1
30代	26	10.0	3	6.8	1	8.3	30	9.5	9.6
40代	31	11.9	5	11.4	-	-	36	11.4	11.6
50代	66	25.3	11	25.0	3	25.0	80	25.2	25.7
60代以上	117	44.8	19	43.2	5	41.7	141	44.5	45.3
無回答	2	0.8	1	2.3	3	25.0	6	1.9	
合計	261	100.0	44	100.0	12	100.0	317	100.0	100.0

◆ ③地域

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
北海道	10	3.8	-	-	-	-	10	3.2	3.4
青森	3	1.1	-	-	-	-	3	0.9	1.0
岩手	8	3.1	1	2.3	-	-	9	2.8	3.0
宮城	3	1.1	-	-	-	-	3	0.9	1.0
秋田	6	2.3	2	4.5	-	-	8	2.5	2.7
山形	1	0.4	-	-	-	-	1	0.3	0.3
福島	5	1.9	1	2.3	2	16.7	8	2.5	2.7
茨城	14	5.4	2	4.5	-	-	16	5.0	5.4
栃木	20	7.7	-	-	-	-	20	6.3	6.8
群馬	10	3.8	1	2.3	-	-	11	3.5	3.7
埼玉	29	11.1	8	18.2	2	16.7	39	12.3	13.2
千葉	18	6.9	7	15.9	-	-	25	7.9	8.4
東京	39	14.9	9	20.5	2	16.7	50	15.8	16.9
神奈川	4	1.5	3	6.8	-	-	7	2.2	2.4
新潟	12	4.6	-	-	1	8.3	13	4.1	4.4
富山	-	-	1	2.3	-	-	1	0.3	0.3
山梨	8	3.1	1	2.3	1	8.3	10	3.2	3.4
長野	16	6.1	2	4.5	1	8.3	19	6.0	6.4
静岡	2	0.8	2	4.5	-	-	4	1.3	1.4
愛知	8	3.1	1	2.3	-	-	9	2.8	3.0
三重	1	0.4	-	-	-	-	1	0.3	0.3
滋賀	1	0.4	-	-	-	-	1	0.3	0.3
大阪	11	4.2	-	-	1	8.3	12	3.8	4.1
兵庫	1	0.4	2	4.5	-	-	3	0.9	1.0
鳥取	2	0.8	-	-	-	-	2	0.6	0.7
島根	1	0.4	-	-	-	-	1	0.3	0.3
岡山	1	0.4	-	-	-	-	1	0.3	0.3
広島	2	0.8	-	-	-	-	2	0.6	0.7
山口	1	0.4	-	-	-	-	1	0.3	0.3
高知	1	0.4	-	-	-	-	1	0.3	0.3
福岡	1	0.4	-	-	-	-	1	0.3	0.3
佐賀	1	0.4	-	-	-	-	1	0.3	0.3
長崎	-	-	1	2.3	-	-	1	0.3	0.3
大分	1	0.4	-	-	-	-	1	0.3	0.3
沖縄	1	0.4	-	-	-	-	1	0.3	0.3
無回答	19	7.3	-	-	2	16.7	21	6.6	
合計	261	100.0	44	100.0	12	100.0	317	100.0	100.0

## ◆ ④所属

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
行政関係者	47	18.0	15	34.1	-	-	62	19.6	20.5
研究者・大学教員	4	1.5	1	2.3	1	8.3	6	1.9	2.0
小・中・高校教員	2	0.8	-	-	1	8.3	3	0.9	1.0
団体・グループ	130	49.8	11	25.0	6	50.0	147	46.4	48.5
施設関係者(女性/男女共同参画センター・社会教育施設等)	37	14.2	6	13.6	1	8.3	44	13.9	14.5
企業関係者	6	2.3	3	6.8	-	-	9	2.8	3.0
学生	3	1.1	2	4.5	-	-	5	1.6	1.7
その他※	23	8.8	3	6.8	1	8.3	27	8.5	8.9
無回答	9	3.4	3	6.8	2	16.7	14	4.4	
合計	261	100.0	44	100.0	12	100.0	317	100.0	100.0

## ※「その他」詳細

- ・市の事業(2件)
- ・無職(2件)
- ・市
- ・一般市民
- ・フリーランス
- ・あきたF・F推進員→研修生
- ・審議委員(市の)
- ・元第3期千葉県男女共同参画地域推進員
- ・花育セルフセラピー協会代表
- ・市男女共同参画グループ
- ・近隣住民
- ・さんかくボランティア
- ・ボランティア施設

## ◆ ⑤フォーラムへの参加回数

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
初めて	114	43.7	22	50.0	3	25.0	139	43.8	47.1
2回目	44	16.9	8	18.2	3	25.0	55	17.4	18.6
3回目	23	8.8	3	6.8	-	-	26	8.2	8.8
4回目	17	6.5	2	4.5	-	-	19	6.0	6.4
5回目	10	3.8	6	13.6	-	-	16	5.0	5.4
6回目	3	1.1	1	2.3	1	8.3	5	1.6	1.7
7回目	6	2.3	1	2.3	-	-	7	2.2	2.4
8回目	4	1.5	-	-	-	-	4	1.3	1.4
9回目	1	0.4	-	-	-	-	1	0.3	0.3
10回目	17	6.5	-	-	1	8.3	18	5.7	6.1
11回目	-	-	-	-	1	8.3	1	0.3	0.3
14回目	1	0.4	-	-	-	-	1	0.3	0.3
15回目	1	0.4	-	-	-	-	1	0.3	0.3
17回目	1	0.4	-	-	-	-	1	0.3	0.3
20回目	-	-	1	2.3	-	-	1	0.3	0.3
その他※	9	3.4	-	-	1	8.3	10	3.2	3.4
無回答	10	3.8	-	-	2	16.7	12	3.8	
合計	261	100.0	44	100.0	12	100.0	317	100.0	100.0

## ※「その他」詳細

- ・複数(2件)
- ・6～7回目(2件)
- ・7～8回目(2件)
- ・5～6回目
- ・何回も
- ・全
- ・毎年

平成25年度「男女共同参画推進フォーラム」  
ワークショップ運営者アンケート集計

2013年11月11日現在

ワークショップ実施 44 団体 (採択45団体、キャンセル1団体)  
アンケート提出 37 団体  
回答率 84.1 %

3. 参加人数(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%
1～20名	14	37.8%	37.8%
21～40名	17	45.9%	46.0%
41～60名	5	13.5%	13.5%
61～80名	-	-	-
81～100名	1	2.7%	2.7%
101名以上	-	-	-
無回答	-	-	-
合計	37	100.0%	100.0%

4. (※%は「無回答」を除いた割合)

①研究・実践活動を多くの人に知ってもらうこと(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	達成度(%)
十分達成できた	23	62.2%	62.2%	91.9%
おおむね達成できた	11	29.7%	29.7%	
あまり達成できなかった	2	5.4%	5.4%	
達成できなかった	1	2.7%	2.7%	
無回答	-	-	-	
合計	37	100.0%	100.0%	

②報告や協議等を通じて更に有用な知識や情報を得ること(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	達成度(%)
十分達成できた	18	48.6%	48.7%	86.0%
おおむね達成できた	16	43.2%	43.2%	
あまり達成できなかった	3	8.1%	8.1%	
達成できなかった	-	-	-	
無回答	-	-	-	
合計	37	100.0%	100.0%	

③団体・グループが抱える問題を解決する手がかりを得ること(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	達成度(%)
十分達成できた	10	27.0%	27.8%	86.1%
おおむね達成できた	21	56.8%	58.3%	
あまり達成できなかった	4	10.8%	11.1%	
達成できなかった	1	2.7%	2.8%	
無回答	1	2.7%	2.7%	
合計	37	100.0%	100.0%	

5. 役立ち度(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	役立ち度(%)
非常に役に立った	24	64.9%	64.9%	97.3%
役に立った	12	32.4%	32.4%	
あまり役に立たなかった	1	2.7%	2.7%	
役に立たなかった	-	-	-	
無回答	-	-	-	
合計	37	100.0%	100.0%	

6. 満足度(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	満足度(%)
非常に満足した	21	56.8%	56.8%	94.6%
満足した	14	37.8%	37.8%	
少し物足りなかった	1	2.7%	2.7%	
物足りなかった	1	2.7%	2.7%	
無回答	-	-	-	
合計	37	100.0%	100.0%	

## 7. 開催月(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%
今のままでよい	31	83.8%	83.8%
他の月がよい	6	16.2%	16.2%
無回答	-	-	-
合計	37	100.0%	100.0%

ほかの月がよい→何月がよいですか

11月

7月 2件

期末月以外、天候が安定している月

記載なし 1件

1・2月暑い時期を避け新年を迎える頃だと余業もある程度おちつくので、1月末頃では？

## 8. フォーラムワークショップ実施回数

	回答数	%	※%
初めて	10	27.0%	38.4%
2回	5	13.5%	13.5%
3～5回	12	32.4%	32.4%
6回以上	10	27.0%	27.0%
無回答	-	-	-
合計	37	100.0%	100.0%

## 9. 感想・ご意見など

- ・ 遠方の様々な活動をしている人と実際に会える貴重な場だと思います。
- ・ 普段一緒に活動していない仲間とグループをつくって運営。このWSがグループの結束や先行きを左右しました。うまく進展しそうです。
- ・ 多くの方に参加いただき、私たちの活動を知っていただくことができました。市民が主体となり、防災まちづくり活動をすすめていくことの大切さを改めて感じました。
- ・ 例年より暑い中でのワークショップでしたが、参加者の方々の喜びと感謝の言葉に元気を頂きました。よかった。

平成25年度「男女共同参画推進フォーラム」  
ポスター展示運営者アンケート集計

2013年10月13日現在

ポスター展示実施 11 団体  
アンケート提出 8 団体  
回答率 72.7 %

3. (※%は「無回答」を除いた割合)

①研究・実践活動を多くの人に知ってもらうこと(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	達成度(%)
十分達成できた	1	12.5%	12.5%	50.0%
おおむね達成できた	3	37.5%	37.5%	
あまり達成できなかった	4	50.0%	50.0%	
達成できなかった	-	-	-	
無回答	-	-	-	
合計	8	100.0%	100.0%	

②報告や協議等を通じて更に有用な知識や情報を得ること(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	達成度(%)
十分達成できた	1	12.5%	42.8%	80.3%
おおむね達成できた	3	37.5%	37.5%	
あまり達成できなかった	4	50.0%	50.0%	
達成できなかった	-	-	-	
無回答	-	-	-	
合計	8	100.0%	100.0%	

③団体・グループが抱える問題を解決する手がかりを得ること(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	達成度(%)
十分達成できた	-	-	-	37.5%
おおむね達成できた	3	37.5%	37.5%	
あまり達成できなかった	5	62.5%	62.5%	
達成できなかった	-	-	-	
無回答	-	-	-	
合計	8	100.0%	100.0%	

4. 役立ち度(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	役立ち度(%)
非常に役に立った	-	-	-	57.1%
役に立った	4	50.0%	57.1%	
あまり役に立たなかった	3	37.5%	42.9%	
役に立たなかった	-	-	-	
無回答	1	12.5%	-	
合計	8	100.0%	100.0%	

5. 満足度(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	満足度(%)
非常に満足した	1	12.5%	12.5%	75.0%
満足した	5	62.5%	62.5%	
少し物足りなかった	2	25.0%	4.7%	
物足りなかった	-	-	-	
無回答	-	-	-	
合計	8	100.0%	100.0%	

6. 開催月(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%
今のままでよい	7	87.5%	87.5%
他の月がよい	1	12.5%	12.5%
無回答	-	-	-
合計	8	100.0%	100.0%

他の月がよい→何月がよいですか  
5月

#### 7. ポスター展示実施回数(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%
初めて	5	62.5%	38.4%
2回	1	12.5%	12.5%
3～5回	1	12.5%	12.5%
6回以上	1	12.5%	12.5%
無回答	-	-	-
合計	8	100.0%	100.0%

#### 8. 感想・ご意見など

- ・ 今年は、会場、照明ともに満足です。
- ・ 今回初めて展示させていただきましたが、あまり参加者へアピールすることができませんでしたが、他団体様の様々な活動を知ることができました。どうもありがとうございました。
- ・ ポスター展示を通して私達の活動を多くの方々に知っていただくことができ有意義でした。できるなら、もう1枚位パネルのスペースを頂けると良かったです。又来年も参加させて頂きたいと思います。ありがとうございました。

## 平成25年度「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」 フォローアップアンケート集計結果

参加ワークショップ数： 53  
アンケート回答数： 42  
アンケート回収率： 79.2 %  
(24年度回収率 71.7%)

### 1 フォーラムで実施したことは、その後の業務・活動に役立っていますか。

(※%は「無回答」を除く)

	件数	%	※%
a. 非常に役立った	24	57.1	57.1
b. 役立った	16	38.1	38.1
c. あまり役立たなかった	2	4.8	4.8
d. 役立たなかった	-	-	-
無回答	-	-	-
合計	42	100.0	100.0

### 2 ワークショップを実施したことによって得た成果をどのように活用・普及しましたか。

(複数回答可)

	件数 (40件中)	%
ホームページや広報資料へのワークショップ実施報告の執筆・公表	24	60.0
つながりのできた組織・団体や個人との連絡・情報交換	24	60.0
勉強会・研修会の開催	11	27.5
講師や報告者として他機関・団体の事業協力	22	55.0
その他	13	32.5

#### 【その他(具体的に)】

- ・ この募集ワークショップがきっかけで、2013年度アーキビスト研修において事例報告をさせていただいた。
- ・ ワークショップを実施したことがきっかけで、日本女性学習財団発行の月刊「ウィラール」の取材を受けることになり、「このひと」のコーナーに、「男性が当たり前育児休業を取得できる社会を」の見出しで、当センターの取組が紹介されることになった(2013年11・12月合併号)。また、日本看護連盟発行の機関紙「アンフィニ」でも、「パパの育児休業支援センターを起ち上げ活動する男性看護師」の見出しで、当センターの取組が紹介され、「大阪から全国に広げていこうと埼玉県立国立女性教育会館でもワークショップを行った」と、記事の中で触れられている(2014年新春号)。
- ・ ワークショップの報告内容と2013年7月31日に東京で開催した公開のイベントでの報告内容をまとめ、「報告書:ミレニアム開発目標1, 2, 3, 7関連日本の状況ー第58回国連女性の地位委員会に向けてー」という冊子を作成し、城西国際大学で開催するCSW58に向けての勉強会(2014年3月3日開催)の資料として活用・販売するほか、フォーラムで実施したワークショップの内容を上記の英文報告書“Millennium Development Goals 1,2,3and7 Situations in Japan-For the 58th Session of UN Commission on the Status of Women”を2014年3月10日から23日までNYで開催される第58回国連女性の地位委員会に、手分けしてNYに持参し、日本政府国連代表部を始め、各種機関、NGOsに配布することで、国内・外にワークショップのテーマに関する情報を広げる。
- ・ 隣に展示していた復興庁、青森県男女共同参画センターの展示内容を、三重県の事業に活かした。(作成DVDの活用、講師派遣依頼)
- ・ 報告時に整理、作成した資料は、これまでの本学における男女共同参画の取組についてまとめた内容であり、ポスター展示終了後の当センターにおける様々な事業において、基礎資料として活用している。(Ex.外部視察があった時の資料の一部など)

### 3 今後、会館で実施する交流事業に望むことなどを、自由にお書きください。

- ・ 多くの団体が集い、様々なワークショップが行われるこのフォーラムは今後も継続してほしい。
- ・ ワークショップをさせていただけるような「男女共同参画推進フォーラム」を今後も続けていただきたいと願っている。
- ・ 全国の最新の情報を得られることができるこの事業を続けていただきたい。

**「女性のためのハッピーキャリア大研究」**  
(平成 25 年度「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」)  
**開催要項**

- 1. 趣 旨** 男女共同参画社会の形成に向けて女性の活躍を推進するためには、職業活動、社会活動を包括し、多様な選択を可能にするキャリア形成支援が求められます。国立女性教育会館と群馬県ぐんま男女共同参画センターの共催で、群馬県内で活躍する女性たちとの意見交換などを通じて参加者がこれまでのキャリアを振り返り、個人のキャリアと社会とのつながりから、新しい一歩を踏み出すためのきっかけづくりを支援する講座を開催いたします。
- 2. 主 催** 独立行政法人 国立女性教育会館  
群馬県ぐんま男女共同参画センター
- 3. 会 場** 群馬県ぐんま男女共同参画センター  
〒371-0026 群馬県前橋市大手町1丁目13番12号  
電話 027-224-2211 FAX 027-224-2214  
E-Mail sankakuse@pref.gunma.lg.jp
- 4. 期 日** 第1回 平成26年2月22日(土)10:00~12:00  
第2回 平成26年2月22日(土)13:00~15:30  
第3回 平成26年3月1日(土)10:00~12:30
- 5. 参 加 者** 群馬県内在住・在勤の女性
- 6. 定 員** 15名程度(先着順)

**7. 内 容**

**第1回 2月22日(土) 10:00~12:00**

**●講義とワーク「キャリアを考える」**

女性の多様なキャリアについて理解を深めるとともに、参加者自身の強み・弱みを踏まえたキャリアを考えます。

講師：西山恵美子 国立女性教育会館客員研究員

**第2回 2月22日(土) 13:00~15:30**

**●ロールモデル・カフェ～夢を実現させた先輩のリアルを聞く**

キャリア上の転機とその困難をどう乗り越えたのか、群馬県内の様々な分野で

活躍する女性たちのお話から、その解決のヒントを探ります。

ゲストスピーカー

(女性の起業) 秋葉純子さん (RTA認定スクール「つむぎ」代表)

(社会参画) 星野直子さん (NPO法人Cosmos 理事長)

(組織で働く) 藤田朱美さん ((公財)前橋観光コンベンション協会 観光推進課係長)

コーディネーター: 西山恵美子 国立女性教育会館 客員研究員

**第3回 3月 1日(土) 10:00~12:30**

### ●ライフ・プランニング

これまでのキャリアを踏まえ、今後の目標に向けて一步踏み出すためのライフ・プランニングづくりを行います。

ファシリテーター: 引間紀江 国立女性教育会館事業課専門職員

## 8. 申込方法・期限等

### (1) 方法

参加申込書に必要事項をご記入のうえ、ぐんま男女共同参画センターまで、電話(027-224-2211)、FAX(027-224-2214)、郵送、メール(sankakuse@pref.gunma.lg.jp)でお申し込みください。

※開催要項、参加申込書等の電子データは、ぐんま男女共同参画センターホームページ(<https://www.pref.gunma.jp/07/p03100039.html>)、または国立女性教育会館ホームページ(<http://www.nwec.jp/>)よりダウンロードいただけます。

### (2) 申込期限

平成26年2月14日(金)必着

## 9. 所要経費

(1) 参加費 無料

(2) カフェ代 実費(300円程度)

※第2回参加者の方のみ、お菓子・お茶代として当日集金します。

## 10. その他

### (1) 託児保育

講座の時間中、託児保育を実施します(先着10名まで・昼食時をのぞく)。おおむね2歳以上の学齢未満のお子さんが対象です。詳細は別途ご相談ください。

### (2) 駐車場

お車で来館の場合は、群馬県庁内の県民駐車場をご利用ください。

<http://www.pref.gunma.jp/01/a2710003.html>

**「女性のためのハッピーキャリア大研究」第1,2回**  
**(平成25年度「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」)**  
**アンケート集計結果**

アンケート回答数 23 件

Q1 年代

	人数	%
20代以下	3	13.0
30代	5	21.7
40代	8	34.9
50代	5	21.7
60代以上	2	8.7
合計	23	100.0

Q2 住まい

	人数	%
前橋市	11	48.1
高崎市	5	21.7
伊勢崎市	3	13.0
桐生市	1	4.3
安中市	1	4.3
藤岡市	1	4.3
玉村町	1	4.3
合計	23	100.0

Q3 ぐんま男女共同参画センターについて

	人数	%
以前から利用している	7	30.4
名称だけは知っていたが、訪れたのは今回が初めて	10	43.5
今回初めてその存在を知った	6	26.1
合計	23	100.0

Q4 セミナーを何で知ったか

	人数	%
チラシ	13	56.7
情報誌	3	13.0
新聞	1	4.3
市の広報紙	1	4.3
その他	5	21.7
合計	23	100.0

<その他>の内訳

- ・ NWECのHP
- ・ フェイスブック
- ・ 上司の勧め
- ・ 群馬県のHP

Q5 第1回「キャリアを考える」満足度

	人数	%	人数	※%
非常に満足であった	19	82.6	19	90.5
満足であった	2	8.7	2	9.5
あまり満足でなかった	-	-	-	-
全く満足でなかった	-	-	-	-
参加しなかった	-	-		
無回答	2	8.7		
合計	23	100.0	21	100.0

※ 満足度の指標

- 非常に満足であった : 80以上~100(%)
- 満足であった : 50以上~80未満
- あまり満足でなかった : 20以上~50未満
- 全く満足でなかった : 0~20未満

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

## Q6 <意見・感想等>

- ・自分が思っていたことに対する答えのようなことを言っていたのが印象だ。
- ・もう少し時間があつたらよかった。
- ・今まで考えていたこととは違った視点からの考えだったので、とても自分のためになった。自分とは違う人たちとグループワークができて面白かった。
- ・(11:00から参加)自分を見つめ直し、また、他の方のお話を聞いたことで人それぞれの生き方があると改めて感じ、勇気がわいた。
- ・女性に特化したキャリアの考え方を学ぶことができた。
- ・キャリアについては日頃もやもやを感じていても、つかみどころがなかった。今日、先生の系統立てたお話をお聞きし整理することができた。(ex.キャリアの狭義、広義、役割、自分を知る・・・)これをきっかけに前向きに考えてみようと思う。ありがとうございました。
- ・経験を踏まえて今の社会の課題に結びつける一それを淡々と語られる一押しつけ感なく、すんなりと耳から聞き入る言葉が多かった。

## Q7 第2回「夢を実現させた先輩のリアルを聞く(ロールモデルカフェ)」の満足度

	人数	%	人数	※%
非常に満足であった	17	74.0	17	94.4
満足であった	1	4.3	1	5.6
あまり満足でなかった	-	-	-	-
全く満足でなかった	-	-	-	-
参加しなかった	-	-		
無回答	5	21.7		
合計	23	100.0	18	100.0

※ 満足度の指標

非常に満足であった : 80以上~100(%)

満足であった : 50以上~80未満

あまり満足でなかった : 20以上~50未満

全く満足でなかった : 0~20未満

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

## Q8 <意見・感想等>

- ・ゲストスピーカーの方に質問をして参考にしたいと思った。グループでたくさんの方の話も聞いてよかった。
- ・先輩方の変化に富んだキャリアをお聞きして、こちらでも元気をもらった。時に星野さんの「ピンチの時にもまず“なんとかなる”と思う」というお話は勇気をもらった。
- ・やっぱり時間が足りなかった。ゲストの方のお話や質問に対する回答をもっと聞きたかった。時間の制約があつて難しいとは思いますが、ワークショップの時間をもっと長くっていただければと思う。
- ・みなさん特別な人なのではないということ。自分もなれる可能性があると思えたこと。
- ・一人の方が「家のことも家族のこともしっかりやってくれるから」働いてよいと夫がOKしてくれたということであり、家のことをきちんとしない限り、母親は働いても認められないと言われているも同然という現実を聞いて女性のハッピーキャリアは「家事・育児」に支障のない限りでの仕事での成功でしかないと改めて残念に思った。頑張るなら離婚が必要なのだろうか。「Very」な妻という表現があるが、それを地でいかないと人に話せるキャリアにならないのか、まだまだ現実厳しい。現実を聞いてよかった。考えさせられる。
- ・ある人の人間性の高さ、人間的魅力を感じた。キャリア・人生設計を考えると「よい人間関係」は大きなキーワードの一つだと改めて思った。今日は参加させていただきとてもよかった。ありがとうございました。
- ・一人一人ゆっくり、しっかり話されたのでよく内容が伝わった。できたらコーディネーターの西山さんと3人の方のやりとりがシンポジウム式に進められたらおもしろかったと思う。

**「女性のためのハッピーキャリア大研究」第3回**  
**(平成25年度「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」)**  
**アンケート集計結果**

アンケート回答数 20件

Q1 年代

	人数	%
20代以下	4	20.0
30代	1	5.0
40代	9	45.0
50代	3	15.0
60代以上	1	5.0
無回答	2	10.0
合計	20	100.0

Q2 住まい

	人数	%
前橋市	8	40.0
高崎市	5	25.0
伊勢崎市	2	10.0
桐生市	1	5.0
安中市	1	5.0
藤岡市	1	5.0
玉村町	2	10.0
合計	20	100.0

Q3 第3回「ライフ・プランニング」満足度

	人数	%	人数	※%
非常に満足であった	16	80.0	16	84.2
満足であった	2	10.0	2	10.5
あまり満足でなかった	1	5.0	1	5.3
全く満足でなかった	-	-	-	-
参加しなかった	-	-		
無回答	1	5.0		
合計	20	100.0	19	100.0

※ 満足度の指標

非常に満足であった : 80以上~100(%)

満足であった : 50以上~80未満

あまり満足でなかった : 20以上~50未満

全く満足でなかった : 0~20未満

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

Q4 <意見・感想等>

- ・今回は「自分地図をつくらう」がとても面白かった。グループ内でも皆違うキャリアを考えていた。参考にしたい。
- ・とても具体的に自分の目標に近づけるのかが見えたのでよかった。もう少し密に立場を限定しても面白いかもしれない。
- ・具体的に夢を叶えることができそうだと思った。
- ・よく楽しめた講座だったと思う。私は1, 2, 3と参加したが、この講座単体でも楽しめる講座だと思う。ありがとうございます。また来年も開催するとよいのではないだろうか。
- ・ワークを入れながらのセミナーだったため、いろいろな方との交流もあり、とてもよかった。時間を区切り明確な感じがあり、よかった。
- ・自分がこれから何をやりたいのかを知るきっかけになり、自分が置かれている環境が客観的に見られた。
- ・参加メンバーとの交流がよかった。
- ・1日で終わるスケジュールになれば参加者も増えるのでは。第2回はリアルな話が参考になった。第3回は自分のモヤモヤが吹っ切れた。
- ・考える手順等が分かり、今後の生活に役立たせていただく。何よりはっきりとした言葉で楽しく受講できた。感謝！！

Q5 参加した回数

	人数	% (20名中)
第1回「キャリアを考える」	16	80.0
第2回「夢を実現させた先輩のリアルを聞く(ロールモデルカフェ)」	15	75.0
第3回「キャリアプランニング」	20	100.0

Q6 今回のセミナーの日程はいかがか

	人数	%
短い	4	20.0
ちょうどよい	15	75.0
午前3回の3日間とした方がよい	1	5.0
合計	20	100.0

Q7 全体の有用度

	人数	%	人数	※%
非常に有用であった	14	70.0	14	77.8
有用であった	4	20.0	4	22.2
あまり有用でなかった	-	-	-	-
全く有用でなかった	-	-	-	-
参加しなかった	-	-		
無回答	2	10.0		
合計	20	100.0	18	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

※ 有用度の指標

非常に有用であった : 80以上~100(%)

有用であった : 50以上~80未満

あまり有用でなかった : 20以上~50未満

全く有用でなかった : 0~20未満

埼玉県私立短期大学協会・NWE C連携  
「平成25年度女子学生のためのキャリア教育セミナー」実施要項

1. 趣旨

埼玉県私立短期大学協会に加盟する短期大学とNWE Cが連携し、学生と教職員の交流を図りながら進める「キャリア教育」の一環として、「男女共同参画の視点に基づくキャリア教育プログラム」を実施する。

2. 主題「キャリアを考える～これからの人生を意義あるものとするために～」

本講座は、男女共同参画型社会における女性としての生涯（ライフキャリア）形成の考え方を学び、人間と人間の関わり合いとその方法の基礎を学ぶ（関係力の育成）とともに、他大学の学生と交流することなどにより、多様性（ダイバーシティ）をお互いに認め、他の文化や人などを尊重する態度を養うことを目標とする。

2. 主催

埼玉県私立短期大学協会連盟、NWE C

3. 会場

独立行政法人国立女性教育会館

〒355-0292

TEL 0493-62-6724・6725

FAX 0493-62-6720

URL <http://www.nwec.jp/>

4. 期日

平成25年9月2日（月）～9月4日（水）2泊3日

5. 参加者

埼玉県私立短期大学協会会員校学生50名

6. 科目名と単位数

各短期大学の該当科目（「キャリアデザイン」等）において単位認定を行う。

講義・演習科目として2単位

7. 日程

別添のとおり

# 「埼玉県私立短期大学協会・国立女性教育会館連携プログラム」

## 『女子学生のためのキャリア形成講座』日程表

2013年9月2日（月）～9月4日（水）

期日	時間	コマ数	実施場所	授 業 内 容 (仮題)	担 当 者 (敬称略)	
九月二日 (月)	13:00		101研修室	開会挨拶	大野会長 (埼短協) 櫻田専門官 (NWE C)	
	13:20 14:00	1	101研修室	プログラムオリエンテーション (事前アンケート)	引間専門職員 (NWE C事業課)	
	14:10 15:30	2	101研修室	これからのキャリアを考えてみよう	大野会長 (埼短協)	
	15:40 16:00	3	研修棟前	記念写真撮影	カメラの大井	
	16:00 17:00	4	本館	情報収集の手段を学ぶ (女性教育情報センター・女性アーカイブセンター)	NWE C情報課	
	18:00		レストラン	夕 食	自由に館内散策	
	19:00 20:30	5	101研修室	自己紹介・レクリエーション 友達を作ろう	安倍講師 (埼玉純真短大)	
九月三日 (火)	7:30 8:30		レストラン	朝 食		
	9:00 10:00	6	101研修室	講義・ディスカッション 「女性のキャリアパスを考える」	中野室長 (NWE C研究国際室)	
	10:15 14:30	7	101研修室	グループワーク 「女性のキャリアパスの事例分析」 グループ発表「キャリアの事例分析」 (グループごとに適宜昼食)	渡辺研究員 (NWE C研究国際室) アシスト: 埼短協教員 NWE C職員	
	14:40 15:40	8	101研修室	講義・グループワーク 「男女共同参画統計から女性のキャリアを考える」	森専門職員 (NWE C情報課)	
	15:50 17:00	9	101研修室	「社会人 (ビジネス) マナー」の基本	細田先生 (埼玉女子短大)	
	18:00 19:00		レストラン	夕 食	自由に館内散策	
	19:00 20:30	10	101研修室	埼短協 (保育・家政系卒業生のキャリア講義)	家政: 野原講師(国際学院埼玉短期大学) 保育: 松原講師(埼玉純真短期大学)	
	九月四日 (水)	7:30 8:30		レストラン	朝 食	
		9:00 10:00	11	101研修室	講義「キャリアに学ぶ」	藤田副会長 (埼短協)
		10:00 10:30	12	101研修室	講義「もっと素敵にワーキングライフ」	内海理事長 (NWE C)
10:40 12:00		13	101研修室	討議・まとめ「自分自身のキャリアを考える」(事後アンケート) 各先生からの言葉、学生の一言感想、修了証の授与 閉講の挨拶	まとめ: 引間専門職員 (NWE C) アンケート結果: 石原係員 (NWE C) 司会: 藤田副会長 (埼短協)	

平成 25 年度 埼玉大学連携授業 「男女共同参画社会を考える」について

1. 趣 旨

社会の中でも家庭でも男女がともに主体であり、対等に協力できる男女共同参画社会をつくることが求められている。しかし、私たちはいつの間にか様々な場面で「男らしさ」「女らしさ」を内面化している。そのことがいかに男女の生き方を拘束しているのか、どうすればそれらを変えることが出来るのかについて、様々な方法や考え方を学ぶ。

埼玉大学と国立女性教育会館が連携したキャリア教育プログラムにより、男女共同参画の基本的考え方についての国立女性教育会館理事長の講義を始め、会館が持つ最新の国際・国内情報の提供、「女性情報ポータル Winet」を使った検索実習、「女性と男性に関する統計データベース」を活用して統計グラフを作るなど実技実習を行うほか、女性アーカイブセンター資料等の情報資料、および調査研究の資料を活用する。グループワークを盛り込んだ主体な授業を進める。

なお、学生等への学習支援のため NWEC 図書パッケージサービスを埼玉大学教養学部資料センターで活用する。

2. 開講学期（期別） 前期 火 3 限（13:00～14:30）

3. 単位数 2

4. 対象年次 1～4 年次（全学共通）

5. 授業スケジュール 15 コマのうち、2 コマの講義を国立女性教育会館が担当。

第 1 回	4 月 9 日(水)	ガイダンス（埼玉大学、国立女性教育会館）
第 2 回	4 月 16 日(水)	ジェンダー論入門①
第 3 回	4 月 23 日(水)	ジェンダー論入門②
第 4 回	5 月 7 日(水)	ジェンダーと発達
第 5 回	5 月 14 日(水)	ジェンダーと教育
第 6 回	5 月 21 日(水)	労働とジェンダー①
第 7 回	5 月 28 日(土)	労働とジェンダー②
第 8 回	6 月 4 日(水)	「男女共同参画社会を考える」 国立女性教育会館 内海理事長
第 9 回	6 月 11 日(水)	「専門情報を使う 男女共同参画統計を学ぶ」 国立女性教育会館 森情報課専門職員
第 10 回	6 月 18 日(水)	国際社会とジェンダー
第 11 回	6 月 25 日(水)	家族とジェンダー
第 12 回	7 月 2 日(水)	子育てとジェンダー
第 13 回	7 月 9 日(土)	メディアとジェンダー
第 14 回	6 月 16 日(水)	性暴力（DV，デートDV）とジェンダー
第 15 回	7 月 23 日(水)	まとめ
	7 月 30 日(水)	補講

## 平成25年度「女子大生キャリア形成セミナー」開催要項

### 1. 本セミナーの趣旨

我が国の女性を取り巻く状況はかつてよりはるかに改善されているが、男女平等はまだ実現されていない。働く女性及び担当者レベルでのリーダーは増えたが、組織における意思決定ポジションに占める女性の割合は極めて低いままである。しかし、我が国が男女共同参画社会を実現するためには、女性が職業活動に参加するだけでなく、さまざまな組織の管理的ポジションに就き、その意思決定に関わるなど組織活動に参画することが必要である。

そこで国立女性教育会館では、自らのキャリアを模索する4年制大学の女子学生を対象に、

- ①仕事をもち自らの人生の選択権をもつことが豊かな人生設計に重要であること（自主自立）
  - ②女性の人生設計に関わる出来事を予め知っておくこと（ライフ・プランニング）
  - ③キャリアの構築が単に個人の自己実現に留まらず社会変革につながるという視点をもつこと（社会を変える・支える志）
- の3つを学ぶ機会を提供することで、将来、社会や組織を支える女性リーダーを育成し、もって我が国の男女共同参画の推進を図るものである。

### 2. 主題 「キャリアを考えることは、人生を考えること」

### 3. 主催 独立行政法人国立女性教育会館

### 4. 共催 リーダーシップ111

★リーダーシップ111は、各分野を代表する女性たちが、よりよい社会の実現を目指して、助け合い、学び合い、情報交換をするネットワークとして、1994年に設立された。グローバル社会に向けて提言を発信し、自らも実践することをモットーとしている。

### 5. 後援 文部科学省

### 6. 協賛 お茶の水女子大学、昭和女子大学、津田塾大学、東京女子大学、日本女子大学、早稲田大学、関西大学

### 7. 会場 国立女性教育会館 〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地

### 8. 期日 平成25年12月20日（金）～21日（土）1泊2日

9. 対象 女子大学生 50名 (協賛大学以外の女子学生も参加可能)

10. 内容

第1日 12月20日 (金)

開会 13:00~13:15  
オリエンテーション 石崎 裕子(国立女性教育会館事業課専門職員)

(1) 講演と講義「キャリアとは何か」 13:15~16:20

★自分の能力を発揮しながら社会に参画し、自分らしく生きる方法について、国立女性教育会館のもつ豊富なデータによる講義と講演、グループワークで探る。

①講演：13:15~14:00 内海 房子(国立女性教育会館理事長)

②講義：14:10~15:10 中野 洋恵(国立女性教育会館研究国際室長)

③グループワーク：15:20~16:20

\*翌日のグループワークに向けて、参加者同士の自己紹介などを中心に行う。

(2) 「女性情報ポータルWinet 紹介と女性教育情報センター見学」

16:30~17:30

★女性情報ポータルWinet (ウィネット) の活用の仕方の説明と女性教育情報センターの見学を通して、女性のキャリア形成に関する資料・情報の探し方を学ぶ。

説明・案内：国立女性教育会館情報課職員

(3) パネルディスカッション「先輩の声を聞く」

19:00~21:00

★リーダーシップ111の多方面にわたる分野の先輩たちから、さまざまなキャリア経験談を聞く。

パネリスト：中井恵美子 (中井生活経済研究所所長、中小企業診断士)

パネリスト：平野こずえ (EMG マーケティング合同会社  
不動産オフィス管理部アドバイザー)

パネリスト：佐藤多世子 (ジュピターショップチャンネル株式会社  
マーチャンダイジング本部副本部長)

パネリスト：桜田今日子 (国立女性教育会館総務課専門官)

コーディネーター：猪俣由美子 (エンパワーマネジメント研究所代表  
兼人材育成コンサルタント)

第2日 12月21日(土)

(4) グループワーク 9:00~12:00

★先進的なコミュニケーションを通じたキャリアシートの作成を行い、  
真の自分を掘り出すとともに参加者同士のネットワークづくりを進める。

(5) 閉会 12:00~12:20

★アンケートの記入を行い、2日間のセミナーをふりかえる。  
最後に、修了証書を発行する。

11. 所要経費

- (1) 参加費 無料
- (2) 宿泊費 1泊1,000円
- (3) 食費 1食あたり700円程度  
(本館1階のカフェテリア食堂を利用)

12. 申込方法など

(1) 方法

ホームページ：国立女性教育会館ホームページ (<http://www.nwec.jp/>)  
より申し込み。

(2) 申込締切 平成25年12月18日(水)

(3) 参加通知 本人宛に郵送にて通知する。

13. 研修修了生のネットワーク構築プラン

当セミナー研修生を対象としたネットワーク構築をモデル的に進める。

14. その他

- (1) 期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用する可能性がある。
- (2) 修了生に対し、国立女性教育会館から定期的にメールマガジンを送付する。

## 平成25年度「女性関連施設相談員研修」実施要項

1. 趣 旨 女性関連施設の相談員を対象に、女性のエンパワーメント支援と女性に対する暴力や貧困などの喫緊の課題解決を目指して、相談者への理解の深化や必要な知識・技能習得、関係機関との連携促進を図るための研修を行います。複雑・多様化する女性の悩みに適切に対応できる相談員の育成と業務の質の向上に向けた専門的・実践的研修です。
2. 主 催 独立行政法人 国立女性教育会館
3. 会 場 国立女性教育会館  
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728  
TEL 0493-62-6724・6725  
FAX 0493-62-6720  
Eメールアドレス progdiv@nwec.jp  
ホームページ URL <http://www.nwec.jp/>
4. 期 日 平成26年2月5日（水）～ 2月7日（金） 2泊3日
5. 参加者 公私立の女性会館・女性センター等の女性関連施設において、女性の悩みに関する相談業務に携わっている相談員
6. 定 員 80名
7. 日 程 (各プログラムの間に10～15分の休憩があります。)

2/5 (水)	13:00		13:20	15:00		16:10	17:10	19:00
		開 会	講 義	グ ル ー プ 討 議	情 報 提 供	夕 食	※ 情 報 交 換 会	
2/6 (木)	9:00	10:15	11:45	13:00	14:45	17:15	19:00	
	講 義	講 義	昼 食	講 義	分 科 会 I	夕 食	※ 体 験	
2/7 (金)	9:00		11:45	12:30	12:40			
	分 科 会 II		全 体 会	開 会				

- ・※印のついたプログラムは希望者のみのプログラムです。
- ・当事業は「第3次男女共同参画基本計画」における「第9分野 女性に対するあらゆる暴力の根絶」の「2 配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護等の推進」、及び「第14分野 地域・防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進」の「1 地域における男女共同参画推進の基盤づくり」に対応しています。

## 8. 内 容

### 第1日 2月5日(水)

#### (1) 開会

13:00~13:20

- ① 主催者あいさつ 内海 房子 国立女性教育会館理事長
- ② プログラム説明 引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員

#### (2) 講義「女性関連施設における相談業務の意義と役割」

13:20~14:50

女性関連施設における相談業務の意義と役割を、女性が抱える問題解決と女性のエンパワーメントの視点から学びます。

講 師 戒能 民江 お茶の水女子大学名誉教授

#### (3) グループ討議

15:00~16:00

参加者同士の自己紹介と研修に対するニーズや課題などについて、グループワークと討議で整理し、共有します。

進 行 国立女性教育会館職員

#### (4) 情報提供

16:10~17:10

##### ①「外国人女性を対象とした取組に関する調査研究報告」

国立女性教育会館が行った調査から、自治体が行う外国人女性に関する支援の取組の現状と課題について報告します。

説 明 渡辺 美穂 国立女性教育会館研究国際室研究員

##### ②「相談事業に役立つ国立女性教育会館の情報機能」

「女性教育情報センター」が収集・提供する関連資料や女性情報ポータルWinetのデータベース検索から、相談事業に役立つ情報の活用について情報提供します。

説 明 森 未知 国立女性教育会館情報課専門職員

#### ●オプションプログラム(希望者のみ)

##### 情報交換会

19:00~20:30

相談業務における課題などの情報交換と参加者同士のネットワークづくりを行います。

### 第2日 2月6日(木)

#### (5) 講義「相談機関連携と地域課題の解決に向けて」

9:00~10:00

地域の実情・特性と相談者のニーズを生かした、特色ある地域連携・機関連携のあり方について、実際の事例から理解を深めます。

講 師 野口 登志子 鳴門市役所健康福祉部人権推進課係長

**(6) 講義「相談員のメンタルヘルス」**

10:15～11:45

代理受傷や共感疲労など、相談員自身のメンタルヘルスに対する留意点と、その対処の参考になる技法やワークを学びます。

講師 白川 美也子 ころろとからだ・光の花クリニック  
精神科医・臨床心理士

**(7) 講義「女性相談の実態と支援に役立つ法知識」**

13:00～14:30

配偶者からの暴力被害の実態や女性の自立等の支援に役立つ法律について、平成25年7月の配偶者暴力防止法とストーカー規制法の改正のポイントを踏まえて学びます。

講師 番 敦子 弁護士

**(8) 分科会 I 「問題を抱えた当事者への支援を考える」**

14:45～17:15

問題を抱えた当事者に対して実際にどのように支援をしていったらよいか、課題別コースに分かれて、講義と想定事例の検討から学びます。

**A：人間関係に関する相談者への支援**

身近な人間関係に関する相談から見えてくる背景や課題から、人間関係を円滑に行えるようにするための支援について考えます。

講師 海渡 捷子 フェミニストセラピィ“なかま”代表

**B：配偶者等からの暴力被害者への支援**

配偶者等からの暴力被害について、相談受理から危機介入、自立支援に向けた実際の対応の留意点について学びます。

講師 石本 宗子 久留米市男女平等推進センター  
相談コーディネーター／社会福祉士

**C：DVを目撃した子どもへの支援**

児童虐待防止法では、DVの目撃も子どもへの虐待とされています。こうした事例に対応した諸機関との連携や子どもの心のケアを考えます。

講師 中村 敏子 NPO 法人女性のスペース「結」副代表

**D：自立が難しい相談者への支援**

自分が何をしたいのか、悩みの原因が何にあるのか等、解決への見通しが持ちづらく、相談を繰り返す相談者へ気づきを促す支援について考えます。

講師 守帰 朋子 フェミニストコーチング大阪代表

**●オプションプログラム（希望者のみ）**

**ドラムサークル体験**

19:00～20:30

アフリカやブラジルなど、世界の太鼓や打楽器を即興的に叩きながら、楽しい打楽器アンサンブルを体験します。ストレスの解消や健康増進に効果が期待できます。初めて楽器にさわる方でも、楽譜が読めなくても大丈夫です。

講師 清水 和美 ドラムサークルぐんま代表  
鳥川 仁美 Otonowa ファシリテーター

**第3日 2月7日(金)**

**(9) 分科会Ⅱ「現代的な課題に対応する」**

**9:00～11:30**

個人と社会のつながり方から生まれる現代的な課題に対応するため、講義とワークを通してテーマに対する理解を深め、相談業務に役立つヒントを探ります。

**A: 若年女性の貧困**

働きづらさ・生きづらさを抱え、社会の中で孤立しがちな若い無業シングル女性への支援事業から、その背景や機関連携など今後の課題と展望を考えます。

講師 植野 ルナ 公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会事業企画課

**B: 外国籍女性への支援**

日本で暮らす外国人女性の背景や抱えている問題や現状、相談機関とつながった後の支援や電話相談での留意点について学びます。

講師 福島 由利子 ウェラワリー(外国籍女性及びこどもの支援団体)

運営委員・コーディネーター

外国籍DV被害者同行支援事業コーディネーター

**C: 女性に対するネット暴力**

ネット環境の変化と共にそのトラブルも増え、想定していなかった被害も広がっています。女性に対するネット暴力被害の最新の現状と課題を学びます。

講師 藤原 志帆子 NPO 法人人身取引被害者サポートセンターライトハウス  
代表

**(10) 全体会「相談から始まるエンパワーメントをめざして」**

**11:45～12:30**

現代的な課題を解決に導く相談業務のあり方、相談者のエンパワーメントにつながる支援について意見交換と共有を行い、これからの相談業務の意義と役割を考えます。

コーディネーター 田端 八重子 もりおか女性センターセンター長

報告者 分科会Ⅱ「現代的な課題に対応する」講師

**(11) 閉会・アンケート記入**

**12:30～12:40**

**9. その他**

(1) 2月5日(水)と7日(金)に東武東上線武蔵嵐山(むさしらんざん)駅と「国立女性教育会館」間で無料送迎バスを運行いたします。

(2) 期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報に使用することがあります。ご了承ください。

平成25年度「女性関連施設相談員研修」参加者概況

平成26年2月12日現在

定員：80

申込者数：107

応募倍率：133.8%

1. 性別

	合計
女性	100
男性	1
合計	101

2. 年代

	女性	男性	合計
20代	4	—	4
30代	15	—	15
40代	25	—	25
50代	39	—	39
60代以上	17	1	18
無回答	—	—	—
合計	100	1	101

3. 勤務形態

勤務形態	(専任・兼任)	女性	男性	合計
常勤	(専任)	11	—	11
常勤	(兼任)	2	—	2
常勤	(無回答)	11	—	11
非常勤	(専任)	12	—	12
非常勤	(兼任)	1	—	1
非常勤	(無回答)	24	1	25
嘱託	(専任)	18	—	18
嘱託	(兼任)	1	—	1
嘱託	(無回答)	12	—	12
無回答		8	—	8
合計		100	1	101

4. 施設区分

	女性	男性	合計
公設公営	66	—	66
公設民営	26	1	27
民設民営	3	—	3
その他	5	—	5
無回答	—	—	—
合計	100	1	101

オプションプログラム参加

	女性	男性	合計
①情報交換会	83	1	84
②講義・体験	63	—	63

2日目ワークショップ

	女性	男性	合計
A: 人間関係に関する相談者への支援	20	—	20
B: 配偶者等からの暴力被害者への支援	31	—	31
C: DVを目撃した子どもへの支援	13	—	13
D: 自立が難しい相談者への支援	35	1	36
不参加	1	—	1
合計	100	1	101

3日目ワークショップ

	女性	男性	合計
A: 若年女性の貧困	37	—	37
B: 外国籍女性への支援	22	—	22
C: 女性に対するネット暴力	37	—	37
不参加	4	1	5
合計	100	1	101

※地域ブロック別参加者内訳

	女性	男性	合計
北海道・東北	10	—	10
関東	24	—	24
甲信越	7	—	7
北陸・東海	24	—	24
近畿	7	—	7
中国・四国	15	1	16
九州・沖縄	13	—	13
合計	100	1	101

7. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

	女性	男性	合計
北海道	—	—	—
(札幌市)	(—)	(—)	(—)
青森県	3	(—)	3
岩手県	2	(—)	2
宮城県	2	—	2
(仙台市)	(1)	(—)	(1)
秋田県	(—)	(—)	—
山形県	1	(—)	1
福島県	2	(—)	2
茨城県	1	(—)	1
栃木県	2	(—)	2
群馬県	2	(—)	2
埼玉県	5	—	5
(さいたま市)	(—)	(—)	(—)
千葉県	3	—	3
(千葉市)	(1)	(—)	(1)
東京都	9	(—)	9
神奈川県	2	—	2
(横浜市)	(1)	(—)	(1)
(川崎市)	(—)	(—)	(—)
(相模原市)	(—)	(—)	(—)
山梨県	(—)	(—)	—
新潟県	4	—	4
(新潟市)	(2)	(—)	(2)
長野県	3	(—)	3
富山県	3	(—)	3
石川県	2	(—)	2
福井県	2	(—)	2
岐阜県	2	(—)	2
静岡県	8	—	8
(静岡市)	(2)	(—)	(2)
(浜松市)	(1)	(—)	(1)
愛知県	6	—	6
(名古屋市)	1	(—)	(1)
三重県	1	(—)	1
滋賀県	(—)	(—)	—
京都府	1	—	1
(京都市)	(—)	(—)	(—)
大阪府	4	—	4
(大阪市)	(—)	(—)	(—)
(堺市)	(1)	(—)	(1)
兵庫県	2	—	2
(神戸市)	(—)	(—)	(—)
奈良県	(—)	(—)	—
和歌山県	(—)	(—)	—
鳥取県	1	(—)	1
島根県	2	(—)	2
岡山県	1	—	1
(岡山市)	(—)	(—)	(—)
広島県	—	1	1
(広島市)	(—)	(1)	(1)
山口県	6	(—)	6
徳島県	1	(—)	1
香川県	1	(—)	1
愛媛県	1	(—)	1
高知県	2	(—)	2
福岡県	1	—	1
(北九州市)	(1)	(—)	(1)
(福岡市)	(—)	(—)	(—)
佐賀県	(—)	(—)	—
長崎県	4	(—)	4
熊本県	—	—	—
(熊本市)	(—)	(—)	(—)
大分県	3	(—)	3
宮崎県	3	(—)	3
鹿児島県	1	(—)	1
沖縄県	1	—	1

平成25年度「女性関連施設相談員研修」参加者アンケート 集計結果

平成26年3月18日 現在

参加者 101 名  
 回答者 100 名  
 回答率 99.0 %

I 本研修に関するご意見・ご感想をお聞かせください。

1 この研修の内容は、あなたの考えを深めたり、今後の業務を行う際に役立てたりするうえで、どの程度有用でしたか。あてはまるところに○をつけてください。

(1) 講義「女性関連施設における相談業務の意義と役割」

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	56	56.6	—	—	56	56.0	56	58.4
有用だった	38	38.4	1	100.0	39	39.0	39	40.6
あまり有用でなかった	1	1.0	—	—	1	1.0	1	1.0
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
不参加	2	2.0	—	—	2	2.0		
無回答	2	2.0	—	—	2	2.0		
合計	99	100.0	1	100.0	100	100.0	96	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

- ・「当事者の立場に立った切れ目のない支援」を目指して、女性相談に関わる者同士また機関同士がつながること、改めてネットワークの大切さと必要性を感じた。
- ・講義では改めて女性の問題の社会的背景を認識できたし、“総合相談”であること、“組織としての相談”ということが、この分野で問われていることの重要性和力を感じた。
- ・DV法施行13年で見えてきた課題を具体的に提示、今後の展望についてわかりやすく解説され、とても有意義でした。今回の研修の中でも特に期待していた講義で、期待通りでした。
- ・DV法の意義や女性がおかれている社会の現状、ジェンダーの視点など、相談業務をいつもとちがう視点で見ることができた。戒能先生のお話を聴き、婦人相談の原点や本質を学ぶことができた。
- ・包括的な女性支援システムの必要性、示唆的でした。支援の仕組みと併行した男女平等社会実現の取組みが、つながりつつ、循環していく必要性を感じました。

(2) グループ討議

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	35	35.4	—	—	35	35.0	35	36.8
有用だった	53	53.5	1	100.0	54	54.0	54	56.9
あまり有用でなかった	6	6.1	—	—	6	6.0	6	6.3
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
不参加	2	2.0	—	—	2	2.0		
無回答	3	3.0	—	—	3	3.0		
合計	99	100.0	1	100.0	100	100.0	95	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

- ・グループ討議で、他都市の方々とすぐ話ができて、リラックスすることができました。また、それぞれの行政での実情が聞けて驚きがたくさんありました。
- ・グループ討議は、アイスブレイクがわりに打ちとけるきっかけとして良かったです。時間はもう少しほしい。
- ・相談員の立場の違い、多様性を認識させられた。
- ・研修に対する課題、とりくみを見つける事も、これから3日間すこす目的を見つけるために良いきっかけとなった。

(3) 情報提供①「外国人女性を対象とした取組に関する調査研究報告」

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	13	13.1	—	—	13	13.0	13	14.1
有用だった	58	58.6	—	—	58	58.0	59	64.2
あまり有用でなかった	20	20.2	1	100.0	21	21.0	20	21.7
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
不参加	2	2.0	—	—	2	2.0		
無回答	6	6.1	—	—	6	6.0		
合計	99	100.0	1	100.0	100	100.0	92	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

### <意見・感想等>

- ・ 情提①3年前の研修でお聞きし、興味を持っています。時間が短くてもったいないですね。もっとゆっくりお聞きしたい。
- ・ 女性会館でしかできないような調査研究や、情報提供はぜひ続けてほしい。
- ・ 相談と外国人とはすごくつながりにくく、支援もむずかしい・・・外国人支援という講義はその専門よりうけることはあるも、全体からして外国人と相談についてもっと課題分析を伝えていただきたい。
- ・ 時間の割に情報量が多く感じた。パワポ資料の文字が小さくて読めなくて残念でした。
- ・ 情報提供はNWECの取り組みを知ることができた。

### (4) 情報提供②「相談事業に役立つ国立女性教育会館の情報機能」

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	15	15.2	—	—	15	15.0	15	16.1
有用だった	61	61.6	1	100.0	62	62.0	63	67.7
あまり有用でなかった	14	14.1	—	—	14	14.0	13	14.0
全く有用でなかった	2	2.0	—	—	2	2.0	2	2.2
不参加	2	2.0	—	—	2	2.0		
無回答	5	5.1	—	—	5	5.0		
合計	99	100.0	1	100.0	100	100.0	93	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

### <意見・感想等>

- ・ NWECの事業についても知ることができてよかった。情報データベースはぜひ活用したい。
- ・ 教育会館の情報機能を、今後、男女共同参画の推進に向け役立て、今回参加していない市町の担当者への情報の共有をしたいと思う。HPの充実に驚いた。
- ・ 女性会館でしかできないような調査研究や、情報提供はぜひ続けてほしい。
- ・ 情報提供はNWECの取り組みを知ることができた。情報機能に関しては、今後活用していきたい。センターメンバーにも周知したい。
- ・ 情報提供の「情報機能」について、DV支援の場面で、どのように活用できるか、もう少し事例(具体的な)を交えての報告があると更によかったと思います。

### (5) 情報交換会

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	36	36.4	—	—	36	36.0	36	48.6
有用だった	36	36.4	—	—	36	36.0	36	48.6
あまり有用でなかった	2	2.0	—	—	2	2.0	2	2.8
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
不参加	13	13.1	1	100.0	14	14.0		
無回答	12	12.1	—	—	12	12.0		
合計	99	100.0	1	100.0	100	100.0	74	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

### <意見・感想等>

- ・ 情報交換会もとても有意義な時間をすごささせていただきました。やはり全国の方と話せる時間はとても貴重でした。
- ・ 他県の相談員と(守秘義務の範囲で)日頃の業務について思うこと工夫していることセルフケア等相談員として生きることを選択した同士としての会話できたことで勇気づけられました。
- ・ 情報交換は楽しめましたがもっと自由にうごけば良かったと反省しました。
- ・ 情報交換会は、本当に懸命に仕事している“仲間”との出会いに感謝したいと思った。
- ・ 情報交換会では機関間の連携の様子を知ることができ、今後相談業務において相談者に有益な情報提供が行える知識、情報を得られることができた。

### 1日目全体の意見・感想、その他

- ・ “研修のプログラムデザイン”というものがきちんとあるのがとてもよいと思いました。連続講座を何度も受けたことがあります。組立てがよくわからず、場当たりのなものも多いので・・・。
- ・ 法の基にある私達の支援、日々の業務においてやりにくさを感じますが、全国でよりよい支援を目指して活動できるよう頑張っていきたいと思えます。又エックの情報も活用していきたいと思えます。
- ・ 相談業務の意義や役割からはじまり、基礎の部分からお話を聞かせてもらいながら気になっていた外国籍女性の実情などとても為になりました。
- ・ 関連機関との連携について、他のセンターも同様の悩みをかかえていることがわかった。
- ・ グループ討議や情報交換会で、それぞれが持つ課題や実践されている独自の事業などを交換でき有意義でした。具体例が持つ説得力を実感しました。ヒントと刺激をもらいました。
- ・ 初日ということもあり、どんな人がどんな業務に携わっているかを聞く程度だったことが少し残念。同じ悩みなのか、どんな経験でのりこえて来られたのかをもっと聞きたかったので二日目には私からそれを積極的に求めていきたいと思う。

#### (6) 講義「相談機関連携と地域課題の解決に向けて」

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	73	73.8	1	100.0	74	74.0	74	74.0
有用だった	22	22.2	—	—	22	22.0	22	22.0
あまり有用でなかった	3	3.0	—	—	3	3.0	3	3.0
全く有用でなかった	1	1.0	—	—	1	1.0	1	1.0
不参加	—	—	—	—	—	—		
無回答	—	—	—	—	—	—		
合計	99	100.0	1	100.0	100	100.0	100	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

##### <意見・感想等>

- ・ 鳴門市の取り組みについては大変おどろかさせられました。行政だとしても、ここまでできるのだと、背中を押していただいたような気がいたします。
- ・ ワンストップセンターの必要性を感じながらも実現が難しい自治体は多いと思う。鳴門市のように熱意溢れる行政職員の力は大切だと感じた。
- ・ 相談機関の連携という課題を自分たちの組織の限界の中でどうつくっていくか、戻って皆と色々話し合いながら考えたいと思いました。
- ・ キーパーソンのマンパワーを実感出来た。
- ・ 行政を説得し支援をつなぐ 必要なこと できればと思います。現実的には壁が多い。

#### (7) 講義「相談員のメンタルヘルス」

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	67	67.7	—	—	67	67.0	67	69.1
有用だった	29	29.3	1	100.0	30	30.0	30	30.9
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
不参加	1	1.0	—	—	1	1.0		
無回答	2	2.0	—	—	2	2.0		
合計	99	100.0	1	100.0	100	100.0	97	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

##### <意見・感想等>

- ・ 「相談員のレジリエンスを増す」という言葉が心に響きます。支援側ということで焦点が相手に向きますが、よりよい関わりがこの活動が継続するためには、相談員自身のセルフケア、そのための対策や考え方を持つことが大事なことを伝えてもらい考えるきっかけとなりました。
- ・ 支援者のメンタルの充実がよりよい相談機能をもたらすのだと改めて思った。県内の相談員研修を開催時に、今回PACEを相談員と実施してみたい。研修期間中に部屋でPACEをやってみたら朝からスッキリとした感があった。管理者の理解が重要だと強く思った。
- ・ メンタルヘルスは資料が多すぎたが、後で見たい。具体的手法はよかった。広い空間で、もう少し時間をかけるのがよい。
- ・ メンタルヘルス、一番興味がありました。自分なりのストレス解消法を見つける事笑う事と大切さを学びました。疲れたら体を動かす、限界を超えない努力をしようと思います。
- ・ 「メンタルヘルス」は情報量の多さ、多岐にわたるケアは非常に興味深く職場へ持ち帰って生かしたいと思いました。

#### (8) 講義「女性相談の実態と支援に役立つ法知識」

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	64	64.7	—	—	64	64.0	64	65.9
有用だった	30	30.3	1	100.0	31	31.0	31	32.0
あまり有用でなかった	2	2.0	—	—	2	2.0	2	2.1
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
不参加	1	1.0	—	—	1	1.0		
無回答	2	2.0	—	—	2	2.0		
合計	99	100.0	1	100.0	100	100.0	97	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

##### <意見・感想等>

- ・ とても分かりやすく、保護法、ストーカー法について学べてよかった。
- ・ スウェーデンにDV刑務所があると聞きDVに日本はまだまだ立ち遅れていると感じました。
- ・ テーマに沿った知識がすぐに役立つそうです。
- ・ 支援に役立つ話しがきけました。保護命令や面会交流での注意点知っておくためになる知識になりました。
- ・ 何といっても法の壁を視野に入れて支援しなければならないので、もう一度改めて復習します。

(9) 分科会Ⅰ「問題を抱えた当事者への支援を考える」(分科会別内訳)

	A	%	B	%	C	%	D	%	組不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	6	31.6	20	74.1	6	40.0	11	30.5	-	-	43	43.5	43	45.3
有用だった	8	42.0	5	18.5	8	53.3	11	30.5	2	100.0	34	34.3	34	35.8
あまり有用でなかった	4	21.1	1	3.7	1	6.7	10	27.8	-	-	16	16.2	16	16.8
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	2	5.6	-	-	2	2.0	2	2.1
無回答	1	5.3	1	3.7	-	-	2	5.6	-	-	4	4.0		
合計	19	100.0	27	100.0	15	100.0	36	100.0	2	100.0	99	100.0	95	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

「A: 人間関係に関する相談者への支援」の意見・感想

- 相談へジェンダーの視点を忘れないこと、広い視野から話を聴くことの大切さを再確認できた。
- 分科会では、事例検討では、具体的な支援法を出し合う中で、今までの自分の支援の在り方に間違いはなかったという自信につながった。
- 永く相談員をしてみえた方の経験からくるやさしさのようなものを感じました。相談には大切と感じました。
- ジェンダーの話が中心で、題名からの予想の内容とは異なっていたが、ケースワークはとても参考になりました。

「B: 配偶者等からの暴力被害者への支援」の意見・感想

- 細かい部分での具体的なアセスメントをケースを使って考えることができ、とても有効と感じた。帰ってすぐ職場に生かしたい。
- ワークシートを使用したグループ討議でどういった支援ができるか組み立てるのは思ったよりスムーズに意見交換ができて、共有の良さを知りました。
- 久留米市の講義は実践している事を具体的に記述してありとても参考になります。もっと時間を取ってワークを多く取り入れてもらいたいと思います。
- 当事者を主体とした支援の体制についてわかりやすく話していただき事例ワークも支援の視点(自分に不正している)に気づかされたのでよかった
- 実際に相談員として、どう支援できるのかをシナリオを立てるために、引き出しをたくさんもっていることが大切と思う。最も実践的なお話でした。

「C: DVを目撃した子どもへの支援」の意見・感想

- DVの負の連鎖を断ち切るには、DVを目撃した子どもをエンパワメントが重要と再確認しました。充実した分科会でした。
- 民間シェルターの立場から見た避難母子のようすを具体的に語られてよかったです。ただもう少し、子どもたちの反応や対応の仕方についてふみこんだものを提示していただけるとよりありがたいと思いました。各参加者の自己紹介、感想タイムは時間をしっかりとってあり、よかったです。
- テーマに魅かれて、選択しましたが、主にシェルター運営に関してのものが主であり、子どものメンタルな分野での支援内容でなかったのが残念です。DV家庭で育つことの影響についての啓発活動も必要ですね。
- NPOの取り組みが参考になった。

「D: 自立が難しい相談者への支援」の意見・感想

- 今までにないコーティングの技術の話で、興味深く傾聴させてもらった。
- 分科会は興味深い考え方について知ることができましたが、少し組み立てが分かりづらかったです。
- 分科会では、同じような悩みを持つ相談員同士、もう少し長く話したかった。DVに特化していない、いわゆる悩みなんでも相談的な立場の方が多かったので、対応など、もう少し詳しく伺いたかった。
- 分科会は相談の現場で活かせる、新たな技法を学ぶ機会となった。
- 質問コーナーが欲しかった。

(9) 分科会Ⅱ「現代的な課題に対応する」コース別内訳

	A	%	B	%	C	%	組不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	13	40.6	16	72.8	32	88.9	-	-	61	64.2	61	64.2
有用だった	15	46.9	5	22.7	4	11.1	4	80.0	28	29.5	28	29.5
あまり有用でなかった	4	12.5	1	4.5	-	-	1	20.0	6	6.3	6	6.3
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
合計	32	100.0	22	100.0	36	100.0	5	100.0	95	100.0	95	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

「A: 若年女性の貧困」の感想

- 有効な社会資源の情報を頂けてよかったと思います。
- 若年女性の妊娠や、性産業での就労など、相談業務の中での悩みがあり、さらに現代的状況把握をすることができた。18~20才の女性についての支援に困難さを感じたところです。
- 支援の仕方の多面的なことを教えていただいた。困っている事が他人からは、解るが本人がわかってないこともあり、多いことも再確認しました。短いワークもよかったです。

- ・見えにくい「若年女性の困難」どう課題に向けての実践のお話、今後のセンターの活動に役立ていきたい。また、相談の実例から解決を考えるグループワークは有益で、もっと時間がほしかった。「相談」、「講座」から見えてくる課題があることを認識できた。
- ・相談に来られない、来るのが難しい若者にどう支援するのか、うちのセンターでも考えていきたい。
- ・問題提起としてはとても重要で意義深いものでした。もう少し解決にむけての討議を深められたらよかったです。

### 「B:外国籍女性への支援」の感想

- ・現在、外国人利用者のケースが増えており、法的な事、これから考慮していく必要がある点、必要な情報が得られた。参加者も、地域別によってかかえている、外国人問題の違いや対応策等学ぶ事ができた。
- ・外国人女性の離婚問題への取り組み方など、具体的にくわしくお話を聞けたし、グループワークでは地方都市の実情や問題点についても情報交換できた。
- ・不正に連れてこられた女性の通道の陰しさと女性であるからこそ搾取されてしまう、という課題の根深さに改めて気付かされました。
- ・他県でのとり組み状況がよくわかりとても参考になりました。外国人相談対応の受け方の研修の必要性を痛感しました。
- ・外国籍の方の抱える困難についてよくわかり、現在の日本の行政と民間の支援、問題意識のギャップを感じた。ワークがもう少し具体的な実践につなげられるものであるとよかった。

### 「C:女性に対するネット暴力」の感想

- ・ネットに関しては、各都道府県の相談員の知識の差がかなりはげしく、正直すぐにでも、どうにかしなければいけない問題であるとあらためて、考えさせられました。やはり、相談員として「知らない」「苦手」では、片づけていけない分野だと思います。
- ・最近増えているネット被害の現状、特に性産業の入り口になっていることに驚いた。相談者は、今の若者の重要なコミュニケーションツールであるSNSの仕組みの学習と、それに依存する心理への理解を深めないといけないと思った。
- ・これから対応が必要になると思われるネット被害へどう向き合うかヒントを戴くことができ勉強になった。
- ・ネットに関わる相談を受けた時の対応方法、情報提供先等を学ぶことができた。今後、ますます相談を受ける機会が増えると思われるので役立てていきたい。
- ・女性が被害にあいやすいネットを介した暴力のアウトラインがよくわかりました。対処法、相談先等の情報が得られ、他地区のようすもわかりとても参考になりました。

### (10)ドラムサークル体験

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	19	19.2	—	—	19	19.0	19	31.1
有用だった	34	34.3	—	—	34	34.0	34	55.8
あまり有用でなかった	8	8.1	—	—	8	8.0	8	13.1
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
不参加	11	11.1	1	100.0	12	12.0		
無回答	27	27.3	—	—	27	27.0		
合計	99	100.0	1	100.0	100	100.0	61	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

#### <意見・感想等>

- ・「ドラムサークル」に参加して、心と身体の密接な関係性に改めて気づかされました。とても楽しかったです。
- ・ドラムサークル体験は、楽器をたたくことにより、短時間で参加者と一体感を味わうことができ驚いた。
- ・知らず知らずのうちにリーダーや他の方々のリズムに合わせていく過程や全身でドラムを叩いている方々の表情を見ていると、他の大勢の中の自分一ひとりでない自分・他と和している自分を認識できて楽しかったです。一体感がもたらすハッピーな気持ちでしょうか。心の中に傷やトラウマを抱えた子ども(大人も)のケアに利用できそうです。
- ・初めての体験で興味深かったが時間が長かった。
- ・ドラムサークル、楽しいのかな?・・・と思いながらの参加でしたが、思った以上に楽しめ、2時間があっという間でした。

#### 2日目全体の意見・感想、その他

- ・AMの講義は内容が盛りだくさん過ぎて、もっと時間を使ってゆっくりやっていただけると良かったと思います。
- ・メンタルヘルス、法知識も改めて、DV被害者支援に関わっている自分を振り返ることができとても有用でした。
- ・実践的なお話を聞くことができ、大変役に立ちました。また、内容にも工夫がしてあり興味深く参加することができました。
- ・3つ講義があったが、どれも内容が充実したすばらしいパワフルな講師陣でした。地方自治体では、なかなか呼べない講師であり、タイムリーな情報で必要とされている分野であり大変よかった。
- ・実践的でわかりやすい内容だった。特に分科会では、他の地域の方々と討議ができたことが良い経験となった。

(12) 全体会「相談から始まるエンパワメントをめざして」

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	34	34.3	-	-	34	34.0	34	47.2
有用だった	35	35.5	-	-	35	35.0	35	48.6
あまり有用でなかった	3	3.0	-	-	3	3.0	3	4.2
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
不参加	3	3.0	-	-	3	3.0		
無回答	24	24.24	1	100.0	25	25		
合計	99	100.0	1	100.0	100	100.0	72	100.0

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

- ・ 全体会、コンパクトで中味の濃いものでした。シメとしていい会でした。
- ・ 各分科会の情報が得られて良かった。コーディネーターの田端さんのまとめはさすが、と思われました。
- ・ 他の分科会の内容を少しでも聞かせていただくことができて良かった。どの分科会にも参加したかったので。
- ・ お話をきいて逆にエンパワーされました。田端さんの話が印象的でした。人からもらった情報を人のために使う。
- ・ 社会資源を上手く活用することが必要と改めて感じました。
- ・ 自分でまとめられなかった情報を全体会でまとまった感じがした。

【研修全体の有用度】

	女性	%	男性	%	合計	%	※%	※%
非常に有用だった	61	61.6	-	-	34	34.0	61.6	99.0
有用だった	36	36.4	1	100.0	35	35.0	37.4	
あまり有用でなかった	1	1.0	-	-	3	3.0	1.0	1.0
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	
不参加	1	1.0	-	-	3	3.0		
無回答	24	24.24	1	100	25	25	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

<意見・感想等>

- ・ 原点に立ち返ることができ、また、初めて得る知識もたくさんあり、業務で早速活用したいと思った。
- ・ 実際的な支援方法、基本的な考え、支援者のメンタルヘルス・・・と、多岐に渡った内容で、あっという間の3日間でした。どれもとても有用で、職場にて他のスタッフと共有していくつもりです。
- ・ 男女共同参画の視点にたち学ぶことができ良かった。
- ・ 全国の相談員と同じ目的をもつての研修は、情報交換する上でも有効だった。
- ・ 業務のふり返り、新しい課題、女性相談という同じ世界で仕事をする人との交流と当初の自分の参加動機を超えるものを持ち帰ることができそうです。
- ・ 女性そのものの自立や支援を考えていくテーマがあり新しい課題がみえて参考になった
- ・ 自分のしている仕事に誇りを持てた。専門家の講義は、自分の勉強不足を痛感し、もっと色々な研修を個人でも受けていこうと思う。まだまだ成長できると希望を持てた。
- ・ 今まで、自学で理解していた事を専門の方々につきっちり教えていただき、これまで以上の支援がきっとできると思います。
- ・ どの講義も、もっと時間があれば聞きたいと思うものが多かった。大変聞くことが多かったが、時間的制約もあり、もう少し詳細に説明があると理解しやすいと思ってしまった。
- ・ 第一線で活躍し、さらに支援の現状を知る(支援者でもある)講師陣の話はどれも有益。
- ・ 今後の活動にどのように役立てられるか、試行錯誤することになるかと思いますが、地域の「男女共同参画」を進め、一人ひとりが大切にされる社会の実現に向け、社会資源とつながっていきたいと思います。
- ・ 女性関連施設相談員研修に参加して良かった。全国の相談員の顔を見て話を聞いて、質問する相談員の解決しようとする姿が見えて元気づけられました。私も窓口に来所した相談者に支援しようと改めて受けとめました。婦人相談員の研修が少ないのでこの研修は継続してほしい。大切な研修機会です。

【研修全体の満足度】

	女性	%	男性	%	合計	%	※%	※%
非常に満足した	47	47.5	-	-	47	47.0	48.4	93.8
満足した	43	43.4	1	100.0	44	44.0	45.4	
少し物足りなかった	5	5.1	-	-	5	5.0	5.2	6.2
物足りなかった	1	1.0	-	-	1	1.0	1.0	
無回答	3	3.0	-	-	3	3.0		
合計	99	100.0	1	100.0	100	100.0	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

### <意見・感想等>

- ・以前、2年連続で参加した時は、同じ方の講義がほとんど内容に新発見も求められず。フェミニスト、ジェンダーなど大切だけど偏りすぎていた感じをうけたが、今回は今ここで何がおきて何を支援するのか、実情にあった世の中にあった内容だった。
- ・講師の方々の前向きな姿勢を伝えていただきこれからの業務に反映していけるよう取り組んでいきたいです。
- ・全国で同じように相談へ向かう方々の様子を伺うことができたくさんの刺激をいただくと共に励みになった。
- ・実際の女性支援に必要な情報が的を得て、研修をとおして学ぶ事が出来た。プログラム内容がこれからますます増えて行くだろう問題に対して、有益な情報を得られた。
- ・男女共同参画関連の施設が県内にあまりないので、同じ立場の方々と情報交流ができとても有意義でした。特に1日目の分科会全部出たかったです。
- ・講義や分科会も良かったのですが、会場の行き来や、食事の時など多くの方と交流ができて、さらに良かったと思います。
- ・相談を受けるにあたって必要と思われるいろいろな角度からの講義が組みこまれておりいろいろな引き出しが増えました。
- ・立場が違う相談員（行政、委託、指定管理、正規、非正規、単年雇用など）多くの方と話ができて、とてもよかったです。相談業務の多様性も感じました。
- ・自身が迷っていた相談業務に今の姿勢で間違いないということが分かり、少し自信につながった。又、他県の情報も知ることが出来た。オプション体験もあり、久しぶりによく研修したという思いでした。
- ・すばらしい講師陣だった。もう少しワークの時間があつたほうが、学びが定着したのではないかな。
- ・集中とリラクスのバランスが図られていた。
- ・参加している方々も対象となるテーマも目標じつに多種多様ななか、研修全体としての印象はとてもまとまっています、3日間がとても充実していました。
- ・研修プログラムが少しもり込みすぎで、交流が充分にできなかった感があり、少し残念でした。

### 4 その他 国立女性教育会館の事業や施設等について

- ・今後も全国を対象とした研修を続けて頂きたい。（地方は少ないので）
- ・東京から少し離れた地域でこんなに女性問題について充実した施設があり、今後も利用していきたいと思った。
- ・同じ県内、隣接する市町の担当者は、日頃なかなか交流できないので、NWECは貴重な交流のチャンスです。できたら地域ごとに（最初だけでも）席を決めていただけると、来ているとは思ったが、どこにいるかわからずお話しできなかった、ということがないと思います。
- ・地方自治体では予算的に不可能な充実した専門性の高い研修を実施しており、よい取組だと感じています。
- ・緊張の連続でしたが今後の活動に意欲を持つ事ができました。しかし自分の力のなさにも気づかされました。他県の情報もセンターへ持ち帰れたらと思います。
- ・男性相談も増えてきている、男性相談員の参加を促したり項目を作っても良いのではないかな
- ・このような研修を今後も行っていただきたいと思います。最近、“winet”が見やすくよく拝見します。
- ・今回の研修で相談員としての業務のあり方を学ぶ事ができましたが、各講義や分科会にももう少し時間がほしかった気がします。また機会があればさらに専門的研究に参加させていただきたいと思います。
- ・女性教育の場としてなくてはならない施設だと思います。多様性を尊重できる、人権尊重のメッセージをしっかりと発信し続けてください。そのためにも政治の不安定さをなくしていきたいと考えています。
- ・研修時期は、冬期間でないほうが参加しやすいです。

### 参加者自身について

#### 性別および年代別 内訳

	女性	%	男性	%	合計	%
20代	2	2.0	—	—	2	2.0
30代	13	13.0	—	—	13	13.0
40代	22	22.0	—	—	22	22.0
50代	37	37.0	—	—	37	37.0
60代以上	15	16.0	1	100.0	16	16.0
無回答	10	10.0	—	—	10	10.0
合計	99	100.0	1	100.0	100	100.0

#### 研修開催の情報を何で知りましたか。(複数回答)

	女性	%	男性	%	合計	%	
	(99名中)		(1名中)		(100名中)		
国立女性教育会館から	ホームページ・メールマガジン	42	42.4	—	42	42.0	
	ダイレクトメール	24	24.2	1	100.0	25	25.0
	ちらし	3	3.0	—	—	3	3.0
	又エックニュース	3	3.0	—	—	3	3.0
無回答	41	41.4	—	—	41	41.0	

# 平成25年度 女子中高生夏の学校 2013

## ～科学・技術者のたまごたちへ～



### 1 趣 旨

女子中高生が科学技術の世界の楽しさを「体験する」、科学技術の世界で生き生きと活躍する女性たちと「交流する」、科学技術に関心のある仲間や先輩と「知り合う」ための機会として「女子中高生夏の学校 2013～科学・技術者のたまごたちへ～」を開催します。

このプログラムは、2泊3日の合宿研修を通じて、女子中高生と科学研究者・技術者、大学生・大学院生等が少人数を単位に親密に交流し、理系進路選択の魅力を伝えるものです。理系の分野も様々です。すでに理系の道を進んでいる女子中高生も、これから夢を追い求める人も、ちょっと不安な人も、より深くより広く自分たちの視野を広げてみませんか？

また、女子中高生の進路選択について、身近な支援者である保護者や教員向けのプログラムもそれぞれ設定しています。子どもの将来像が描けるよう、よきアドバイスができるように理系進路選択についての理解を深めます。

### 2 主 催

独立行政法人 国立女性教育会館

### 3 共 催

日本学術会議 「科学と社会委員会 科学力増進分科会」  
「科学者委員会 男女共同参画分科会」

### 4 協 力

男女共同参画学協会連絡会

### 5 会 場

独立行政法人国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地

電 話：0493-62-6724・6725

F A X：0493-62-6720

Eメールアドレス：[progdiv@nwec.jp](mailto:progdiv@nwec.jp)

ホームページURL：<http://www.nwec.jp/>

### 6 期 日

平成25年8月8日（木）～8月10日（土）

### 7 参加者・定員

○科学・技術の分野に興味・関心のある女子

（中学校3年生、高校1～3年生、高等専門学校1～3年生） … 100名

○保護者・教員等 … 50名

## 8 日 程

【共通】…女子中高生、保護者、教員共通のプログラム

【女子中高生】…女子中高生用プログラム

【保護者】…保護者用プログラム

【教員】…教員用プログラム

<第1日 8月8日(木)>

【共通】開校式

13:00～13:30

開会宣言	長妻 努	実行委員長(地球電磁気・地球惑星圏学会)
あいさつ	内海 房子	国立女性教育会館理事長
	生源寺 眞一	日本学術会議会員(名古屋大学大学院教授)
オリエンテーション	古澤 亜紀	茨城県立水戸農業高等学校教諭

【共通】サイエンスアンバサダー I

「自分の将来について考えよう」

13:30～14:15

夏学に参加するに当たり、合宿研修のオリエンテーションやグループ内での自己紹介、学生TA(ティーチングアシスタント)の講話などから、合宿研修のねらいや目的を理解したり、主体的に研修に参加する気持ちを高めたりします。

【共通】キャリア講演

14:30～16:00

女子中高生にとって知名度のある企業で働く女性から、現在の生活や仕事のことなど理系進路の魅力についてお話を伺い、将来理系で働くことの意義や多様な理系の進路について理解を深めます。

講師	蓑田 裕美	株式会社資生堂 品質評価センター 学術室
		国立科学博物館認定サイエンスコミュニケーター
	平口 暢子	株式会社NTTドコモ 資材部 端末調達計画

【共通】女性科学・技術者のバーチャル職場探訪

16:15～17:45

公益財団法人鉄道総合技術研究所、JR東日本研究開発センター、ジェイアール東海コンサルタンツの3ヶ所と国立女性教育会館をインターネットで結びます。ふだん直接目にするのでできない職場の様子を女性研究者・技術者の方にご紹介いただきます。会場からの質疑応答も予定しています。

コーディネーター	平永 佐知子	ジェイアール東海コンサルタンツ株式会社 土木事業部土木設計第三部土木設計第一課課長
	谷本 早紀	公益財団法人鉄道総合技術研究所 防災技術研究部気象防災研究室研究員
	日沖 由理香	東日本旅客鉄道株式会社 JR東日本研究開発センター安全研究所 走行安全グループ研究員
	中村 ひとみ	ジェイアール東海コンサルタンツ株式会社 土木事業部土木設計第一部土木設計第一課係長
	降旗 亜樹	ジェイアール東海コンサルタンツ株式会社 建築事業部建築設計部建築設計第一課係長

**【女子中高生】** 学生企画「サイエンスバトル!？」 19:15～20:45  
 グループで協力し合い、学生スタッフが出題する課題やクイズに答えるスタンプラリーに挑戦しながら、グループの親交を深めます。

**【保護者】【教員】** 夏の学校を知る 19:15～20:45  
 今までの夏学の様子をDVDの視聴や説明により、3日間の研修の流れや意義を理解します。

**【共通】** 天体観望会  
 <希望者のみ参加> 21:00～22:00  
 自然豊かな国立女性教育会館の夏の夜空を天体望遠鏡で観察します。

<第2日 8月9日(金)>

**【共通】** 学生企画「才媛双六」 9:00～10:00  
 学生スタッフが作成したサイエンスクイズに答え、理系女子のキャリアを疑似体験するゲーム(双六)を行います。キャリアは夏学卒業後から始まり、進学、就職や結婚、育児など理系女子特有の悩みや人生に関わる様々な出来事を盛り込み、参加者に理系女子の夢やライフプランについて具体的なイメージと理系進路選択の支援となるヒントを得られるプログラムです。

**【女子中高生】** サイエンスアドベンチャーⅠ  
 「ミニ科学者になろう」 10:15～12:00

理系の各分野における研究者・技術者と交流しながら、実験・実習にじっくりと取り組みます。進路を理系にするか文系にするか迷っている生徒向けの不思議体験コースと専門性の高いチャレンジコースの2種類の実験を用意します。

- 実験A 光の性質を活用したものづくり 3D万華鏡の世界!  
 B 宇宙の星から学ぶエネルギー—基礎から学ぶ福島事故—第2弾  
 C わくわく化学の実験女子—不思議な世界によろこそ—  
 D オリジナルDNAストラップを作ろう—遺伝暗号のしくみを学ぶ—  
 E 水辺の生態系を観察しよう  
 F ウェーブマシンを作ろう～身近にいっぱい!“波”のふしぎ～  
 G 大気圧を測ろう  
 H コンピュータで探るバイオ分子の世界  
 I 線虫を使って知る遺伝子のしくみ  
 J コンピュータで探す健康や環境浄化に関わる遺伝子  
 K 結び目のゲームを作って遊ぼう  
 L 世界を「計算」してみよう!

**【保護者】【教員】** 実験・実習の参加・見学 10:15～12:00  
 女子中高生が取り組んでいるサイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」の実験や実習を実際に見学、参加することで、研修に取り組む女子中高生の姿を見たり、理系進路選択を応援する意識を高めたりします。

昼 食

12:00～13:00

集合写真の撮影

13:00～13:15

**【女子中高生】サイエンスアドベンチャーⅡ**

「ミニ科学者になろう・報告会」

13:15～13:45

午前中に体験した実験・実習について、その内容をグループ内で報告し合っ  
て情報の共有をします。自分の行ったことを他の人に報告することで、プレゼンテーション能力の向上や学校や地域に戻ってのアンバサダー活動（学んだことを広めたり、発信したりすること）に生かします。

**【保護者】【教員】サイエンスカフェⅠ**

「ポスター展示・キャリア相談」

13:15～15:15

女子中高生の理系進路選択への支援に向けて、男女共同参画学協会連絡会や企業、大学等のポスターブースを回り、最先端の科学技術について知る機会とします。また、理系の進路について相談することで我が子や生徒の進路に関する不安や悩み等の解決に近づける場とします。

**【女子中高生】サイエンスアドベンチャーⅢ**

「科学・技術者と話そう」

13:45～17:30

女子中高生に理系進路選択の魅力を伝えるため、次のブースを設け、様々な人と交流します。様々な分野、世代の人と交流することで、理系進路選択への不安や悩み等の解決に近づける場とします。

①ポスター展示・キャリア相談

30程度の展示ブースを設置し、協力学会、企業や大学等、様々な立場の研究者・技術者によるポスター展示や演示実験を行います。理系の世界で活躍する人たちが最先端の技術に触れる機会とします。

また、研究者・技術者や女子大学生・大学院生などが女子中高生の理系進路選択に関する相談に応じます。女子中高生の進路に関する不安や悩み等の解決や理系進路選択について明確な考えを持てるようにする機会とします。

②国際交流

海外から日本に来ている留学生や科学・技術者に学校生活や日本での生活、研究内容や母国に帰ってからの夢などについて、英語を使ってインタビューします。女子中高生のコミュニケーション能力や語学力の向上に生かします。

③夏学卒業生 Home Coming Day (14時から17時まで時間を限定して行います。)

過去の「夏の学校」卒業生が会場に集まり、参加者である女子中高生に対して理系進路に関する相談活動を行います。女子中高生が理系への進路に対して明確な考えが持てるようにする機会とします。

**【保護者】サイエンスカフェⅡ**

「科学・技術者、大学生、新社会人との座談会」

15:30～17:30

女性の科学・技術者、学生T A、新社会人との座談会を通じて、理系進路選択の現状やその魅力について知る機会とします。

**【教員】サイエンスカフェⅡ**

「中学、高校、大学の教員の連携」

15:30～17:30

中学、高校、大学の教員による連携を促進するために、理科や数学など、理系科目の授業展開などについて、講義やグループワークを行います。

**【共通】交流会**

18:00～19:00

夕食をとりながら、参加者同士、講師や実行委員、女子大学生・大学院生との交流を深めます。

**【女子中高生】学生企画 サイエンスアンバサダーⅡ**

「自分の将来について考えよう」

19:15～20:45

合宿研修のまとめとして、各グループで「夏学タイムズ」という新聞づくりを行います。これまでのプログラムから学んだこと、考えたことを生かし、これからの自分の将来について新聞にまとめることで、表現力の向上や学校や地域でのアンバサダー活動に役立てます。

**【保護者】【教員】サイエンスカフェⅢ**

「日本学術会議、学会、大学、企業等の科学・技術者との座談会」

19:15～20:45

学会、大学、企業等で活躍する研究者・技術者との対話やグループ討議などを通じて、理系の分野での女性の活躍や今後の期待に対する現状等を知り、女子中高生への支援の在り方について考えます。

講師	渡辺 政隆	日本学術会議連携会員（筑波大学教授）
司会	為近 恵美	N T T（応用物理学会人材育成委員）
	永合 由美子	東京大学工学部広報室、元ライオン（株） （J W E F 運営委員）
	町田 芽久美	日本化薬（株）（J W E F 運営委員）
	岩淵 祐子	東京都立大島海洋国際高等学校（J W E F 運営委員）
	森岡 由紀子	N E C（応用物理学会人材育成委員）

**【共通】科学・技術者やT Aへのキャリア・進学懇談会**

<希望者のみ参加>

21:00～22:00

女子中高生の理系進路選択に向けて、研究者・技術者や学生T Aとさらに話をしたいという参加者のために、進学や就職など、将来のことに関する懇談会を行います。

<第3日 8月10日(土)>

**【共通】** 学生企画「キャリア・プランニング」 9:00～11:00

各グループで自分の具体的な進路についてお互いに話し合い、オリジナルの「才媛双六」を作成します。話し合いや研究者・技術者へのインタビューなどを通じて、自分の考えをうまく表現する力を身に付けます。

**【保護者】** 応援します！サイエンティストへの道 (NWEC プログラム) 9:00～11:00

女子中高生の長期的なライフプランニングや男女共同参画について積極的に考える機会として、女子中高生の理系進路選択などについて、保護者同士の忌憚のない意見交換を行い、3日間の研修を振り返ります。

**【教員】** 応援します！サイエンティストへの道 (NWEC プログラム) 9:00～11:00

3日間の活動を踏まえ、それぞれの学校に戻った時にこの合宿研修の経験をどう生かすかについて考える機会として、教員同士のディスカッションや進路指導、教科指導に生かすための指導略案づくりを行います。

**【共通】** 学生企画「夏学振り返りと表彰式」 11:15～12:00

参加者が一堂に会し、3日間の振り返りを学生スタッフの企画により行います。

**【共通】** サイエンスアンバサダー任命式・閉校式 12:00～12:45

女子中高生の参加者全員がサイエンスアンバサダーとして任命されます。自分の学校や地域に戻った後、アンバサダーとして夏学の体験を伝えます。

任命 長妻 努 実行委員長 (地球電磁気・地球惑星圏学会)

# 平成25年度 女子中高生夏の学校2013参加者概況

## 1. 学年

中学生	3年	48	48
高校生	1年	43	81
	2年	33	
	3年	5	
合計		129	

## 2-1. 教員、保護者等

	教員	保護者	合計
女性	10	19	29
男性	8	3	11
合計	18	22	40

## 5. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む。

※学校の所在地と居住地が違う場合、学校の所在地による。

	中学生	高校生	中高生合計	教員	保護者	
北海道・東北	北海道	1	1	2	—	—
	(札幌市)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
	青森県	1	1	2	—	—
	岩手県	—	3	3	—	—
	宮城県	1	1	2	—	1
	(仙台市)	(—)	(1)	(1)	(—)	(1)
	秋田県	—	3	3	1	—
	山形県	1	—	1	—	—
	福島県	3	1	4	—	—
	関東	茨城県	1	1	2	2
栃木県		1	5	6	1	—
群馬県		2	3	5	—	—
埼玉県		1	5	6	1	1
(さいたま市)		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
千葉県		5	3	8	1	1
(千葉市)		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
東京都		6	7	13	1	2
神奈川県		3	3	6	3	2
(横浜市)		(2)	(2)	(4)	(1)	(1)
(川崎市)		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
(相模原市)	(1)	(—)	(1)	(—)	(—)	
甲信越	山梨県	1	2	3	—	—
	新潟県	—	—	—	1	—
	(新潟市)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
	長野県	3	6	9	3	2
北陸・東海	富山県	—	3	3	—	—
	石川県	—	—	—	—	—
	福井県	—	1	1	—	—
	岐阜県	—	—	—	—	—
	静岡県	1	6	7	1	1
	(静岡市)	(1)	(1)	(2)	(—)	(—)
	(浜松市)	(—)	(1)	(1)	(—)	(—)
	愛知県	—	5	5	—	1
	(名古屋市)	(—)	(2)	(2)	(—)	(1)
	三重県	—	—	—	—	—
近畿	滋賀県	—	—	—	—	—
	京都府	—	—	—	—	—
	(京都市)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
	大阪府	—	6	6	1	2
	(大阪市)	(—)	(1)	(1)	(—)	(—)
	(堺市)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
	兵庫県	—	1	1	—	—
	(神戸市)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
	奈良県	2	—	2	—	—
和歌山県	—	1	1	—	—	
中国・四国	鳥取県	—	1	1	—	—
	島根県	2	—	2	—	1
	岡山県	2	—	2	—	1
	(岡山市)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
	広島県	—	—	—	—	—
	(広島市)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
	山口県	2	1	3	1	2
	徳島県	—	—	—	—	—
	香川県	—	2	2	—	—
	愛媛県	—	—	—	—	—
高知県	—	—	—	1	—	
九州・沖縄	福岡県	3	1	4	—	3
	(北九州市)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
	(福岡市)	(1)	(—)	(1)	(—)	(—)
	佐賀県	—	—	—	—	—
	長崎県	3	1	4	—	1
	熊本県	1	—	1	—	—
	(熊本市)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
	大分県	—	—	—	—	—
	宮崎県	2	1	3	—	—
鹿児島県	—	1	1	—	—	
沖縄県	—	5	5	—	1	
合計	48	81	129	18	22	

## ※地域ブロック別内訳

	中学生	高校生	教員	保護者	合計
北海道・東北	7	10	1	1	19
関東	19	27	9	6	61
甲信越	4	8	4	2	18
北陸・東海	1	15	1	2	19
近畿	2	8	1	2	13
中国・四国	6	4	2	4	16
九州・沖縄	9	9	—	5	23
合計	48	81	18	22	169

# 「女子中高生夏の学校2013～科学・技術者のたまごたちへ～」 アンケート集計結果(女子中高生用)

参加者 129 名  
アンケート回答数 116 件  
アンケート回答率 89.9 %

## 1. あなた自身についてお聞かせください。

### ◆都道府県

	人数	%		人数	%		人数	%
北海道	2	1.7	石川県	-	-	岡山県	2	1.7
青森県	2	1.7	福井県	1	0.9	広島県	-	-
岩手県	3	2.6	山梨県	3	2.6	山口県	3	2.6
宮城県	1	0.9	長野県	8	6.9	徳島県	-	-
秋田県	3	2.6	岐阜県	-	-	香川県	2	1.7
山形県	1	0.9	静岡県	6	5.2	愛媛県	-	-
福島県	4	3.4	愛知県	4	3.4	高知県	-	-
茨城県	1	0.9	三重県	-	-	福岡県	3	2.6
栃木県	5	4.3	滋賀県	-	-	佐賀県	-	-
群馬県	5	4.3	京都府	-	-	長崎県	4	3.4
埼玉県	6	5.2	大阪府	6	5.2	熊本県	1	0.9
千葉県	7	6.0	兵庫県	1	0.9	大分県	-	-
東京都	9	7.8	奈良県	2	1.7	宮崎県	3	2.6
神奈川県	6	5.2	和歌山県	1	0.9	鹿児島県	1	0.9
新潟県	-	-	鳥取県	1	0.9	沖縄県	3	2.6
富山県	3	2.6	島根県	2	1.7	無回答	1	0.9
						合計	116	100.0

### ◆今後の具体的な進路

(※は「無回答」を除いた割合)

	人数	%	※%
理系	86	74.1	74.8
文系	2	1.7	1.7
まだ決めていない	27	23.3	23.5
無回答	1	0.9	
合計	116	100.0	100.0

## 2. 今回の企画を何で知りましたか?該当するものすべてに○をつけてください(複数回答)。

	人数	% (116名中)
①学校・先生から	88	75.9
②国立女性教育会館の広報(HP、メルマガ等)で見て	6	5.2
③新聞の記事	-	-
④親、家族、親戚から	26	22.4
⑤その他	2	1.7

<その他の内容>

- ・ 友達
- ・ 学校の友達

3. あなたが「女子中高生夏の学校2013」に参加した理由を教えてください(複数回答)。

	人数	% (115名中)
①科学・技術分野に興味があるから	76	65.5
②将来の進路を考える参考にするから	70	60.3
③講師の先生に関心があるから	5	4.3
④おもしろそうなプログラムがあるから	52	44.8
⑤他校の生徒と話をしてみたかったから	32	27.6
⑥大学生と話をしてみたかったから	9	7.8
⑦先生に勧められたから	40	34.5
⑧親等に勧められたから	29	25.0
⑨その他	6	5.2

<その他の内容>

- ・夢を実現するのに参考になりそうだから
- ・学校の「とやま地球学」の1つとして参加
- ・皆と違うことに参加してみたかったから
- ・友人に誘われたから
- ・さいたまに来たかった。国際交流をしたかった。
- ・部活の活動

4. 各プログラムの内容はいかかがでしたか？

【1日目】

サイエンスアンバサダー I

(※は「参加していない」「無回答」を除いた割合)

	人数	%	※%
非常に有用だった	30	25.9	26.1
有用だった	76	65.5	66.1
あまり有用ではなかった	9	7.8	7.8
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	1	0.9	-
合計	116	100.0	100.0

<感想>

- ・夏の学校についてよく分かった・知ることができた(16件)
- ・緊張がほどけた(2件)
- ・この夏学を通して、ただ自分が学ぶことも大切ですが、もっと大切なのは「学び」を伝えることだとわかりました。

キャリア講演① 養田 裕美さん

	人数	%	※%
非常に有用だった	85	73.3	73.9
有用だった	30	25.9	26.1
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	1	0.9	-
合計	116	100.0	100.0

<感想>

- ・今の仕事にやりがいをもっていて、とても輝いて見える方でした。理系とのつながりが分かりました。
- ・様々な仕事に理系分野が活かされていることが分かってよかったです。
- ・キャリア講演は両方ともたのしみになっていたプログラムだった。その期待通りどちらもおもしろく聞いた。

### キャリア講演② 平口 暢子さん

	人数	%	※%
非常に有用だった	43	37.1	37.4
有用だった	62	53.4	53.9
あまり有用ではなかった	9	7.8	7.8
有用ではなかった	1	0.9	0.9
参加していない	-	-	/
無回答	1	0.9	/
合計	116	100.0	100.0

#### <感想>

- ・ 理系女子であることの良さを知ることができました。自分の進路に少し自信を持つことができました。
- ・ ふだんは知れないドコモのくわしい仕事内容等がわかった
- ・ 社内での女性の立場など聞いてよかった

### 女性科学・技術者のバーチャル職場探訪

	人数	%	※%
非常に有用だった	38	32.8	33.6
有用だった	61	52.6	54.0
あまり有用ではなかった	12	10.3	10.6
有用ではなかった	2	1.7	1.8
参加していない	1	0.9	/
無回答	2	1.7	/
合計	116	100.0	100.0

#### <感想>

- ・ 鉄道っておもしろい！女性でも大丈夫なんだあ
- ・ 建築をやっているかっこいい女性の姿を見れてよかった。
- ・ 一見理系に見えないところでも、理系の内容が役に立っていて、興味深かったです。

### 学生企画 サイエンスバトル！？

	人数	%	※%
非常に有用だった	76	65.5	66.1
有用だった	36	31.0	31.3
あまり有用ではなかった	3	2.6	2.6
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	1	0.9	/
合計	116	100.0	100.0

#### <感想>

- ・ チームで団結して楽しめたと思います。
- ・ 班のメンバーと協力して行動できたので楽しかったです。
- ・ 班の仲が深まったのでよかったです。

### 天体観望会

	人数	%	※%
非常に有用だった	19	16.4	40.4
有用だった	20	17.2	42.6
あまり有用ではなかった	8	6.9	17.0
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	60	51.7	/
無回答	9	7.8	/
合計	116	100.0	100.0

#### <感想>

- ・ 一つの星しか見れなかったけれど、次こそはちゃんと見たいという意欲をもてました。
- ・ 静岡にいる時はなかなか見られなかった星をじっくり見ることができ、心が落ちつくのを感じました。
- ・ 初めて望遠鏡をのぞいて、感動した♪

## 【2日目】

### 学生企画 才媛双六

	人数	%	※%
非常に有用だった	61	52.6	53.0
有用だった	50	43.1	43.5
あまり有用ではなかった	4	3.4	3.5
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	1	0.9	/
合計	116	100.0	100.0

#### <感想>

- ・おもしろいけど内容もこくてすごかったです。
- ・問題に対して班で悩んだりして面白かったです。解説も分かりやすかったです。
- ・双六を通して理系のことを学べてよかった。

### サイエンスアドベンチャーⅠ ミニ科学者になろう

	人数	%	※%
非常に有用だった	88	75.9	75.9
有用だった	23	19.8	19.8
あまり有用ではなかった	4	3.4	3.4
有用ではなかった	1	0.9	0.9
参加していない	-	-	/
無回答	-	-	/
合計	116	100.0	100.0

#### <感想>

- ・想像していたよりずっと面白かった。
- ・思ったより楽しかった！！ほかのもやりたかった。
- ・難しさも感じたけれど、理系で進んでいく上で必要な力がわかった。

### サイエンスアドベンチャーⅡ ミニ科学者になろう・報告会

	人数	%	※%
非常に有用だった	38	32.8	33.0
有用だった	65	56.0	56.5
あまり有用ではなかった	11	9.5	9.6
有用ではなかった	1	0.9	0.9
参加していない	-	-	/
無回答	1	0.9	/
合計	116	100.0	100.0

#### <感想>

- ・他のグループの報告を聞いてよかった・ためになった(27件)
- ・他の実験などもやってみたい！と思った。
- ・自分の学んだことを短くまとめることの難しさを知った。

### サイエンスアドベンチャーⅢ 科学・技術者と話そう

	人数	%	※%
非常に有用だった	87	75.0	76.3
有用だった	27	23.3	23.7
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	1	0.9	/
無回答	1	0.9	/
合計	116	100.0	100.0

#### <感想>

- ・色々なポスターをみてたくさんの技術者の方々に色々質問できてよかったです。
- ・自分が進みたい分野で活躍している人の話を聞いてよかった。
- ・プレゼンの仕方や、他の人に話すということの技術の高さに驚き！！！！

## 交流会

	人数	%	※%
非常に有用だった	67	57.8	57.8
有用だった	39	33.6	33.6
あまり有用ではなかった	10	8.6	8.6
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	-	-	/
合計	116	100.0	100.0

### <感想>

- ・ すごいご飯がごうかであれしかったです。
- ・ 他の班の人とともに、楽しく過ごせ、良かったです。
- ・ 足の疲れがMAXでたいへんでした。

## 学生企画 サイエンスアンバサダーⅡ

	人数	%	※%
非常に有用だった	57	49.1	50.0
有用だった	55	47.4	48.2
あまり有用ではなかった	2	1.7	1.8
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	1	0.9	/
無回答	1	0.9	/
合計	116	100.0	100.0

### <感想>

- ・ 夏学タイムス作りが楽しかった(6件)
- ・ グループ内が一層仲良くなった(2件)
- ・ 時間をオーバーしてしまいましたが、協力していい物にできました。

## 科学・技術者やTAへのキャリア・進学懇談会

	人数	%	※%
非常に有用だった	46	39.7	83.6
有用だった	8	6.9	14.5
あまり有用ではなかった	1	0.9	1.8
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	56	48.3	/
無回答	5	4.3	/
合計	116	100.0	100.0

### <感想>

- ・ 悩みなどいろいろ話せてスッキリしました。
- ・ 実際の研究者の方の話はとても役に立ちました。
- ・ 将来の道筋が少し明確になった

## 【3日目】

### 学生企画 キャリア・プランニング

	人数	%	※%
非常に有用だった	55	47.4	55.0
有用だった	37	31.9	37.0
あまり有用ではなかった	8	6.9	8.0
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	16	13.8	/
合計	116	100.0	100.0

### <感想>

- ・ 自分のことを考えるきっかけになってよかった。
- ・ 自分が決めている道だけでなく色々な視点で見れた。
- ・ 自分の将来の見通しがついた。

### 学生企画 夏学振り返りと表彰式

	人数	%	※%
非常に有用だった	50	43.1	61.0
有用だった	31	26.7	37.8
あまり有用ではなかった	1	0.9	1.2
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	34	29.3	-
合計	116	100.0	100.0

#### <感想>

- ・とてもおもしろかった。振り返ってみると、本当にあつという間だったんだなあと思った。
- ・本当に短かった。もっと居たかった。
- ・3日間が短く感じられるが、これからがんばろうと思う。

### サイエンスアンバサダー任命式・閉校式

	人数	%	※%
非常に有用だった	38	32.8	47.5
有用だった	38	32.8	47.5
あまり有用ではなかった	3	2.6	3.8
有用ではなかった	1	0.9	1.3
参加していない	-	-	-
無回答	36	31.0	-
合計	116	100.0	100.0

#### <感想>

- ・サイエンスアンバサダーとして頑張りたい(3件)
- ・みんなと別れるのはさみしかったけどいい思い出になりました。
- ・任命状がきたときはとてもうれしく感じた。これからがんばって夢をかなえようと思った。

### 5. 「女子中高生夏の学校2013」全体についてお聞きします。

(※は「無回答」を除いた割合)

	人数	%	※%
非常に満足した	95	81.9	84.8
満足した	15	12.9	13.4
少し物足りなかった	2	1.7	1.8
物足りなかった	-	-	-
無回答	4	3.4	-
合計	116	100.0	100.0

### 6. 理系への進路や科学・技術分野の職業選択について、参加して感じたことを自由にご記入下さい。

- ・進路に不安がありましたが、視野を広く持って好きなことのために頑張っていこうという意欲がわきました。進路を決めつけずに、これからいろんなことを経験して夢を大きく持って、積極的に進んでいけるようになりたいです。
- ・進路選択に迷っていたが、夏学に参加して、決めることができた。また、理系女子の社会での魅力についても知ることができた。他の都道府県の人と友だちになれて、文化の違いに驚いた。たくさんの思い出を作ることができ、最高の3日間となった。サポートして下さった皆様に感謝したい
- ・理系の仕事をしようかどうかと悩んでいて、難しいから止めようと思っていたけど、もう一度考えてみようと思いました。3日間とても楽しかったです！
- ・たくさんの理系女子の方々と触れ合うことが出来て、学校に普通に通っていたら、絶対出来ない経験が出来て、本当に本当に楽しかったです。機会があれば、TAとして戻って来たい！
- ・自分の知らないことを改めて多く感じさせられたことです。理系には色々な職業の幅があるとか、興味深いものがたくさんありすぎました。ある程度進路を決めることができました。自分のせまかった視野を広げることができて、参加して本当に良かったと思います。

- とても良い機会だったと思います。さまざまな地域、学年の人とかかわったり、一緒に行動したり考えたり、理系のことについて学んだり…と、学校ではできないことができて良かったです。夏学に参加出来て本当によかったです。
- 自分の将来についてより具体的に考えを定めることができた。また、自分が興味がないと思っていた分野でも興味があったり関連があることがわかって進路選択の幅が広がった。
- もともと理系志望だったけど、さらに”理系に進みたいっ！！”という気持ちになる研修ができて本当に良かったです！また、この夏学に来る前に持っていた悩みがいろいろな研修を通して、解消した！教授とかとも理系トークができたり、現役の大学生のTAさんたちと研究について話しあったり普だんできない経験をさせてくれてありがとうございました。
- 様々な県からきている人と交流して、日本は広いということを感じた。理系への進路選択に役立った。
- 理系の仕事や大学の人たちと3日間一緒に活動して、理系のさまざまな分野について知ることができた。グループでの活動も、全国各地の友達ができてすごく貴重な経験になった。3日間、短いけれど充実していた。

# 「女子中高生夏の学校2013～科学・技術者のたまごたちへ～」 アンケート集計結果(教員用)

参加者 18名  
アンケート回答数 16件  
アンケート回答率 88.9%

## 1. あなた自身についてお聞かせください。

### ◆都道府県

	人数	%		人数	%		人数	%
北海道	-	-	石川県	-	-	岡山県	-	-
青森県	-	-	福井県	-	-	広島県	-	-
岩手県	-	-	山梨県	-	-	山口県	1	6.3
宮城県	-	-	長野県	3	18.8	徳島県	-	-
秋田県	1	6.3	岐阜県	-	-	香川県	-	-
山形県	-	-	静岡県	1	6.3	愛媛県	-	-
福島県	-	-	愛知県	-	-	高知県	1	6.3
茨城県	1	6.3	三重県	-	-	福岡県	-	-
栃木県	1	6.3	滋賀県	-	-	佐賀県	-	-
群馬県	-	-	京都府	-	-	長崎県	-	-
埼玉県	1	6.3	大阪府	1	6.3	熊本県	-	-
千葉県	-	-	兵庫県	-	-	大分県	-	-
東京都	1	6.3	奈良県	-	-	宮崎県	-	-
神奈川県	3	18.8	和歌山県	-	-	鹿児島県	-	-
新潟県	1	6.3	鳥取県	-	-	沖縄県	-	-
富山県	-	-	島根県	-	-	無回答	-	-
						合計	16	100.0

## 2. 今回の企画を何で知りましたか?該当するものすべてに○をつけてください(複数回答)。

	人数	% (16名中)
①学校・先生から	7	43.8
②国立女性教育会館の広報(HP、メルマガ等)で見て	5	31.3
③新聞の記事	1	6.3
④生徒、子ども、家族、親戚から	-	-
⑤その他	5	31.3

### <その他の内容>

- ・ 学校あての案内(2件)
- ・ 教育委員会からの回覧  
県教委からの案内文書  
メール(勤務先・都立大島海洋国際高校 組織端末)

## 3. あなたが「女子中高生夏の学校2013」に参加した理由を教えてください(複数回答)。

	人数	% (16名中)
①理系進路選択の知識を得るため	12	75.0
②生徒の進路について悩んでいるため	1	6.3
③理系進路選択事業に関心があるため	9	56.3
④実験やポスター展示等に関心があるため	6	37.5
⑤講師に感心があるため	3	18.8
⑥情報交換のため	4	25.0
⑦その他	3	18.8

### <その他の内容>

- ・ 生徒引率
- ・ 理科系部活動を選んでくれた生徒に、現在の興味が将来の進学や職業選択にどうつながっていくのか、具体的に知ってほしかった。
- ・ 生徒参加を検討したいため

#### 4. 各プログラムの内容はいかかがでしたか？

##### 【1日目】

##### サイエンスアンバサダーⅠ

(※は「参加していない」「無回答」を除いた割合)

	人数	%	※%
非常に有用だった	—	—	—
有用だった	14	87.5	93.3
あまり有用ではなかった	1	6.3	6.7
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	—	—	—
無回答	1	6.3	—
合計	16	100.0	100.0

##### <感想>

- ・ 企画参加の意義がよく理解できた。
- ・ 学校の先生以外にメンターを見つけるというのは視野が広がり大変有用だと感じました。勤務校の生徒にもそのようなことができるよう考えてみたいです。
- ・ 全体の流れがつかめてよかった
- ・ 有用ですが、時間はこんなに必要なかったのでは、と。
- ・ こういう時間をけずって、時間に余裕をもたせたい。
- ・ 不参加

##### キャリア講演① 菱田 裕美さん

	人数	%	※%
非常に有用だった	11	68.8	68.8
有用だった	5	31.3	31.3
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	—	—	—
無回答	—	—	—
合計	16	100.0	100.0

##### <感想>

- ・ ととてもすばらしかったです！！
- ・ ととても参考になりました
- ・ 本プログラムの目的に最もかなった内容だと思います。
- ・ 多分野の人達と一緒に働くことを求められるのが民間企業であるというところに女性技術職の可能性を強く感じました。
- ・ 農学部で学ぶこと、それが社会貢献にどのようなつながるかがよく理解できた。
- ・ ととても分かりやすくお話頂き、生徒にとっても理系の進路がより身近になったと思います。また私たち教員もサイエンスコミュニケーションの能力が必要なのだと感じました。
- ・ キャリア教育のヒントが得られた
- ・ 理系女子として進む上で新しい可能性を提示してくれた
- ・ 第一線で活躍する女性科学者の方のお話を聞けて、非常にパワーをもらった。
- ・ 講師のエネルギー、その想いが伝わり、中高生にひびく言葉もいくつかあったように思います。
- ・ お話が上手く、引きこまれました。人前で話すことの参考になりました。

##### キャリア講演② 平口 暢子さん

	人数	%	※%
非常に有用だった	8	50.0	50.0
有用だった	6	37.5	37.5
あまり有用ではなかった	2	12.5	12.5
有用ではなかった	—	—	—
参加していない	—	—	—
無回答	—	—	—
合計	16	100.0	100.0

##### <感想>

- ・ 本プログラムの目的に最もかなった内容だと思います。
- ・ 大手の企業の方から、実際に「理系で良かった」というお話があり、今後の生徒への進路指導に参考にさせて頂こうと思います。

- とっても参考になりました
- 生徒の興味、関心を知る上で有用だった
- 就職して、自分のやりたいことにすぐつけるとは限らないが、そのために視野が広がることもあると知った。
- docomoの会社については、よく理解できたが、理系進路を歩んできた先輩としての説得力がとぼしい。
- 講師の仕事への想いがよく見えませんでした。合同企業説明会の説明のような…
- 少し話が難しかったように思います。

### 女性科学・技術者のバーチャル職場探訪

	人数	%	※%
非常に有用だった	8	50.0	50.0
有用だった	8	50.0	50.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	-	-	-
合計	16	100.0	100.0

#### <感想>

- 本プログラムの目的に最もかなった内容だと思います。
- 生でなく、全てVTRでよかったのでは。
- 仕事の内容とともに職場の雰囲気が分かって大変良かった。
- 理・工学部がいかに今の日本を支えているのかが大変よく理解できた。
- 私自身も「鉄道」と聞くと、男性の仕事のように思いがちですが、あれだけ女性が活躍されている、また様々な職種があるというのは勉強になりました。
- 聞きたることができない部分もあり、残念な所もあった。
- 科学者として母として活躍する女性のすごさを感じた
- 少々画像が見にくいところもあったがリアルタイムで質問に対応してくださって貴重なお話がたくさん聞けた。
- スカイプで、面白かったです。
- 内容はとてもよかったのですが、スカイプだと画像がわるく残念でした。
- とっても参考になりました
- 通信状況が悪く、残念でした。13:00からずっと話を聞きっぱなしなので、良い企画であるにもかかわらず、真剣に聞ききれないようなムードになってしまいました。平永さんのフォローが素晴らしい。

### 夏の学校を知る

	人数	%	※%
非常に有用だった	1	6.3	6.3
有用だった	12	75.0	75.0
あまり有用ではなかった	3	18.8	18.8
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	-	-	-
合計	16	100.0	100.0

#### <感想>

- 40人程度なので、4人グループといわず、もっと多人数の顔合わせができたらよかった。
- 我が子や生徒に話しかけてはいけないという話が一番印象に残った。子供の自立を見守る大切さをTAさんから学んだ。(本当に感謝しています。)
- 夏の学校の趣旨が伝わり、私自身は教員という立場から生徒にどのようにアプローチしていけば良いかを残りの2日間で探っていきたいと思います。
- 「田口さんが鈴木さんだった頃」という柴田氏発言は女性蔑視で問題発言だったと思います。
- 3日間体験すればわかることである
- 情報交換や授業改善に有効だった
- 夏学の意義を改めて知ることができた
- 1回目の参加だった私にとっては良かったのですが、2回目の人にとっては必要ない気もします。
- DVDで雰囲気が分かりやすかった。来年も参加を考えています。リピーターは別メニューになりませんか？
- 場所がわかりづらかった。19:30開始となったはずなのに、早くはじまっていた

## 天体観望会

	人数	%	※%
非常に有用だった	-	-	-
有用だった	2	12.5	40.0
あまり有用ではなかった	3	18.8	60.0
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	9	56.3	/
無回答	2	12.5	/
合計	16	100.0	100.0

### <感想>

- ・天候の状態で十分な観察が出来ず残念
- ・星が見えなくて残念でした。埼玉大学の学生さんとの話は楽しかったです。
- ・残念ながら曇っていましたが、星が多少観測できなくても、何かしらの解説などがあると良かったです。生徒は宇宙や星に割と興味を示すので、授業で今回のことを伝えようと思っていただけに、なおお話が聞きたかったです。
- ・あたりまえですが、天気が悪いと見られないということを再確認しました。
- ・くもっていたようで断念しました。
- ・不参加

## 【2日目】

### 学生企画 才媛双六

	人数	%	※%
非常に有用だった	5	31.3	33.3
有用だった	9	56.3	60.0
あまり有用ではなかった	1	6.3	6.7
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	1	6.3	/
無回答	-	-	/
合計	16	100.0	100.0

### <感想>

- ・学生企画としてちょうどよいものだと思います。
- ・生徒、子供達の楽しんでいる姿を見ることができました。一日で本当に仲良くなっている姿に頼もしさを感じました。
- ・質問の内容もよく考えられていたし、子供達も楽しそうであった。
- ・質問を精査、精選する余地が少なくない
- ・易しい質問、難しい質問、様々ありおもしろかった。
- ・なかなかサイエンス雑学むずかしい。でも楽しく科学に触れる一つの方法ですね。参考になりました。
- ・非常におもしろかった。
- ・3回目のできた双六も見たかった…作る過程は見えましたが。  
”才媛”という言葉にはちょっと、エリート意識を感じる…
- ・TAの皆さんの工夫が分かって良かった。
- ・体育館暑かったです。

### 実験・実習の参加、見学

	人数	%	※%
非常に有用だった	9	56.3	56.3
有用だった	6	37.5	37.5
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	1	6.3	6.3
参加していない	-	-	/
無回答	-	-	/
合計	16	100.0	100.0

### <感想>

- ・準備がすばらしく、子どもにも私にもよい体験となった。
- ・生徒の実習なのに、見せていただいているこちらが夢中になりました。今後の授業や課外活動に生かすことができそうなヒントやアイデアをいただきました。
- ・全ての実験を見学して、授業のネタとしようとしたが、見学者に対してはプリント等が準備されず、

少々残念だった。

- ・ Aに参加させて頂いた。興味深く、作品も集中してできた。
- ・ 講師の進め方、説明の仕方が不十分
- ・ 見学でしたが、参加もしたかったです。
- ・ データベース検索の実習に参加させていただきました。実際に生徒にやらせてみようと思います。
- ・ 見学者にも資料を用意していただくとより良いと感じた。
- ・ 申し込みしていた実験に参加できず、非常に残念でした。
- ・ A参加。予想どおり楽しかった。全体を見ようかと思っていたが、決めたグループで集中して参加して良かった。
- ・ 自由見学しにくいムードがありました。

### サイエンスカフェⅠ ポスター展示・キャリア相談

	人数	%	※%
非常に有用だった	8	50.0	50.0
有用だった	8	50.0	50.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	-	-	-
合計	16	100.0	100.0

#### <感想>

- ・ (ぜひたくにも)これだけの学会から女子生徒に向けて展示することがすばらしい。
- ・ 多くの資料をいただいてとてもよかった。
- ・ 質問などもでき、有意義な時間だった。
- ・ 中高生へ向けた説明がわかりやすかった。
- ・ 一度に多くの科学情報に触れることができ有用でした。
- ・ 他校(小・中・高・大)の先生方と情報交換できる良い機会だった。
- ・ 様々な学会が来ていてすごい。中高生にはあまりない機会だったのでは。
- ・ 混み具合がすごくでなかなか見られなかったのが残念です。生徒と引率の時間を完璧にずらすことはできませんか？
- ・ 全体をみた。生徒たちもブースが多くて満足したと思う。
- ・ 理系の職種の多様さ、この事業を支援する人の多さを実感しました。

### サイエンスカフェⅡ 科学・技術者、大学、新社会人との座談会

	人数	%	※%
非常に有用だった	2	12.5	14.3
有用だった	9	56.3	64.3
あまり有用ではなかった	3	18.8	21.4
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	1	6.3	-
無回答	1	6.3	-
合計	16	100.0	100.0

#### <感想>

- ・ もう少ししぼり込んだテーマの方がよかったかな？
- ・ それぞれの学校の状態がかなりちがうので、テーマに無理があると思いました。
- ・ 今回は「連携」についてということで、あまり自分の勤務校には参考になりませんでした。話し合われていたようなジレンマがあるということを知り勉強になった。
- ・ サイエンスカフェⅠに行っていました。  
大学と小・中・高の連携課題がはっきりしたように思えた。
- ・ 本校は高大連携より大学にまず入れることに重きがおかれています。大学につながる授業の大切さがわかりました。
- ・ 他校(小・中・高・大)の先生方と情報交換できる良い機会だった。
- ・ 進学校教員でないものとしては何とも言い難かったです。
- ・ もう少しゆっくりフリートークのような形で話ができると良かった。
- ・ 見学者から参加者になれた。
- ・ 全員に自己紹介がてら語ってもらえる場があれば良かった

## 交流会

	人数	%	※%
非常に有用だった	1	6.3	6.3
有用だった	12	75.0	75.0
あまり有用ではなかった	3	18.8	18.8
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	-	-	-
合計	16	100.0	100.0

### <感想>

- ・ 肩の力を抜いて楽しい会話の時間になりました。
- ・ 次回はぜひ理科離れを防ぐための対策などを話し合ってみたい。
- ・ 私自身が多方面の方とあまり話が出来なかったことによると思います。
- ・ 保護者、教員間の交流も深めることができた。
- ・ 多くの方とコミュニケーションができてよかった
- ・ 周囲の先生たちと初めて自由に話せました。1日目でもよかったのでは？
- ・ 1時間は短いです。
- ・ 活用できませんでした。自分の反省です。

## サイエンスカフェⅢ 日本学術会議、学会、大学、企業等の科学・技術者との座談会

	人数	%	※%
非常に有用だった	-	-	-
有用だった	12	75.0	75.0
あまり有用ではなかった	3	18.8	18.8
有用ではなかった	1	6.3	6.3
参加していない	-	-	-
無回答	-	-	-
合計	16	100.0	100.0

### <感想>

- ・ この時間でGWは難しかったが…。渡辺先生の話わかりやすかった。
- ・ 座談会としては…。ほとんどはなしあっていないので、先生のお話はおもしろいと思いました。
- ・ アクシデントのせい、時間が十分になく、話し合いが深まらなかったのが残念でした。  
渡辺先生のお話をもう少しつっこんでききたかったです。
- ・ 企業の方にお聞きしたいことが1つはできたので、収穫がありました。
- ・ 立場の同じグループでの話ができよかった。もっと時間が欲しかった。
- ・ 内容的には○であるが、女性講師の話し方が△、全員「え～、あの～」が多い
- ・ 様々な視点で理系進路について考えられよかった。
- ・ 科学を「好き」になってもらうのではなく「関心」を持たせることが大切
- ・ 渡辺先生のお話、最後のスライドは同感。
- ・ 1時間は短いです。
- ・ グループで話して良い時間が持てました。
- ・ サイエンスカフェⅡでお互いを知ったので、自由に話ができる時間が欲しかった

## 科学・技術者やTAへのキャリア・進学懇談会

	人数	%	※%
非常に有用だった	-	-	-
有用だった	-	-	-
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	1	6.3	100.0
参加していない	12	75.0	-
無回答	3	18.8	-
合計	16	100.0	100.0

### <感想>

- ・ 不参加
- ・ サイエンスカフェⅠが有効でしたので…
- ・ (すみません。サボりました)

### 【3日目】

#### 応援します！サイエンティストへの道

	人数	%	※%
非常に有用だった	6	37.5	42.9
有用だった	7	43.8	50.0
あまり有用ではなかった	1	6.3	7.1
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	2	12.5	/
合計	16	100.0	100.0

#### <感想>

- どうも教員向けプログラムが裏番組的な、とりあえず何かやらなきゃという苦しさを感ずります。女性の理系進学支援という本プログラムの基本に戻って考えるとよいのではないのでしょうか。
- ディスカッションの時間が短く、話し足りない事もありました。全国各地の様々な校種の先生方のご意見が聞けて参考になりました。
- じっくり話が出来てよかった。
- 情報交換の場としても有効でした。
- 夏学の参加した意義をあらためて総括できた。
- 先生たちと意見交換できてよかったです。
- やっとゆっくり同業の方と話げできたという感じです。
- フリートークで楽しめました。
- 教員どうしの交流、話し合いの場となりました。

#### 学生企画 夏学振り返りと表彰式

	人数	%	※%
非常に有用だった	1	6.3	7.7
有用だった	12	75.0	92.3
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	3	18.8	/
合計	16	100.0	100.0

#### <感想>

- もう少し表彰式らしくなったらいいですね。
- 全国にできた仲間や友達、自分を支えてくれるたくさんの学生TAや大学の先生方、企業の先輩との出会いの喜びを、商品を分け合いながら感じてくれていたようです。心に残る企画ありがとうございました。
- 保護者教員も交友を深めた上で参加できた。
- 短い時間で思い出のパワポをまとめてくれたTAに感謝です。
- 引率していない教員としてはなんとも…生徒にとっては有用。引率してない教師にとっては無用です。

#### サイエンスアンバサダー任命式・閉校式

	人数	%	※%
非常に有用だった	2	12.5	15.4
有用だった	11	68.8	84.6
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	3	18.8	/
合計	16	100.0	100.0

#### <感想>

- 最後に一言ほしいと思いました。
- グループをこえて交流できていました

## 5. 「女子中高生夏の学校2013」全体についてお聞きします。

(※は「無回答」を除いた割合)

	人数	%	※%
非常に満足した	8	50.0	53.3
満足した	7	43.8	46.7
少し物足りなかった	-	-	-
物足りなかった	-	-	-
無回答	1	6.3	
合計	16	100.0	100.0

## 6. 理系への進路や科学・技術分野の職業選択について、参加して感じたことを自由にご記入下さい。

- この取組みはずっと続けることで世の中を変えたいと思います。TAの中に夏学の卒業生がいるというだけでなく、日本社会の科学者、技術者に少なからず夏学の卒業生がいるという環境になれば世の中は変わると思います。私もいろいろな経験やネタを持っているので、このプログラムに関わりたいなと思いましたが、日々忙しくて難しいかな。これだけのことを企画運営するのは大変なことですよ。まあ、まずは本校の中3生を参加させる道を作りたいと思います。スタッフのみなさんありがとうございました。お疲れ様でした。
- 生徒が発表している様子を見たかったです。どのように感じたか知りたい。
- 地学部の生徒を引率に参加しました。日頃は、文理選択、大学の学部学科選択と、目の前の現実的な進路指導に終始して、今の興味が職業の中でどう生かされ、育っていくのかを伝えきれずにいました。今回の夏学では、その部分を協力にフォローしていただけたと思っています。1年生はこの秋に文理選択、2年生は学部学科選択をしますが、今回参加できた生徒達は、それぞれ自信を持って進路を選択してくれると確信しています。今回参加できなかった生徒には、来年ぜひ参加するようすすめたいと思っています。来年もエントリーしたいと思っていますので、よろしくお願ひいたします。
- 理・工・農学部設置されている学科、コース、選考がどのようなことを学び、そこで学んだ経験が様々な形で世の中の役に立っていること、技術大国といわれる日本を牽引していることを、今回初めて知った。私は、中学校で理科を担当しているが、中1までは理科が好き、中2になってそのしくみや理論を学ぶようになると、途端に理科離れがはじまる、数学に至っては、小学校の算数も十分に身につけていない状態で、中学に入学してくる生徒が多いため、教育現場では、どうしても学力向上に力を入れざるを得ず、教師が力めば力むほど、子供達との興味関心から遠のいていってしまうのかもしれないと気付かされた。「理科のおもしろさを女性の立場から伝えたくて」中学校での理科教師を選択したのに、初心から離れた現在の自分を大いに反省させられた。残りの教員生活でどこまでできるかわからないが、理系の夢を語るようにもう一度チャレンジしていきたいと思った。
- 2日目のサイエンスカフェⅢで出た意見の中に、今回の様に優秀な女子生徒がいるのだという事実を企業の方に見てもらうために、人事の方をお招きして見て頂いたらいかがでしょうか。保護者や教員の意識を高められるように、企業の採用担当者にも女性採用への理解が深まると思います。その際、中小企業の方もご一緒だと、より変われるのではないのでしょうか。また私自身は、この3日間で勉強になったとともに地方と都市部の教育のあり方の違いや、私立の学校の熱心さに良い刺激を受けました。まだまだ、未熟であると痛感し、今後の教員生活を見直していきたいと思っています。3日間ありがとうございました。スタッフの方々も、大変お疲れ様でした。
- 「才媛双六」での保護者および教員の一部が生徒のそばに立っていて、見ぐるしかつた。来年は、注意してほしい。名札に名前が印刷してあり、とても良かったです。なお、教員か保護者かわかるように(教)(保)をつけると、パネル説明される方にわかりやすくなったと感じました。
- 来年はぜひ、生徒をつれて参加したい。これ程盛りだくさんの内容で各分野の方に接する機会はあるものでなく、参加させて頂いて私自身、理系進路について広がりを持つことができたことに感謝したいです。お世話して下さいました方々、スタッフ、参加講師の皆さんに感謝したいです。ありがとうございました。
- TAの中でちゃんと挨拶ができる人があまりにも少ない。それもあってか参加生徒も挨拶ができない。研修内容には充分満足しているが、スタッフとTAの事前教育の必要性も感じている。総じて素晴らしいプログラムで、充実した日々を過ごすことが出来ました。様子がよく分かったので、来年度は生徒の参加を強くすすめることができます。

- 各分野の研究者が生き生きと活動されている点が印象的でした。理系進学希望者の不安や悩みを解消できる要素も多く、その点を学校側からどのように発信すればよいのか考えていきたいと思った（保護者の不安、悩みについても同様）。生徒が発信した内容を参加者だけにでも公開してほしいと思いました。）
- 人的交流、理系教育(特に理系女子)の現状、様々な科学知識の入手等、様々な面で刺激的な3日間でした。また理系を志す女子生徒のみならず、TA、スタッフのパワーに圧倒されました。プログラムの多くが現在も活躍されている技術者の話でしたが、他の理系のジャンル(例えば医療系とか)の人の話も取り入れてはどうでしょうか。教師にとっても大変勉強になる夏学でした。これからの理系女子育成に生かしていきたいと思います。企画委員、TA、スタッフの皆様、有難うございました。
- 進路で悩んでいる生徒に対して助言するためのたくさんの情報を得ることができました。私自身、教員1年目で担任や進路指導の経験はありませんが、これから活かしていける貴重なお話が多く、大変勉強になりました。また、モチベーションの高い先生方とディスカッションすることで、刺激になりました。生徒も一まわり成長した気がします。ありがとうございました。
- 大企業の「エリート」と言われるような方だけでなく、中小企業の理系女子の話も聞けると、より身近な進路として幅も広がるのでは。成功した理系を「エリート」にまとめてしまっただけでは、結局女性の理系職は増えていかないと思います。(というか、研究職を「理系のトップ」のような扱いにするのもギモン。才媛双六とか。教員だって、工専を出て技術職について子だって、立派な理系女子)。就職は理系に行ったからといってどうなるかわからない。(「アベノミクスで期待できるから行け」なんて指導は高校ではしてません)悩みなどネガティブな部分も含め、理系女子の生き方、想いが伝わる場にしてほしい。教員の企画全体での位置づけが不明確…。引率なのか、学習の場として参加していいのか。
- 理系進路＝大学⇒院博士課程⇒研究職・大企業というイメージが強すぎました。これを見て「よし、これから頑張ろう！」と思う生徒もいれば、「うわあ、私には無理だあ…」とってしまう生徒もいると思います。少なくとも、私の担当している生徒たちは圧倒的に後者が多いと考えられます。正直、来年連れてきたいかどうかと言われると、すぐに返事ができません。もう少し身近なロールモデルの存在を紹介していただけるような内容であってほしいかと思っています。大学に行かない進路(工業・農業高校、高専などから就職)はないのでしょうか。教員としては、たいへん参考になるお話
- この企画を有効に活用できるような生徒への働きかけを工夫します。ありがとうございました。班名を女性で考えてはどうですか？科学者だけでなく、技術者などで。
- この事業が、理系のエリートを育てたいのか、すそ野を広げたいのか、の目的により、企画が変わると思います。今の生徒は、すごい人にあこがれを持つだけでは自分の力になりきれないことが多く、ダメでも大丈夫だよ、できなくてもいけるよ、というムードに安心感をもちます。そういう意味では、不安や失敗を共有したり、成績面での悩みの克服などを提示できればよりいいのかと思います。また、すそ野を広げられない背景に工学系以外の大学の偏差値の高さがあります。でも専門学校でも高卒でも「理系」というくくりはある、と言ってあげられるようになれば、理系に進みたいという割合をふやすのはきびしいのではないかと思います。企画に、多くの気配りが見えて、女性の想像力が発揮された企画なのだなと感じました。
- 将来についてよく考えるきっかけとなったと思う。お世話していただいた方々のまじめな、明るく親切なところが大変好感が持てました。

**「女子中高生夏の学校2013～科学・技術者のたまごたちへ～」  
アンケート集計結果(保護者用)**

参加者 22名  
アンケート回答数 22件  
アンケート回答率 100.0%

**1. あなた自身についてお聞かせください。**

◆都道府県

	人数	%		人数	%		人数	%
北海道	-	-	石川県	-	-	岡山県	1	4.5
青森県	-	-	福井県	-	-	広島県	-	-
岩手県	-	-	山梨県	-	-	山口県	2	9.1
宮城県	1	4.5	長野県	2	9.1	徳島県	-	-
秋田県	-	-	岐阜県	-	-	香川県	-	-
山形県	-	-	静岡県	1	4.5	愛媛県	-	-
福島県	-	-	愛知県	1	4.5	高知県	-	-
茨城県	-	-	三重県	-	-	福岡県	3	13.6
栃木県	-	-	滋賀県	-	-	佐賀県	-	-
群馬県	-	-	京都府	-	-	長崎県	1	4.5
埼玉県	1	4.5	大阪府	2	9.1	熊本県	-	-
千葉県	1	4.5	兵庫県	-	-	大分県	-	-
東京都	2	9.1	奈良県	-	-	宮崎県	-	-
神奈川県	2	9.1	和歌山県	-	-	鹿児島県	-	-
新潟県	-	-	鳥取県	-	-	沖縄県	1	4.5
富山県	-	-	島根県	1	4.5	無回答	-	-
						合計	22	100.0

**2. 今回の企画を何で知りましたか?該当するものすべてに○をつけてください(複数回答)。**

	人数	% (22名中)
①学校・先生から	13	59.1
②国立女性教育会館の広報(HP、メルマガ等)で見て	7	31.8
③新聞の記事	-	-
④子ども、家族、親戚から	4	18.2
⑤その他	4	18.2

<その他の内容>

- ・ 検索
- ・ インターネット教育情報サイト リセママ(ReseMom)の記事を見て
- ・ 昨年体験された方から
- ・ 私自身が地盤工学委員なので、その関係者から

**3. あなたが「女子中高生夏の学校2013」に参加した理由を教えてください(複数回答)。**

	人数	% (22名中)
①理系進路選択の知識を得るため	18	81.8
②子どもの進路について悩んでいるため	10	45.5
③理系進路選択事業に関心があるため	7	31.8
④実験やポスター展示等に関心があるため	5	22.7
⑤講師に感心があるため	1	4.5
⑥情報交換のため	6	27.3
⑦その他	3	13.6

<その他の内容>

- ・ 理系の方々に囲まれた環境での生活を体験させたかったため
- ・ 娘が理系に関心があるため
- ・ 帰りに静岡市美術館に立ちよるため

#### 4. 各プログラムの内容はいかかがでしたか？

##### 【1日目】

##### サイエンスアンバサダーⅠ

(※は「参加していない」「無回答」を除いた割合)

	人数	%	※%
非常に有用だった	7	31.8	33.3
有用だった	14	63.6	66.7
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	1	4.5	-
合計	22	100.0	100.0

##### <感想>

- ・本講座のねらいがよく伝わりました
- ・どのようなプログラムかあまりわからないまま参加したので、概要が理解出来た
- ・夏の学校の3日間の流れがわかり、目標が考えられるものだった
- ・この3日間で何をやるかが簡潔に示されて、有用であった。
- ・生徒たちがリラックスできたと思います。
- ・夏学で何を目的に過ごすのか経験者が話してくれてよかった。

##### キャリア講演① 蓑田 裕美さん

	人数	%	※%
非常に有用だった	16	72.7	76.2
有用だった	5	22.7	23.8
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	1	4.5	-
合計	22	100.0	100.0

##### <感想>

- ・プロになって経営層を目指し、独立できる実力を身につけよう
- ・女性で自信を持って社会に出ていることが伝わってきた
- ・とてもポジティブで理系+コミュニケーションとネットワーク力の高さにあこがれました。
- ・わかりやすく丁寧にお話下さり、そのスキルが素晴らしかった。
- ・理系に進んだ後の将来の姿(仕事や生活etc)が具体的にわかり、全く知らない世界だったのでとても興味深かった。
- ・自分の能力を生かし、理系で仕事として活かしていく経緯が分かって参考になった。
- ・積極的にものごとに取り組み切りひらくエネルギーをもらいました。
- ・前向きで明るい、社会で活躍する女性像を明確に示してくれた。
- ・非常に分かり易く、学生時代から社会人生活までの流れがつかめました。とても良かったです。
- ・講師が魅力的だった
- ・理系に進むみ力が感じられるお話でした。
- ・「活動するうちにだんだんやりたいことが見えてきた」という言葉が印象的でした。
- ・話のテンポがとても聞きやすく、経験の大切さを感じました。

##### キャリア講演② 平口 暢子さん

	人数	%	※%
非常に有用だった	14	63.6	66.7
有用だった	6	27.3	28.6
あまり有用ではなかった	1	4.5	4.8
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	1	4.5	-
合計	22	100.0	100.0

##### <感想>

- ・10年、20年後を見すえた技術開発
- ・女性で自信を持って社会に出ていることが伝わってきた
- ・女性が仕事で活躍するチャンスがあること。理系を選んだのがソニーのウォークマンということにも納得

しました。

- ・子ども達の関心の高い分野であることを再認識しました。
- ・理系に進んだ後の将来の姿(仕事や生活etc)が具体的にわかり、全く知らない世界だったのでとても興味深かった。
- ・電話開発や、法的な課題なども生徒の質問から広がりよかった
- ・大学で学んだ後、女性がどのように企業の中で活躍していくか
- ・理系の魅力に加え、女性の働きやすさにも言及していただいて良かった。(ライフステージ)
- ・子どもたちの質問に感心した
- ・仕事が続けやすい会社を選ぶなど具体的なお話がよかったと思います。
- ・ドコモの女性の制度の利用状況(短時間勤務etc)をきいて、そういう数値をどうとらえればいいのか自分の中で少し整理ができました。
- ・様々な仕事に理系の人々がたずさわっていることを改めて感じました。

### 女性科学・技術者のバーチャル職場探訪

	人数	%	※%
非常に有用だった	8	36.4	38.1
有用だった	12	54.5	57.1
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	1	4.5	4.8
参加していない	-	-	-
無回答	1	4.5	-
合計	22	100.0	100.0

#### <感想>

- ・親が伸びれば、子が伸びる。回線がもっとスムーズにつながればもっと盛り上がったと思います。グループエンカウンターをすることで、子どもたちが仲良くなれる(本講座に参加することで)と感じ、安心しました。
- ・回線がもう少し安定していたらよかった
- ・スカイプの画像がもっと鮮明であつたらよかった。
- ・和気あいあいとした職場の雰囲気がよくわかりました。
- ・理系に進んだ後の将来の姿(仕事や生活etc)が具体的にわかり、全く知らない世界だったのでとても興味深かった。  
スカイプの調子が悪かったのが少し残念でした。
- ・新幹線の裏で、女性の方が、男性の方と同じ様に働いていらっしゃるのを見て、そういう仕事も有りなのだと思えて思いました。
- ・いろいろな仕事があることがよくわかった。生徒の進路の選択の幅が広がると思います。
- ・職場の様子がそのまま見られたことが良かった
- ・職業を通じて社会の役に立ちたいという部分に共感、実際の仕事内容がわかって良かった。
- ・接続がうまくいかなかったのが残念
- ・質問に答えてもらえるなど良かったと思いますが、通信状況などが難しいですね。
- ・スカイプのカメラを移動させながらのやりとり、臨場感よかった。
- ・普段見ることができない映像がとても興味深かったです。

### 夏の学校を知る

	人数	%	※%
非常に有用だった	8	36.4	40.0
有用だった	12	54.5	60.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	2	9.1	-
合計	22	100.0	100.0

#### <感想>

- ・サイエンスバトルの各問題(子どもが実施したもの)がいただけると、親も楽しめた気がします。
- ・同じ目的で集った父兄や教員の方々との交流に楽しさを感じました。
- ・全く知り合うことがなかったであろう方々と交流でき、悩み(?)を共有できたこと。
- ・グループワークを行い、私達も交流が深められました
- ・保護者どうしの情報交換がはかれた。
- ・今日初めてお会いした方々とうちとけるよい機会になりました。
- ・他の参加者との交流ができる場、エンカウンターや悩み事相談 もっと時間がほしかった
- ・コミュニケーションをとるきっかけ作りがとても楽しかったです。

- ・ 鉄道業界に入った理由が公共性の高い仕事で、誰かの役に立ちたいと流王さんが言われたのが印象的。

### 天体観望会

	人数	%	※%
非常に有用だった	-	-	-
有用だった	7	31.8	63.6
あまり有用ではなかった	4	18.2	36.4
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	7	31.8	
無回答	4	18.2	
合計	22	100.0	100.0

#### <感想>

- ・ 天気が悪く残念(4件)
- ・ 曇りの天気が残念。天気が悪い時には、先生のご専門の話がききたい!
- ・ 曇りでほとんど見えず学生さん気の毒でした
- ・ 曇っていてよく見えなかった。アルタイルとベガを見せてもらった。
- ・ 雲が多く星がよく見えなかった。
- ・ 準備をしていただいたことには大変感謝していますが、残念ながら天気があまりよくありませんでした。
- ・ すみません、視力が弱くあまり見えませんでした。
- ・ ベガとアルタイルを見せていただきました。ありがとうございました。
- ・ 望遠鏡をのぞくことができうれしかった。
- ・ 疲れてしまい参加しませんでした。

## 【2日目】

### 学生企画 才媛双六

	人数	%	※%
非常に有用だった	6	27.3	28.6
有用だった	14	63.6	66.7
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	1	4.5	4.8
参加していない	1	4.5	
無回答	-	-	
合計	22	100.0	100.0

#### <感想>

- ・ 楽しかった(2件)
- ・ 子ども達はとても楽しそうでした。保護者に同じプリントがいただけるともっとよくわかったです。
- ・ 中学生もいるので堅苦しい話もできないので企画としてはこんなものかなあと思いました。
- ・ クイズに子供が悩みながら相談して挑戦している姿がよかった。
- ・ 理科の豆知識を答えながら学習できて楽しそうでした。
- ・ チームワークが培われたようで娘たちには有用であったと思う
- ・ いろんな分野の問題があって楽しかった
- ・ 楽しめた。良く考えられたいい内容でした。
- ・ おもしろい問題がたくさんありました。
- ・ あつかったけど、班ごとにもえていて、楽しかった。
- ・ 質問のグレードの高さに感心です。こういった事が興味のきっかけになればうれしいです。

### 実験・実習の参加、見学

	人数	%	※%
非常に有用だった	12	54.5	54.5
有用だった	10	45.5	45.5
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	
無回答	-	-	
合計	22	100.0	100.0

#### <感想>

- ・ 楽しく参加できました。他も見なかったです。

- ・物理オリンピックの話が聞けて非常によかった。
- ・参加した実習のことしかわからないが、楽しみながらストラップがくれおみやげも出来てうれしかった。
- ・大変おもしろかったです。
- ・見学にしてたが、参加した方が良かった。とび入り参加した。
- ・DBなどPCを使った調べ方などくわしく教えていただいた。
- ・ここで得た知識をもとに帰ってからさらに学んでいきたい
- ・普段できない貴重な体験ができました。
- ・リケジョの気分が味わえて楽しかったです。
- ・学校の不登校の子のクラスに利用しようと思ひ参加。作るのがもう少し簡単だとありがたい。
- ・3D万華鏡に参加しました。なかなか上手く手順ができませんでしたが、物作り、楽しかったです。
- ・結び目理論を少

### サイエンスカフェⅠ ポスター展示・キャリア相談

	人数	%	※%
非常に有用だった	13	59.1	61.9
有用だった	8	36.4	38.1
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	1	4.5	-
合計	22	100.0	100.0

#### <感想>

- ・いろいろなポスターがみれ興味が深まりました。
- ・個人的には時間不足でしたがよかったです。
- ・どのブースも熱心に説明して下さりとても刺激になった。
- ・様々なブースがあり興味深くおもしろかった
- ・すべての展示でお話をきかせていただきました。特に工学系が興味深かったです。
- ・多様な展示があり、時間が足りないくらいです。
- ・様々な世界をのぞけて興味深かった
- ・理系の色んな活躍の分野を知ることができて良かったです。
- ・分野の存在を知るきっかけになったが、実際の仕事は見えないと思いました。
- ・大変楽しませていただきました。私も学生時代に見たかった。
- ・現役の大学生、先生の話がとても有意義でした。大学院の話もきけて良かったです。

### サイエンスカフェⅡ 科学・技術者、大学、新社会人との座談会

	人数	%	※%
非常に有用だった	14	63.6	73.7
有用だった	4	18.2	21.1
あまり有用ではなかった	1	4.5	5.3
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	2	9.1	-
無回答	1	4.5	-
合計	22	100.0	100.0

#### <感想>

- ・実際の学生さんの生の声がきけるともよかったです。
- ・理系女子大生の高校時代の考え方を聞くことができ、参考になった。
- ・TAの受験経験談が大変参考になった。
- ・本当に理系というだけではひとくりに出来ないさまざまな分野で活躍している方々の生の声を聞けるとも有意義でした。
- ・ポスター展示に熱中していて参加できませんでした。
- ・TAさんからお話が聞けて楽しかったです。参考になりました。
- ・大学生も大澤先生も人をひきつけるお話が上手で楽しかった(若い子の気持ち、考えがわかってよかった)
- ・講師のお話から理系の分野に興味を持つようにしたいと思いました。
- ・TAの方に直接(小さなことも)、おききできてよかったです。
- ・上の娘(大学2年)の進路についても相談でき、お話もとても参考になりました。

## 交流会

	人数	%	※%
非常に有用だった	5	22.7	26.3
有用だった	14	63.6	73.7
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	1	4.5	/
無回答	2	9.1	/
合計	22	100.0	100.0

### <感想>

- ・子ども達はとても楽しそうでした。
- ・立食パーティーでいろいろと話ができてよかった。楽しかった。
- ・楽しくお食事出来ましたがあつという間でした。
- ・みんなで食事をするということで思い出となりました。おいしかったです。
- ・楽しかったです。
- ・食事おいしかったです。
- ・楽しかったですが、できればまだ疲れてない1日目にいろんな方と知り合う意味でしていただければ
- ・食事をしながら、リラックスできて会話ははずみ楽しかったです。

## サイエンスカフェⅢ 日本学術会議、学会、大学、企業等の科学・技術者との座談会

	人数	%	※%
非常に有用だった	9	40.9	40.9
有用だった	12	54.5	54.5
あまり有用ではなかった	1	4.5	4.5
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	/
無回答	-	-	/
合計	22	100.0	100.0

### <感想>

- ・渡辺先生の話はとてもわかりやすくよかったです。
- ・時間不足、突っこみ不足
- ・保護者の方や、先生方の意見がきけてよかった。
- ・時間がなく、あまりグループ内で話し合いが出来ず残念でした。
- ・女性司会者の紹介に夫や子供のことが必ずある女性には大変なのかな？という男性教員の言葉が気になりました。
- ・時間不足で不完全燃焼
- ・時間がなかった。残念でした。もう少し討論ができれば…
- ・渡辺先生の日本人の意識のお話などとてもおもしろかった。みなさんと話す時間がほしかった。
- ・同じ立場の保護者同士、意見交換でき、また、先生の話もよかった。
- ・皆同じ悩みがあり、女子の理系進学を暖かく見守ってほしいと思います。

## 科学・技術者やTAへのキャリア・進学懇談会

	人数	%	※%
非常に有用だった	7	31.8	70.0
有用だった	1	4.5	10.0
あまり有用ではなかった	2	9.1	20.0
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	10	45.5	/
無回答	2	9.1	/
合計	22	100.0	100.0

### <感想>

- ・周りの熱気に圧倒されました。
- ・ポスター展示の時、聞けなかったことを相談出来てよかった。
- ・相談にのっていただきありがとうございました。
- ・つかれてしまいました。
- ・いつはじまったのか、声かけしてほしかった。
- ・子供にはよかったと思います。
- ・疲れていて、参加しませんでした。残念。

### 【3日目】

#### 応援します！サイエンティストへの道

	人数	%	※%
非常に有用だった	11	50.0	64.7
有用だった	6	27.3	35.3
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	5	22.7	-
合計	22	100.0	100.0

#### <感想>

- ・ 保護者の方の意見・お話が聞いてよかった(2件)
- ・ 保護者のみなさんとお話がとてもいい機会になりました。
- ・ 保護者のいろいろな考え方や悩みが共有できてとても刺激をうけました。
- ・ 保護者や教員のいろいろなお話がきけて勉強になりました。
- ・ 様々な意見を聞くことができて楽しく過ごすことができました。
- ・ 多方面からの考え方を聞くことができた。このような機会は今後ないかもしれないと思った。
- ・ たくさんの方と交流できてよかったです。
- ・ たくさん他の方たちのご意見等お聞きできてとても良かったです。
- ・ 保護者と言えど、教育関係者が半数も居た(当然かもしれないが)
- ・ 保護者の職業等最初にわかったら良かった気がします
- ・ 是非1日目に行ってほしかった。保護者どうしも深く知り合いたいです。

#### 学生企画 夏学振り返りと表彰式

	人数	%	※%
非常に有用だった	8	36.4	47.1
有用だった	7	31.8	41.2
あまり有用ではなかった	2	9.1	11.8
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	5	22.7	-
合計	22	100.0	100.0

#### <感想>

- ・ 子供達のふりかえりができた。全員にしょうがあり子供もうれしかったと思います。
- ・ 帰って子どもと話すのが楽しみです。
- ・ 楽しい企画ではありますが…
- ・ 工夫をこらして賞を考えてもらって楽しかった
- ・ TAさんの考えた1つ1つの賞の名前、すてきでした。全部メモさせていただきました。(授賞理由がメモできず残念)
- ・ 合宿中の楽しげな映像が見れて良かったです。

#### サイエンスアンバサダー任命式・閉校式

	人数	%	※%
非常に有用だった	9	40.9	60.0
有用だった	5	22.7	33.3
あまり有用ではなかった	1	4.5	6.7
有用ではなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	7	31.8	-
合計	22	100.0	100.0

#### <感想>

- ・ 全員にむけて大使としてのmissionをいただき、やる気になったと思います。
- ・ いろいろお世話いただき3日間たいへんありがとうございました。
- ・ サイエンスアンバサダーとして少しは自覚できたでしょうか。
- ・ 任命式という形をとる事によって意識を高める結果につながっていくと感じます。

## 5. 「女子中高生夏の学校2013」全体についてお聞きします。

(※は「無回答」を除いた割合)

	人数	%	※%
非常に満足した	18	81.8	81.8
満足した	4	18.2	18.2
少し物足りなかった	-	-	-
物足りなかった	-	-	-
無回答	-	-	-
合計	22	100.0	100.0

## 6. 理系への進路や科学・技術分野の職業選択について、参加して感じたことを自由にご記入下さい。

- ・ 理系に進んでおられる女性に対する意識が大きくなりました。すばらしい企画だと思いました。永く続けられることを希望しています。30年後くらいに娘の子が参加することができればすばらしいと思いました。
- ・ 参加させていただき感謝申し上げます。産業界で活躍されている女性の方の自信ある姿がよく伝わってきてめったに聞くことができない話を聞くことができました。子供の将来についての意識が変わってくれればと思います。  
大学の先生方から見た見方、考え方、現役の大学生の考え方等々知ることができよかったです。
- ・ 理系の方が、どんな仕事があるかがわかり、そのためにどんな学部に入ったらいいかも参考になった。また大学の学部が企業の研究と直接関係なくても就職できることがわかった。自分の興味あることを探求しつづけることが道がひらけると思いました。コミュニケーション能力もとても大切だということも痛感しました。TAの方々にいろいろと交流するようにしむけていただいて楽しい経験をさせていただいたようです。ありがとうございました。親も参加することでとてもいろいろな情報を得られ感謝しています。
- ・ すきのないプログラムで、親子ともども大変学ばせて頂きました。このモチベーションをいかに子供に維持させるか、考えながら帰路につきたいと思います。どうもありがとうございました。若生
- ・ 理系というだけではひとくりに出来ないほど幅広く、いろいろな学問領域があり、その先に職業があるのだということがわかりました。共通した問題意識をもった全国の子供達、親、先生方とお話することが出来、皆さんパワフルな方々で、意識も高く、私も大きな力をもらえました。講師の方々、TAの方々の生の体験談を多く聞く事が出来、具体的なイメージをえがくことが出来ました。このプログラムをきっかけに子供が自分の将来について真剣に考えるきっかけになってくれればと願います。STAFFの方々はじめ、このプログラムに関わった方々すべてに感謝いたします。
- ・ 女性教育会館の方々が企画して下さい、大変、ありがたかったです。すべてにおいて、勉強になりましたし、この夏学を通して、娘がどう感じ学んだか、話を聞くのも楽しみです。日本の技術を、将来の女性の理系女子を育てる事の有用さも感じました。ありがとうございました。乱文乱筆すみません…。
- ・ 参加させていただきありがとうございました。たくさんの人と出会い自分の知らない分野の知識を得ることができました。いろいろな職業、分野があることを知れて家に帰って娘と話をするのがとても楽しみです。娘にとっても、幅広い異年齢の理系女子と話すことができ、貴重な経験となりました。学生として過ごすとき、男女差を感じることはないと思いますが、社会に出て、男女差を感じることもあっても、自分の学んだ技術に自信を持って働いていけるように、娘を育てたいと強く思いました。企業で働かれる女性にたくさん出会えたことが私にとって一番の思い出となりました。ありがとうございました。
- ・ たくさんの輝いている女性研究者の方々のお話が、直に聞いたことが最大の収穫でした。
- ・ 「理系」と一括りには出来ない、様々な分野があるとわかり、参加の目的をはたすことが出来ました。保護者としては他の保護者の方たちと意見交換することが有意義でした。理系に進むことの不安が解消されて、良かったです。これから科学や技術の分野に女性が増えていき、さらに働きやすい社会になることを望みます。
- ・ 色々な分野の学問を知り、大変刺激を受けました。娘がどのような分野に興味を持ったのか早く聞きたいです。Netで情報が手に入る時代ですが、人と人のふれあいの中で学ぶことは貴重な機会だったと思います。プログラムが盛りだくさんで、学びも多かったですが、反面時間不足で不完全燃焼の部分もありました。運営は大変だろうと思いますが、あとほんの少しゆとりのある設定となればもっと良かったです。皆様、お疲れ様でした。

- ・ 保護者です。自身が文系でしたので知らない世界のに飛び込み、勉強させていただいたおかげで、娘の進路についても、不安を解消することができました。意識の高い保護者の方々と交流もでき、私にとっても活力をいただいた貴重なプログラムでした。家に帰り、娘に感想を聞くのが楽しみです。ありがとうございました。
- ・ 全体的に内容はよかったと思うが、盛りだくさんすぎて、じっくり確かめることができないものもあり、少々残念でした。子供は満足そうでしたので、是非来年も参加できればと思っています。あと、もう少し身近なロールモデルになる方も紹介してほしいと思います。
- ・ 女の子に理系への興味を持たせるのにはとてもいいイベントだと思いました。親としては、数十年前と少しずつ変わっているような…変わっていないような(理系女子の)現状を知り、残念にもなりました。このようなイベントが多く行われるようになっていくようですので、近いうちに目に見える変化があってほしいと思います。
- ・ 丁寧できめ細かなプログラム、大変刺激になりました。ただ、保護者と教員別のプログラム、もう少し交流をもちたかったです。どうもありがとうございました。
- ・ 今回は中3の娘と参加したのですが、高校進学にむけて目標をみつけてくれればと思います。ろうか等ですれ違った時の楽しそうな顔を見た時、参加できて良かったと思いました。まだまだ、本人の中で大学というものは”ぼんやりとした未来”という感じだとは思いますが何か好きなもの、やりたいことが意識できると良いなと思っています。中高一貫校で中だるみ気味な点多々あるので、ひきしめのきっかけになってくれたはずと思っています。また、上の娘の修士課程進学についてもお話が聞けて大変参考になりました。そして何よりも最初の集合の様子と閉校式での様子の子供達の姿に感動します。チャンスがあればまた本当に、学生の皆様、先生方、スタッフの皆様ありがとうございました。参加したいですね。

## 女性教育情報センターの運営

収集資料統計（平成26年3月末現在）

項目		和		洋		計	
		年度受入	累計	年度受入	累計	年度受入	累計
図書	図書	1,819 除籍△840	77,758	2,075 除籍△487	24,376	3,894 除籍△1,327	102,134
	地方行政資料	289	26,106	0	8	289	26,114
	計（冊数）	1,268	103,864	1,588	24,384	2,856	128,248
逐次 刊行物	雑誌	17 中止 2	3,237	1 中止 9	734 (62か国)	18	3,971
	新聞	0	74	0	1	0	75
その他	新聞切り抜き	22,225	364,814	-	-	22,225	364,814
	AV資料※	2種	197種	0	4種	2種	201種
	研修貸出用資料 ※	1	17	0	0	1	17

※毎年見直しを実施

利用状況統計：平成24年度・平成25年度（平成26年3月31日現在）

	平成24年度	平成25年度
資料等利用者数	7,379	8,051
貸出資料総数（冊）	9,550	11,109
図書資料	8,077	10,120
地方行政資料	21	5
雑誌類	661	457
新聞記事	84	77
研修貸出（冊数）	387	150
その他	320	300
レファレンスサービス件数	611	470
内 情報検索利用件数	200	129
文献複写サービス（件数）	850	829
情報研修プログラム（件数）	5	3
情報研修プログラム（人数）	80	28
相互貸借貸出件数	268	310
内 パッケージ貸出件数	65	75

展示実施状況一覧

	期間	テーマ・目的	冊数	会場
テーマ展示	4～6月	高齢期を生き生きと	100	本館1階 ロビー
	7～9月	企業における女性の活躍促進	89	
	10～12月	女性と音楽	77	
	H25年1～3月	なくそう子どもへの虐待	100	

## 女性情報ポータル整備充実

＜文献情報データベース データ件数＞ (平成 26 年 3 月末現在)

	25 年度増加件数	累計
図書	2,341	84,232
雑誌	41	4,006
地方行政資料	114	21,428
和雑誌記事	1,634	66,360
新聞記事インデックス	22,225	364,814
AV 資料	2	201
計	26,357	540,842

＜その他のデータベースのデータ件数＞ (平成 26 年 3 月末現在)

	25 年度増加件数	累計
女性関連施設 DB	1,879	30,957
女性情報レファレンス事例集	16	264
男女共同参画人材 DB	-12	766
女性と男性に関する統計 DB	※	551
国立大学における男女共同参画状況 DB*1	-	86
女性学・ジェンダー論関連科目 DB*2	-	28,168
計	1,883	60,792

※「女性と男性に関する統計 DB」(551 件(表))は、既存の表にデータを追加しているため、件数は変化しない。

\*1「国立大学における男女共同参画状況 DB」は 2010 年調査結果をデータベース化したもの。

\*2「女性学・ジェンダー論関連科目 DB」は 2000～2008 年調査結果をデータベース化したもの。

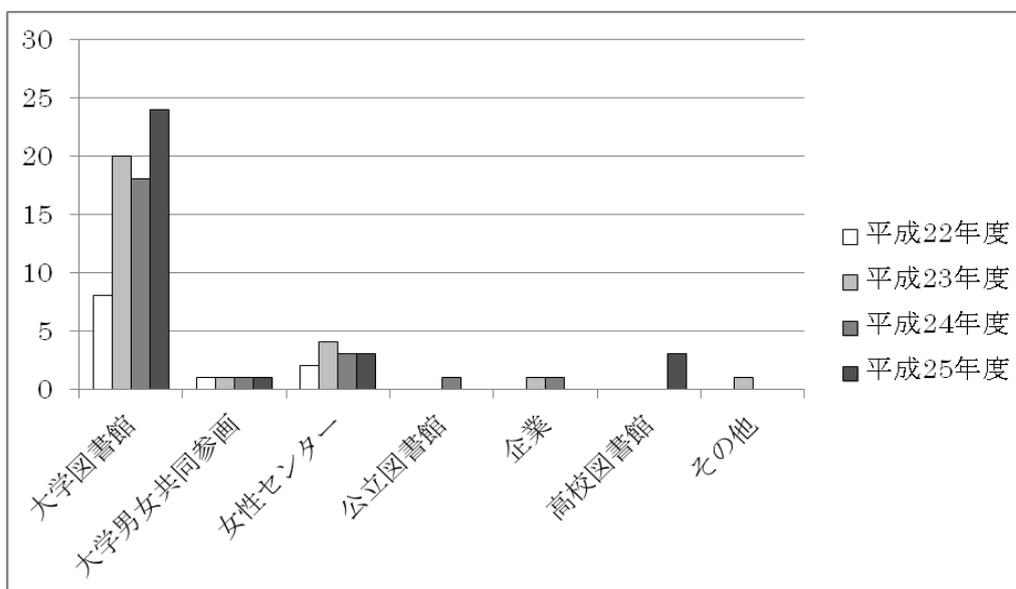
## 図書パッケージ貸出サービス（いずれも平成26年3月31日現在）

### 利用機関数・貸出件数・貸出冊数推移

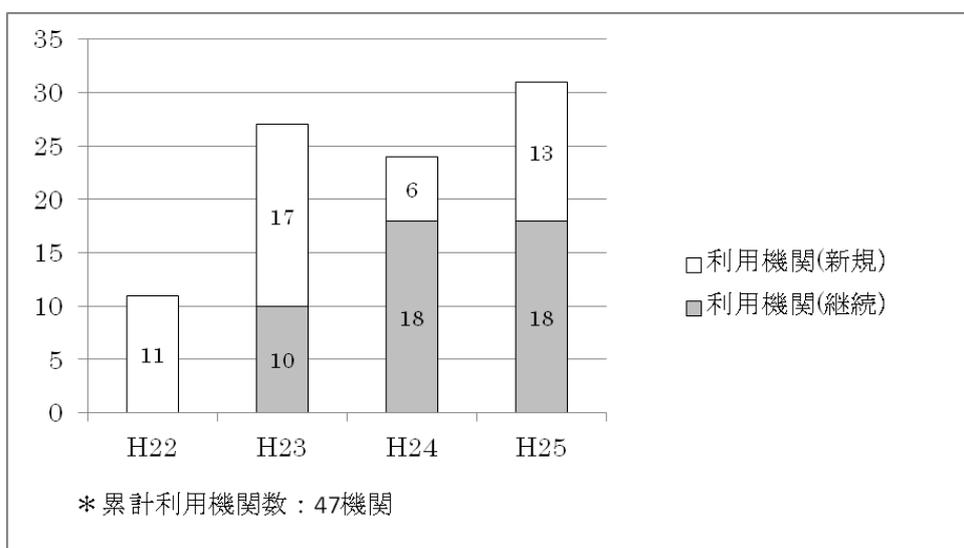
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	合計
利用機関数*	11	27	24	31	47*
貸出件数	20	55	64	72	210
貸出冊数	3,850	8,438	6,506	7,789	26,583

\*平成22年度～平成25年度の累計機関数

### 館種別利用機関数推移



### 新規利用機関数及び、継続利用機関数推移



## 女性アーカイブ機能の充実

### 1. 資料の収集・デジタル化

コレクション名	収集点数	目録データ入力件数
全国婦人新聞社取材写真コレクション	704	704
九重年支子資料	289	313
中村喜美子資料	86	108
合計	1,079点	1,125件
	(前年度合計)	【1,256】
		【1,747】

### 2. 展示室利用

平成25年度 企画展示 6,336件、所蔵展示 4,460件：合計 10,796件

【平成24年度 企画展示 4,134件、所蔵展示 6,524件：合計 10,658件】

平成23-25年度累積件数：21,934+10,796→ 32,730件

#### ●企画展示（平成25年8月1日～12月15日）

『音楽と歩む～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ』

さまざまな分野においてチャレンジした女性たちのあゆみから日本の男女共同参画社会を考えるシリーズの第6回。女性音楽家のパイオニア5氏（ルイーゼ・ファランク、ファニー・メンデルスゾーン=ヘンゼル、クララ・ウィーク=シューマン、幸田延、吉田隆子）、現代に活躍する5氏（小林緑、松尾葉子、大谷康子、徳山美奈子、福本ともみ）を取り上げ、キャリアや歴史的背景等を紹介。併せて次の連動企画を実施：

◇レクチャー/コンサート <会場：NWE C実技研修棟音楽室、無料>

第1回 平成25年 8月23日 20:15～21:30 ピアニスト中田真理子氏 コンサート&トーク

第2回 平成25年10月11日 18:30～20:30 国立音楽大学名誉教授小林緑氏 演奏視聴付レクチャー

第3回 平成25年11月22日 14:00～16:00 作曲家徳山美奈子氏 自作・編曲自演コンサート

#### ●所蔵展示（前期：平成25年4月1日～7月23日、後期：平成25年12月19日～平成26年3月31日）

前期展示資料：「全国婦人新聞社取材写真コレクション」（市川房枝関連資料）、「稲取婦人学級資料」、「塩ハマ子・春秋会コレクション」

後期展示資料：「和田典子資料」・「全国婦人新聞社取材写真コレクション」（家庭科の男女必修から20年）、「九重年支子資料」

### 3. 企画展示における他機関との連携状況

共催機関・団体：(株)教育史料出版会、女性と音楽研究フォーラム、東京藝術大学附属図書館、東京大学大学院情報学環・学際情報学府図書室、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

協力機関・団体：国立音楽大学附属図書館、サントリーホール、知られざる作品を広める会、明治学院大学図書館付属日本近代音楽館

◇特別展示 <会場：お茶の水女子大学附属図書館1階ラウンジ>

平成25年12月20日～平成26年3月31日『国立女性教育会館・お茶の水女子大学附属図書館連携企画 パネル&資料展示「音楽と歩む～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～」』

### 4. 「NWE C災害復興支援女性アーカイブ」の構築進行状況

新規公開機関：日本女性学習財団、静岡市女性会館、福島県男女共生センター、大田区立男女平等推進センター（エセナおおた）

公開準備中機関：フォトボイス・プロジェクト、埼玉県男女共同参画推進センター（WithYouさいたま）

連携開始データベース：国立国会図書館東日本震災アーカイブ（ひなぎく）

### 5. 展示用パネル・資料貸出先機関／イベント

・鳥取大学男女共同参画推進室／平成25年6月3日～28日『パネル展「チャレンジした女性たち」』

・ゆいぽーと（広島市男女共同参画推進センター）／平成25年6月15日～7月5日『平成25年度男女共同参画週間企画展示「国立女性教育会館所蔵 全国婦人新聞社取材写真コレクション展」』

・東京大学柏図書館／平成25年10月25日～26日『東京大学柏図書館&柏キャンパス研究所図書室合同展示』

平成25年度「女性情報アーキビスト養成研修（入門）＋（実技コース）」実施要項

女性の歴史を今に生かし、未来につないでいくためには、女性に関わる原資料（女性アーカイブ）の適切な保存と活用が必要である。独立行政法人国立女性教育会館では、女性アーカイブの保存・提供に携わる実務者を対象に、平成21・22年度に「女性情報アーキビスト入門講座」、それを引き継いで平成23年度から「女性情報アーキビスト養成研修（入門）」を実施している。平成24年度からは、（入門）において女性アーカイブの基礎的な保存技術や整理方法を紹介するとともに、実習を通してより実践的に学ぶ（実技コース）を新たに設けた。

1. 期 日 平成25年12月4日（水）～12月6日（金）  
 ①入 門：12月4日（水）～12月5日（木） 1泊2日（どちらか一日だけの参加も可）  
 ②実技コース：12月5日（木）～12月6日（金） 1泊2日
2. 主 催 独立行政法人 国立女性教育会館
3. 会 場 国立女性教育会館  
 〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地 （東武東上線武蔵嵐山駅下車徒歩 12 分）  
 URL: <http://www.nwec.jp/>
4. 募集人員 女性関連施設職員、図書館の実務担当者、女性史関係者など(機関・団体の図書館/室、資料室等に所属している方を優先する)  
 ①入 門：30名  
 ②実技コース：10名 ただし、次のa), b)いずれかの条件を満たすこと。  
 応募者多数の場合は、a)を優先する。  
 a) ①（入門）と同時受講が可能  
 b) 平成21/22年度「女性情報アーキビスト入門講座」または  
 平成23/24年度「女性情報アーキビスト養成研修(入門)」を受講済

5. 日程・内容

12月4日（水）

<入門 第1日>

12:30～13:00	受付	
13:00～13:10	開会 挨拶	国立女性教育会館理事長 内海房子
13:10～13:15	オリエンテーション	
13:15～14:15	女性アーカイブ概論 女性に関する原資料の基礎的な知識を学ぶ。	立教大学共生社会研究センター 一学術調査員 平野泉
14:25～15:40	アーカイブと著作権 著作権の基礎知識や、デジタルアーカイブ構築時に役立つポイントについて学ぶ。	東京六本木法律特許事務所 弁護士 早稲田祐美子
15:50～16:50	アーカイブの活用とネットワーク 様々な事例から、アーカイブの構築と連携に関して学ぶ。 ①国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」の紹介	①国立国会図書館電子情報部 長崎理絵 ②国立女性教育会館情報課長 大澤正男

	②NWEC 情報事業および女性アーカイブセンター 関連事例（NWEC 災害復興支援女性アーカイブほ か）の紹介	
17:00～17:45	女性教育情報センター、女性アーカイブセンター見学（希望者のみ）	
19:15～20:15	情報交換会（希望者のみ） 参加者相互の情報交換やネットワークづくりの場を提供する。	

## 12月5日（木）

### <入門 第2日>

9:00～10:00	アーカイブの実践報告 実践事例から、アーカイブ作成の必要性や制作の プロセスを学ぶ。 ①デジタルアーカイブによる企業デザイン ②女性アーカイブの構築	①株式会社レ・サンク 坂本洋代 ②呉YWCA総幹事 平城智恵子
10:10～11:10	資料の保存・管理方法（紙資料編） 紙資料の保存について、基礎的な知識と具体的 な方法を学ぶ。	有限会社紙資料修復工房代表 花谷敦子
11:20～12:20	資料の保存・管理方法（フィルム・写真編） フィルム・写真の保存について、基礎的な知識と 具体的な方法を学ぶ。	株式会社堀内カラー 肥田康
12:20～12:25	閉会	

### <実技コース 第1日>

13:45～14:00	受付	
14:00～14:15	開会 オリエンテーション	
14:15～17:00	アーカイブ展示の手法 資料展示のポイントや展示スペースデザインな どについて、ワークショップや事例紹介を通じ て学ぶ。	空間演出コンサルタント 尼川ゆら

## 12月6日（金）

### <実技コース 第2日>

9:00～12:00	紙資料の修復関連実習① 実技を通して紙資料の保存・修復方法の基礎を 学ぶ。	国立公文書館業務課修復係 阿久津智弘
12:00～13:00	昼休み	
13:00～15:00	紙資料の修復関連実習② 午前の実習の続きを行う。	国立公文書館業務課修復係 阿久津智弘
15:00～15:05	閉会	

## 6. 所要経費

- (1) 参加費 ①入門：無料、②実技コース：実習用材料費等実費（3,000円程度）予定
- (2) 宿泊費 1泊1,000円（前・後泊とも同額）
- (3) 食費 1食あたり800円程度（カフェテリア方式）
- (4) 情報交換会費 500円

## 7. 申込み手続

(1) 方法 下記①または②のいずれか：

- ①電子メール：ホームページ (<http://www.nwec.jp/jp/archive/archivist2013.html>) 掲載の  
申込書様式に入力のうえファイル添付にて送信（必要事項をメール本文に入力のう  
え送信しても可）
- ②FAX：ホームページ掲載の申込書様式またはチラシ裏面の申込書に記入の上送信  
（様式がなければ必要事項を記入した紙でも可）

(2) 期限 平成25年11月15日（金）  
定員を超えた場合は、期限前に締切る。

## 8. 申込み・問合わせ先

国立女性教育会館情報課 桂典子・赤嶺良子

TEL: 0493-62-6728 FAX: 0493-62-6721 電子メール: [infodiv@nwec.jp](mailto:infodiv@nwec.jp)

# 平成25年度女性情報アーキビスト養成研修(入門:2013.12.4-12.5)アンケート集計結果

## 1. 参加された日程について

12月4日のみ参加	1
4日、5日の2日間参加	22
5日のみ参加	3
無回答	—
計	26

## 2. 今回の研修を何でお知りになりましたか。(複数回答)

国立女性教育会館の広報(ホームページ、チラシなど)	14
所属している団体・グループからの呼びかけ	5
友人・知人からの誘い	1
その他	7
無回答	1
計	28

## 3. 研修の内容について

	女性アーカイブ概論	アーカイブと著作権	アーカイブの活用とネットワーク①	アーカイブの活用とネットワーク②	情報交換会	アーカイブの実践報告①	アーカイブの実践報告②	資料の保存・管理方法(紙資料編)	資料の保存・管理方法(フィルム・写真編)	情報センター、女性アーカイブセンター見学
非常に有用だった	19	14	9	8	12	16	13	22	20	15
概ね有用だった	3	6	12	12	2	8	10	2	2	4
あまり有用でなかった	—	1	1	1	—	—	—	—	—	—
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加していない	2	2	2	2	5	—	—	—	—	2
無回答	2	3	2	3	7	2	3	2	4	5
計	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26

### \* 講座の内容(%)

	女性アーカイブ概論	アーカイブと著作権	アーカイブの活用とネットワーク①	アーカイブの活用とネットワーク②	情報交換会	アーカイブの実践報告①	アーカイブの実践報告②	資料の保存・管理方法(紙資料編)	資料の保存・管理方法(フィルム・写真編)	情報センター、女性アーカイブセンター見学	無回答および「参加していない」を除いた平均値の割合)
非常に有用だった	73.1%	53.8%	34.6%	30.8%	46.2%	61.5%	50.0%	84.6%	76.9%	57.7%	69.8%
概ね有用だった	11.5%	23.1%	46.2%	46.2%	7.7%	30.8%	38.5%	7.7%	7.7%	15.4%	28.8%
あまり有用でなかった	—	3.8%	3.8%	3.8%	—	—	—	—	—	—	—
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加していない	7.7%	7.7%	7.7%	7.7%	19.2%	—	—	—	—	7.7%	—
無回答	7.7%	11.5%	7.7%	11.5%	26.9%	7.7%	11.5%	7.7%	15.4%	19.2%	—
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	—

## 4. 参加した全体の感想

	回答数	割合	無回答を除いた割合
非常に満足した	10	38.5%	43.5%
概ね満足した	12	46.2%	52.2%
少し物足りなかった	1	3.8%	—
物足りなかった	—	—	—
無回答	3	11.5%	—
計	26	100.0%	—

## 5. 望ましいと思われる日程(複数回答)

1泊2日が適当	18
もっと長い日程がよい	2
春の時期がよい	2
夏の時期がよい	1
秋の時期がよい	4
冬の時期がよい	2
その他	3
無回答	4
計	36

## 6. あなた自身について

### (1) 所属

女性・男女共同参画センター	3
図書館	8
文書館・文学館	—
女性史グループ	1
その他	12
無回答	2
計	26

### (2) 性別

女性	24
男性	2
無回答	—
計	26

### (3) 年齢

19歳以下	—
20歳代	2
30歳代	3
40歳代	7
50歳代	8
60歳代	2
70歳以上	2
無回答	2
計	26

### (4) 国立女性教育会館女性アーカイブセンターをご存知でしたか。

知っていて、利用したことがある	9
利用したことはないが知っていた	9
知らなかった	5
無回答	3
計	26

# 平成25年度女性情報アーキビスト養成研修(実技コース:2013.12.5-12.6)アンケート集計結果

## 1. 今回の研修を何でお知りになりましたか。(複数回答)

国立女性教育会館の広報(ホームページ、チラシなど)	5
所属している団体・グループからの呼びかけ	2
友人・知人からの誘い	1
その他	2
無回答	—
計	10

## 2. 研修の内容はいかがでしたか。

	アーカイブ展示の手法	紙資料修復の実践
非常に有用だった	8	10
概ね有用だった	2	—
あまり有用でなかった	—	—
有用でなかった	—	—
参加していない	—	—
無回答	—	—
計	10	10

(%表示)

	アーカイブ展示の手法	紙資料修復の実践	無回答および「参加していない」を除いた平均値の割合
非常に有用だった	80.0%	100.0%	90.0%
概ね有用だった	20.0%	—	10.0%
あまり有用でなかった	—	—	—
有用でなかった	—	—	—
参加していない	—	—	—
無回答	—	—	—
計	100.0%	100.0%	—

## 4. 参加した全体の感想

	回答数	%	無回答を除いた割合
非常に満足した	8	80.0%	88.9%
概ね満足した	1	10.0%	11.1%
少し物足りなかった	—	—	—
物足りなかった	—	—	—
無回答	1	10.0%	—
計	10	100.0%	—

## 5. 望ましいと思われる日程(複数回答)

1泊2日が適当	7
もっと長い日程がよい	1
春の時期がよい	2
夏の時期がよい	—
秋の時期がよい	1
冬の時期がよい	2
その他	1
無回答	1
計	15

## 6. あなた自身について

### (1) 所属

女性・男女共同参画センター	2
図書館	3
文書館・文学館	—
女性史グループ	—
その他	5
無回答	—
計	10

### (2) 性別

女性	9
男性	1
計	10

### (3) 年齢

19歳以下	—
20歳代	1
30歳代	1
40歳代	3
50歳代	3
60歳代	2
70歳以上	—
無回答	—
計	10

### (4) 国立女性教育会館女性アーカイブセンターをご存知でしたか。

知っていて、利用したことがある	3
利用したことはないが知っていた	5
知らなかった	2
無回答	—
計	10

○意見・感想等（自由記述より抜粋）

【入門】

女性アーカイブ概論	組織だったアーカイブの概論を初めて聴講できたので役に立ちました。アーカイブをマラソンの給水所にたとえたお話、とても納得できました。
アーカイブと著作権	著作権の基礎をおさらいできました。電子書籍などについてのお話をもっとお聞きしたかったです。
アーカイブの活用とネットワーク	3.11 震災アーカイブをNDLを中心に幅広いネットワークで取り組まれていることが素晴らしい。各自治体でも取り組むことを重要と感じた。
アーカイブの実践報告	企業、団体という異なる立場からの講義でしたが、熱い思いが伝わる内容で力をいただいたように思います。
資料の保存・管理方法 （紙資料編）	資料の劣化の具体的事例の紹介と定期的点検、対処で修補の費用軽減につながり、重要な作業であるとわかりやすく理解できた。
資料の保存・管理方法 （フィルム・写真編）	活用について、データベース化できると管理しやすいと思いました。特に参考になりました。
全体の感想	いろいろな立場の方が集い、さまざまな講師のかたの話をうかがえて大変参考になった。
国立女性教育会館女性 アーカイブセンターに 期待すること	図書館職員として、女性アーカイブセンターがあることを知らずにいました。収集、所蔵しているコンテンツが豊富であり、地方でも利用したい資料がたくさんあります。女性担当部署ではアーカイブセンターの存在は既知のことかもしれませんが、もっと図書館界向けにPRするとよいと思います。地方の図書館からの利用も増えると思います。

【実技コース】

アーカイブ展示の 手法	心理的、視覚的に訴える展示というものが体感できました。あたたかみのある展示をめざします。
	女性情報展示の実例にそくした解説がとても参考になりました。展示の基礎理論を学びました。
紙資料修復の実践	資料修復の方法を実践的に学び、大変有意義だったと思います。
	実習（繕い、裏打ち）がとても勉強になりました。道具や材料についてもとても参考になりました。学べる機会が少ないので、本当に良かったです。

## 平成25年度アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー

1. 趣 旨 「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」は、会館の第三期中期目標・中期計画において、開発途上国において男女共同参画の政策策定・政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者、NGOのリーダーを対象に、女性の能力開発を目的としている集団研修である。  
平成25年度のリーダーセミナーでは、男性にとっての男女共同参画をテーマとして設定し研修を行う。
2. 主 題 男性にとっての男女共同参画
3. 開催期日 平成25年9月26日(木)～10月5日(土)
4. 主 催 独立行政法人国立女性教育会館
5. 参加者数 9名 (女性9名)
6. 参加国 カンボジア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム
7. 研修日程 別紙参照

「平成25年度 アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」日程

テーマ: 男性にとっての男女共同参画

平成25年9月26日(木)～10月5日(土) (受け入れ期間 9月25日～10月6日)

2013/9/27現在

月日	曜日	時間	研修項目	研修内容	講師 (敬称略)	開催地	宿泊
9月25日	水	終日	日本到着				都内
26日	木	10:30-10:45	開会挨拶		内海 房子 NWECC理事長	国立女性教育会館 埼玉県比企郡嵐山町 菅谷728番地	NWECC
		11:00-12:00	プログラムオリエンテーション & アイスブレイク	研修のねらい、目的、スケジュール説明	越智 方美 NWECC研究国際室専門職員		
		14:00-15:00	会館概要説明	国立女性教育会館について	中野 洋恵 NWECC研究国際室室長・主任研究員 渡辺 美穂 NWECC研究国際室 研究員		
		15:15-16:30	視察 女性教育情報センターと女性アーカイブセンター	「女性教育情報センター」と「女性アーカイブセンター」の見学	赤嶺 良子 NWECC情報課専門職員		
27日	金	9:00-17:00	カントリーレポートの発表	研修生による事例の発表と討議	ファシリテーター 越智 方美 助言者: 大崎 麻子 ジェンダー・アクション・プラットフォーム アドボカシー担当 ディスカッサント: 渡辺美穂・飯島絵理	国立女性教育会館	NWECC
28日	土	11:00-13:00	視察と意見交換 認証NPO法人フローレンス	病児保育・働き方革命事業・被災地支援	井上真梨子 認証NPO法人フローレンス 働き方革命コンサルタント	千代田区飯田橋4丁目8番地4号 第二プレシエザビル502 (受付は6階) TEL: 03-5275-1161	都内
29日	日		自由研究				都内
30日	月	9:30-11:00	講義 「日本の男女共同参画社会実現に向けた取組」	日本の男女共同参画施策に関する講義	澤井 景子 内閣府男女共同参画局 男女共同参画推進官	内閣府男女共同参画局 千代田区永田町1-6-1	京都
		11:30-12:00	表敬訪問 文部科学省 生涯学習政策局	表敬訪問	清木 孝悦 文部科学省 生涯学習政策局長	文部科学省 生涯学習政策局 千代田区霞が関3-2-2	
10月1日	火	10:00-12:00	講義およびディスカッション 「高学歴男子学生の性意識: 京都大学プロジェクトチームの実践からの示唆」	人身取引問題をきっかけとして、大学生の性意識を考えるプログラム	伊藤 公雄 京都大学大学院教授 木下 衆・竹内 通子・織田 暁子	京都大学楽友会館 1F第一会議室 京都市左京区吉田二本松町 TEL: 075-753-7603	京都
		13:00-13:30	視察および講義 京都大学女性研究者支援センター	京都大学による女性研究者支援の取組を見学する	犬塚 典子 京都大学女性研究者支援センター 特任教授	京都大学女性研究者支援センター 京都市左京区吉田橋町 TEL: 075-753-2437	
		14:30-17:00	視察および講義 「京都市男女共同参画センターウイングス京都の取組」	地域の男女共同参画推進拠点としての女性センターの機能と役割、ワークライフバランス関連事業と男性相談事業についての紹介	福田 真子 ウイングス京都 総務課長 今井まゆり ウイングス京都 事業企画課長	京都市男女共同参画センターウイングス京都 京都市中京区東洞院通六角下 御射山町262 TEL: 075-212-7490	
2日	水	10:00-11:00	日本文化の紹介1 京都御所の見学		内閣府男女共同参画局男女共同参画推進官	京都御所 京都市上京区京都御苑3 TEL: 075-211-1215	NWECC
		11:30-12:10	日本文化の紹介2 金閣寺の見学			金閣寺 京都市北区金閣寺町1 TEL: 075-461-0013	
3日	木	10:00-12:00	実践事例報告 「災害復興期における男性の地域社会への参画促進～『大橋メンズクラブ』(石巻市)の取組み」	災害復興過程において、男性の地域社会への参画を促進する事例をもとにディスカッションをおこなう	石川 和江 石巻市役所健康部健康推進課 栄養グループ 管理栄養士	国立女性教育会館	NWECC
		13:00-16:00	調査報告 「男女共同参画と男性」	会館調査報告	渡辺 美穂 NWECC研究国際室研究員 飯島 絵理 NWECC研究国際室客員研究員		
		16:30-17:00	研修の振り返り		研修生・会館職員		
4日	金	9:00-11:30	NWECCボランティアとの交流		NWECCボランティア	国立女性教育会館	都内
		13:00-13:30	評価シートの記入	研修内容についての評価	研修生・会館職員		
		13:30-14:00	閉講式	修了書の授与	研修生・会館職員		
5日	土	13:00-17:30	「NWECC国際シンポジウム」			JICA 研究所 国際協力機構(JICA)市ヶ谷ビル 新宿区市谷本村町10-5	都内
6日	日		帰国				

## 「平成 25 年度アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・ リーダーセミナー」アンケート集計結果

### 1. 研修の参加動機

Why did you apply for this seminar? (Please circle as many as you like.)

1	6人	男女共同参画の推進に資する知識と技能の向上のため Enhance your knowledge and practical skills for promoting gender equality
2	6人	男女共同参画の推進に従事する女性リーダーとしての能力向上のため Capacity development as a women's leader for promoting gender equality
3	6人	研修で得た知識・能力を時刻で活用するため Enhance your ability to implement what you have learned from this seminar in your country
4	6人	会館職員や研修参加者とのネットワーク構築のため Build a collaborative network with NWEC and the seminar participants
5	1人	その他 Others (please specify: _____)

※記入なし=2人、5番だけ記入=1人

### 2. 研修プログラムを通じて、男女共同参画に関する知見を深め、業務の遂行に役立つ知識・技能を獲得することができましたか？

To what extent did the content of this program in general deepen your views on gender equality and help you execute your work duties? Please provide details.

← Satisfied		Unsatisfied →		
4	3.5	3	2	1
7人	1人	1人	0人	0人
満足度 =	95.8	%		

### 3. 研修の満足度

How satisfied were you with the program in general? Please provide details.

← Satisfied		Unsatisfied →		
4	3.5	3	2	1
8人	1人	0	0	0
満足度 =	98.6	%		

### 4. 研修の有用度

Will you be able to apply information and knowledge gained through this program at work upon returning to your country? Please provide details.

← Very useful		Not useful →		
4	3	2	1	
8人	0	0	0	
有用度 =	100	%		

5. 特に有用であった内容

What part of the training program was most beneficial to you?

- カントリーレポートの報告を通じて、各国の政策や取組みについて意見交換ができたこと。
- スタディーツアー  
京都大学プロジェクトチームによる講義  
京都市女性センターウィングス京都での講義と視察。
- NPO 法人フローレンスでの講義
- 災害復興過程での男女共同参画の意義を理解できた（石巻市）

6. 追加した方がよい内容

If any topics were to be added to the program, what should they be?

- ジェンダー平等の評価手法
- ジェンダー主流化の障害について
- 日本の家族における男性の役割
- NWEC 職員との交流の機会

7. 研修内容等に関する質問

What did you think of the textbooks, training equipment and lecture facilities used for the program? Please provide details.

	← Good		Poor →	
テキスト Textbooks	4	3	2	1
	7人	2人	0	0
	満足度 94.4 %			
研修機材 Training equipment	4	3	2	1
	9人	0	0	0
	満足度 100 %			
研修環境 Lecture facilities	4	3	2	1
	9人	0	0	0
	満足度 100 %			
宿泊 Accommodation	4	3	2	1
	8人	1人	0	0
	満足度 97.2 %			
担当職員 Staff	4	3	2	1
	8人	1人	0	0
	満足度 97.2 %			

④ Specially Ms. Helen, Ms. Eri and Ms. Megumi.

8. 研修の管理運営方法について

What did you think of the general administration and management of the training program? Please provide details.

← Very good		Very poor →	
4	3	2	1
8人	1人	0	0
満足度 97.2 %			

## 平成25年度 地域別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」要項

1. 趣 旨 国際協力機構（JICA）がアジア太平洋地域において実施する「人身取引被害者保護・自立支援促進プロジェクト」の一環として、プロジェクトのカウンターパートおよび近隣地域の人身取引対策に携わる関係者を対象としたワークショップ型研修を実施する3年計画の第2年次。

人身取引撲滅と被害者保護は一国のみで対応できる課題ではなく、国境を越えた広域的課題として対応するためにも、アジア地域におけるネットワーク形成が重要である。参加者が日本を含め、互いの国の人身取引対策に関する取り組みについて相互理解を深め、特に予防、被害者の保護と自立支援に携わる関係機関の役割や協力体制等について把握し、参加者間で人身取引対策に取り組む機関の機能強化や連携、国を越えたネットワークの強化に資する方策を検討することを目的として行われる。
2. 主 催 独立行政法人国際協力機構(JICA)
3. 実施機関 独立行政法人国立女性教育会館
4. 協 力 内閣官房、外務省、厚生労働省、警察庁、法務省、東京都、大阪府、兵庫県、茨城県、国際移住機関(IOM)、人身売買禁止ネットワーク(JNATIP)、移住労働者と連帯するネットワーク(SMJ)、一般社団法人社会包摂センターほか
5. 期 日 平成25年10月21日(月)～11月2日(土)  
全体研修(Part 1):10月21日～31日 研修員全員が同一プログラムに参加  
国別研修(Part 2):11月1日～2日 ミャンマー、ベトナムの研修員に対し、  
国別プログラムの研修をそれぞれ実施する  
\*ラオス、カンボジア、フィリピン、タイの研修員は、全体研修終了後に帰国
6. 対 象 15名(女性8名、男性7名)  
タイ2名、ミャンマー5名、ベトナム3名、ラオス2名、カンボジア2名、フィリピン1名の人身取引対策の予防と保護の分野に携わっている者(中央・地方政府機関職員)。(別添名簿参照)
7. 研修項目
  - (1) 日本政府の人身取引対策および日本の人身取引被害者保護支援策について理解する。
  - (2) 日本・参加国における人身取引予防・被害者保護・帰還・社会復帰の一連のプロセスおよび関連機関の関係を把握し、グッドプラクティスや課題について検討する。
  - (3) アジア地域における人身取引対策のネットワーク強化に向けて各国の状況やアプローチが理解され、改善策やネットワーク連携・強化に資する方策を検討し、成果レポートとしてまとめる。
8. 使用言語 全体研修：英語， 国別研修：ミャンマー語、ベトナム語
9. 研修日程 別添参照

平成25年度地域別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」研修日程

月日	曜日	時間	研修項目	研修内容	講師・参加者	研修場所	宿泊先
10月20日	日			来日 移動 成田国際空港 → 幡ヶ谷(TIC)			TIC
21日	月	9:30-11:45	ブリーフィング	JICAブリーフィング	ブリーフィング担当(JICA)	TIC	LC幡ヶ谷
		13:30-14:00	オリエンテーション	プログラムオリエンテーション	研修員自己紹介: JICA プログラム説明: 国立女性教育会館		
		14:00-14:30	講義・意見交換	人身取引問題とアジア: JICAの取組(導入)	JICA専門家		
		14:50-16:45	講義・意見交換	日本の人身取引問題とアジア(導入)	国立女性教育会館研究員		
22日	火		移動(バス)			内閣府	LC幡ヶ谷
		9:30-11:00	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策: 内閣官房	内閣官房参事官補佐		
		9:30-11:00	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策: 内閣官房	内閣官房参事官補佐		
		12:55-14:45	講義・意見交換	日本の人身取引対策: 警察庁	警察庁生活安全局保安課警視庁警視		
		15:20-16:45	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策: 被害者保護	厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課母子家庭等自立支援室女性保護係長		
23日	水	9:45-12:20	講義・見学	日本の人身取引対策(自治体): 女性相談所の被害者保護	東京都女性相談センター所長	東京都女性相談センター	NWECC
		14:15-16:45	見学・講義	日本の人身取引対策: 法務省	東京入国管理局渉外調整官	東京入国管理局	
			移動(バス) TIC → NWECC				
24日	木	10:00-10:25	挨拶・職員紹介	理事長挨拶	国立女性教育会館職員	NWECC	NWECC
		10:30-11:15	講義・意見交換	国立女性教育会館の役割と機能	国立女性教育会館専門官		
		11:30-12:00	講義・意見交換	女性に対する暴力への国立女性教育会館の取組	国立女性教育会館専門職員		
		13:05-17:45	グループワーク	グループディスカッション: 各国の取組と国際連携	IOM専門家、在住外国人支援者(女性のサラー理事、タイ人ネットワークTNJ、フィリピン人ソーシャルワーカー)、NWECC研究員		
25日	金	9:30-11:35	講義	日本の人身取引問題(民間): 労働分野の課題	移住労働者と連帯する全国ネットワーク事務局長、全統一労働組合・書記長	NWECC	NWECC
		11:45-13:45	見学・講義・意見交換	女性の就労支援とフェアトレード	ウイメンズショップパッチワーク代表		
		14:30-15:40	見学(バス移動)	日本の社会福祉施設	社会福祉法人埼玉県社会福祉事業団 嵐山郷		
26日	土		<b>タイ、フィリピン、ラオス、カンボジア、ミャンマー計12名</b>			埼玉	TIC
			移動(バス) NWECC → ふじみ野				
		9:30-12:05	講義・視察・意見交換	民間の取組: 国際交流センター	特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター理事長		
			移動(バス) ふじみ野 → TIC				
	<b>Bグループ: 台風のためキャンセル</b>						
27日	日			自由研究			TIC
28日	月		移動(バス) TIC → 昭島			東京都	大阪
		10:30-12:35	講義・見学	日本の人身取引対策(民間): 長期的保護支援の取組	社会福祉法人婦人保護施設所長		
		10:30-12:35	講義・見学	日本の人身取引対策(民間): 長期的保護支援の取組	社会福祉法人婦人保護施設元所長		
			移動 昭島(バス) → 品川(新幹線) → 大阪				
29日	火	9:30-12:30	講義・意見交換	日本の人身取引問題(民間): 法的支援	日本弁護士連合会・弁護士	大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドンセンター)	京都
		9:30-12:30	講義・意見交換	日本の人身取引問題(民間): 医療支援	NPO法人CHARM代表		
		11:30-12:30	ディスカッション		国立女性教育会館研究員		
		15:00-16:45	見学・意見交換	都道府県警察の人身取引対策: 大阪府警察本部	大阪府警察		
			移動(バス) 大阪 → 京都				
30日	水		移動(バス)			京都YWCA	LC幡ヶ谷
		9:00-10:05	講義・意見交換	日本の人身取引(民間): 民間支援	財団法人京都YWCA職員		
		10:15-12:10	講義・意見交換	日本の人身取引対策(自治体): 被害者保護の事例	兵庫県女性家庭センター相談・支援課担当課長補佐		
		13:40-18:15	見学	京都見学			
		19:00	移動 京都(新幹線) → 品川(バス) → TIC				
31日	木	11:00-11:45	評価	評価会	JICA、研修参加者、国立女性教育会館研究員	TIC	LC幡ヶ谷
		13:00-16:20	発表・意見交換	各国の取組の発表と意見交換会	外務省、警察庁、法務省、厚生労働省、東京入管、タイ大使館、IOM所長、JNATIP共同代表、タイ人ネットワークTNJ代表、外国人ソーシャルワーカー、JICA、NWECC		
		16:40-17:10	閉講式	JICA挨拶、NWECC挨拶、研修員代表挨拶、修了証書授与	NWECC、JICA		
1日	金			帰国(タイ、ラオス、カンボジア、フィリピン)			

集団研修

平成25年度地域別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」研修日程

	月日	曜日	時間	研修項目	研修内容	講師・参加者	研修場所	宿泊先	
国別研修 ベトナム	1日	金		移動(バス) TIC → 木更津					
			9:30-11:30	講義・視察・意見交換	民間の取組:国際交流センター	ふじみ野国際交流センター理事長	埼玉		
					移動(バス) → ふじみ野(電車) → 本郷三丁目				LC幡ヶ谷
			14:30-17:20	講義・視察・意見交換	民間の取組:全国的電話相談支援	一般社団法人社会的包摂センター事務局長	東京		
	14:30-17:20	講義・視察・意見交換	民間の取組:全国的電話相談支援	一般社団法人社会的包摂センター全国コーディネータ					
	2日	土	10:15-12:15	講義・視察・意見交換	民間の取組:特定非営利活動法人の電話相談	女性の家サーラー事務局長	神奈川		
			10:15-12:15	講義・視察・意見交換	民間の取組:特定非営利活動法人の電話相談	女性の家サーラー理事			
			14:00-15:30	講義・視察・意見交換	民間の取組:民間支援団体の電話相談	特定非営利活動法人ウエラワリー理事	東京		
14:00-15:30			講義・視察・意見交換	民間の取組:民間支援団体の電話相談	特定非営利活動法人ウエラワリー代表			LC幡ヶ谷	
国別研修 ミャンマー	1日	金		移動(バス) TIC → 木更津					
			9:30-11:00	講義・視察・意見交換	民間の取組:社会福祉法人による地域の外国人支援	社会福祉法人一粒会理事長・統括施設長	千葉		
			11:00-12:45	講義・視察・意見交換	民間の取組:社会福祉法人による地域の外国人支援	社会福祉法人野の花の家所長			
			13:30-14:00	講義・視察・意見交換	民間の取組:社会福祉法人による地域の外国人支援	社会福祉法人一粒会FAHこずもすセンター・主任母子指導員			
			14:00-16:00	講義・視察・意見交換	民間の取組:社会福祉法人による地域の外国人支援	社会福祉法人一粒会ファミリーセンターヴィオラソーシャルワーカー			
			移動(バス) 木更津 → TIC						
	2日	土		移動(徒歩) TIC → 神奈川					
			10:00-12:15	講義・意見交換	民間の取組:特定非営利活動法人の当事者支援	女性の家サーラー理事・シェルター長	神奈川		
			10:00-12:15	講義・意見交換	民間の取組:特定非営利活動法人の当事者支援	特定非営利活動法人ウエラワリー理事			
			14:30-16:30	講義・視察・意見交換	民間の取組:全国的電話相談支援	一般社団法人社会的包摂センター外国語相談	東京		
14:30-16:30			講義・視察・意見交換	民間の取組:全国的電話相談支援	一般社団法人社会的包摂センター事務局長			LC幡ヶ谷	
3日	日		帰国	帰国(ミャンマー、ベトナム)					

JICA H25人身取引研修 有用度

全体(地域別研修)

	とても有用	有用			
	4	3	2	1	無回答
	7	6	1		1
	50%	43%	7%		

有用度93%(とても有用50%、有用43%)

国別研修 講義の有用性

	5	4	3	2	1
	とても有用	有用			
ベトナム		3			
		100%			

有用度100%(有用100%)

国別研修 講義の有用性

ミャンマー	2	3			
	40%	60%			

有用度100%(とても有用40%、有用60%)

## 平成25年度 NVEC 国際シンポジウム開催要項

### 1. 主 題

男性にとっての男女共同参画

### 2. 主 催

独立行政法人 国立女性教育会館

### 3. 後 援

独立行政法人 国際協力機構

### 4. 会 場

独立行政法人 国際協力機構 JICA 研究所  
東京都新宿区市谷本村町 10-5

### 5. 期 日

平成25年10月5日（土） 13:00－17:30

### 6. 使用言語

日本語、英語（同時通訳付き）

### 7. 募集人員

男女共同参画、女性教育、家庭教育等の行政担当者、女性関連施設職員、駐日大使館職員、女性団体等のリーダー、研究者、国際交流・開発援助に関わる者、企業関係者等 100名程度

## 8. プログラム

開会 13:00-13:15 主催者挨拶・イントロダクション

### 第一部 基調講演 13:15-15:10

- ・カサンドラ・ケリー（ポットインガー株式会社代表取締役社長）  
“組織を変える オーストラリアの取組み”
- ・伊藤 公雄（京都大学大学院文学研究科・教授）  
“日本における男性問題－男女共同参画の視点から－”

### 休憩・ポスター展示 15:10-15:25

「アジア太平洋地域における男性の参画促進のための政策と取組み」  
「平成25年度アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」研修生が作成したポスターの展示～カンボジア、タイ、フィリピン、ベトナム、モンゴル～

### 第二部 パネルディスカッション 15:25-17:25

「ジェンダープロジェクトへの男性の参画を促進するためのベストプラクティス」

- ・カサンドラ・ケリー（ポットインガー株式会社代表取締役社長）
- ・伊藤 公雄（京都大学大学院文学研究科・教授）
- ・ラヴィ K. ベルマ（国際女性問題研究センターアジアオフィス地域統括ディレクター）
- ・佐崎 淳子（国連人口基金東京事務所長）
- ・松下 光恵（静岡市女性会館 「アイセル21」 館長）

閉会 17:25-17:30

## 9. 申込方法・申込期限

### ①申込方法

#### ア. 電子メール

下記の必要事項を入力の上、[rese2@nwec.jp](mailto:rese2@nwec.jp)までお申し込みください。

（メールのタイトルを「平成25年度国際シンポジウム参加希望」としてください。）

#### イ. ファックス ホームページから申込用紙をダウンロードの上、

- 1) お名前・フリガナ、2) 郵便番号・住所、3) 電話番号、4) ファックス番号、
- 5) メールアドレス、6) 所属先を記入し、下記までお送りください。

独立行政法人国立女性教育会館研究国際室 国際シンポジウム担当

FAX 番号 0493-62-9034

### ②申込期限 平成24年10月3日（木）必着

- ③決定通知 参加される方が決定次第、メールもしくはファックスにて参加証をお送りします。  
当日ご持参ください。

10. 所要経費 参加費： 無料

平成25年度「NWECC国際シンポジウム」アンケート 回答数  
 Questionnaire on "FY2013 NWECC International Symposium" 74

本シンポジウムにご参加いただき、誠にありがとうございました。  
 今後の事業の充実を図るため、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。

I thank you for your participation to the International Symposium. Please feedback your comments and suggestions

1. このシンポジウムに参加された動機は何ですか。最もあてはまるもの2つに○をつけてください。

What do you expect from the symposium? Please choose up to 2 reasons from below which best matches your interest.

- ①男性にとっての男女共同参画を推進するための取組や課題について知るため **50票 68%**  
 To learn the initiatives and issues to promote gender equality for men.
- ②このテーマに関連する研究・仕事・活動に関わっているため **34票 46%**  
 Am involved in research and/or activities related to the symposium topic, or work in the related field.
- ③各国の男女平等政策に関する取組について知るため **28票 38%**  
 To acquire information and knowledge about gender equality policies in the Asia Pacific region.
- ④その他 Other **5票 7%**  
 Others (Please specify. )

- ・男性の方が働きにくさを感じていると思ったので、主として男性の特に労働者(会社員など渦中にいる方)の意見を聞きたか
- ・労働組合の上部団体よりの案内。
- ・男女平等参画は、男性の立場での問題も多いのではないか。男女ではなく人と人の問題でもあると思えてきたので参加しま
- ・報告者からの案内

2. このシンポジウムの内容はご自身の研究や活動に有用でしょうか。  
 次の各項目について最も近いものに○をつけ、その理由もお書き下さい。

How do you evaluate the symposium in relation to your research, work or activities? Please check the below .

	とても有用 Very useful	少し有用 Useful to some extent	あまり 有用でない Not so useful	全く 有用でない Useless	参加 しなかった Did not attend	その理由 Remarks
①第I部 基調講演 Part I Keynote Speech	56人 76%	15人 20%	0人 0%	0人 0%	3人 4%	下に記載 ↓
とても有用:	オーストラリアの先駆的な取組みを聞いて良かった。 伊藤先生の話がまとまっていてわかりやすい。 内容が良かった。 行動力、実行力、発言力に感銘を受けた。 女性の活用なしに今後の日本の社会、経済はなりたないことを再認識した！ 国の違いによるアプローチや考えの違いに発見があった。 I learned about initiatives to engage men and boys in the gender projects.					
少し有用:	日本:知っている話なので					
参加しなかった:	所用。楽しみにしていただけに非常に残念。					

	とても有用 Very useful	少し有用 Useful to some extent	あまり 有用でない Not so useful	全く 有用でない Useless	参加 しなかった Did not attend	その理由 Remarks
②ポスター展示 Poster Exhibition	33人 45%	23人 33%	10人 14%	0人 0%	4人 6%	下に記載 ↓
<p>とても有用: 外国の取組みがわかった。 所属先での展示の参考にしたい。</p> <p>少し有用: ゆっくり見る時間がなかった。</p> <p>あまり有用ではない: ボリュームが小さい。JICAの展示と混同してしまった。</p> <p>参加しなかった: トイレのため</p>						

	とても有用 Very useful	少し有用 Useful to some extent	あまり 有用でない Not so useful	全く 有用でない Useless	参加 しなかった Did not attend	その理由 Remarks
③第Ⅱ部 パネルディスカッション Part II Panel Discussion	46人 66%	18人 26%	4人 6%	0人 0%	2人 3%	
<p>とても有用: 各先生の報告が興味深かったから 具体的取組みを通してのパネルであり、役に立った。 質問に答えてくれたこと。 現代という時代をとらえていた。よく理解出来た。 静岡の話がおもしろかった。見えない人を見つけるのがセンターの役割かと思った。</p> <p>あまり有用ではない: 今の日本、また私が考えている視点とは少しずれた内容だった。</p> <p>参加しなかった: 途中まで参加</p>						

2-a 今後の研究・仕事・活動に活用できそうな点を具体的にお書きください。

Please specify how you could reflect the outcomes of the symposium to your research, work or activities in fu

- ・ 変革の中心に男性を巻きこむことの必要性
- ・ 男性にとっての男女共同参画と女性の活躍促進は表と裏の関係であることを再認識した。男性と女性の両方の取組みが必要であり、その目標は人が人らしく豊かな人生を送ること。
- ・ 静岡市の活動、埼玉でもニーズがあると思います。
- ・ 女性のための男女共同参画だけでなく、男性を対象とした事業も必要と思う。講座や啓発活動につなげていきたい。
- ・ 男女共同参画で日本が遅れた理由が分かり、その遅れを取り戻す努力をしていきたい。
- ・ 男性のおかれているジェンダーによる生きにくさを伊藤先生のデータでよく理解できた。今後地域の男性対象講座で取り入れたい。
- ・ 世界のジェンダー解消への取組みを怠って、日本だけが難しいと思っていたので地域の仲間に情報提供したい、

2-b このプログラムをよりよくするには、どのような点を改善すればよいでしょうか。

Please give us your suggestions to improve the program.

- ・ 各国若い世代の状況を分析したものを知りたいと思います。
- ・ ポスターセッションで、研修生にいろいろ質問してみてくださいと促すのはどうでしょうか？ 話しかけてよいかまよっている方もいらっしゃったので。
- ・ 大変だと思うが、通訳がわからない場面があった。
- ・ この手のシンポや発表はもう十分。より一歩進んだジェンダー規範から脱出やGender Equalityを気づく取組みは日本の若年層でも出てきている。 アカデミックではないかもしれないが、それを研究の素材として扱い現代的なフォーラムにしてほしい。
- ・ 通訳はきちんとしてください
- ・ 今一番辛い思いをしている、働く男性の生の声が伝わってこなかった。

3. 次の各項目について、シンポジウム後の感想に最も近いものに○をおつけください。

Did the symposium meet your expectations? Please check below.

	そう思う Satisfactorily meet the expectation.	少しそう思う Meet the expectation to some extent.	あまりそう 思わない Fail to meet the expectation.	全くそう 思わない Not at all meet the expectation.
①男性にとっての男女共同参画に関する課題について知ることができた Was able to learn issues and challenges on gender equality for men.	49人 66%	22人 30%	1人 1%	0人 0%

	そう思う Satisfactorily meet the expectation.	少しそう思う Meet the expectation to some extent.	あまりそう 思わない Fail to meet the expectation.	全くそう 思わない Not at all meet the expectation.
②研究・仕事・活動に役立つ情報や知識を得ることができた Was able to obtain information/knowledge useful to my research, work or activities.	44人 59%	24人 32%	4人 5%	0人 0%

	そう思う Satisfactorily meet the expectation.	少しそう思う Meet the expectation to some extent.	あまりそう 思わない Fail to meet the expectation.	全くそう 思わない Not at all meet the expectation.
③各国の男女平等政策に関する取組について知ることができた Was able to learn gender equality policies in the Asia Pacific countries.	43人 58%	23人 31%	5人 7%	0人 0%

④その他 Others (Please specify. )	4人 5%			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 良いことをした人々をマスコミが取材するという言葉が心に残った。 未来の世界に期待したい</li> <li>・ 市民と公共機関の関係構築とその成果について知ることができた。</li> <li>・ もっと男性視点の内容を求めています。</li> </ul>				

4. 参加した全体の感想について、最も近いものに○をつけ、その理由もお書きください。

What is your overall impression about the symposium? Please tell us the reason.

① 非常に満足した	39人	② 満足した	30人	③ 満足しなかった	2人
Very satisfied	54.9%	Satisfied	42.3%	Unsatisfied	2.8%

5. 差支えない範囲で、教えてください。

Please tell us about yourself.

I 年齢	① 19歳以下	② 20歳代	③ 30歳代	④ 40歳代	⑤ 50歳代	⑥ 60歳以上
Age	Under 19 year-old	20's	30's	40's	50's	over 60 year-old
	0人	11人	15人	16人	14人	15人
	0.0%	15.5%	21.1%	22.5%	19.7%	21.1%

II 性別	① 女性	51人	② 男性	20人
Gender	Female	71.8%	Male	28.2%

III お住まいの都道府県

Place of your residence (prefecture)

東京都	15人	宮城県	1人	兵庫県	1人
埼玉県	11人	福島県	1人	高知県	1人
神奈川県	9人	新潟県	1人	福岡県	1人
千葉県	4人	長野県	1人		
大阪府	2人	静岡県	1人	海外	4人

IV 職業 Occupation

① 女性関連施設関係者	Staff of Women's Center	8人	⑥ 学校教職員	School Teacher/Staff	3人
② 行政関係者	Civil Servant	11人	⑦ 会社員	Company Employee	4人
③ 国際協力関係者	Staff of International Organization/Overseas Development Agency	5人	⑧ 学生	Student	5人
④ 団体・NPO関係者	Staff of Women's Organization/NGO/NPO	10人	⑨ その他		13人
⑤ 研究者・大学教員	Researcher/Academe	9人	Other (Please specify.		)

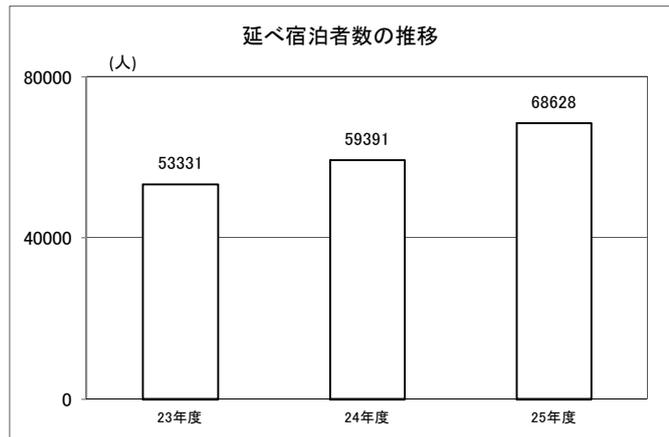
- ・ 市民社会
- ・ 介護福祉タクシー 自営
- ・ 労働組合
- ・ 大使館員
- ・ フリーター
- ・ 交換研究者
- ・ 市民

平成25年度国立女性教育会館利用状況 (平成26年4月1日現在)

利用団体数	(4月～3月)												対前年度増減		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		25年度実績計	24年度実績計
宿泊 日帰り 計	104 149 253	79 166 245	60 187 247	61 155 216	112 140 252	102 169 271	80 173 253	90 191 281	90 191 281	50 151 201	47 146 193	75 158 233	901 1,917 2,818	879 1,916 2,795	22 1 23
実利用者数 [A] ( )は個人 利用者数で泊 内数	4,132 (5) 1,123 (3) 5,255 (8) 4,984 1,784 (33) 1,310 (49) 3,094 (82) 286	963 (12) 626 (5) 1,589 (17) 1,469 2,467 (29) 1,817 (42) 4,284 (71) 1,719	1,174 (5) 555 (1) 1,729 (6) 1,208 2,430 (40) 1,756 (52) 4,186 (92) 815	1,682 (7) 1,151 (4) 2,803 (11) 2,638 1,743 (52) 1,108 (87) 2,851 (139) 447	3,238 (15) 1,115 (5) 4,353 (20) 4,157 1,100 (86) 1,076 (94) 2,176 (180) 500	1,804 (14) 1,152 (5) 2,956 (19) 2,629 2,040 (57) 1,826 (70) 3,866 (127) 1,057	1,545 (11) 956 (7) 2,501 (13) 2,198 2,107 (32) 1,827 (45) 3,934 (77) 344	1,651 (7) 1,341 (6) 2,992 (9) 2,574 11,831 (22) 11,199 (41) 23,030 (63) 1,423	1,651 (7) 1,341 (6) 2,992 (9) 2,574 11,831 (22) 11,199 (41) 23,030 (63) 1,423	832 (9) 832 1,689 (21) 863 (32) 2,552 (53) 420	1,202 (9) 666 (17) 1,868 (26) 1,123 1,462 (14) 725 (25) 2,187 (39) 384	2,005 (6) 1,188 (10) 3,193 (16) 2,912 3,191 (21) 1,029 (58) 3,651 (44) 546	20,457 (105) 10,910 (71) 31,367 (176) 26,886 31,951 (420) 26,256 (626) 58,207 (1,046) 8,080	19,117 (98) 9,466 (63) 28,583 (161) 24,896 35,574 (425) 27,109 (696) 62,683 (1,121) 8,892	1,340 1,444 2,784 1,990 -3,623 -853 -70 -4,476 -812
日 帰り 計	5,916 (38) 2,443 (52) 8,349 (90) 5,270	3,430 (41) 2,443 (47) 5,873 (88) 3,188	3,604 (45) 2,311 (53) 5,915 (98) 2,023	3,395 (59) 2,259 (91) 5,654 (150) 3,085	4,338 (101) 2,191 (99) 6,529 (200) 4,657	3,844 (71) 2,978 (75) 6,822 (146) 3,686	3,652 (43) 2,783 (52) 6,435 (95) 2,532	13,482 (29) 12,540 (47) 26,022 (76) 3,997	13,482 (29) 12,540 (47) 26,022 (76) 3,997	2,306 (27) 1,423 (35) 3,729 (76) 1,252	3,133 (22) 2,386 (30) 5,519 (70) 1,262	3,372 (27) 2,217 (68) 5,589 (95) 3,458	52,408 (525) 37,166 (697) 89,574 (1,282) 34,966	54,691 (523) 36,575 (759) 91,266 (1,282) 33,788	-2,283 2 591 -1,692 -60 -1,178
宿泊者数 [B] (延べ)	8,045 5,149 1,270 6,419	5,424 1,035 686 1,721	6,396 1,087 457 1,544	6,821 1,751 1,514 3,265	6,881 3,696 1,534 5,230	6,538 2,464 1,290 3,754	8,418 1,469 1,194 2,663	25,882 1,645 1,227 2,872	25,882 1,645 1,227 2,872	4,951 1,271 1,098 2,369	5,208 918 464 1,382	5,464 3,235 2,066 5,301	88,768 24,110 13,153 37,263	97,294 20,861 9,947 30,808	3,249 3,206 6,455 5,252
延泊者数 [A+B]	9,281 2,393 11,674 11,168	1,998 1,312 3,310 3,107	2,261 1,012 3,273 2,526	3,403 2,665 6,068 5,861	6,934 2,649 9,583 9,217	4,268 2,442 6,710 6,116	3,014 2,150 5,164 4,612	3,296 2,568 5,864 5,023	3,296 2,568 5,864 5,023	1,888 1,658 3,546 2,571	2,120 1,130 3,250 1,886	5,240 3,254 8,494 7,777	44,567 24,063 68,630 60,209	39,978 19,413 59,391 52,967	4,589 4,650 9,239 7,242
日 帰り 計	11,065 3,703 14,768 11,454	4,465 3,129 7,594 4,826	4,691 2,768 7,459 3,341	5,146 3,773 8,919 6,308	8,034 3,725 11,759 9,717	6,308 4,268 10,572 7,173	5,121 3,977 9,098 4,956	15,127 13,767 28,894 6,446	15,127 13,767 28,894 6,446	3,577 2,521 6,098 2,991	4,051 2,850 6,901 2,025	6,607 4,283 10,890 8,323	76,518 50,319 126,837 68,289	75,552 46,522 122,074 61,859	966 3,797 4,763 6,430
計	12,395 30 492	7,332 29 261	8,286 29 257	10,718 30 297	11,703 31 379	9,660 29 364	11,059 29 313	27,541 28 1031	27,541 28 1031	6,240 25 243	6,179 20 328	8,482 30 363	118,386 331 383	137,424 330 369	6,430 1 14
開 館 日 数	30	29	29	30	31	29	29	29	29	25	21	30	331	330	1
1日当たりの利用者数	492	261	257	297	379	364	313	1031	1031	243	328	363	383	369	14
宿泊施設 利用率 (%)	66.3 43.9	19.7 23.8	17.7 23.2	33.7 46.2	52.2 51.6	41.5 34.7	30.5 34.4	34.2 28.1	34.2 28.1	33.4 21.8	22.6 17.1	57.6 32.7	36.7 35.0	30.5 36.9	6.2
収入額(円)	17,736,200 1,444,900 19,181,100	4,740,600 763,925 5,504,525	3,882,200 853,750 4,735,950	8,942,800 1,233,825 10,176,625	12,234,000 1,048,625 13,282,625	10,191,000 1,141,850 11,332,850	7,286,200 1,008,025 8,294,225	8,054,600 1,182,900 9,237,500	8,054,600 1,182,900 9,237,500	6,447,600 680,425 7,128,025	3,440,400 460,775 3,901,175	14,732,000 1,348,350 16,080,350	99,755,800 11,518,025 111,273,825	81,615,600 12,160,775 93,776,375	18,140,200 -642,750 17,497,450

## 1.延べ宿泊者数(人)

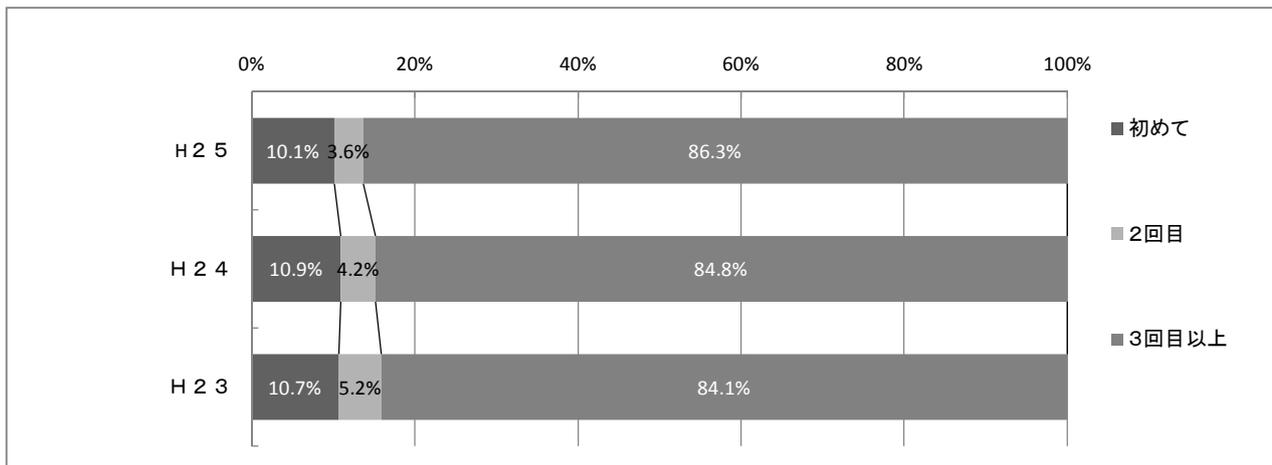
	23年度	24年度	25年度
宿泊	53,331	59,391	68,628
会館日数	322	330	331



## 2.利用回数別利用状況

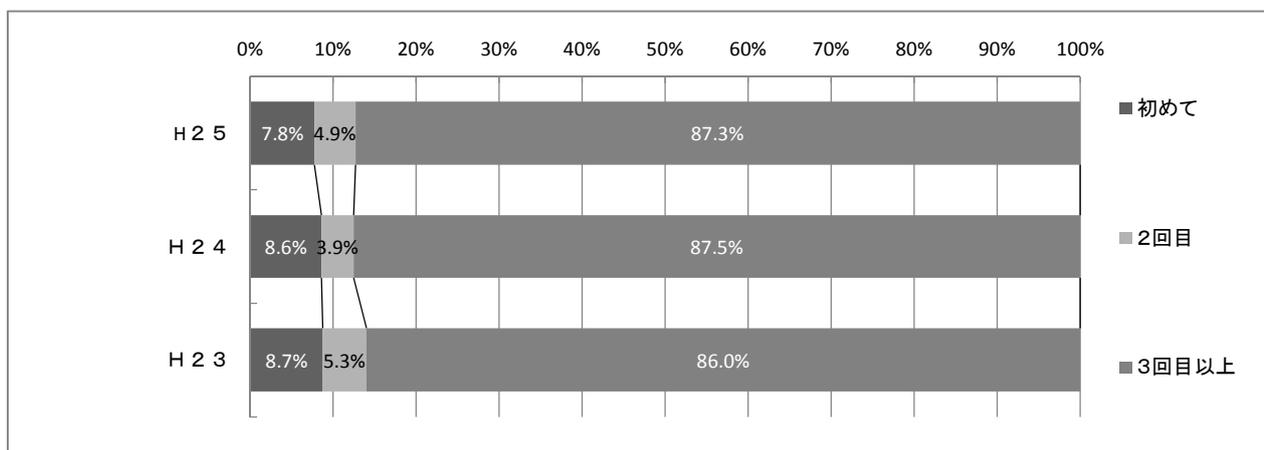
### (1) 団体数にみる利用回数別利用状況

年度	初めて		2回目		3回目以上		団体数	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
H25	310	10.1%	110	3.6%	2,646	86.3%	3,066	100.0%
H24	306	10.9%	118	4.2%	2,371	84.8%	2,795	100.0%
H23	325	10.7%	159	5.2%	2,556	84.1%	3,040	100.0%



### (2) 利用者数にみる利用回数別利用状況

年度	初めて		2回目		3回目以上		利用者数	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
H25	6,962	7.8%	4,386	4.9%	78,226	87.3%	89,574	100.0%
H24	7,824	8.6%	3,545	3.9%	79,897	87.5%	91,266	100.0%
H23	7,599	8.7%	4,596	5.3%	74,979	86.0%	87,174	100.0%



平成25年度目的別利用状況

		目的利用		一般利用		合計
		利用者数	割合	利用者数	割合	
宿泊	実利用者	26,886	85.7%	4,481	14.3%	31,367
	延利用者	33,323	89.4%	3,940	10.6%	37,263
日帰り	実利用者	8,080	13.9%	50,127	86.1%	58,207
合計	実利用者	34,966	39.0%	54,608	61.0%	89,574
	延利用者	68,289	53.8%	58,548	46.2%	126,837

## 平成25年度利用拡大戦略

### I 基本方針

- 1 独立行政法人国立女性教育会館中期計画（平成23～27年度）に添い、平成27年度までに宿泊室利用率について55%以上を達成することを目指す。
- 2 大学・企業を含め、会館で開催される研修等を積極的に勧奨し、確実な利用につなげる。同時に、女性関連団体・グループ等目的利用に該当する団体等の利用についても継続して勧奨を行う。
- 3 全役職員が利用促進に取り組む。

### II 重点的取組

#### 1 利用案内送付先

- (1) 会館役職員が講師となる他機関が実施する講演会やセミナーにおいて積極的に利用についての紹介等を行うほか、文部科学省等が開催する各種シンポジウム、研修等において利用案内等の配布を実施する。
- (2) 企業向けセミナー参加者のメーリングリスト等を活用し、主催事業情報のほかに季節ごとの周辺自然環境の紹介を含めた施設利用案内を流す等、積極的な利用の勧奨を行う。  
このほか、科研費等で培った人的ネットワーク等も活用する。
- (3) 大学職員セミナー参加大学等や近隣大学等（東京都内、埼玉県内）に主催事業情報、施設利用案内を流す等積極的な利用の勧奨を行う。
- (4) 女性関連施設、女性団体、NPO等に主催事業情報、施設利用案内等を流す等積極的な利用の勧奨を行う。
- (5) 本格的な日本家屋を有していることから、茶道、華道、書道、和楽器などの文化団体や大学のクラブ活動に対し、響書院の活用プランを掲載したチラシを送付するなどして周知する。
- (6) 以前利用があったが現在利用のない利用団体（利用人数50人以上）について利用案内等の送付を行う。

#### 2 施設利用の拡大と広報

- (1) 利用閑散期の対策として映画、ドラマ等の撮影のほか、結婚写真、雑誌、カ

タログ等のスチール撮影等について、引き続き積極的な勧奨を行う。

(2) 利用者対象に行っているアンケート等を参考に、施設案内の充実や利用できる施設の拡大等、サービスの向上を図る。これらの取り組みについては、順次ホームページ等で積極的に報告する。

(3) 男女共同参画啓発期間等に連動してロビー展示等を行い、これを近隣の学校機関等へ周知、来館を促すことで、気軽に社会学習に触れることができる教育施設としての認知を向上する。

- ・男女共同参画週間（6月23日～29日）
- ・女性に対する暴力をなくす運動週間（DV週間 11月12日～25日）
- ・国際女性の日（3月8日） など

### 3 プログラム開発

(1) 会館の多様な人材を活用し、利用者のニーズに合わせた情報提供や講義を提供する。希望に応じて会館施設を活用した男女共同参画関連研修など、利用団体の職員研修をプランニングから支援するなど、積極的な学習支援を行う。

### 4 プログラムの充実

「統計から見る男女共同参画」など、会館が開発したプログラムについて、その他の主催事業等で活用を図る。

### 5 ホームページの見直し

(1) 英文ホームページにおいて、特に施設利用に関する情報を充実させるなどし、海外からの留学生など外国人を含む団体の利用を促進する。

(2) 各主催事業の募集告知、報告等についてより迅速にホームページに掲載するなどし、切れ目のない情報発信に努める。

## Ⅲ 利用拡大計画の着実な実施

1 これまでに実施した利用拡大方策を検証し、効果が高いものを利用拡大計画に反映させる。

2 利用拡大計画の着実な実施を確保するため、定期的に計画の実施状況を報告する。

平成25年度広報実施計画

国立女性教育会館

I 基本方針

- 独立行政法人国立女性教育会館（以下「NWEC」という。）の意義、事業の成果等並びに男女共同参画及び女性教育についての理解促進が図られるよう、関係者の協力を得つつ、国内外へ積極的に情報を発信する。
- NWECの第三期中期目標・中期計画（平成23年～27年度）の達成に向け、広報実施計画に即して、PDCA（計画、実行、評価、改善）サイクルにより、効果的、効率的な広報の展開に努める。
- NWEC内の緊密な連携を図り、迅速な広報の展開に努め、特にNWECホームページの充実を図る。
- 広報活動の充実を図るため、プレスリリースを積極的に行うなど、幅広いメディアを活用した広報に努める。
- 大学・企業等の男女共同参画部局等への積極的な広報に努める。
- 職員の研修機会の充実を図り、全職員の広報力の向上に努める。
- 男女共同参画の視点を尊重した広報を展開するよう努める。

II 具体的取組

1 重点推進内容

- 1) NWECの認知度や利用者拡大を図るため、ホームページの掲載記事の頻繁な更新や掲載するキーワードを厳選することにより、アクセス件数の増加に努める。全国で開催される文部科学省や内閣府等他機関のイベントや事業実施等の機会を捉え、NWECのチラシ・パンフレット等の配布を行う。
- 2) 研修事業の周知等  
研修事業については、要項及び研修プログラムの早期作成に努め、募集及び実施速報を各種広報ツールを活用し、記者會等へのプレスリリースに積極的に取り組むことにより、参加者の獲得・成果の普及に努める。
- 3) 大学・企業等の男女共同参画部局等への積極的な広報  
大学職員等を対象とした研修や女性教育情報センター所蔵図書のパッケージ貸出サービスについて、大学等の男女共同参画部局や図書館等へ積極的な広報を行う。また、企業の女性の活躍促進・ダイバーシティ担当部署等に対し、NWECの役割・機能及び企業向け研修の実施について、積極的な広報を行う。
- 4) 調査研究成果の積極的な広報  
「NWEC実践研究 第3号」「女性のキャリア形成事例集」等調査研究成果について、積極的に広報を行う。
- 5) 女性情報ポータル及びデータベース  
女性情報ポータルについて、NWECが構築・提供してきた各種データベース類を更新、情報提供の充実を図る。
- 6) 女性アーカイブシステム・災害復興支援女性アーカイブの周知等  
女性アーカイブセンター及び女性デジタルアーカイブシステムや展示、新たに公開された災害復興支援女性アーカイブについて、ホームページやメールマガジン等を通じて積極的に広報に努め、広く活用を促す。
- 7) NWEC利用の促進の周知等  
中期計画における宿泊利用率を踏まえ、館内に設置した利用拡大推進本部を中心に、NWECの利用促進を図るための広報について検討を行い、新たな展開を図る。

## 2 広報活動環境の整備

### 1) 広報ツールの改善等

広報活動の効果を高めるため、NWECのホームページやパンフレット、広報紙等について、改善を図る。

#### ①ホームページ

広報の在り方の検討状況に応じて引き続きホームページの見直し・改訂を図る。

ア) タイムリーな情報発信ができるよう掲載の迅速化に努める。

イ) 海外向けの情報発信を強化するため、英語のホームページの充実にも努める。

#### ②パンフレット・リーフレット

ア) 既存のパンフレットについて、引き続き、より見やすいパンフレットを作成する。

イ) 海外向けの情報発信を強化するため、英語のパンフレットの充実について検討する。

#### ③広報紙・メールマガジン等

ア) NWEC Newsletterの発行案内メール送信先の新たな開拓に努める。

イ) メールマガジンは、内容及び頻度について検討し、より多くの購読者の獲得に努める。

ウ) 事業実施に関する報告書等を作成する。

#### ④その他

ア) 広報グッズ及び記念品を配布する。

イ) 女性関連施設等の広報誌へのNWEC関連記事掲載について働きかける。

ウ) 近隣文化施設等で構成されている彩の国・文化の森連絡協議会や、埼玉県ものづくりスタンプラリーへ参加し、広報に努める。

### 2) デジタル情報の整備保存

広報活動をより効果的なものとするため、デジタル写真等を継続的に蓄積し、いつでも利用が可能となるように共有化を進める。

### 3) 広報課題への対応

NWEC広報についての意見・提案を取りまとめ今後の広報活動の改善に活かす。

## 3 職員の広報力の向上

### 1) 研修の実施

職員の広報活動の向上を図るための研修を、全職員を対象に実施に努める。

## 4 評価の実施

### 1) 自己点検・評価委員会における評価

自己点検・評価委員会において効果的、効率的な広報活動が実施されているかの検証を行う。

なお、この広報実施計画は、状況により年度途中で修正する場合がある。

# 独立行政法人国立女性教育会館運営会議規程

平成13年7月30日理事長裁定  
平成14年4月1日一部改正  
平成14年11月1日一部改正  
平成17年4月1日一部改正  
平成20年10月1日一部改正

## 1 趣旨

独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）の業務の遂行に関する重要事項について、連絡及び協議するため、会館に独立行政法人国立女性教育会館運営会議を（以下「運営会議」という。）を置く

## 2 組織等

- (1) 運営会議は、理事長、理事、事務局長、各課長及び研究国際室長をもって組織する
- (2) 理事長は、必要に応じ構成員以外の者を説明のために運営会議に出席させることができる。

## 3 開催日時

運営会議は、原則として毎週火曜日の午前10時00分から開催する。

## 4 運営会議の司会は、総務課長が行う。

## 5 庶務

運営会議の庶務は、総務課総務係において処理し、毎回議事録（要旨）を作成するものとする。

## 独立行政法人国立女性教育会館役員会の開催について

平成14年4月1日一部改正

平成13年4月1日理事長裁定

### 1 趣旨

独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）の業務運営及び評価に関する重要事項を審議するため、会館に独立行政法人国立女性教育会館役員会（以下「役員会」という。）を開催する。

### 2 組織等

（1）役員会は、理事長、理事及び監事をもって組織する。

（2）理事長は、必要に応じ構成員以外の者を出席させることができる。

（3）理事長（理事長に事故のあるときは理事）は、役員会を召集し、その議長となる。

### 3 会議の開催

役員会は、原則として毎年度偶数月に開催する。

### 4 庶務

役員会の庶務は、総務課において処理する。

### 5 この裁定は、平成13年4月1日から実施する。

## 独立行政法人国立女性教育会館運営委員会規程

### (設置)

第1条 独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）に、独立行政法人国立女性教育会館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

### (協議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について協議し、理事長に助言を行う。

- 一 会館の事業運営に関する基本的な事項
- 二 その他会館の事業運営に関し必要な事項

### (委員)

第3条 委員会は、会館の運営に関し広くかつ高い見識を有するもののうちから、理事長が委嘱をする20名以内の委員で構成する。

### (委嘱期間)

第4条 前条に規定する委員の委嘱期間は、2年とし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員を生じた場合の補欠委員の委嘱期間は、前任者の残任期間とする。

### (委員長)

第5条 委員会に会長を置く。

- 2 会長は、第3条の委員のうちから、委員の互選により選出する。
- 3 会長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 4 会長に事故があるときは、会長があらかじめ指名した委員が、その職務を代理する。

### (関係者の出席)

第6条 委員会は、必要があるときは関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

### (庶務)

第7条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

### (雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

#### 附 則

- 1 この規程は、平成13年7月1日から施行する。
- 2 この規程施行後最初及び会長が置かれていないときに招集される委員会の会議は、第5条第3項の規定にかかわらず、理事長が召集する。

#### 附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

#### 附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

#### 附 則

この規程は、平成17年8月1日から施行する。

## 独立行政法人国立女性教育会館運営委員会委員名簿(第6期)

〔五十音順(敬称略)〕

平成25年4月1日現在

	氏 名	現 職
1	ありかわ よしこ 蟻 川 芳 子	日本女子大学 学長・理事長
2	うちだ ようこ 内 田 洋 子	埼玉県男女共同参画推進センター 所長
3	おさない せきこ 小山内 世喜子	アピオあおもり 青森県男女共同参画センター 副館長／特定非営利活動法人全国女性会館協議会 常任理事
4	おはら ゆみこ 小原 由美子	独立行政法人国立公文書館 公文書専門官
5	くろだ かずお 黒 田 一 雄	早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科 教授
6	さとう かずこ 佐 藤 和 子	特定非営利活動法人静岡県男女共同参画センター交流会議 代表理事
7	さとう みちあき 佐 藤 道 明	日本労働組合総連合会埼玉県連合会 事務局長
8	しらい あや文 白 井 文	グンゼ株式会社 取締役，前尼崎市長
9	たけのぶ みえこ 竹 信 三 恵 子	和光大学 現代人間学部現代社会学科 教授
10	たなか まさふみ 田 中 雅 文	日本女子大学 人間社会学部教育学科 教授
11	たなか やすよ 田 中 恭 代	株式会社旭化成アビリティ 代表取締役社長
12	ちづか あきら 千 塚 明	独立行政法人国民生活センター 研修部長
13	なかあぜ つやこ 中 畔 都 舍 子	全国地域婦人団体連絡協議会 会長
14	なかはし えみこ 中 橋 恵 美 子	特定非営利活動法人わははネット 理事長
15	ねぎし しげふみ 根 岸 茂 文	社団法人埼玉県経営者協会 専務理事・事務局長
16	はにゅう さわこ 羽 入 佐 和 子	お茶の水女子大学 学長
17	まえじま とみお 前 島 富 雄	埼玉県教育委員会 教育長
※ 18	やざわ すみこ 矢 澤 澄 子	元 東京女子大学教授
19	やまぐち みつこ 山 口 み つ 子	国際婦人年連絡会 世話人
20	わたなべ みえこ 渡 辺 三 枝 子	立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科 特任教授

※印…会長

# 国立女性教育会館契約監視委員会規則

理事長 裁定

平成 21 年 11 月 30 日

## 1 規則の目的

本規則は、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づき、契約監視委員会（以下「委員会」という。）の設置等に関して必要な事項を定めることを目的とする。

## 2 委員会の所掌事務

国立女性教育会館において発注した物品、役務、建設工事及び設計・コンサルティング業務等に係る契約について、報告を受け、審査を行い、契約の適正化に関し、理事長に対して意見の具申を行う。

## 3 委員会の構成

- (1) 委員会は、監事 1 名以上及び外部有識者 2 名以上をもって組織する。
- (2) 委員は、監事及び物品・役務等に係る契約の過程及び内容等について学歴経験の有る者のうちから、文部科学大臣の了解を得た上で、理事長が委嘱する。委員の氏名及び職業は、公表するものとする。
- (3) 委員の任期は、1 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。委員は再任されることができる。
- (4) 委員会に、委員長及び委員長代理を置き、委員の互選により選任する。委員長は、委員会の議事を整理する。

## 4 会議の開催等

- (1) 委員会は、原則として、年 2 回会議を開催する。
- (2) 会議は、非公開とする。
- (3) 委員会の議事の概要及び意見具申の内容は、公表するものとする。

## 5 委員会の庶務

委員会の庶務は、総務課会計係において処理する。

## 6 その他

- (1) 委員は、自己又は 3 親等以内の親族の利害に関係のある事項については、その議事に加わることができない。
- (2) 委員は、委員会において知り得た秘密を他に漏らしてはならない。委員でなくなった後においても、同様とする。
- (3) 委員会に対して行う物品・役務等に係る契約の報告の様式は、別に定めるところによる。

## 独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて

〔平成 21 年 11 月 17 日〕  
閣 議 決 定

独立行政法人（独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 2 条第 1 項に規定する独立行政法人をいう。以下同じ。）の契約については、原則として一般競争入札等（競争入札及び企画競争・公募をいい、競争性のない随意契約は含まない。以下同じ。）とすることとしているが、競争性のない随意契約に対する厳しい批判に加え、一般競争入札等に移行しても一者応札・応募となっており、実質的な競争性が確保されていないのではないかとといった指摘も引き続き存在する。このため、競争性のない随意契約の見直しを更に徹底して行うとともに、一般競争入札等についても真に競争性が確保されているか、以下の取組を行うことにより、点検、見直しを行うこととする。

### 1. 点検・見直しを行うに当たっての主な観点

独立行政法人の契約について厳格に見直しが行われるよう、各独立行政法人及び各府省は、以下の観点等により点検し、見直しを行う。

- (1) 競争性のない随意契約を継続しているものについて、随意契約事由が妥当であるか、契約価格が他の取引実例等に照らして妥当となっているか。
- (2) 競争性のない随意契約から一般競争入札等への移行を予定しているものの前倒しが検討できないか。
- (3) 契約が一般競争入札等による場合であっても、真に競争性が確保されているといえるか（一者応札・応募となっている案件については、一者応札・応募の改善方策が適当か、国や他の法人の取組も参考に更に検証する。特に、仕様書の内容など具体的な条件の設定については、真に競争性を確保する観点から具体的かつゼロベースで検証を行う。）。

（注） 一者応札・応募の改善に向け、例えば、以下のような観点から十分な改善が行われているかを検証する。

- 仕様書内容の見直し
- 入札参加要件の緩和
- 公告期間の十分な確保
- 業務等準備期間の確保
- 契約情報提供の充実
- 電子入札システムの導入
- 一者応札・一者応募案件の事後点検体制の整備

## 2. 点検・監視体制と作業の手順

### (1) 各独立行政法人における監視体制の整備と点検及び見直し

主務大臣は、各独立行政法人に対し、監事及び外部有識者によって構成する「契約監視委員会」を設置し、上記1.の観点に沿って契約の点検及び見直しを行い、その結果を主務省に提出するよう要請する。その際、「契約監視委員会」を構成する外部有識者を各独立行政法人が指名するにあたっては主務大臣の了解を得ることとし、また、「契約監視委員会」の審議概要を公表するよう要請する。

### (2) 主務大臣による点検

主務大臣は、各独立行政法人の「契約監視委員会」で行われた点検及び見直しの結果について点検を行う。また、主務大臣はその点検結果を反映した見直しを行うよう各独立行政法人に要請する。

### (3) 主務大臣から総務大臣への報告

主務大臣は、主務大臣による点検結果を反映した各独立行政法人における点検及び見直しの結果を総務大臣に報告する。各府省及び各法人は、総務大臣に報告した結果をウェブサイト公表することとし、総務省はそれらを取りまとめ、公表する。

## 3. 点検対象とスケジュール

(1) 計画的に独立行政法人の随意契約の見直しを行っていくため、主務大臣及び各法人は、20年度に締結した競争性のない随意契約及び一者応札・応募となった契約について、上記1.の観点に沿って点検、見直しを行い、各法人は新たな随意契約等見直し計画を策定する。また、20年度末時点で継続している19年度以前に締結された複数年契約についても同様の点検、見直しを行う。各府省及び各法人はこれらの結果を22年4月末日途に公表する。

(2) 3.(1)の作業と同時に、今回の点検、見直しの趣旨を速やかに反映するため、主務大臣及び各法人は、21年度末までに契約締結が予定されている調達案件についても、真に競争性を確保できるよう、新規案件を含めて1.の観点に沿って事前に点検し、各法人は点検結果を受けて見直しを行う。各府省及び各法人はその結果を22年4月末日途に公表する。

## 4. フォローアップ

主務大臣及び各法人（契約監視委員会）は、上記点検、見直し後においても、各法人において締結された契約についての改善状況をフォローアップし、毎年公表する。総務省は、その結果を取りまとめ、公表する。

## 平成25年度監事監査計画

### 第1 監査の基本方針

独立行政法人国立女性教育会館監事監査規程（以下「監査規程」という。）第6条の規定に基づき定期監査（業務の監査及び会計の監査）を実施する。

なお、定期監査の実施に当たっては、監査規程及び独立行政法人国立女性教育会館監事監査実施基準の定めるところにより実施する。

また、監査に当たっては、ガバナンスの保持及び内部統制の充実など法人運営体制の充実について留意するものとする。

### 第2 定期監査の項目

#### (1) 業務の監査

- ① 関係諸法令及び規則等の実施状況並びに内規等の整備状況
- ② 組織運営状況
- ③ 人事管理状況
- ④ 事業についての企画、実施及び自己評価の実施状況
- ⑤ 情報開示状況

#### (2) 会計の監査

- ① 決算（年次及び月次）の状況
- ② 予算の執行及び資金運用の状況
- ③ 収入、支出の状況
- ④ 固定資産の管理状況
- ⑤ 入札・契約の状況（随意契約の適正化等）

### 第3 定期監査の対象部門等

- (1) 業務の監査……総務課、事業課、情報課及び研究国際室
- (2) 会計の監査……総務課

### 第4 定期監査の方法及び時期

(1) 業務の監査……書面監査、実地監査及びその他適当な方法により、適時行う。

#### (2) 会計の監査

- ◆四半期監査……第1四半期分を9月、第2四半期分を12月、第3四半期分を3月に書面監査により実施し、第4四半期分については、決算監査と併せて年度終了後に実施する。その他、適時行う。
- ◆決算監査……年度決算終了後速やかに、書面監査、実地監査及びその他適当な方法により実施する。

### 第5 総務課総務係の職員に監査に関する事務を補助させるものとする。



